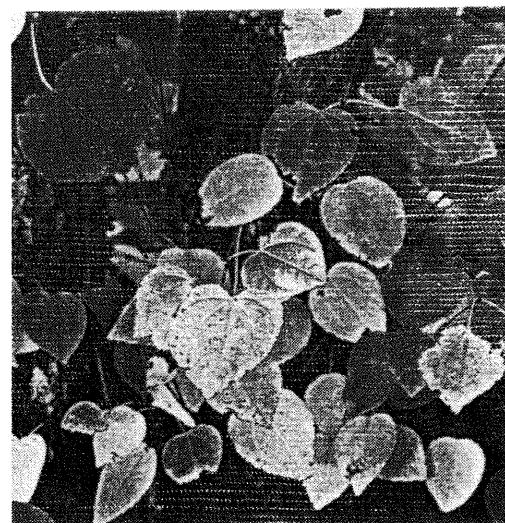


# 西京「桂坂」自然環境形成基本計画



昭和60年12月

西武都市開発株式会社  
(株)環境事業計画研究所

# 西京「桂坂」自然環境形成基本計画

昭和60年12月

西武都市開発株式会社  
(株)環境事業計画研究所

豊かな環境づくりを目指す「桂坂」の街づくりにとって、絆あふれる自然環境の形成こそまさにその中核的な課題であるということができよう。このため、当社は粗造成によってひと度は絆の失われた「桂坂」の他に、如何にして周囲の大自然と調和した人為的自然を再現したらよいかについて、当初から慎重な検討を重ねてきた。その結果、今後約10年間にわたって工区毎に進められる造成の基本的な指針となる「西京桂坂自然環境形成基本計画」を策定することとし、その中心的役割を本社事業開発室グリーン担当が担うことになった。

事業開発室は京都営業部と協議の上、委員会方式によって作業を進めることとし、その事務局にはこれら関係者の他に、(株)環境事業計画研究所のスタッフを加えることに決め、京都営業部は同研究所との間で作業委託契約を取り結んだ。

策定作業は事務局による委員会審議原案の作成——委員会審議——事務局による原案改訂作業——委員会による再審議という段階を踏んで行なわれた。委員会は4月11日の第1回をはじめとして、11月28日の第6回まで、合計6回開催され、第1回、第2回で基本構想(西京桂坂自然環境形成基本構想、昭和60年6月)を確定、第3~5回はこの基本構想にもとづく各分野別の基本計画の審議にあてられ、最終回には全体的な検討が行なわれた。

今、ここに送り出す「西京桂坂自然環境形成基本計画」は最終委員会の検討結果を踏まえて、事務局において鋭意修正に努めたものであり、今後の各工区毎の実施設計、施工にあたり、自然環境形成の立場からは言わば憲法にあたるものである。

実施工には十分その意をくみ、提案事項については極力その実現を図るよう期待するものである。

なお、委員会にご参席になり貴重なご意見を賜った先生方、並びに事務局において作業に当たった者の氏名は下記の通りである。

ここに、ご多用中労をいとわずご指導下さった委員会の諸先生に対して心からなる御礼を申し上げるものである。

昭和60年12月24日

西武都市開発株式会社

## 記

## 1 ご指導に預かった先生方(アイウエオ順)

浅平 端 京都大学 農学部教授

伊藤正美 京都野鳥の会会長

加藤五郎 京都市美観風致審議会委員

小清水漸 京都市立芸術大学 美術学部 助教授

内藤恒方 (株)アルプ設計室 所長

中坪禮治 財団法人 日本鳥類保護連盟専務理事

中根金作 大阪芸術大学 芸術学部 環境計画学科教授

中村 一 京都大学 農学部林学科教授 造園学

八田亮三 竹田薬品中央研究所 京都試験場元場長

春田俊郎 日本ネパール協会理事 昆虫学

麓 次郎 近畿大学 農学部教授

矢吹万寿 大阪府立大学 農学部農業工学科教授

吉川勝好 西武舞鶴植物研究所所長

## 2 事務局

西武都市開発株式会社

本社事業開発室

小沢行雄・中村恒雄・高崎康隆・大島達哉

松尾俊之・山崎譲二

京都営業部

石谷実男・酒井秀喜

(株)環境事業計画研究所

吉村元男・西巻 優・白砂伸夫・中村雅子

## まえがき

## I 章 基本理念

1 自然環境形成のフロー	4
2 桂坂の街の構成	5
3 街づくりにおける自然環境形成の果たす役割	6
4 自然環境形成を図るための尺度	7
5 自然環境形成の骨格	8

## II 章 街づくりのテーマを具体化する環境形成手法

1 人間と自然の共生	1 1
2 豊かな景観の創造	1 3
3 道文化の創造	1 6
4 特徴ある街区の積み重ねによる街づくり	1 7
5 「桂坂」文化の形成	1 8
6 住まいと暮らしへの永続的なお手伝い	1 9

## III 章 基本計画

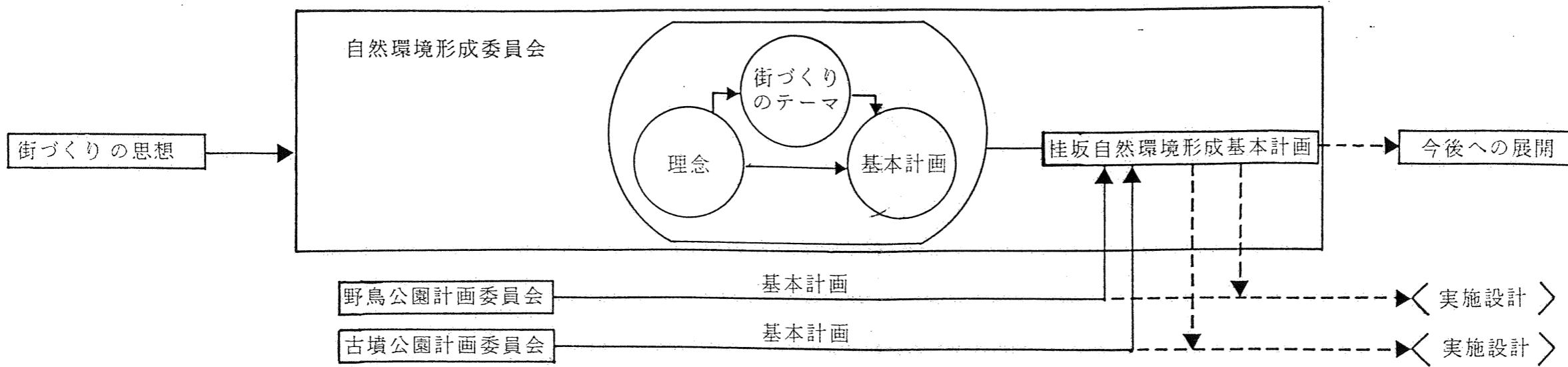
1 土層 土壌改良計画	2 1
2 緑の河計画	2 3
3 野鳥公園	2 5
4 古墳公園	2 8
5 近隣公園	3 2
6 幹線道路	3 6
7 緑道	3 8
8 児童公園	5 1
9 周辺法面	5 8
10 公益的施設の周辺緑化	6 3
11 フォルト	6 8
12 宅地内植栽	6 9
まとめ	7 3
参考資料	7 4

## I 章 基本理念

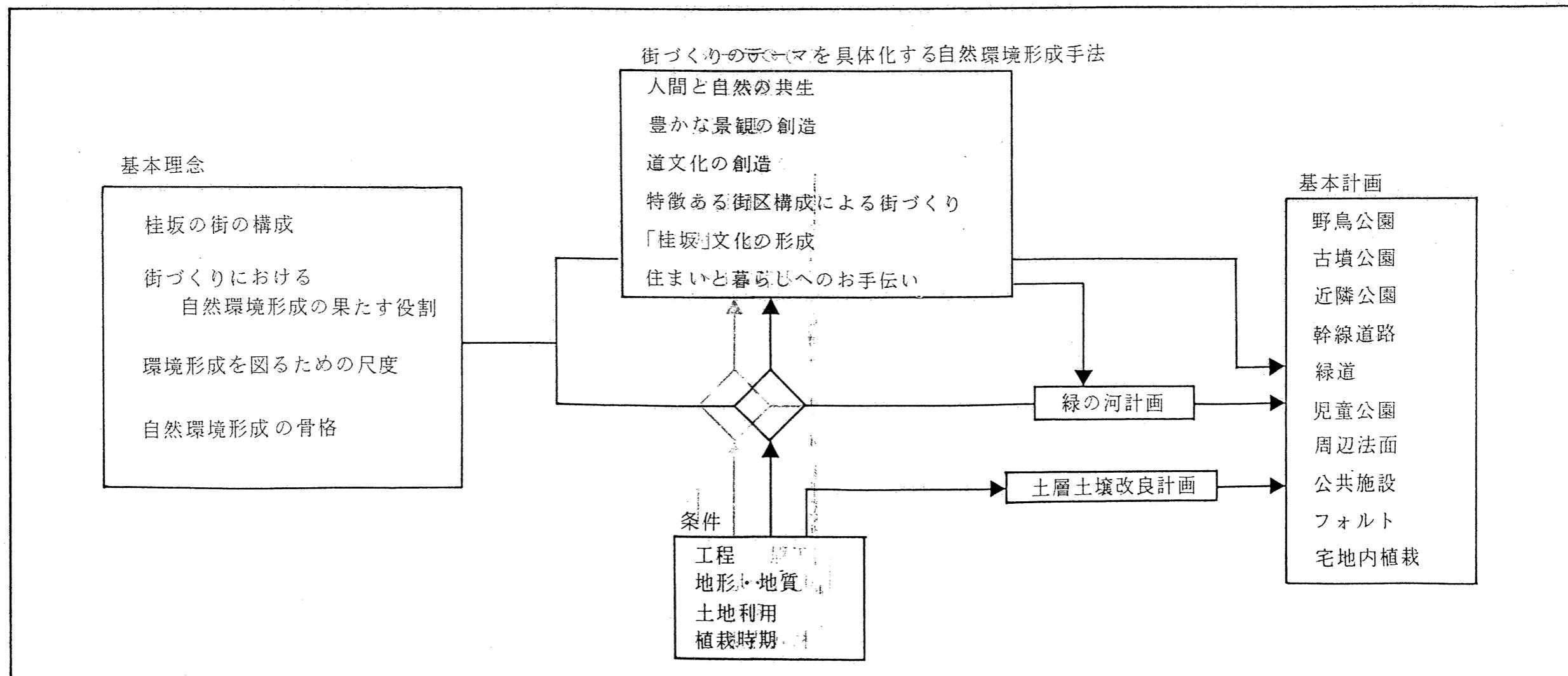
このプロジェクトにおいて当社が指向しているのは、単なる宅地の造成供給ではなくて、人間と自然が共生する新しい街づくりである。このためには、開発に新しい構想を導入することが必要であり、街づくりの基本テーマとして次の 6 本柱を根底に据えていることとしている。

- 1 人間と自然(鳥や昆虫、植物や水)とが共生する街づくり
- 2 人間と自然の融合をテーマにした豊かな景観の創造
- 3 道を暮らしの舞台、コミュニティ形成の場、街並の景観要素とした道の文化の創造
- 4 固有の性格と特徴を持つ街区の積み重ね(クラスター方式)による街づくり
- 5 京都の伝統文化と優れた国際性を取り込んだ新しい桂坂文化の形成
- 6 住まいと暮らしへの永続的なお手伝い

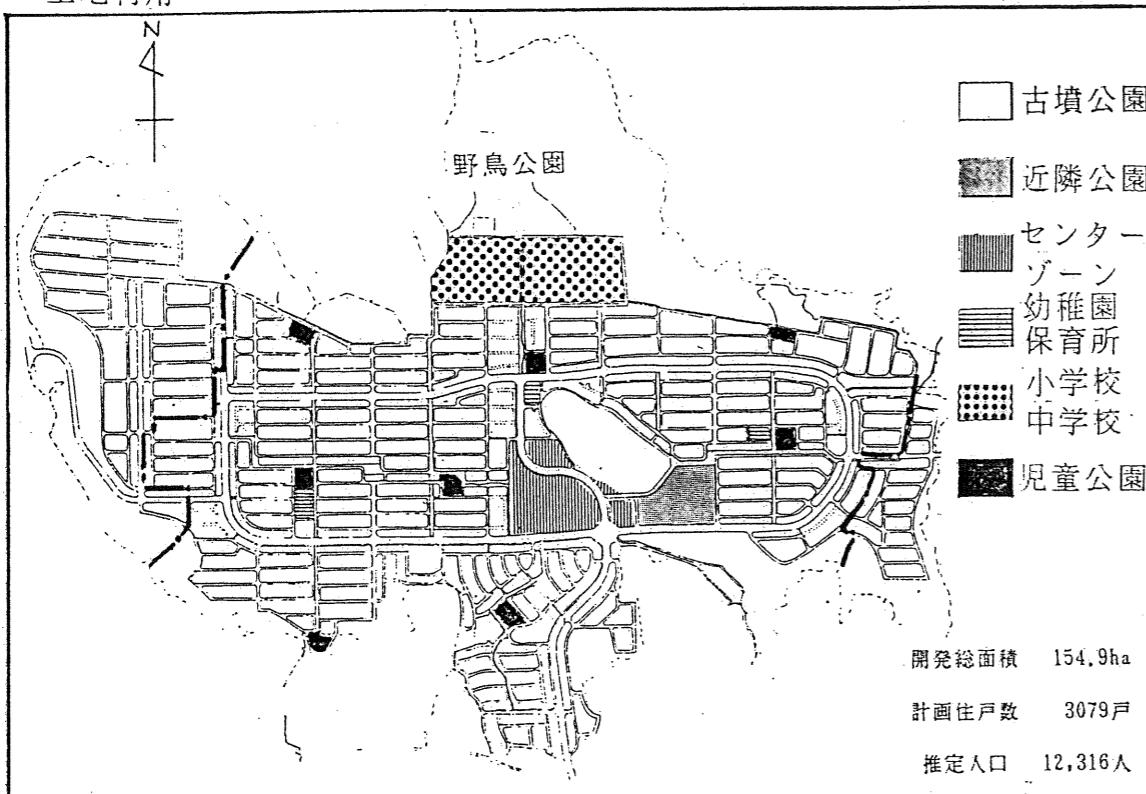
地区全体の自然環境形成は、当然のことながら、これら主要テーマを達成するための最も重要な局面の一つであり、その方針はこれらを強く意識しながら樹立される。



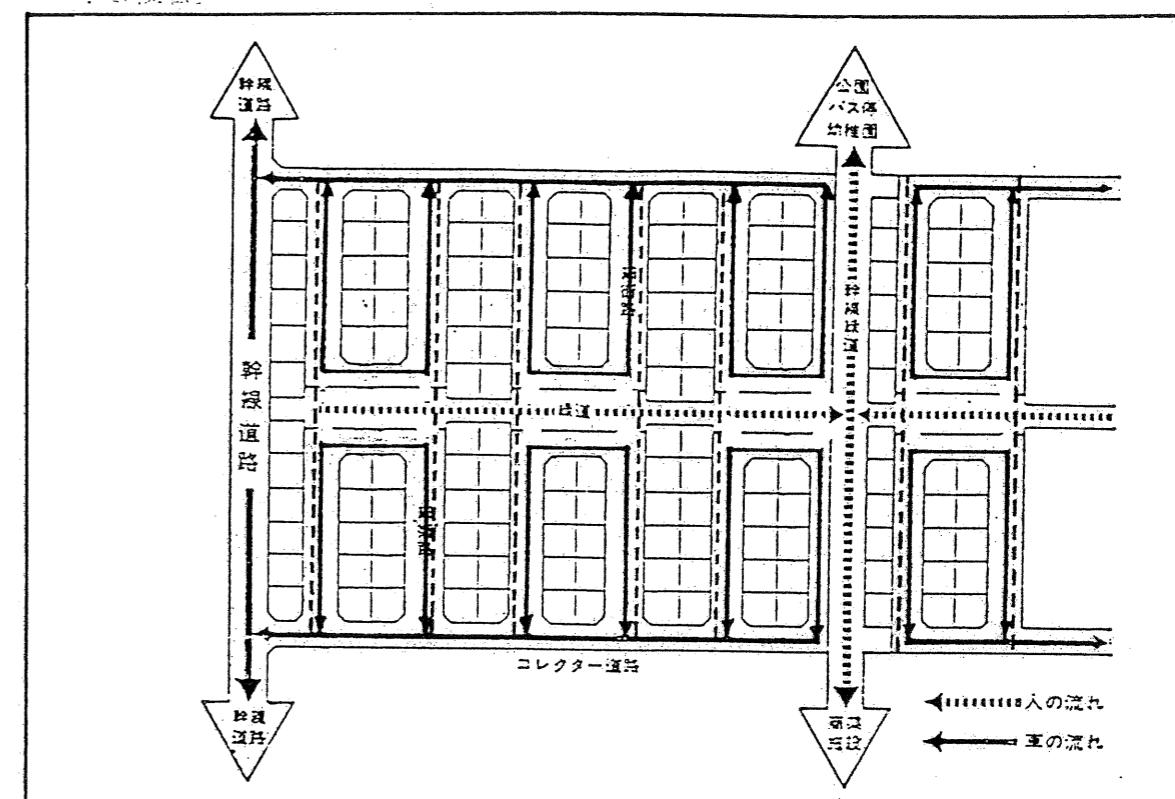
自然環境形成基本計画 作成作業のフロー



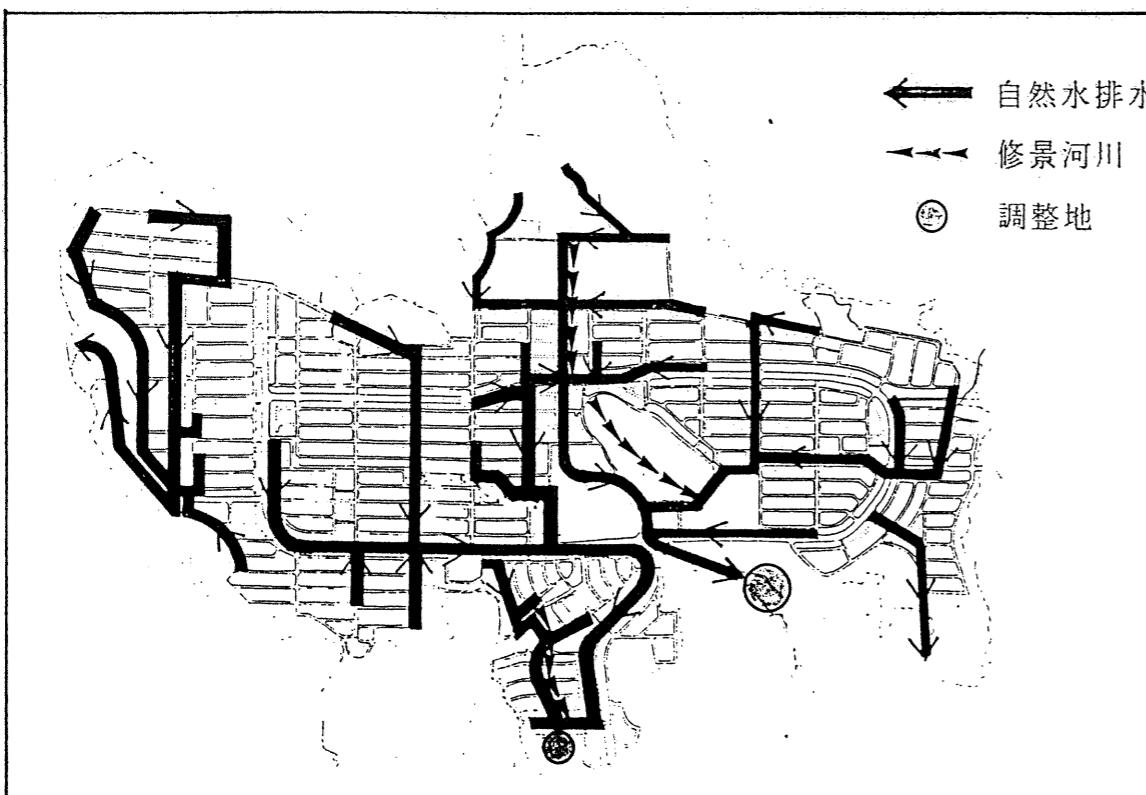
## 土地利用



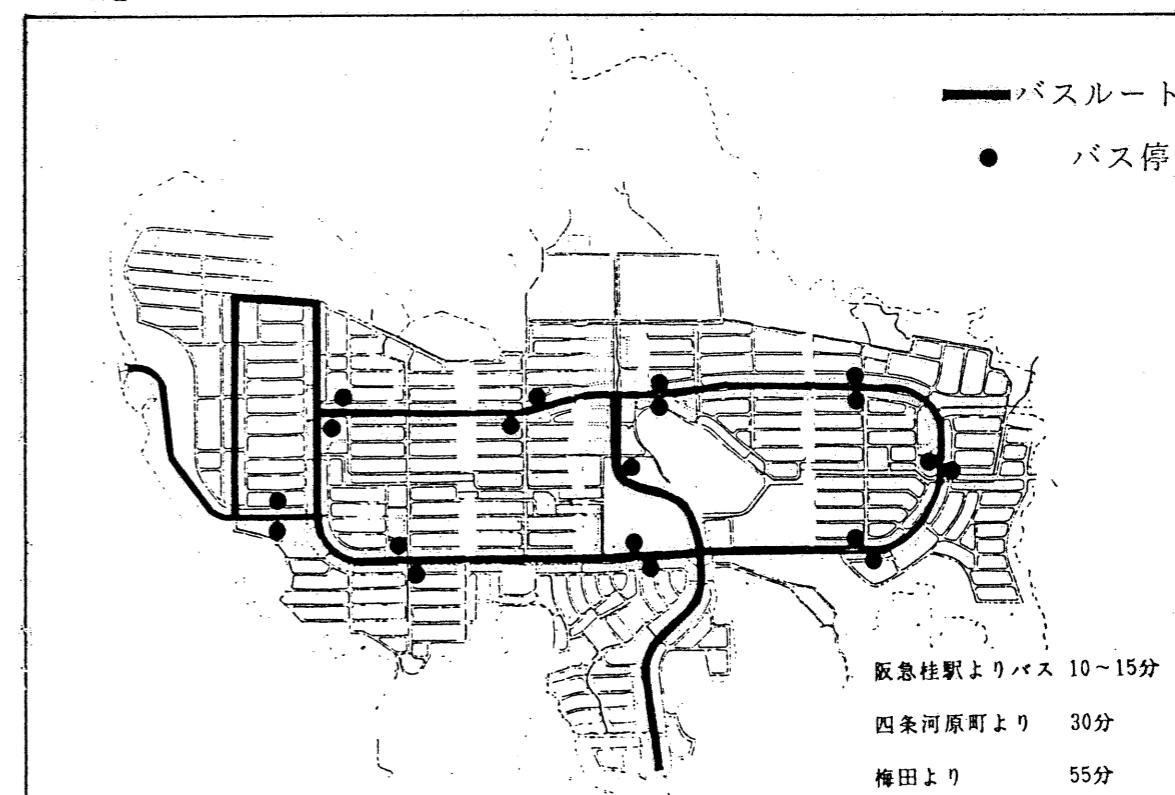
ボンネルフ システム図

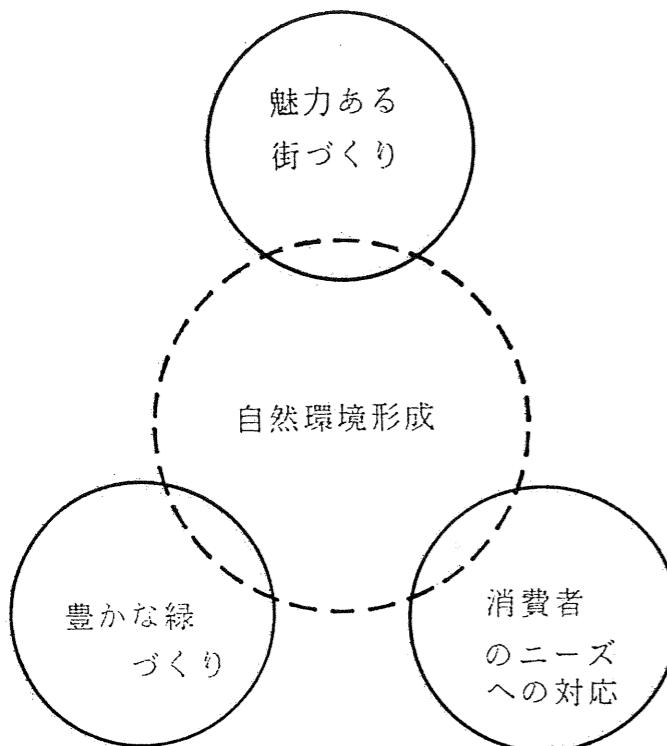


自然水路計画



交通





自然環境形成は以下の3テーマに対して、基本的な役割を果たし、豊かな環境を目指すものである。

#### 1. <魅力ある街づくり>

##### ・「桂坂文化」

京都の伝統文化、国際性を取り込んだ新しい文化を育む母体づくり

野鳥公園、古墳公園といった「桂坂」独自の空間形成

##### ・コミュニティ豊かな街づくり

道を共有空間として、コミュニティ形成の場とする

緑道、児童公園での地域コミュニティ形成

##### ・変化に富む空間づくり

ヴィスタ (眺望) (眺望、見通し、明快性)

キュアリアシティ (興味深さ、新しさ、新鮮さ)

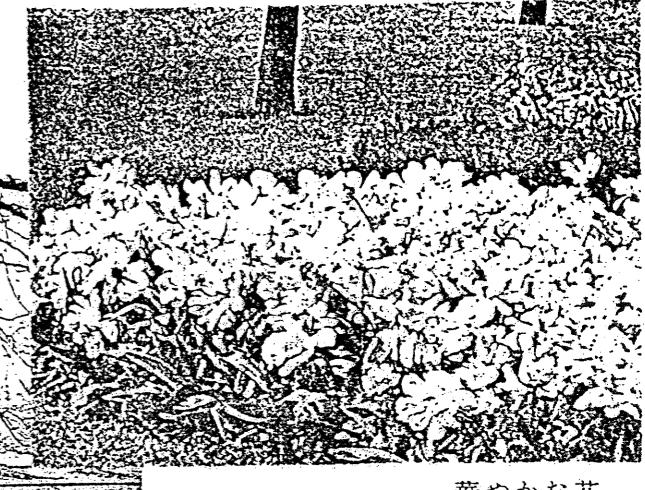
ラビリンス (迷路性) (迷路性、発見、出会い)



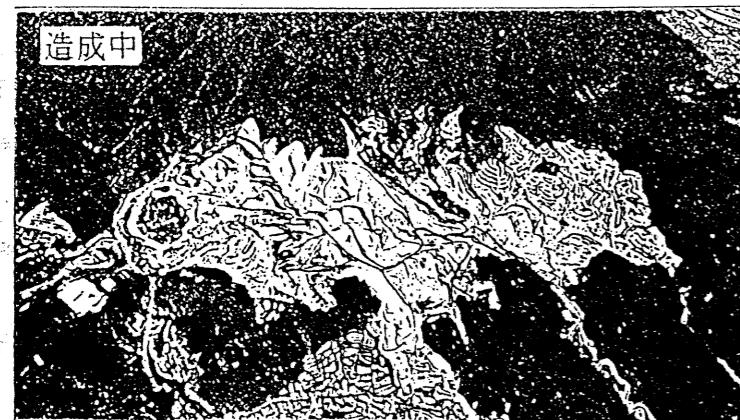
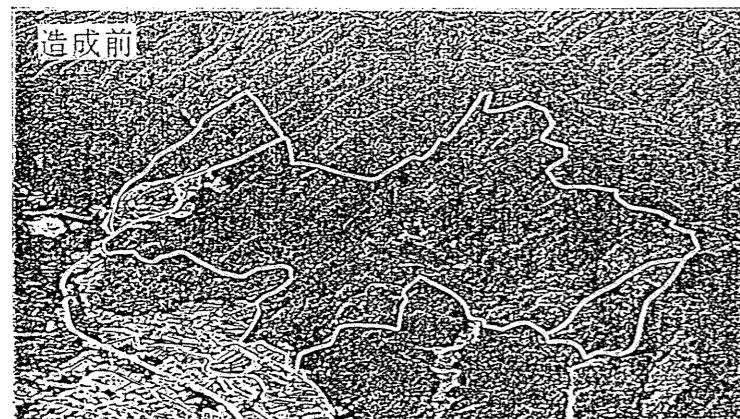
美しい鳥



美しい公園



華やかな花



#### 2. <豊かな緑づくり>

- ・造成により失われてしまった自然を「新しい自然の尺度」で再構成することにより、街にふさわしい新しい環境を形成する。
- ・鳥がさえずり、美しい蝶たちが舞う、そのような生き物と人間が共生しあえる街づくりを行う。
- ・緑あふれる「桂坂」は、マンサクが春の訪れを告げ、ツバキ、サクラ、シャラ、秋のタカノツメの紅葉、冬はサザンカ、ローバイと街全体が四季の綾を織り成す風景を作り出す。



緑にあふれた街並



快い小径



安全で快適な街

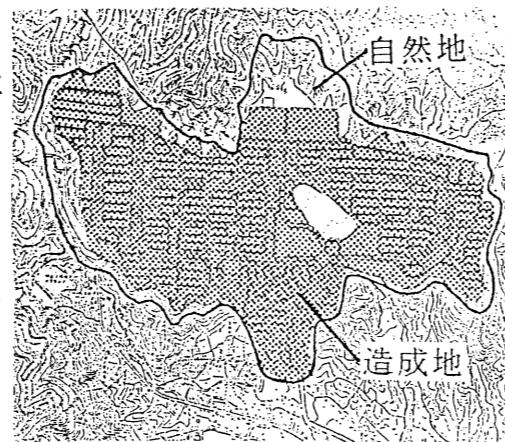
## &lt;環境形成のための自然の尺度のとらえ方&gt;

大造成により、一度裸地になった大地を体系的に再構成する必要がある。

街の機能、環境の形成を図るために自然に「3つの尺度」を与え、構造化することにより秩序ある空間を構成し、街づくりの意図を自然環境形成に反映していく。

## &lt;中自然による街づくり&gt;

「桂坂」の自然環境の形成は自然と人間の共生する場としての中自然の形成により、街と自然の一体化した新しい環境づくりをめざす。

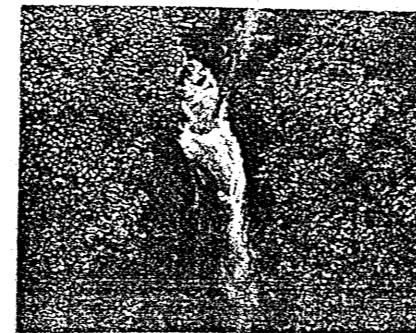


## &lt;「桂坂」の自然を構成する3つの尺度&gt;

## 1 大自然

大自然とは、計画地を取り巻く背景山林を指し、森林生態系に組み込まれる自然であり、人為的利用には多少の危険を伴う空間である。

- ・「桂坂を取り巻く背景の山
- ・生態系に組み込まれた自然
- ・人為的利用には多少の危険が伴う



## 2 中自然

中自然とは性格的にもスケール的にも大・自然の中間にあり、大自然の素材を用いることにより大自然を反映させつつも、人間のために人間のコントロールがきく空間である。

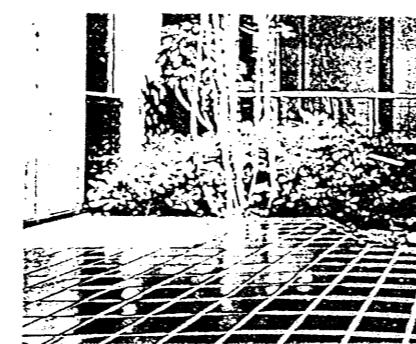
- ・大自然の素材、大自然のエッセンスを街づくりに反映する。



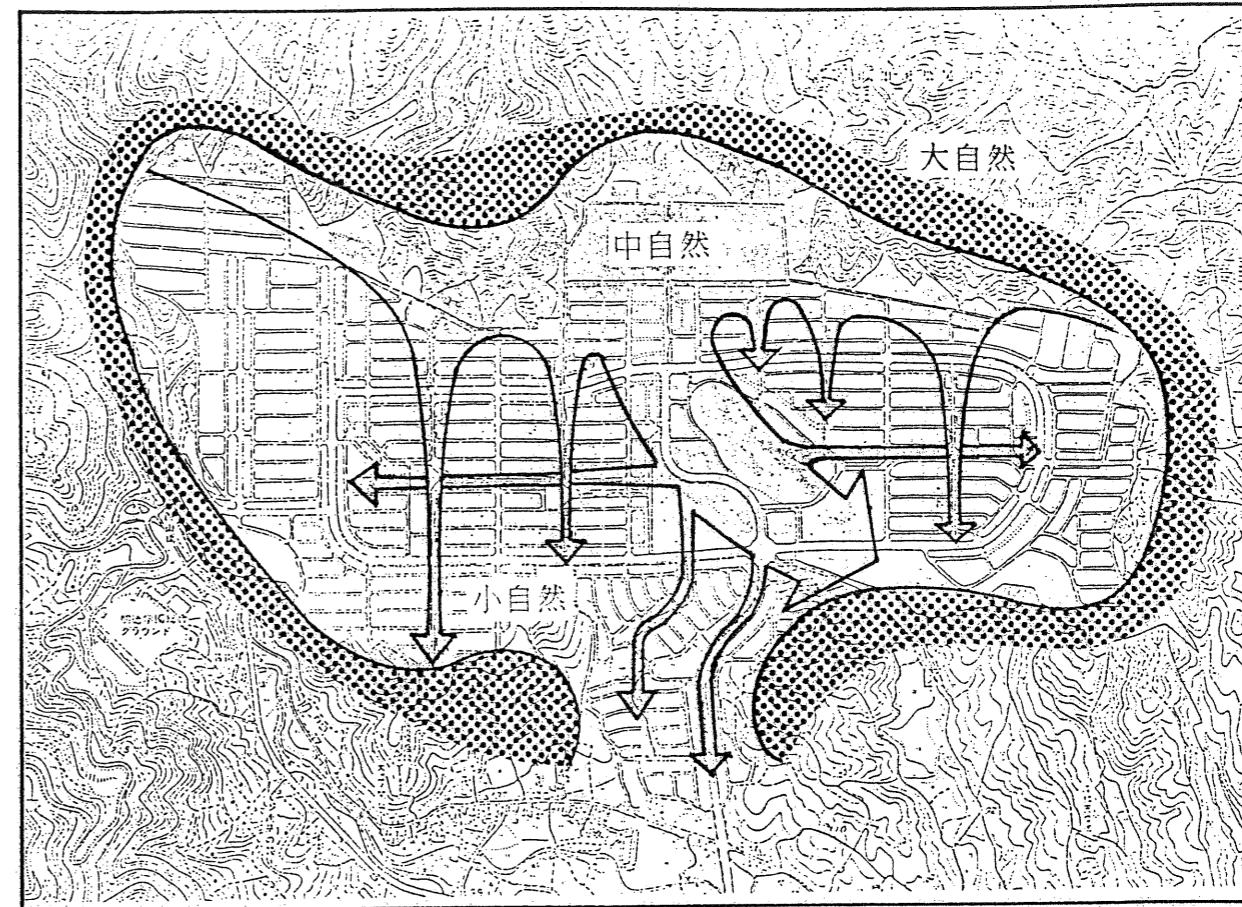
## 3 小自然

小自然とは人間生活に最も身近かに触れる自然であり個人庭園や建築と共にある小さな前庭のように全く人間のコントロール下にある

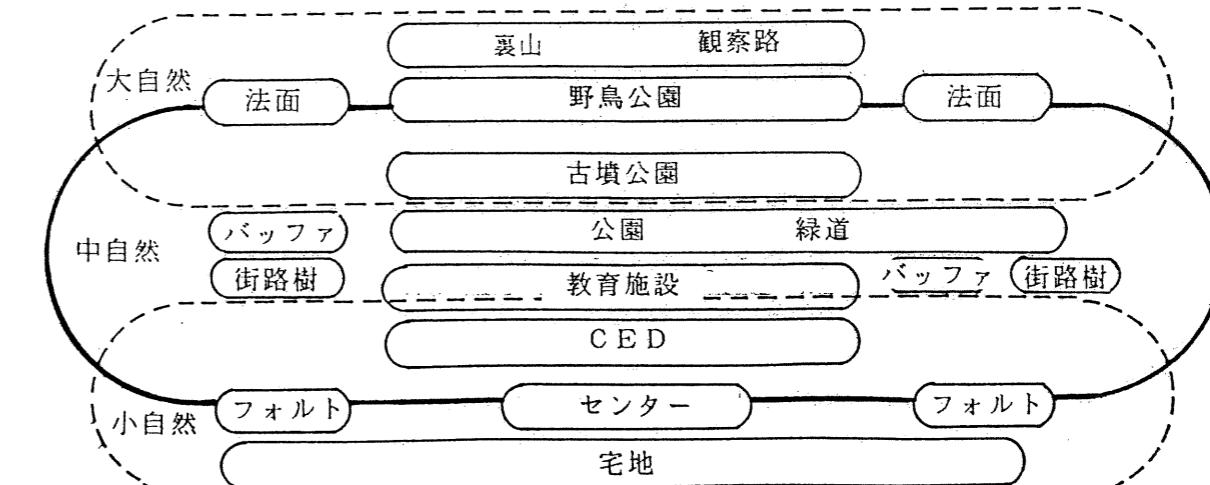
- ・人間が身近かに触れる自然
- ・維持管理により、成立し人間が支配する空間



## &lt;自然の構造&gt;



## &lt;中自然による街づくり&gt;



「桂坂」の自然環境形成は次の三つの骨格に基づき基本計画を樹立する。第一は自然の尺度を街づくりの構成へと反映させることであり、緑の河計画・花めぐり回遊庭園計画を具体的手法とする。第二は計画地の劣悪な土壤条件を改良し、植生の基礎条件を整えることである。第三は土地利用計画を十分検討し、各ゾーンの特性を抽出し、全体としての相互関連を図ることである。

#### <「桂坂」の環境形成の骨格>

緑豊かな街づくりを具体化するため、次の2つの計画により環境形成の骨格をつくる。

##### 1. 緑の河計画

###### 「桂坂」の環境形成の根幹をなす緑の構造化

野鳥公園、雑木の道、古墳公園、近隣公園を1本の太い緑の流れとする。この河は豊かな緑にあふれ、生き物が生息し、それら自然の街への導入路として位置付けし、早期緑化をめざす。

##### 2. 花めぐり回遊庭園計画

児童公園、緑道等、特色のある各ゾーンに美しい花木、植栽を行い街全体を四季を楽しむ回遊庭園として計画する。

#### <街の自然環境形成の基礎>

##### 土層土壤改良計画

単なる植栽樹木の為の土壤改良にとどまらず街の自然を再興するための新たな生態系を確立するために土層からの本質的な改良を行う。

#### <各ゾーンの展開>

##### 野鳥公園

- 2 haのバードサンクチュアリーとその背後、山地部10 haを含めて野鳥公園とする。「緑の河」の源であり、様々な生物が生まれ育ち、住宅地へと飛び立っていく。

##### 古墳公園

- 約1 haの古墳保全ゾーンと約2 haの法面からなる。保全ゾーンは現況維持とし、法面は草本類による四季の演出に力点をおく。

##### 近隣公園

- センター、古墳公園に接し、2 haの敷地に芝生広場、アートギャラリー、プレイゾーン、憩いの森、人工水による修景と多彩な空間を設定する。

##### 幹線道路

- 緑による街の構造化を図る。道路のヒエラルキー。街の骨格を形成する。

##### 緑道

- 緑道は大緑道、ヘッジロー緑道、小緑道からなり、街区にあわせた個性化、コミュニティ空間の形成、四季の演出、鳥・昆虫の生息の場の計画を展開する。

##### 児童公園

- 緑道との一体化による空間の広がり、花をテーマにした物語り性のある花めぐり回遊庭園を形成する。シンボルツリーの植栽、鳥・昆虫に対する配慮、草花の積極的導入を行う。

##### 周辺法面

- 基本的には大自然への復帰をめざす。そのための手法の検討と、生き物の生息の場、土地利用、景観の構成要素として位置付けることにより法面の修景を考える。

##### 公共施設

- 公共施設は自然と緑の融合をテーマとし、そこに文化と自然の発生する、呼吸する街づくりを行う。

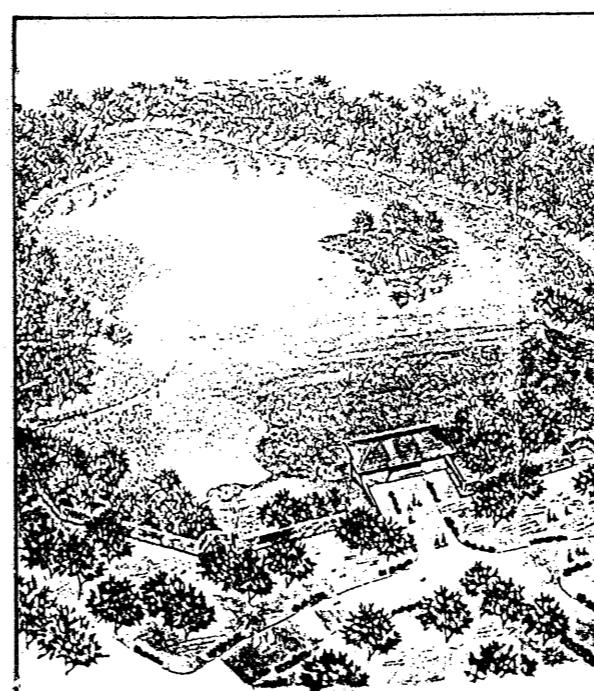
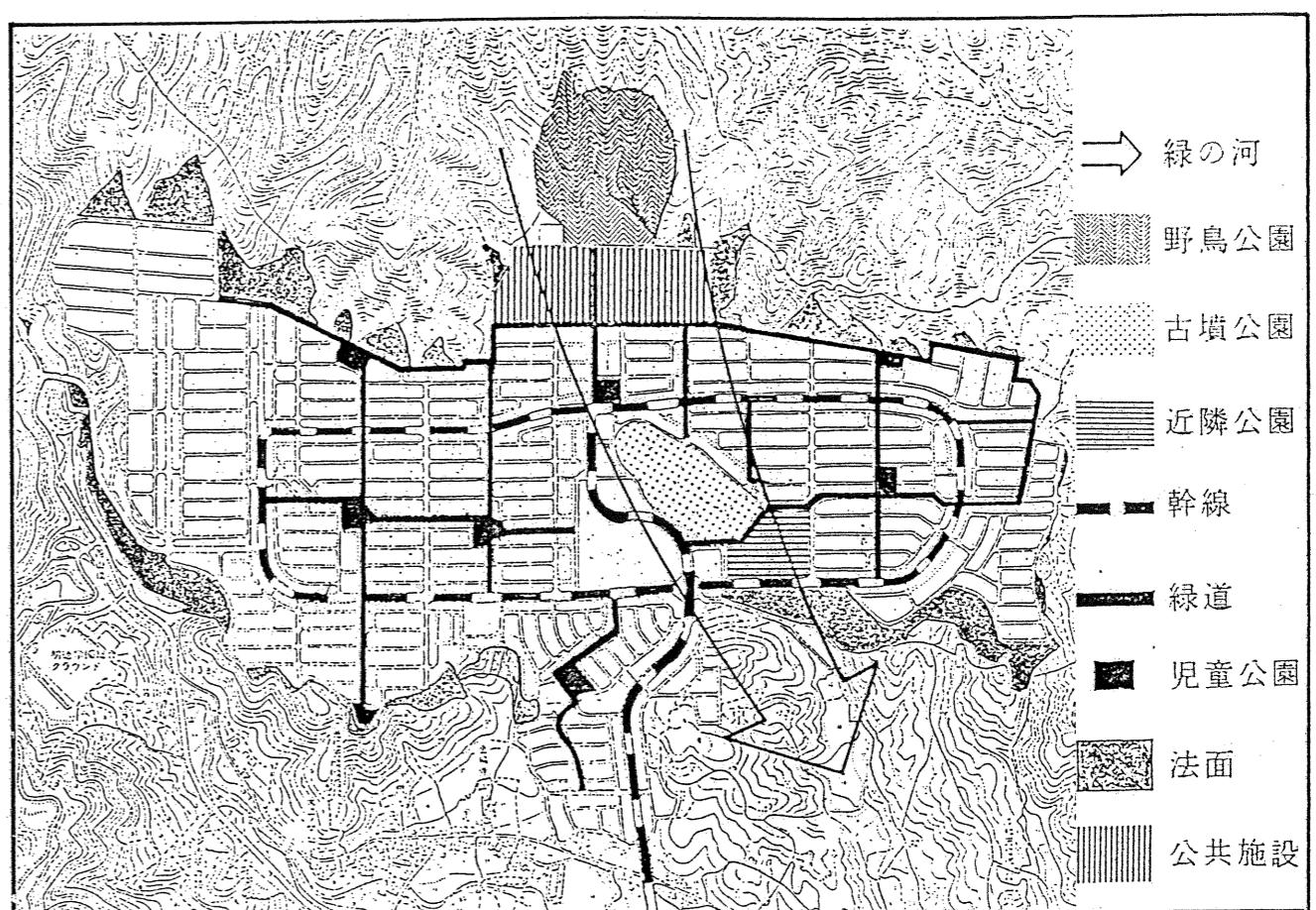
##### フォルト

- 道の半公共空間の演出。個人庭園のにじみだし。細街区のイメージ作り。

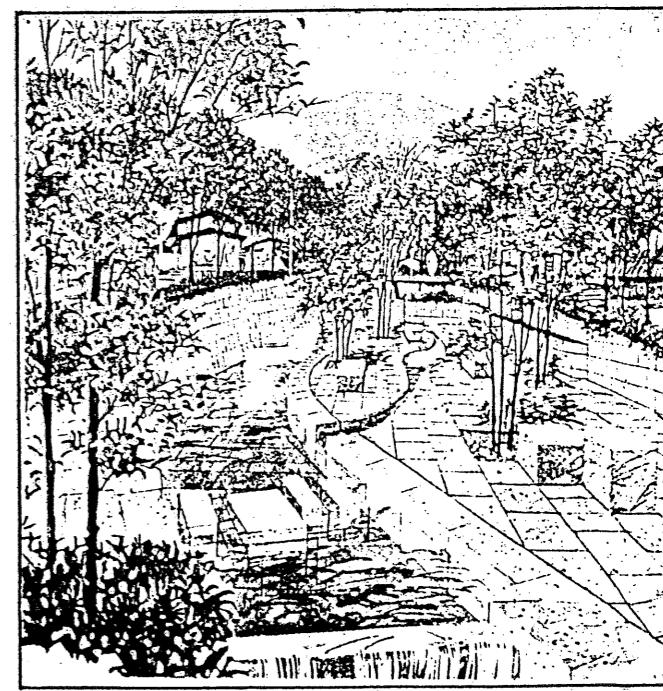
##### 宅地内植栽

- 宅地内植生は個人庭園であるという性格上、計画的コントロールできないが、街の景観形成上、極めて重要な構成要素である。住民一人一人が景観への意識を高めるべく積極的なバックアップを行う。

土地利用図



野鳥公園



こもれびの道

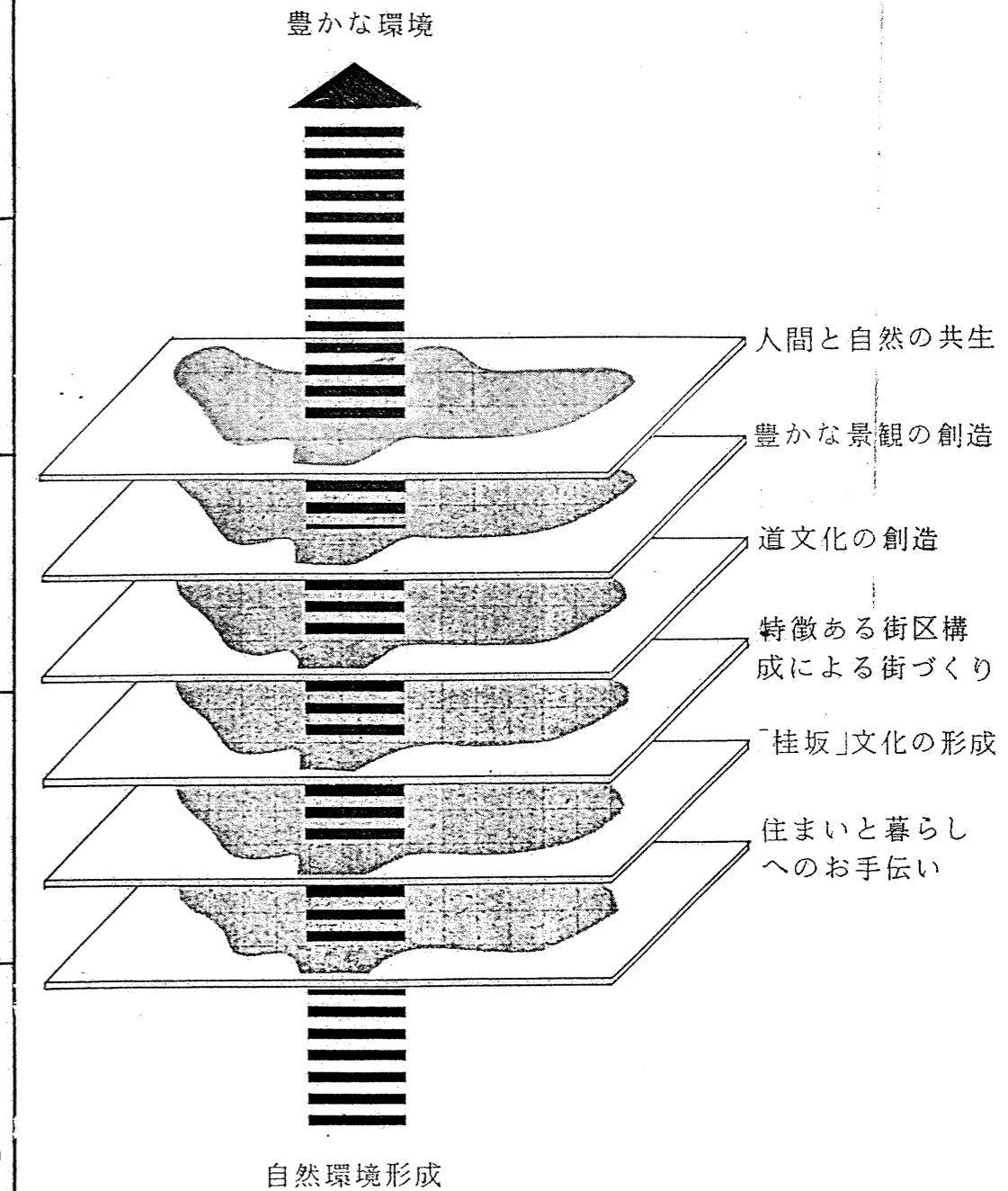
## Ⅱ章 街づくりのテーマを具体化する 自然環境形成手法

街づくりのテーマを具体化するに当たり、Ⅲ章における基本計画に先立ち、各テーマにおける可能性と、それらのテーマの必要条件を把握しておく必要がある。

各ゾーンの計画は、单一目的の計画ではなく、これらの各テーマが相互関連をもって具体化されねばならず、又、街の魅力はそうして多義的な構成によって生み出される。

ただし、注意しなければならないことは、多義的な内容をもたせたためにテーマ性が不明りょうにならないよう配慮することである。

街づくりのテーマ	環境形成手法
1. 人間と自然(鳥や昆虫、植物や水)とが共生する街づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の河計画(自然環境の骨格づくり)           <ul style="list-style-type: none"> <li>:自然の流れ :裏山 - 野鳥公園 - 緑道 - 古墳公園 - 近隣公園</li> </ul> </li> <li>・鳥、昆虫の生息環境づくり - 中自然の生き物</li> <li>・水の修景計画</li> <li>・多彩な植栽計画</li> <li>・自然素材の利用 (本物との出会い)</li> </ul>
2. 人間と自然の融合をテーマにした豊かな景観の創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花めぐり回遊庭園</li> <li>・植栽の基盤づくり - 土壌計画</li> <li>・テーマ性をもった植栽計画</li> <li>・景観の構造化 - 3つの尺度(遠景、中景、近景)</li> <li>・街の表情をつくる施設 - 彫刻、照明</li> </ul>
3. 道を暮らしの舞台、コミュニティ形成の場、街並の景観要素とした道文化の創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道を私的空間と公共空間のインタラクトする半公共空間としての演出</li> <li>・街路樹による街の構造化 - 幹線街路</li> <li>・緑のネットワーク化と土地利用に即した個性ある緑道づくり           <ul style="list-style-type: none"> <li>空間、自然の街への導入、コミュニティ空間、花めぐり</li> </ul> </li> </ul>
4. 固有の特徴をもつ街区の積み重ねによる街づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生活様式、個性的ニーズに対応する環境形成</li> <li>・住まいと環境との一体化</li> <li>・C E D の個性にあわせた外部空間の形成</li> <li>・引き算の植栽計画</li> </ul>
5. 京都の伝統文化とすぐれた国際性を取り込んだ新しい「桂坂」文化の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洛西古来の空間の保存 - 古墳公園(現況保存)</li> <li>・京都の伝統的手法を環境形成に生かす           <ul style="list-style-type: none"> <li>大刈り込み、露地、坪庭</li> </ul> </li> <li>・日本の伝統文化を街づくりに反映する           <ul style="list-style-type: none"> <li>日本庭園、野立て、たきぎ能生花、月見 鎮守の森、盆踊り</li> </ul> </li> <li>・国際性のある街づくり           <ul style="list-style-type: none"> <li>国際コンペ(児童公園 - プレイスカルプチュア)</li> <li>国際的イベントの開催(コンサート、絵画、彫刻、映画)</li> <li>世界各国の植物、草花の導入により街を彩る</li> </ul> </li> <li>・新、旧の文化の調和のとれた融合 = 「桂坂」文化の形成</li> </ul>
6. 住まいと暮らしへの永続的なお手伝い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より良い環境づくりのアドバイス           <ul style="list-style-type: none"> <li>個人住宅庭園、園芸相談、植木市、パンフレットづくり</li> </ul> </li> <li>・建築協定、緑化協定による環境保全</li> </ul>





### <自然素材の利用>

#### 1. シンボルとなる空間の創造

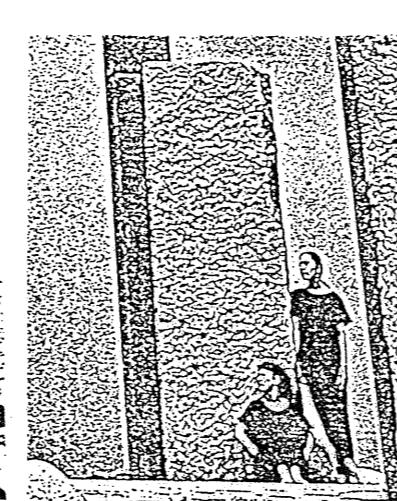
大きな木、大きな石(巨石)はただそれがあるだけで、人々に安らぎを与え、また街区のシンボルとしての役割を果たす。



巨木



巨大な切株



巨石

### <水の修景計画>

水の外部空間に果たす役割は非常に大きい。静かな一滴の水から激しい動きを持ったダイナミックな水までその表情はさまざまに変化し、水そのものの持つ意味と働きも変わってくる。「桂坂」では、水のいろいろな形態の導入を計ることにより豊かな環境づくりをめざす。

自然の水



落ちる水



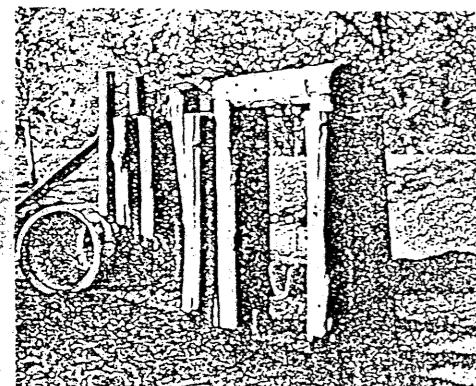
流れる水



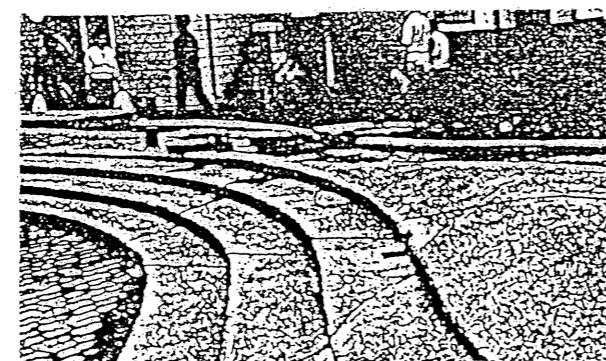
たまり水

#### 2. 自然素材を用いたストリートファニチャー

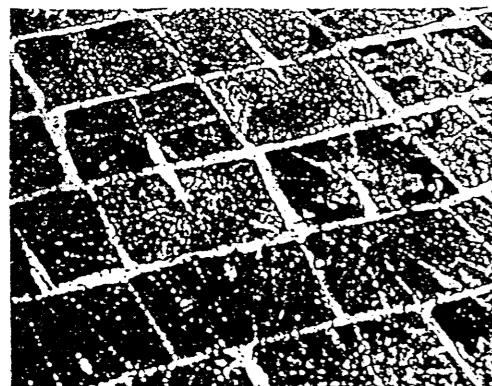
##### 自然素材の持つ暖かさ、素材感による空間演出



木の廃材を利用した遊具



石のテーブルとベンチ

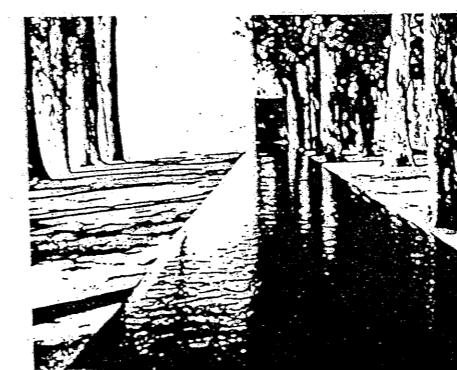


木レンガ

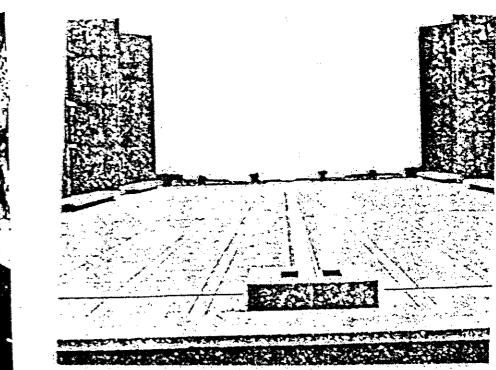
自然の曲線の美しい舗装



あふれる水



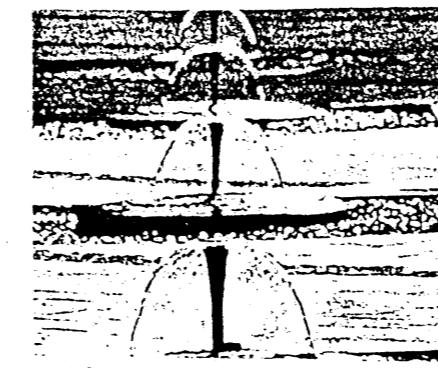
スタティックな水



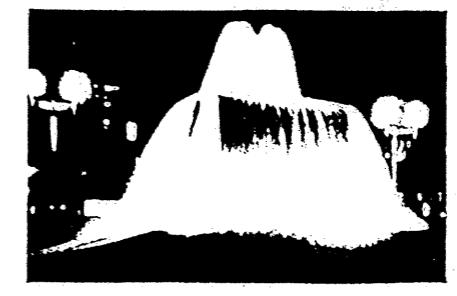
象徴化された水



石の舗装



水とリズム



水と光



滝

## &lt;「桂坂」の“景観”的考え方&gt;

「桂坂」は標高80~180mに位置し、京都市内とはおよそ30mの落差があり、南に広がる洛西ニュータウンを一望することができる。また造成された最高35mにおよぶ法面は遠く京都南部桃山丘陵からも眺望できる。このように「桂坂」は宅地内の景観だけではなく、周辺地区からの眺め、京都市内からの遠望もふくめて、その景観を計画する必要がある。

ここでは景観に3つの尺度を与えることにより、構造化し、街づくりの景観形成の基盤とする。

1. 遠景
  - ・街全体の景観の構成
  - ・周辺の山並みとの調和(周辺法面)
  - ・面としての緑のボリューム
  - ・見上げる街並み、見下げる街並み
  - ・京都市内からの眺め

2. 中景
  - ・南斜面の地形条件を生かし、楽しさと驚きをもつ生活空間の創造
  - ・緑道の連続性と変化による緑の空間づくり
  - ・ヴィスタ、ビューポイントによる中景の節目
  - ・C E D の豊かな緑による新しい戸建住宅景観の創造
  - ・面、緑としての季節の変化と色どり
  - ・テーマ性のある植栽群

3. 近景
  - ・間近に見る、触る、かぐといった直接的感触を楽しむ。
  - ・宅地内植栽

## 植栽による景観づくり

花めぐり	:児童公園や街の各所に花の名所づくりを行い、四季の移り変わりを街に反映し、「桂坂」花めぐりを楽しむ。
例	天蓋の花公園—フジ 近隣公園——シャクナゲ
テーマ植栽	:各ゾーンのテーマにふさわしい樹種を選定し、個性ある街づくりを行う。
例	エントランスシンボルツリー—カツラ 「桂坂」の名前に由來した木 古墳公園法面—ウツクシマツ センター—(キンメイ)モウソウチク
草花の導入	:四季の演出、花にあふれた街づくり
例	古墳公園—野草 個人住宅—花づくりの指導、見本園

## 「桂坂」固有の空間づくり

歴史的空间	——古墳公園、峰ヶ堂の再建、光仁天皇陵への道
自然空間	——野鳥公園、雑木の道、こもれ日の道、緑道
華やかな空間	——アカシア通り
静かな空間	——松並木通り
コミュニティ空間	——近隣公園、児童公園、緑道

## 京都の伝統的手法を生かした空間づくり

大刈込(修学院離宮)	——バッファ
露地	——緑道、個人庭園
坪庭	——同上
生け垣、竹垣	——個人住宅
街区を色どる日本庭園手法——借景、折れ曲がり、見えがくれ、他	

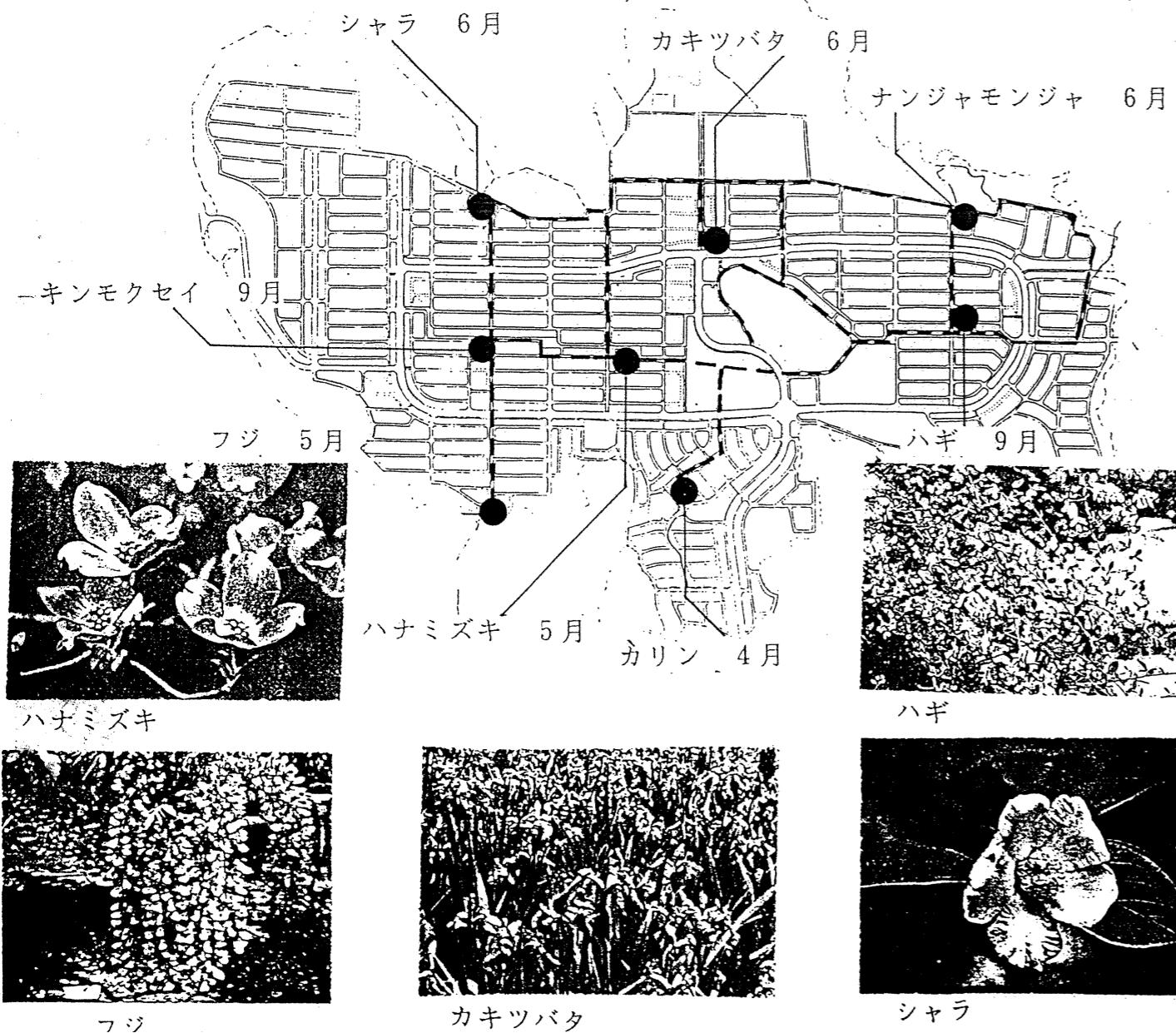
花めぐり回遊庭園計画とは  
「緑の街」が一つの大きな流れとして街の自然の骨格を形成しているのに対して、花めぐり回遊庭園計画とは、園芸種も含めた美しい特徴のある植物により、桂坂の庭園のように四季の名所づくりを、一つは児童公園の「花めぐり」として、一つはテーマ植栽として行い、「桂坂」全体を回遊して楽しむ庭園として構想する。

### 〈花めぐり〉

ネットワークされた緑道を散策しながらシンボル花木のある特徴ある児童公園を「花めぐり回遊庭園」として、住宅地における生活を織りなし、彩り豊かな空間づくりをする。

手法

- ・シンボル花木(草)を、まとめて植栽する。
- ・シンボル花木と同時期に花をつける灌木、草花を選定し、周辺に植栽する。

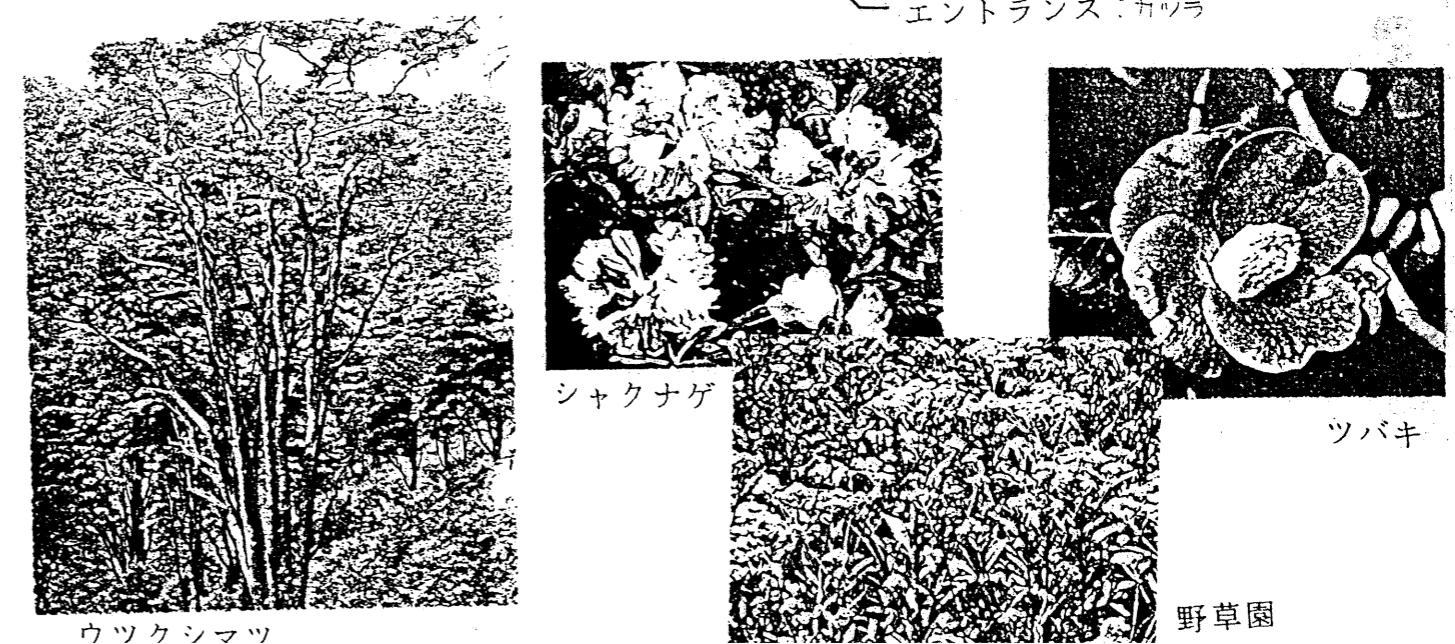
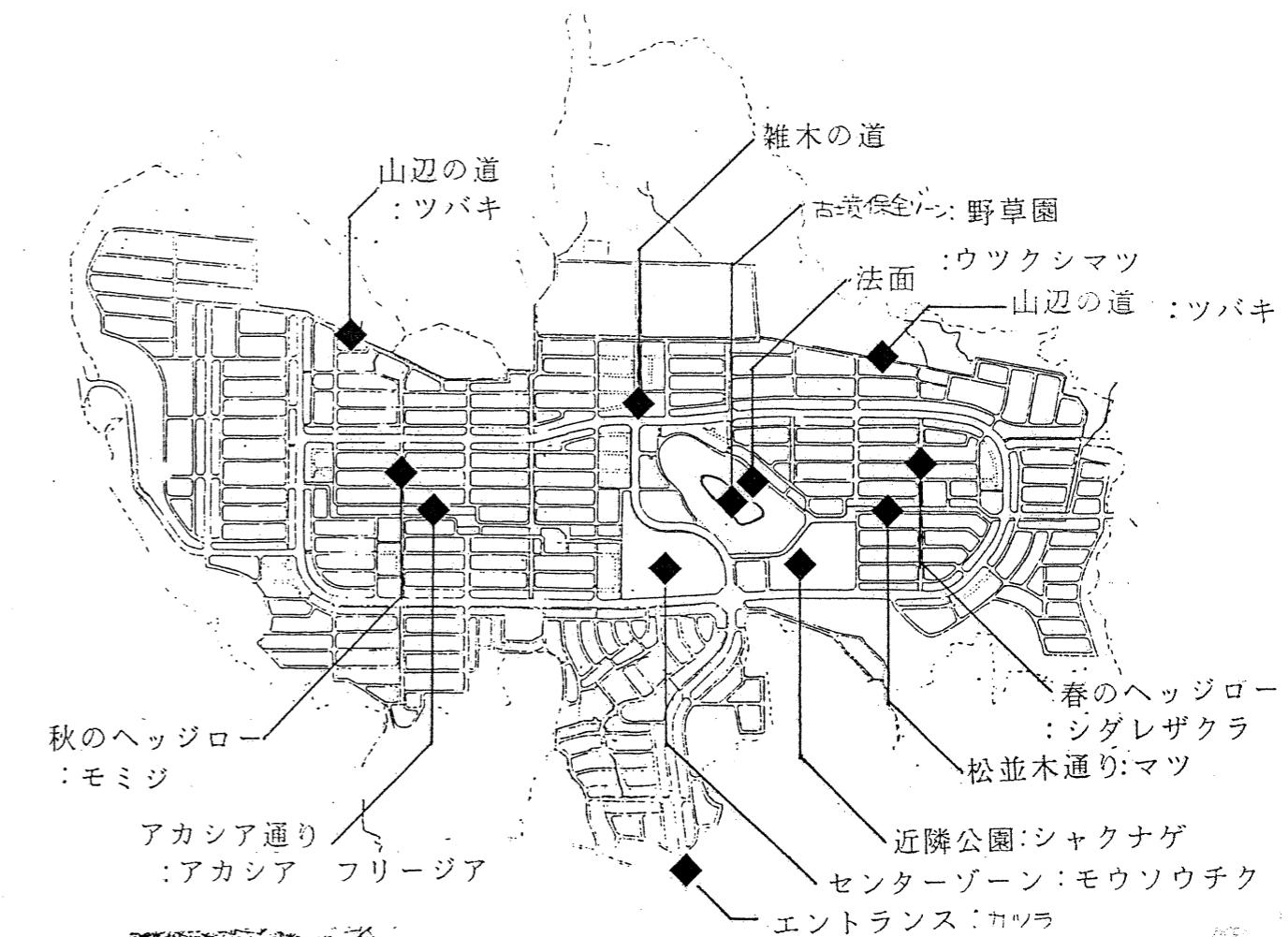


### 〈テーマ植栽〉

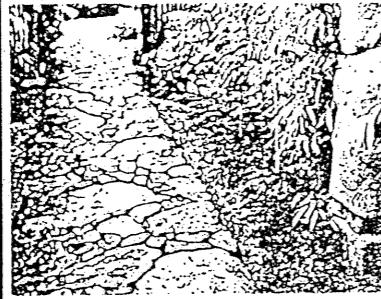
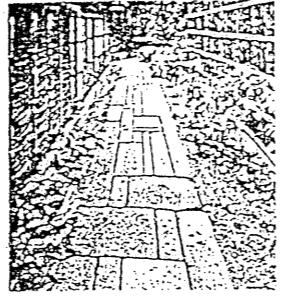
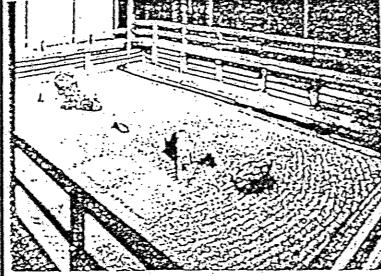
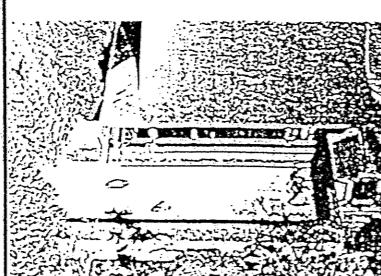
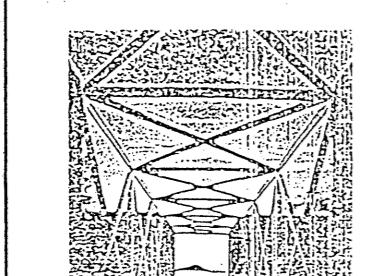
個性のある樹木の植栽で「桂坂」独自の空間を構成し、潤いのある四季の変化を生活に織り込む。

手法

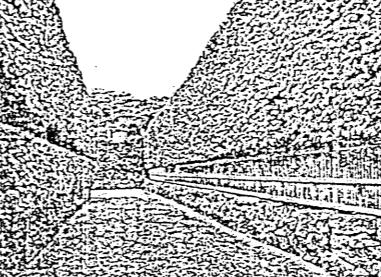
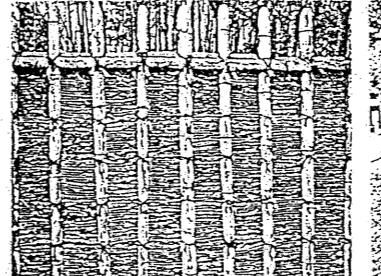
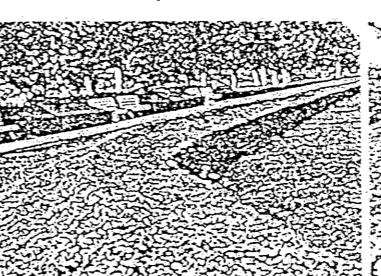
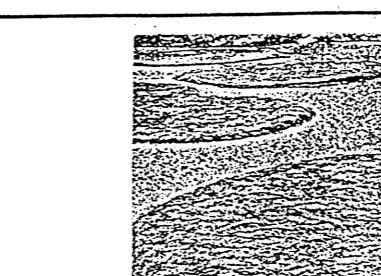
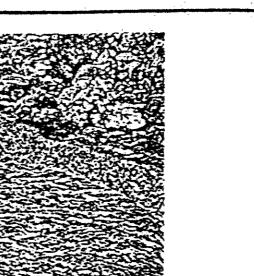
- ・同樹種による並木、群植、森、新しい植栽手法の検討



## 空間構成手法

手法	例	応用場所
露地 壁や床に景をつくり通路を庭にすることによって、人を目的地まで誘導する手法	 	細縁道 個人住宅
坪 建物に囲まれた小面積の採光空間を庭にすることによって、部屋の中に自然を持ち込む手法	 	緑道 個人住宅 センター
結界 物理的に切断せずに“渡り”や“くぐり”によって象徴的に空間を区切る方法	 	街の各部
見えがくれ 全体を見せずして部分を見ることによってみえない部分及び全体を連想させる	 	街の各部
生けどり 見せたい風景を切り取って、額縁の中に納める	 	街の各部

## 伝統的素材と手法

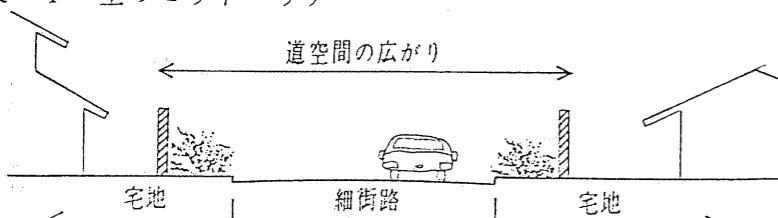
手法	例	応用場所
生垣 樹木によるやわらかいフェンスは統一した美しい街並をつくることができる	 	個人住宅 C E D
竹垣 「桂坂」周辺は竹の全国的な産地であり京都独自の質の高い工芸品が製作されている	 	個人住宅
大刈込 寄植した樹木を刈り込むことで曲面を生かした様々な形をつくる手法	 	バッファ 緑道
飛び石 石を飛び飛びにおいて園路をつくり歩行の用にもちいる	 	個人住宅 緑道
苔庭 京都の風土は苔の生育に適しており、付近には苔寺がある	 	幹線 エントランス 個人住宅

## 1. 道の半公共空間としての演出

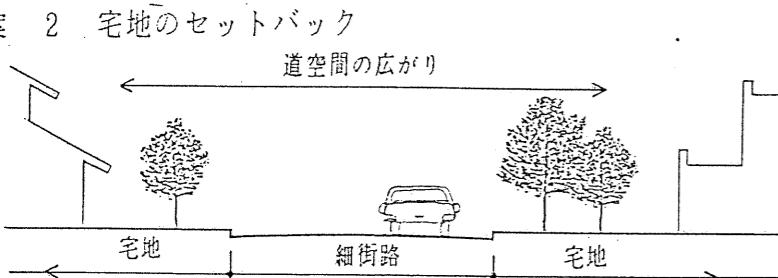
機能的にも空間的にも道路は分節化され、その素材もアスファルトと舗装化され、交通という機能だけが全面に押し出され、道路だけをとりあげてみれば日本中どこに行こうとも、全く同じ風景である。

たとえば京都の古い路地を観察してみると、道は生活に密着した快適な生活空間を形成しており、街並と融けあい、独自の景観を構成している。「桂坂」では私的空间と公共空間のインタラクションする半公共空間の創造により、道をコミュニティ形成の場、街並の景観要素として計画する。

提案 1 壁のセットバック



提案 2 宅地のセットバック



## 2. 歩車共存の提案

歩車共存道路の基本的な考え方は人を最優先に考え、人と車が共存したかたちで道路を再構成し、「人と環境」「車の通行」の二つの視点からとらえる。

## 「人と環境」

- ・快適環境の形成
- ・周辺環境の適合
- ・老人、幼児、身障者への配慮
- ・住民サービス、生活道路としての配慮
- ・住民が参加しえる余地

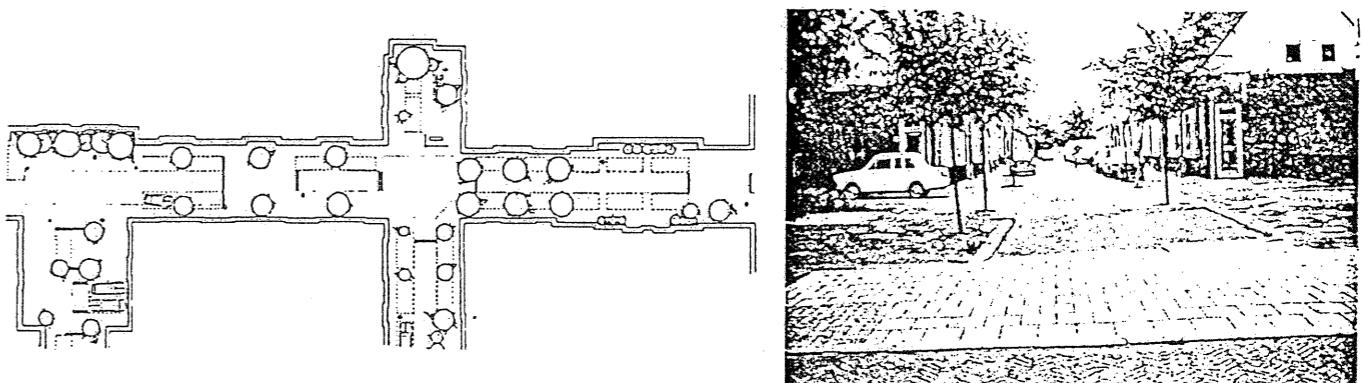


## 「車の道行」

- ・通過しにくい道路構造
- ・低速でしか走行できない制度
- ・不法駐車の排除
- ・自動車の安全性の確保
- ・駐車・搬出入に支障のない構造
- ・自転車走行の安全性

## 3. ボンエルフ

歩車共存道路の一つのタイプで、オランダ語で、「生活の庭」を意味し、車中心となつた道路への反省から道路の構造を工夫することにより、歩行者と車とが共存できる道路形態。ボンエルフでは、ボンエルフ内の道路で子供が遊ぶことが法規上認められており、子供の遊び場のデザイン上の十分な配慮がみられる。



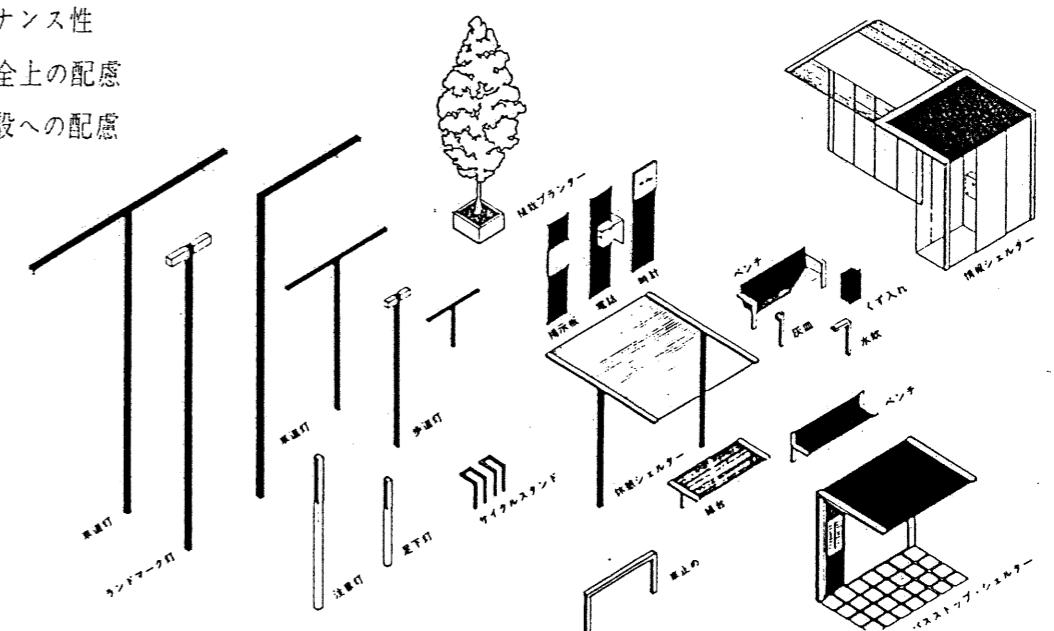
## 4. ストリートファニチュア——道路空間の構成要素

道路などの屋外空間において生活を成立させる道具がストリートファニチュアであり、生活が道具をつくり、また道具が新たな生活を生み出して新しい街を形づくっていく。

ストリートファニチュアの機能——交通機能、修景機能、休憩機能、情報機能

ストリートファニチュアの計画方針

- ・街全体の景観や雰囲気に適合するデザイン
- ・ヒューマンスケール
- ・過剰設置を避け、適切な位置に適量設ける。
- ・当初から計画プロセスへの参加
- ・メンテナンス性
- ・交通安全上の配慮
- ・周辺施設への配慮



街はいろいろな街区の積み重ねによって1つの街として充足する。

「桂坂」では下記の要素テーマとして展開することにより、固有の街区を形成し、それらを積み重ね、新しい街づくりをおこなってゆく。

- ・建築の形態
- ・生活の様式
- ・土地利用による街区形成
- ・環境の充実
- ・街のヒエラルキー(道路体系)

#### 1 多様な生活様式に対応した環境形成

- ・アウトドアライフの楽しみ
  - ・散策 (緑道／文学の散歩道／裏山)
  - ・自然との出会いの場 (緑道／野鳥公園)
  - ・スポーツ、遊び (児童公園／近隣公園)
  - ・家族で楽しむ (花見／月見／バーベキュー)
  - ・歴史を学ぶ (古墳公園／光仁天皇陵)

- ・老人、子供に対する配慮
  - ・安心して赤ちゃんを遊ばせる空間づくり (児童公園)
  - ・老人の憩い場づくり (緑道／児童公園)

- ・コミュニケーションの場づくり
  - ・ポケットパーク (街の各所に小広場を設け、ベンチ等を設置する)
  - ・花壇づくり (児童公園内に花壇を設け、地区ごとに管理する。毎年花壇コンクールを行い、街のコミュニティをたかめる)



アウトドアライフ



花壇コンクール



ポケットパーク

#### 2 住まいと環境との一体化

- ・生活空間の外部空間へのにじみだし

生活空間の拡大、多様化

新しい生活空間の創造

住まいと環境との一体化



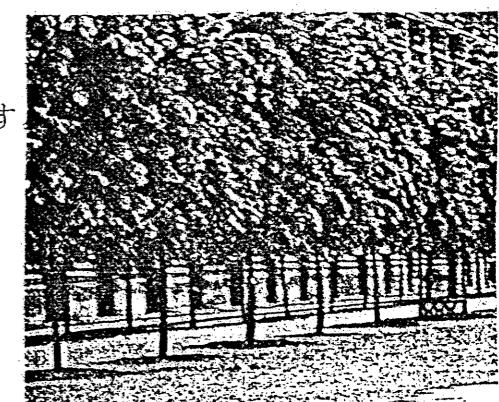
#### 3 C E D の個性にあわせた外部空間の形成

C E D (3章 p. で説明)は新しい街づくりの手法であり、そこには陶芸家の村、染色家の村、音楽家の村といった芸術家を中心とした街づくりや、在日外国人に対するコンドミニアムといった構想がある。ここでは自然環境形成の手法を、例をあげて説明する。

音楽家の村 音楽とかかわりの深い植物で環境づくりを行う。

その植物の足元にその植物が歌われている歌詞を記す。

- |          |        |
|----------|--------|
| 「菩提樹」の並木 | シューベルト |
| 「野バラ」の小径 | シューベルト |
| 「スミレの花壇」 | モーツアルト |



菩提樹の並木

染色家の村 染料をとる植物による環境づくり  
各植物に抽出した色見本と染色方法を記す。

- |        |      |
|--------|------|
| アイの畑   | 紺色   |
| アカネの草原 | アカネ色 |
| ザクロの林  | 褐色   |



アカネ

陶芸家の村 紬薬の原料となる植物の植栽

ススキ、カヤ、イ等

在日外国人用コンドミニアム

各国の国花の植栽

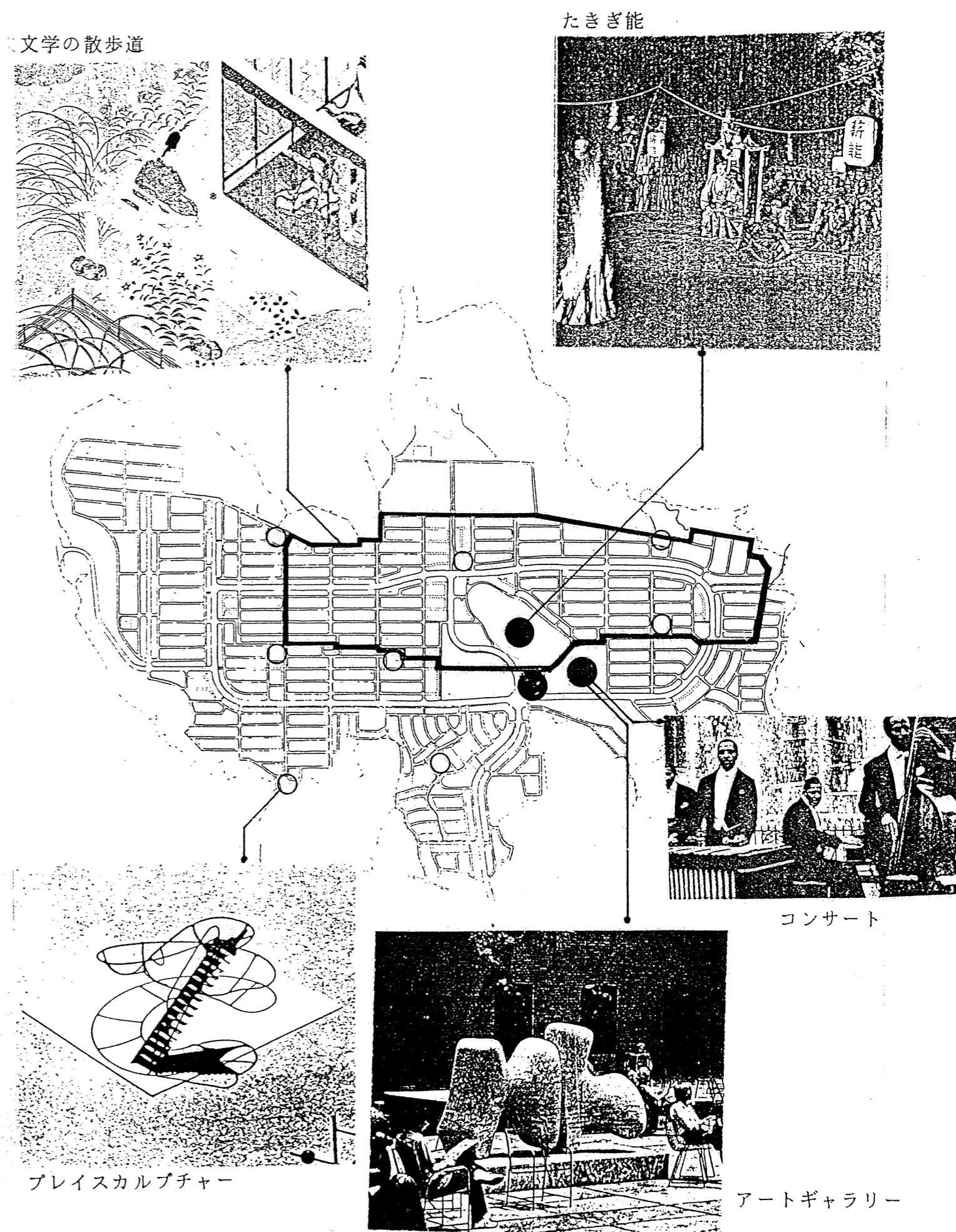
- |        |        |         |
|--------|--------|---------|
| イギリス   | バラ     | ローズガーデン |
| オーストリア | アカシア   | 広場の緑陰   |
| カナダ    | サトウカエデ | シンボルツリー |
| 中国     | ボタン    | 玄関前の装飾  |



バラ

街にさまざまな文化性——京都の伝統文化、国際性、音楽、絵画文学、能、茶道を融合させることにより、変化、創造性ある空間を生み出し、「桂坂」独自の文化をオーケストレーションし、街のハーモニーを作り出していく。

文学の散歩道	—— 文学と植物のハーモニー
	日本の文学、世界の文学とかかわりの深い植物で緑道を構成し、4kmの循環する緑道に散策する楽しみを与える。
アートギャラリー	—— 質の高い街区づくり—芸術作品導入—近隣公園、海外の作品、日曜画家の作品展示場提供。
プレイスカルプチャー	—— 児童公園の遊具を質の高い作品を用いることにより、子供の知的センスを高める。児童公園の新しい方向性の提案。 国際招待作家による作品化。 コンペ開催による話題づくり。
コンサート、イベント	—— 大イベントの打てる野外空間づくり—近隣公園 街の人が自由に利用できる広場。 地蔵盆、ミニコンサート—児童公園
京都の伝統文化を生かす—日本庭園	： 個人住宅での展開
たきぎ能	： 古代空間の演出
野立て	： 古墳公園を背景とした大茶会
生花	： 春の大花展、秋の野草の花展
京都芸大と一体化	—— 芸大と一体となった街づくり 学生の街づくりへの参加 コンサート、彫刻、パフォーマンス



街づくりは土地を販売すれば終わるという一過性のものではなく、永続的に計画者と住民とが作り上げる共同事業であり、よりよい暮らし、環境づくりへの提案、お手伝いを行っていく。

#### より良い環境づくりへのアドバイス

##### 庭づくりの提案

#### 1. よりよい環境づくりへのアドバイス

- ・入居時における説明(スライド、パンフレットによる)
  - ・自然と人間の共生した街
  - ・環境形成への住民の積極的参加
  - ・「桂坂」の自然

#### ・宅地への自然環境づくりのお手伝い

- ・庭づくりの指導
- ・造園業者の指導及び紹介
- ・植栽樹木の提案(街並にふさわしい樹木の植栽)

#### ・園芸相談所の設置

- ・植木のつくり方
- ・植木市、花市等による植木の配売・庭づくりの道具等の販売
- ・ほ場での植栽、及び販売

#### ・自然教養講座の開講

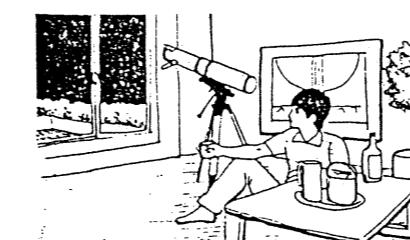
- ・バードウォッチング、昆虫の飼育方法、バードケービング
- ・天体観察
- ・裏山観察
- ・パンフレットづくり
- ・「桂坂」の生き物の紹介
- ・植木の紹介
- ・街の自然環境形成の紹介



植木市



勉強会



#### 2. 建築協定、緑化協定による環境保全

個人住宅は敷地の大半を占め、環境形成の上では大きな比重を占めるものの個人所有であるため、ディベロッパーが全てを決定することは困難であるが、街づくりのコンセプトの具体化、環境保全のための建築協定、緑化協定により住民の協力と参加を求め、より良い環境づくりを目指してゆく。

##### ・建築協定

提案 1. 緑道に隣接する住宅の壁面の後退

提案 2. 緑道、細街路に面する塀のセットバック

##### ・緑化協定

バッファゾーンの大刈込

提案 1. セットバックした塀の前面植栽

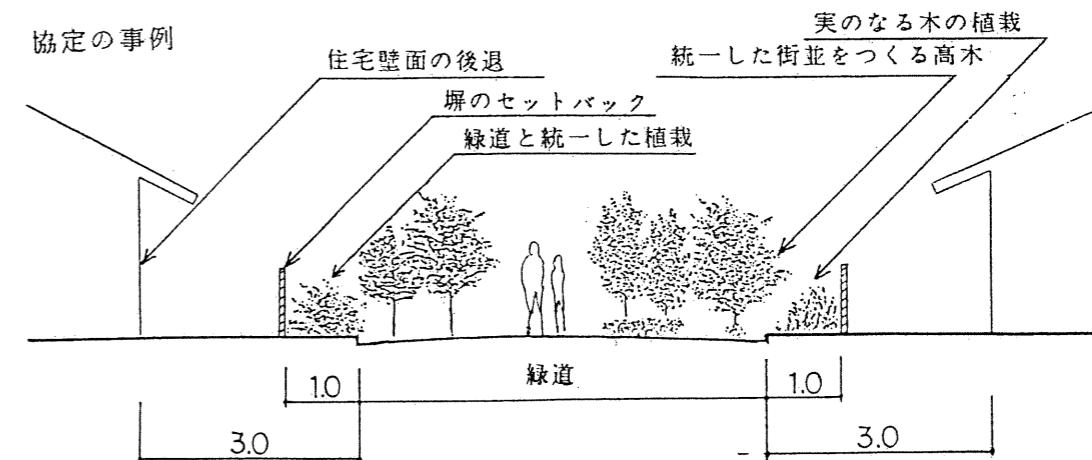
提案 2. 大壁面の垂直緑化

提案 3. 宅地内への実のなる木(鳥を呼ぶ)の植栽

提案 4. 統一した街並をつくる高木の玄関横の植栽

以上の提案に対する維持管理及び管理費等も協定により決定しておく必要がある。

#### 協定の事例



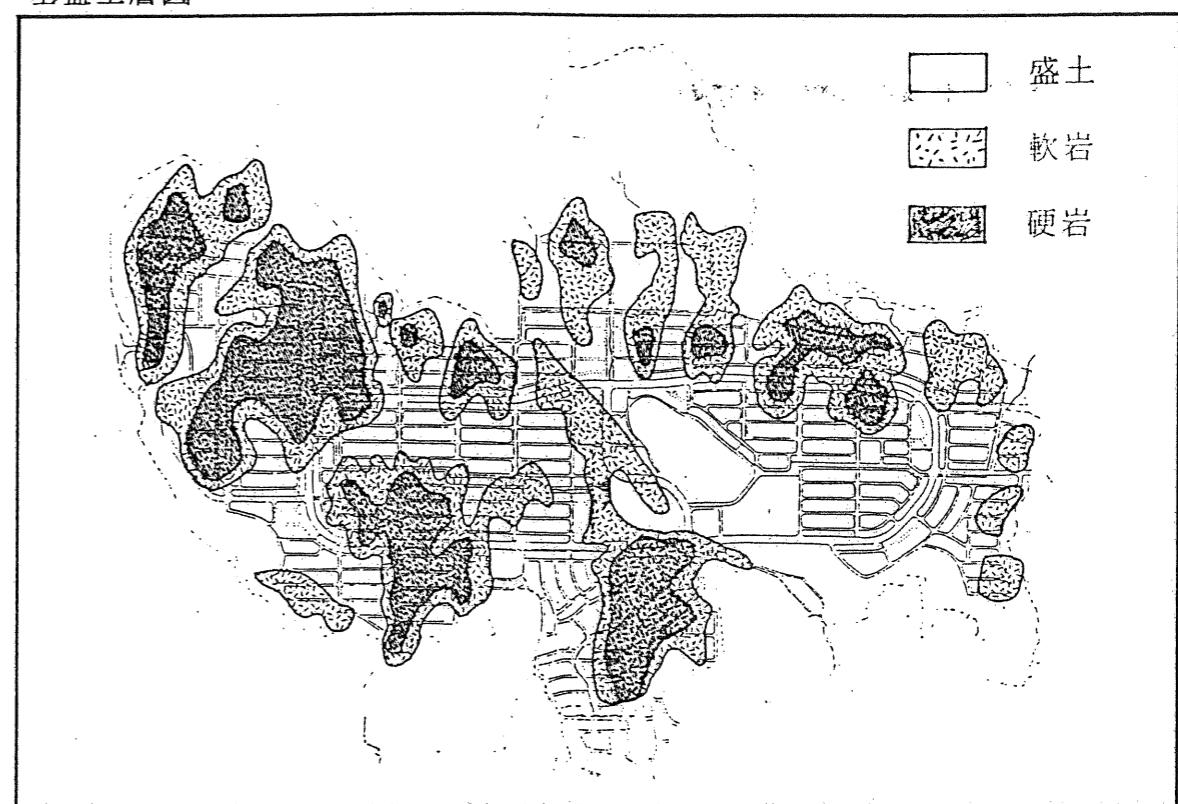
### Ⅲ章 基本計画

本章において、Ⅰ章・Ⅱ章の前提条件を受け、各ゾーンにおける具体的計画を作成する。

各ゾーンにおける計画内容は「桂坂」の街づくりの思想を十分に反映さすとともに、既成の概念にとらわれない「桂坂」独自の街づくりを図っていく。

ここでは、計画地の基礎条件を十分把握した創造的な街づくりを本章のテーマとする。

基盤土層図



## &lt;地形、地質&gt;

地質は、北部の急しゅんな地区に古生層、南部の緩やかな地区に大阪層群、開析された谷部に沢及び河床堆積物が分布する。古生層は、京都府西南部及び大阪府北部のいわゆる丹波高原を構成する古生層の直接続きであって、丹波層群と名づけられている。頁岩(または粘板岩)・砂岩・チャート・輝緑凝灰岩からなり、一部貫入岩が見られる。走向及び褶曲は、ほぼ東西方向を示す。大阪層群は、大阪平野周辺の緩やかな丘陵地に広く分布しており、礫層・砂層・粘土層などからなる。当地では古生層基盤岩に南部から貫入している。なお、古生層、大阪層群を被覆して崖錐性堆積物及び河床堆積物が分布する。

断層は、南北性のものが発達しており、地形にも反映されている。土壤は場所により異なり、土壤検査をしながら工事を進めることが望まれる。

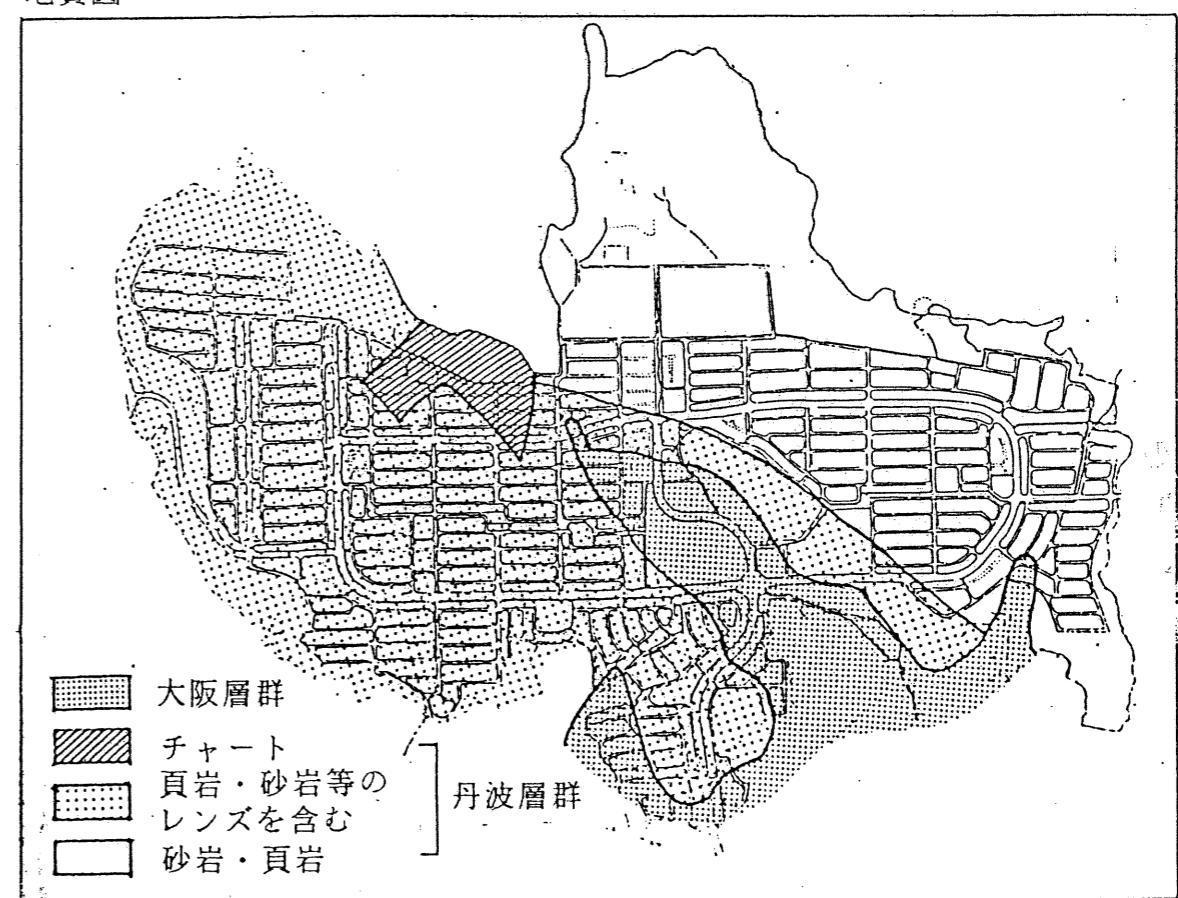
## &lt;土壤改良の必要性&gt;

前回の分析結果から、植物の生育にとって当敷地の現地土壤(土層)は極めて悪質であり、客土の真砂土も植物の生育に最適であるとはいえない。したがって、「桂坂」の環境づくりの基礎となる植栽計画にとって、土壤改良は第一義的な必須条件である。十分な土壤改良で植物の生長を高めることにより、若齢樹の植栽が可能となり、コストダウン化を図ることができる。

## &lt;土壤設計の必要性&gt;

右図を見てもわかるように、各場所により地質、切盛土は様々に変化しており、土壤改良の方針を共通仕様として一言で表現するには困難である。十分な植生環境を確保するためには各工区ごとに土壤試験を実施し、基盤土層及び客土の性質を把握した上で、植栽樹木に合わせた土壤設計が必要である。

地質図



## <土壤改良の手法>

土壤改良は化学的特性と物理的特性の両面から行う。化学的特性とはPH、各種無機質、有機質、物理的特性とは団粒構造、三相組成、含水比、孔隙率である。改良の具体的手法は下記の仕様書に基づき、各工区ごとに設計書を作成し、それによって実施するものとする。

### 植栽基盤整備仕様書

#### 第一章 総則

##### 第1節 一般事項

###### 1-1 適応範囲

- 1 この仕様書は西武都市開発株式会社の開発事業地「」の植栽地に適応する。
- 2 この仕様書に定めない事項については「土木工標準仕様書」に定めた仕様書によるものとする。
- 3 委託作業はそれぞれの種別に応じ、本仕様書に定める仕様に従い施工する。
- 4 同一種別に仕様について本仕様書の定めと特記仕様書の定めとが異なる時は、特記仕様書の定める仕様書にしたがい施工する。

###### 1-2 費用負担

- 1 材料、作業の検査及び官公署等へ届け出、手続きに必要な費用は委託者の負担とする。

###### 1-3 疑義または明示なきもの

- 1 請負者は、工事着手に現地および設計図書、特記仕様書などを充分に照査し、明示なきもの、または疑義の生じた場合は、監督員の指示に従うものとする。

###### 1-4 目的

- 1 植栽地の土壤条件を的確に把握し、植栽にとり、不良な内容を明らかにし、植物の生育が良好になるような植栽基盤整備の目標を見定め、その施工を行なう。

#### 第2節 植栽基盤整備

##### 2-1 植栽基盤とは

- 1 植栽しようとする場所の土壤 土層あるいは表層地質を含めて植栽基盤とよぶ。

##### 2-2 植栽基盤整備

- 1 植栽工事のなかで、または、それ以前に植栽基盤の不良性を改善する作業である。

##### 2-3 植栽基盤調査および工程

- 1 植栽予定地の調査、分析、評価、基盤整備計画の策定、基盤整備工事の実施との過程をへて進める。

##### 2-4 植栽用土の調査点数、および報告

- 1 植栽予定地の調査は現場土壤調査項目によって10a当たり10点とする。室内分析調査項目によって10a当たり5点とする。

##### 2 調査は監督員に報告書として提出する

##### 2-5 旧地形と造成地盤との関係調査

- 1 切土地点および盛土地点、切土深さ、盛土厚さなどを造成図をもとに面的に把握する。

## 第二章 施工

### 第1節 植栽基盤整備工

#### 1-1 植栽における有効土層の厚さ

- 1 植栽基盤整備は平均して70cmにするが、植栽にさいしての有効土層は最小限、下記の厚さ必要とする。

地被植栽	芝、草本類	15cm
低木植栽	小低木	30cm
	低木	45cm
高木植栽	小低木	60cm
	中高木	90cm
	大高木	150cm

#### 1-2 客土用の土壌

- 1 客土に使用する土は自然土壤が主体で石や、礫の少ない良質な土にして、分析する。その結果によって品質基準に適合しうる土壤改良をおこない植栽土壤とする。

#### 1-3 盛土工

- 1 植栽盛土は客土用土を使用して、土木造成後のような過度に締め固めないように注意する。

#### 1-4 土層耕の種類と工法

- ① 普通耕 表層約20cm部分を、ディスクハローによる碎土、プラウによる耕起、耕うん機の使用による耕起の順に行なう。

- ② 深耕 深い有効土層を確保した場合、盛土工の直前にその前作業として、深耕用機械(ショベルーター、深耕ロータリー、バックホー)による掘削反転で、40~60cm部分を耕起する。

- ③ 混層耕 性質の異なる表層と下層を反転置換し、土層構造の連続化をはかる工法で、地表下0.5~1.5cmの土層改良を目的に行なう。

#### 1-5 排水工

- ① 表面排水 地表面傾斜により滞水しないようにする。基盤の整地段階で5%以上の勾配をとる。

- ② 開渠排水 植栽地の周辺部に溝を設け、地表水を排水すると同時に外部からの流入水を遮断して植栽基盤の多湿をさけること。

- ③ 暗渠排水 植栽地の地中に深さ0.6~1.2m程度、最小管径100mm以上(渠水渠は150mm以上)の有効管、または、透水コンクリート管などを勾配1/500~1/100程度に多湿地には設置する。1/100程度に多湿には設置する。

- ④ 砂溝法 基盤面、基盤内に幅0.2~0.3m、深さ0.6~1.2mの溝を掘り、この中に砂または焼成岩(ビーナスライト)を配し、崩壊を防ぎ開口部がないようにして排水工とする。

#### 1-6 客土工

- ① 植穴客土工 植栽樹木個々の植え穴に、客土用土を搬入し投入する工法

- ② 帯状客土工 植栽帯のように連続した植え樹に客土用土を搬入し投入する工法

- ③ 全面客土工 植栽区域全面に客土を投入する工法

以上3つの方法にて、図面に適応した客土法で施工する。

#### 1-7 余盛

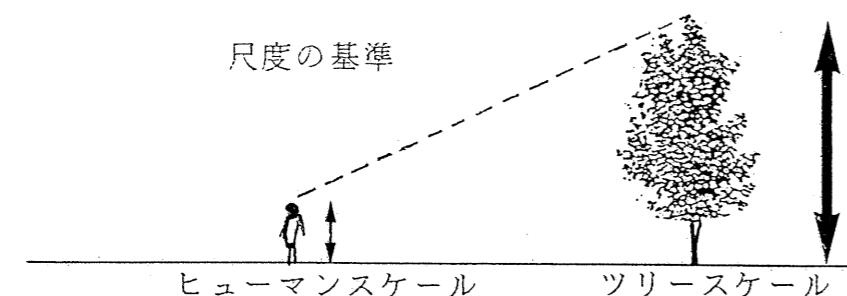
植栽基盤における土量は計画高よりも、15cmくらいの余盛を必要とする。

## &lt;コンセプト&gt;

- ・「桂坂」の自然を形成する中自然の骨格
  - ・自然の要素(生き物、緑、花、水)の街への導入経路
  - ・豊かな自然(多種多様な植物、鳥、昆虫の生息の場)
  - ・自然の様々な生態の再現
- 森 — 野鳥公園  
林 — 緑道 学校 C E D  
草原 — 古墳公園  
広場 — 近隣公園
- ・自然のスケール = 「ツリースケール」による空間構成  
例) 巨木、巨石、森、流れ

## ツリースケールとは

人間を基準にしたスケールをヒューマンスケールと呼ぶならば、ツリースケールとは樹木を中心として、自然の大きさを尺度の基準としたスケールであり、雄大で微細なことにとらわれず、自然的時間の中で変化していく空間である。

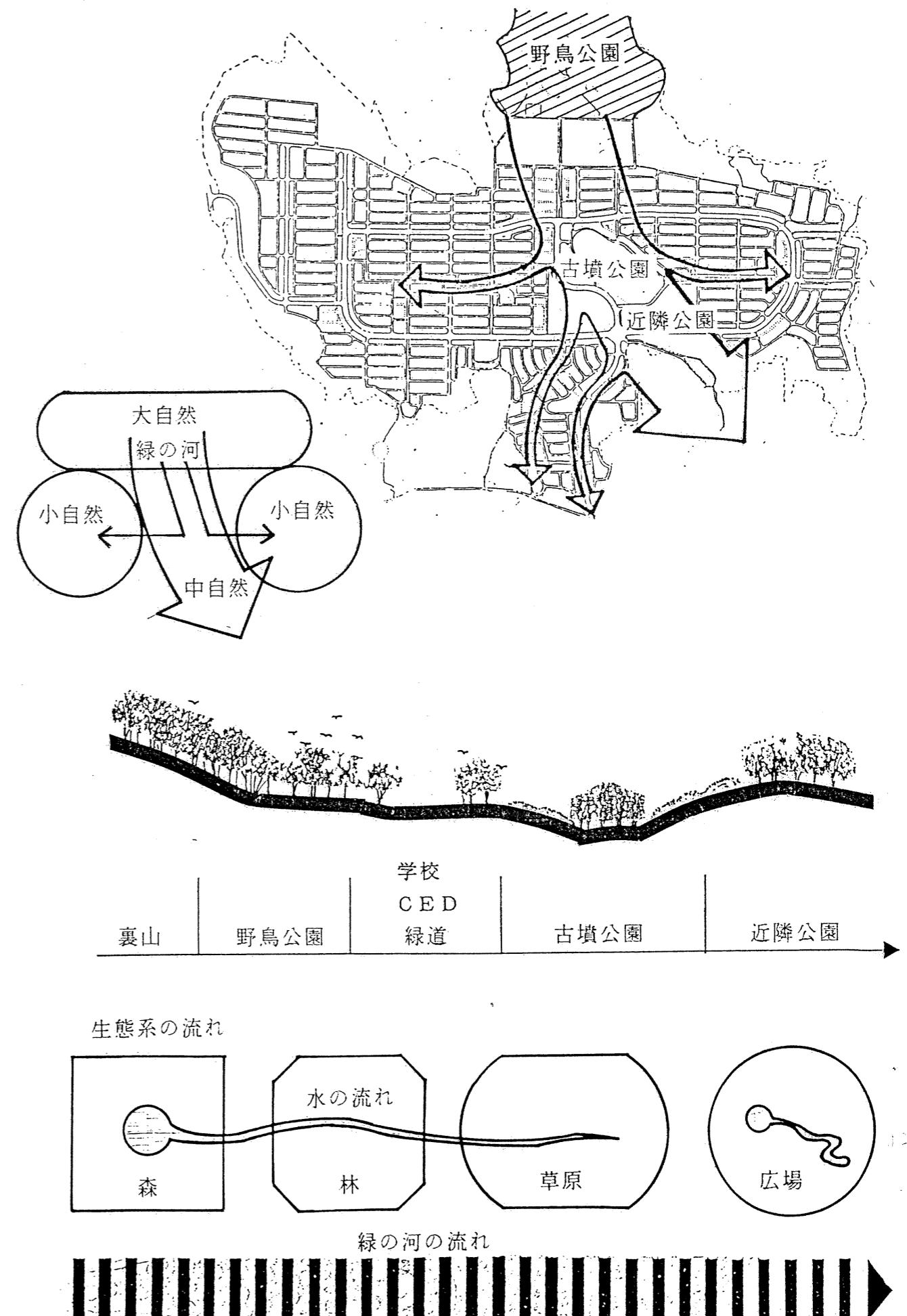


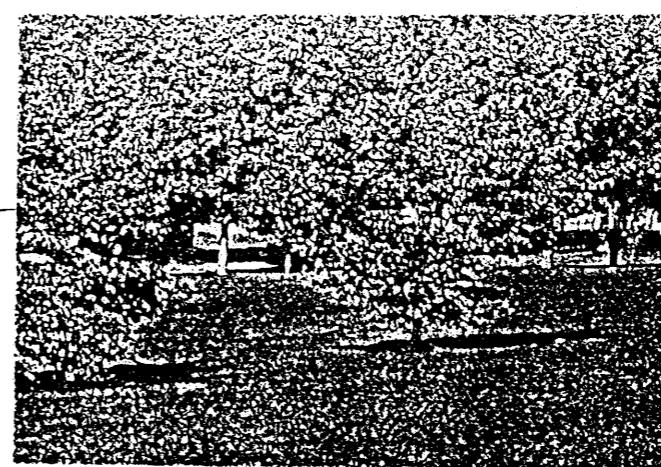
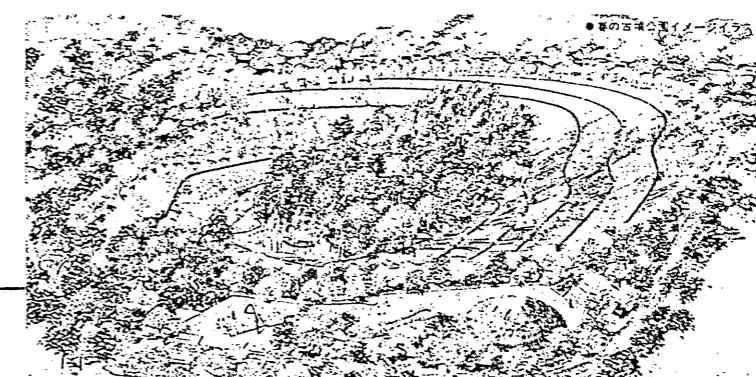
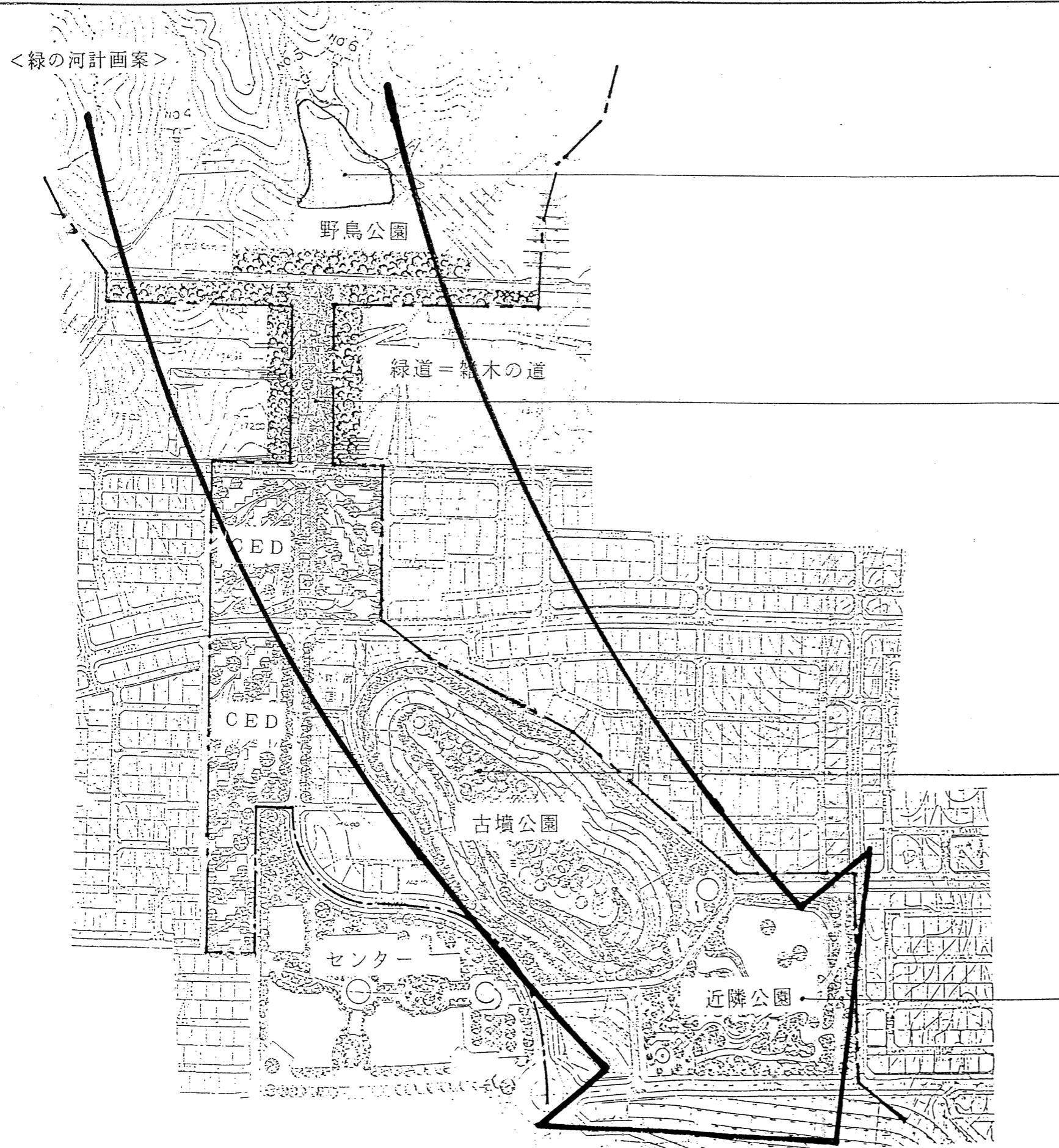
## &lt;手法&gt;

- ・「緑の河」部分の緑化を野鳥公園、古墳公園の工事にひきつづき行い、街づくりに先行して「緑の河」を形成し、中自然の生態系を確立さす。
- ・早期植栽:樹林を成熟させるために、施設計画以前に植栽を先行させる。
- ・引き算の手法による植栽計画  
:早期植栽により形成された樹林を間引いて建築施設計画を行う。  
:間引かれた樹木は他に移動する。
- ・学校、C E Dなど「緑の河」に含まれるゾーンに対する緑化の提案

## &lt;問題点&gt;

- ・野鳥公園へのアクセスの公園の完成時における整備の必要
- ・学校の早期植栽による樹林形成は市との協議が必要
- ・早期着工に伴う、全体工程との調整が必要
- ・森の早期形成の為に生育の早い樹種をメインに植栽する必要





## &lt;コンセプト&gt;

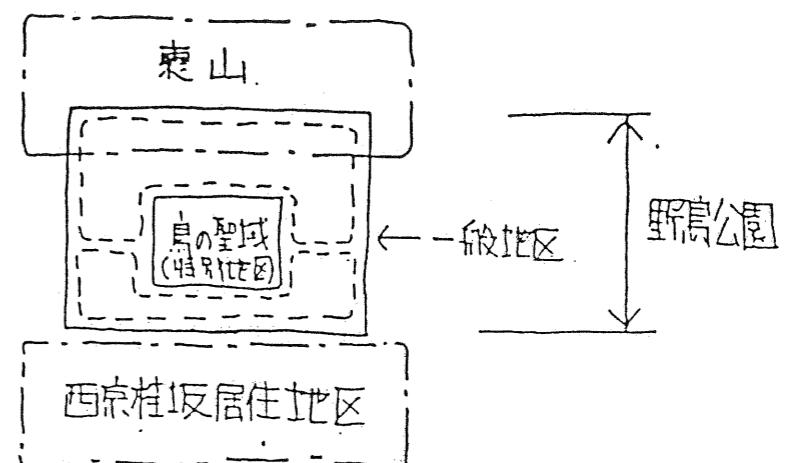
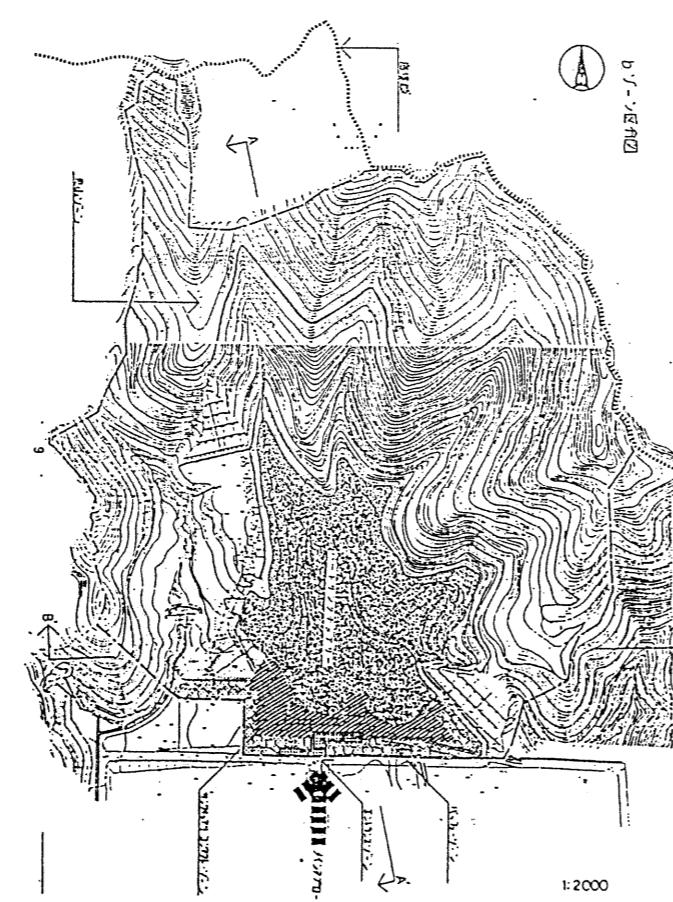
本計画は、造成地に新しく鳥の聖域を作り、その背後に広がる裏山部を取り込んで野鳥公園とするものであり、新しく作ることから、鳥を本公園に居着かせるための工夫が必要とされる。

また、公園の骨格の工事終了後、数年の熟成期間を経て開園されることになる。

さらに、本公園は人の居住地に近接し、身近に自然と接する場を提供できることから、教育的にも価値が高く公園的要素を加味することにより、来園者に親しみをもたせることができると考えられる。

## &lt;基本的構成&gt;

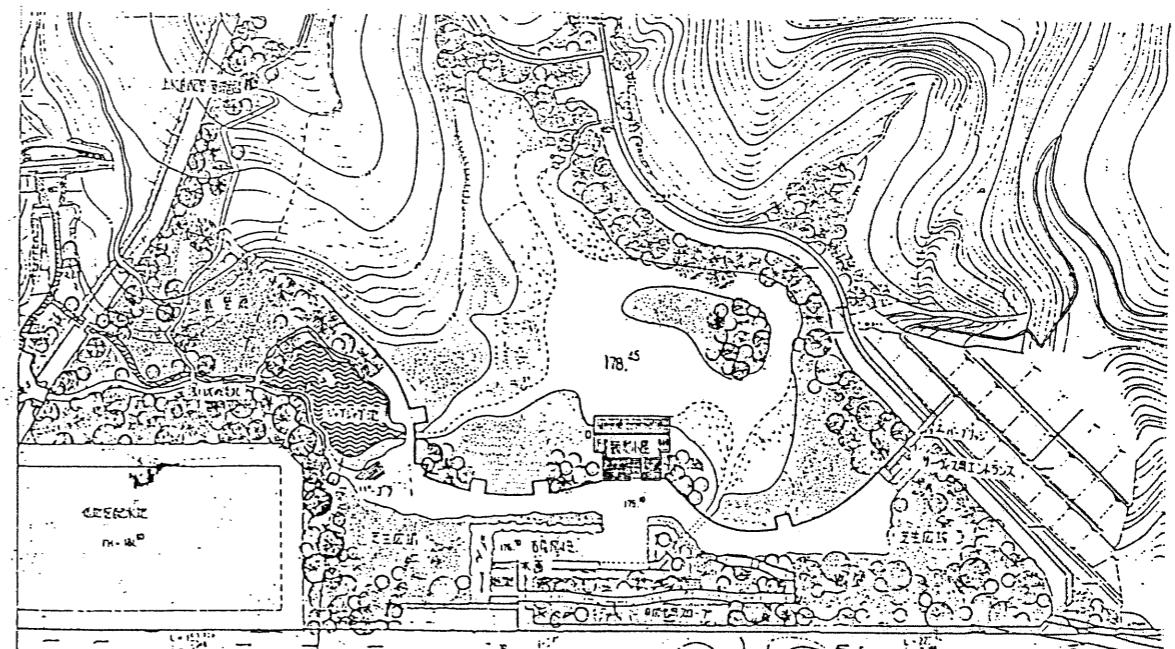
- ・バッファゾーン  
人の居住地(学校)に接し、それと、鳥の聖域(バードサンクチュアリゾーン)と分つゾーン
- ・エントランスゾーン  
人と野鳥公園への導入路
- ・サンクチュアリコントクトゾーン  
人がバードサンクチュアリと接することができるゾーン
- ・裏山ゾーン  
バードサンクチュアリの後背地として、昆虫の発生地、「緑の河」の源と言えるゾーン



計画与条件の整理と対応

	課題	対応	該当ゾーン
居住地の計画	学校	馬鹿、砂漠	教育・休憩機能
	住区配地	地図上ではあるが裏山部にフェンスを設置	移景植栽
	試験配地	地図上(4ha 10m)の突出する	修景植栽
	飛騨川および豊川	コアリート河川、途径、河床改修、フェンスを導入で受け入れる	修景植栽
地形条件	池の水深は、表流水を利用し、満水期付、水深がかかる	4.5ha 塵堤から導水	裏山ゾーン
	南側前面道路と、池の高低差を5m	メッシュアーチの処理、管理用車道、斜面斜線の確保	エントランスゾーン バッファゾーン・サンクチュアリゾーン
	裏山……巣営。(約25°~40°)	自然観察路のルート設定、サンクチュアリのフェンスの位置	裏山ゾーン
	堤堤(高さ、5m、6m)のコンクリート面が相付	斜面植栽	バード・サンクチュアリ
管理計画の計画	町とのつながり	メッシュアーチは1ヶ所 外に、管理用サブエントランス1ヶ所	エントランスゾーン バード・サンクチュアリゾーン
	宿泊施設の直入	自然観察路と島田丁道、周囲時の動線確保等	裏山ゾーン
	生態系の管理(池の水位変化、鳥のエサやり)	ホランティア	サンクチュアリゾーン
運営計画の計画	土器・休日の来園者への指導	ホランティア	ナチュラル・コアブルゾン
	資料・情報の拠点	カルチャーセンターとの連携	ナチュラル・コアブルゾン
	入場料	無料	エントランスゾーン

計画西面図



## 1 バッファゾーン

## ・目的、位置付け

学校等の野鳥公園南側の人工環境からの防音、防じんの役割を担う。  
野鳥公園の顔としての修景が必要である。

## ・課題

南側前面道路との高低差(約2m~5m)を、このゾーンで処理する。  
このゾーンでの人の容易な進入を防止する。

## ・整備方針

前面道路との高低差は、緩い斜面(1:2以下)で処理する。  
(足元は90cmの擁壁でおさえる)

ゾーンの厚みは、10~15mとする。

身障者用アクセスは、このゾーンでスロープにて設置する。

## ・植栽方針

裏山との連続感を考慮する。

南側前面道路は灌木とし、人の容易な進入を防ぐ。

(樹種;ヒサカキ、ツツジ、アセビ、ヒラド、ヒイラギナンテン)

サンクチュアリコンタクトゾーンに近接する部分は、下枝のない高木とし、低密度でコンタクトゾーンに覆い被さるようにする。

(樹種;ケヤキ、クス)

樹種の成長の度合を考慮し、良好な森林形態を育成するようにする。

高木の植栽密度 1本/5m<sup>2</sup>とする。

落葉樹と常緑樹の割合を7:3とする。

早期 : シナサワグルミ、ヤマハンノキ

(ある時期、バランスをみて伐採する)

長期 : 高木 - ムク、エノキ、ケヤキ、ヤマザクラ、タカオモミジ、  
クロガネモチ

中低木 - ウバメガシ、ネズミモチ、ヤブニッケイ

## 2 エントランスゾーン

## ・目的、位置付け

野鳥公園の表玄関であり、アプローチ道路のアイストップとする。

## ・課題

南側の前面道路の高低差が約5mある。

防音、防じん等のバッファ機能必要

## ・整備方針

前面道路と計画地の高低差を、変化のあるダイナミックな空間演出で処理する。(階段とする)

玄関の南側に、石張の広場を設け、身障者用等の限定的駐車機能を設ける。(一般利用は行われないものとする)

## ・整備手法

エントランス階段の両側を高い生垣とする。(ex, 銀閣寺のエントランス)

池の排水路をエントランス脇に配し、水の要素を加える。(滝組の効果)

## ・植栽樹種

カシの高生垣

## 3 バードサンクチュアリゾーン

## ・目的、位置付け

鳥の聖域とし、鳥主体の環境を育成する。

## ・整備方針

多種多様な鳥のための環境を用意する。

サンクチュアリ内の既存樹林は、間伐を行い補植する。

サンクチュアリのエリアを明確にし、人及び野犬の進入を防止する。

東側河川管理用通路及び、北側5, 6号堰堤に対して修景植栽を施す。

## サンクチュアリコンタクトゾーン

### ・目的、位置付け

サンクチュアリに人が接することが許されるゾーンとする。

野鳥公園を訪れる人達に憩いの場を提供する。

### ・課題

サンクチュアリ内に、人間による悪影響を及ぼさない工夫が必要。

### ・整備方針

#### 観察小屋

収容人員 小学校の1クラス分=50人

規 模 約 50坪

内 容 野鳥公園のインフォメーションセンターとして、公園全体の案内図、構造図を掲示すると共に、鳥、昆虫、草木類の写真等の展示をし、野鳥観察のルールを身につけて自然に親しむ機会を提供する。

### 他施設との連携

文献等による、よりつっこんだ研究、学習は、センター内設置予定のカルチャーセンターを利用する。

外周柵 北山杉丸太重ねとし、観察小窓を設置する。(高さ1.8m 小窓高=1.0~1.5m) ただし、柵の存続については数年後再検討する。

来訪者の憩の場として、小池及び芝生広場、パーゴラ等を設置する。

小池(ジャブジャブ池)は、サンクチュアリの池の調整池機能をもたせる。

## 裏山ゾーン

### ・目的、位置付け

バードサンクチュアリゾーンの後背地として、自然環境の保全育成を図る。

自然観察の場とする。

### ・課題

急峻な地形に対応しつつも、変化のある自然観察路を設定すること。

利用者への安全を促す工夫をすること。

管理運営上支障のない、自然観察路のルートを設定すること。

### ・整備方針

#### 自然観察路

「メインルート」 一部唐と越を利用した、比較的勾配の緩いルート

「サブルート」

バードサンクチュアリゾーン北東部の山の中腹を登り降りする急峻なルートで、利用者への安全を促す標示をする。

自然観察路及び小広場沿いを除いて、他の部分の既存樹林には手を加えない  
高地区配水地の周辺には、修景のための植栽を行う。

### ・整備手法

バードサンクチュアリゾーン東側の河川管理用通路の部分には、オーバーブリッジを設けて河川管理用動線との交差を避けるとともに、オーバーブリッジからサンクチュアリ内を望む場を作る。

「メインルート」

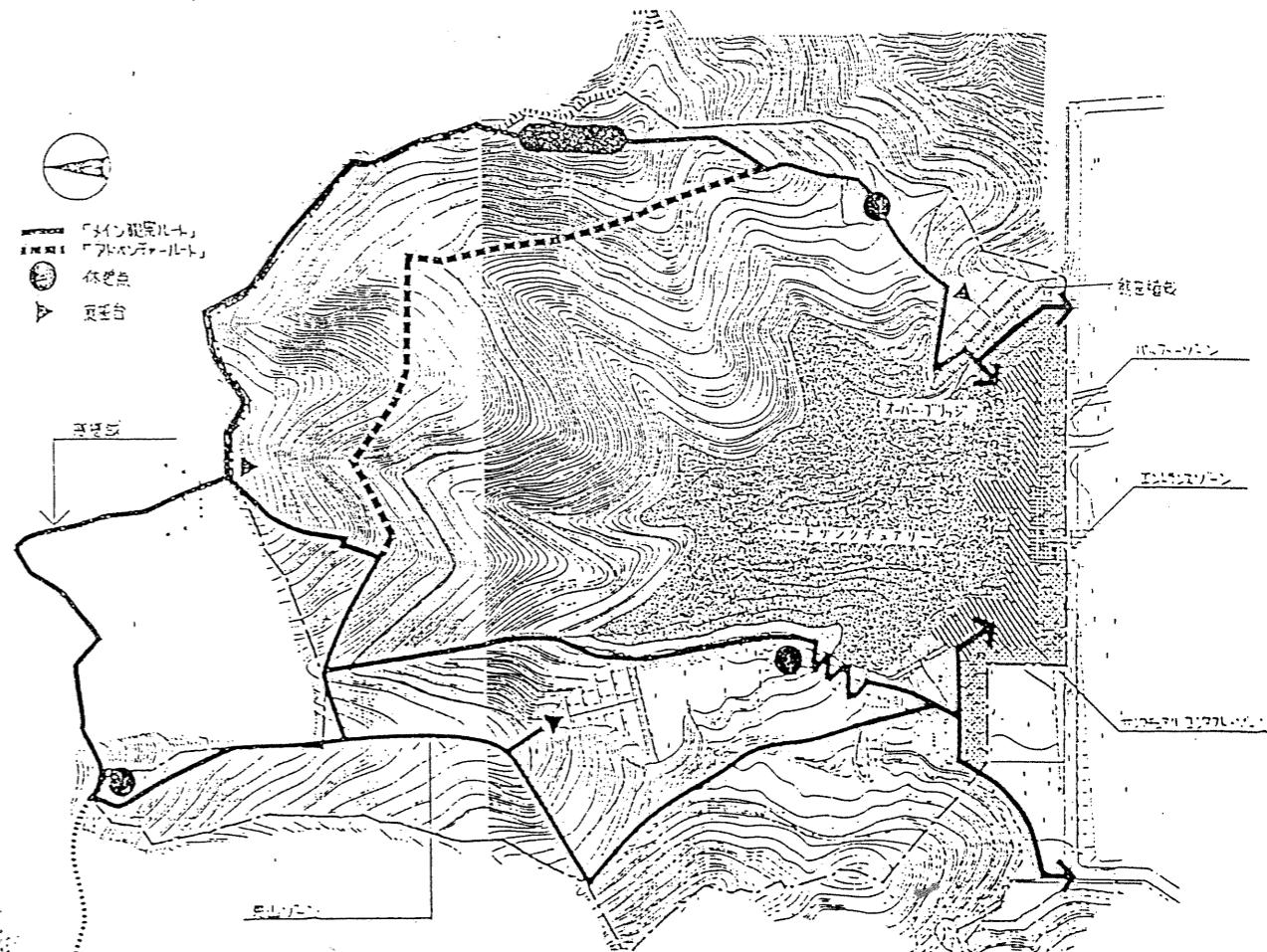
唐と越の部分 本計画地側に限り、幅=1m除伐を行う。

その他の部分は観察路として幅=60~80cmを整備し、その両側幅=1~1.5mを除伐する。

「サブルート」

通路部分は幅60cm整備し、その両側=1mを除伐する。

地形を考慮し、広場のとれるところには小休憩所を設置する。



## &lt;コンセプト&gt;

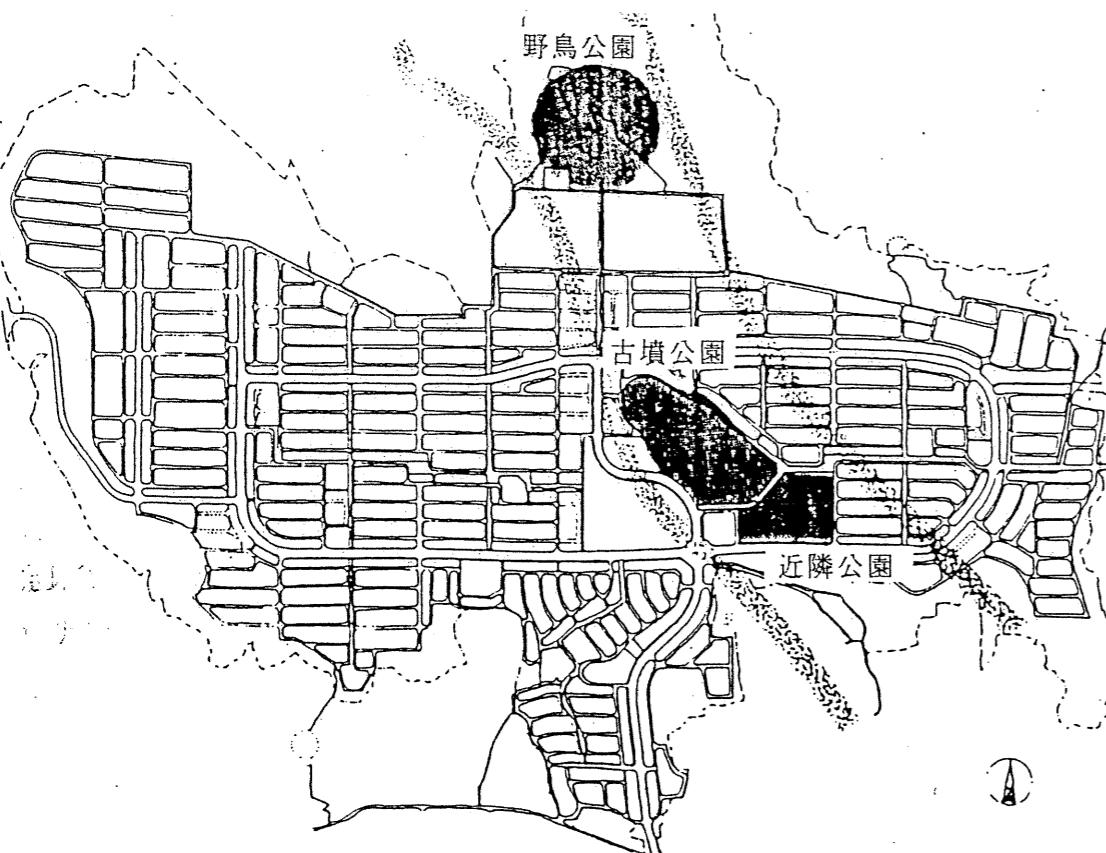
大枝山古墳群は、西京桂坂のほぼ中央に位置し西芳寺古墳群などと共に谷あいの径沿いに数多く分布する群集墳として他の古墳の多くが丘陵部の稜線部や斜面部に位置するのと異なって特異性を示している。

また、(財)京都市埋蔵文化財研究所による発掘調査では、出土品や石組の様子が朝鮮系と推定されるなど、かって渡来人がこの地で勢力を持っていたことと合致し、この古墳群自身が京都の平安京先史の貴重な文化遺産であるといえる。

この大枝山古墳群は、学術的意味で重要であると同時に、特色ある街づくりの為の貴重な資産でありその保全と活用については以下のような基本方針によるものとする。

- ①全市的歴史資産としての保全、活用をはかる「古墳公園」として整備する。
- ②体験、学習出来る野外古代史博物館として整備する。
- ③緑豊かな住宅地環境を形成する「緑の河」を構成する主要な緑地公園として整備する。

古墳公園位置図



## &lt;計画条件&gt;

## 1 古墳公園の位置

古墳公園は西京「桂坂」のほぼ中央に位置し、裏山の野鳥公園から街の中央部をほぼ南北に走る「緑の河」の中流を形成し、公園周囲は自転車・歩行者専用小緑道に囲まれ、南側は松並木通りを隔てて、センター地区・近隣公園に接している。

## 2 地形

古墳公園は粗造成工事が完了しており、形状は長辺約320m、短辺約150m程度のだ円形で長軸をほぼ45度西に傾けている。保全される古墳群は、周辺地盤より20~30m程低く、周辺部をすり鉢状の造成法面(盛土)によって取り囲まれ、公園全体はちょうど観覧席に囲まれた競技場の様な地形をしている。公園用地の東南端部には、緑道に接して幅10~40mの緩傾斜地が設けられており、また古墳保全地区へおりる管理用通路が南側緑道から西側法面沿いに幅約6mで造成されている。南西の法尻部は、コンクリート擁壁によって法止めされており、雨水排水のためのピットとボックスカルバートが古墳保全地区南東部に設けられている。

## 3 生物環境

計画地の粗造成前における鳥類の生息環境としては、下狩川の流れが存在したもの、水量も少なく、水環境による特殊な鳥類の生息などの環境特性を持つまでにはなっておらず西京「桂坂」全般の生息環境と変わらぬと言える。

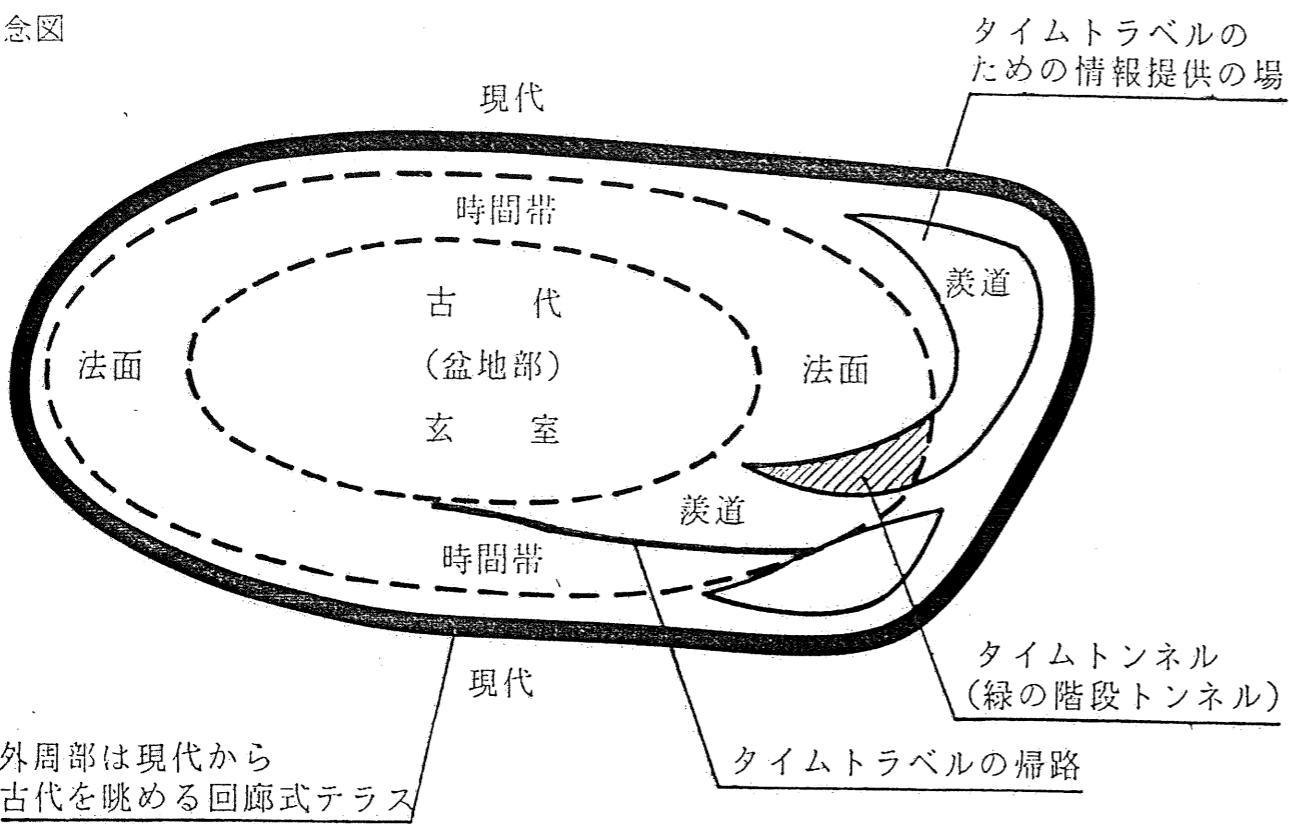
計画地で粗造成前によく見られた鳥類としては、ホウジロ、ウグイス、メジロ、キセキレイ、キジ、ヒヨドリなどであり、キジは現在でも見受けられる。昆虫についても生息環境としては西京「桂坂」全般と基本的には変わらず、アゲハチョウ科、シロチョウ科、シジミチョウ科などの蝶類が確認されている。

## &lt;基本計画&gt;

## 1 計画の基本概念

①計画地全体を一つの古墳になぞらえることにより、盆地部を玄室、東南部の緩傾斜地と盆地部へ降りる階段及び管理道路を羨道と考え、法面による高低差を時間帯に見立てることにより現代空間から古代空間へのタイムトラベル的演出を図る。

概念図



## ②「緑の河」と植栽の基本方針

古墳公園は「緑の河」の流れの中で野鳥公園、雑木の道に引き続く部分として、重要な位置をしめている。生態系に古墳保全ゾーンは、周辺隣接部を除いて唯一開発以前の生態系を維持している所であり、法面は草原として位置づけ、ススキ、ササを植栽し、草原、の鳥、昆虫の生息環境づくりを行う。下狩川の再現にともない多数の野草を導入し、四季の変化を演出する。

## 2 ゾーニング

## ・古墳公園の基本構成

古墳公園は古墳保全ゾーン、エントランスゾーン、サブエントランスゾーン、法面緑化ゾーン、外周緑化ゾーンによって構成される。

①古墳保全ゾーン ————— 大枝山古墳群のある盆地部約1haのゾーン

[ $10,580\text{m}^2$ (3,206坪)]

②エントランスゾーン ————— 計画地の南東部にある緩傾斜部約0.7haのゾーン

[ $7,200\text{m}^2$ (2,180坪)]

③サブエントランスゾーン ————— 計画地の南部にある平坦地と西側法面沿いの管理通路約0.3haのゾーン

[ $3,440\text{m}^2$ (6,376坪)]

④法面緑化ゾーン ————— 古墳保全ゾーンを取り囲む人工盛土法面部約2.1haのゾーン

[ $21,040\text{m}^2$ (6,376坪)]

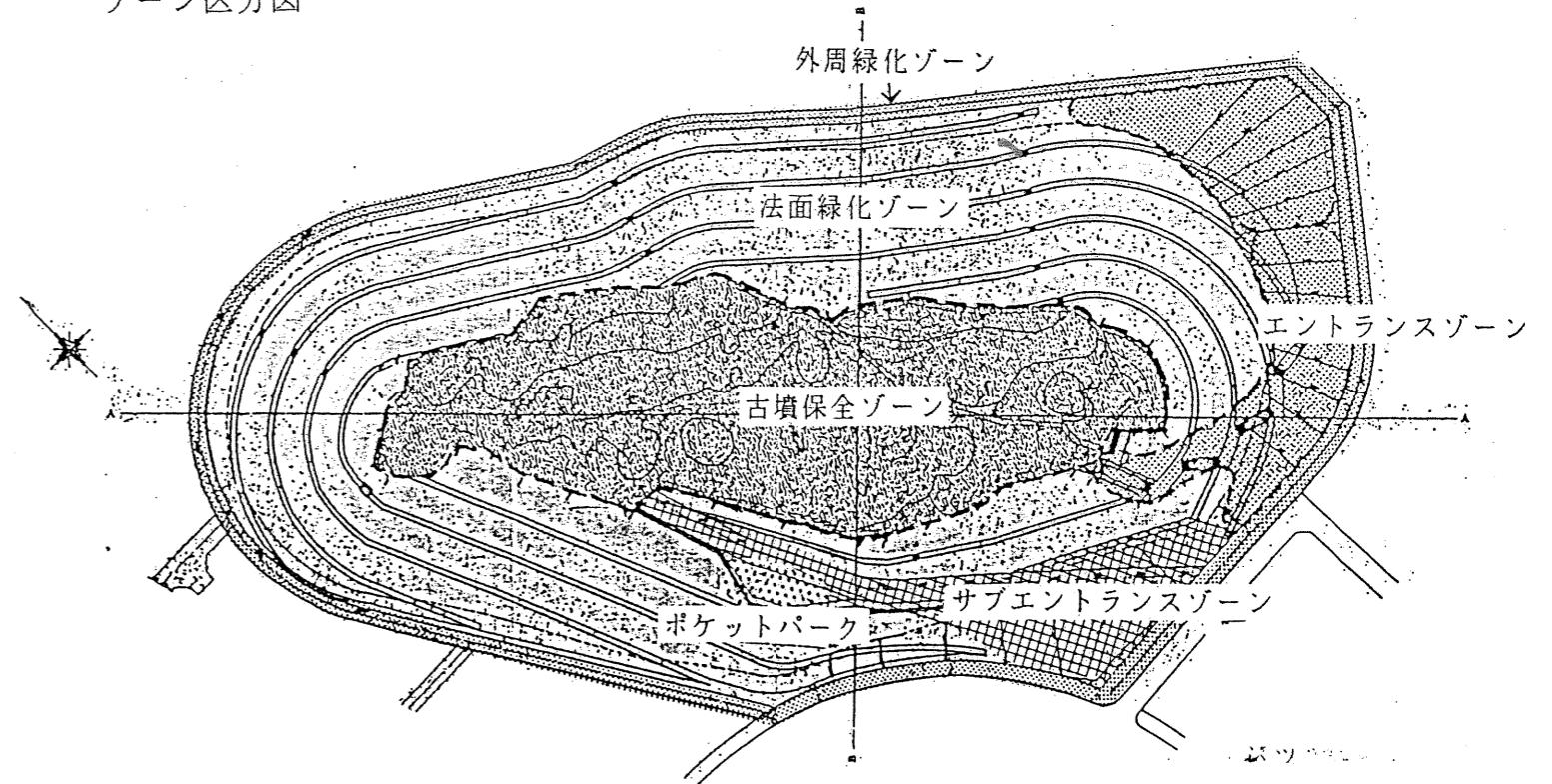
⑤外周緑化ゾーン ————— 法面緑化ゾーンの法肩部で、自転車・歩行者専用道路沿いの幅2.0mの植栽帯ゾーン

[ $1,020\text{m}^2$ (310坪)]

※自歩道含まず

面積計 $43,280\text{m}^2$ (13,114坪)

## ゾーン区分図

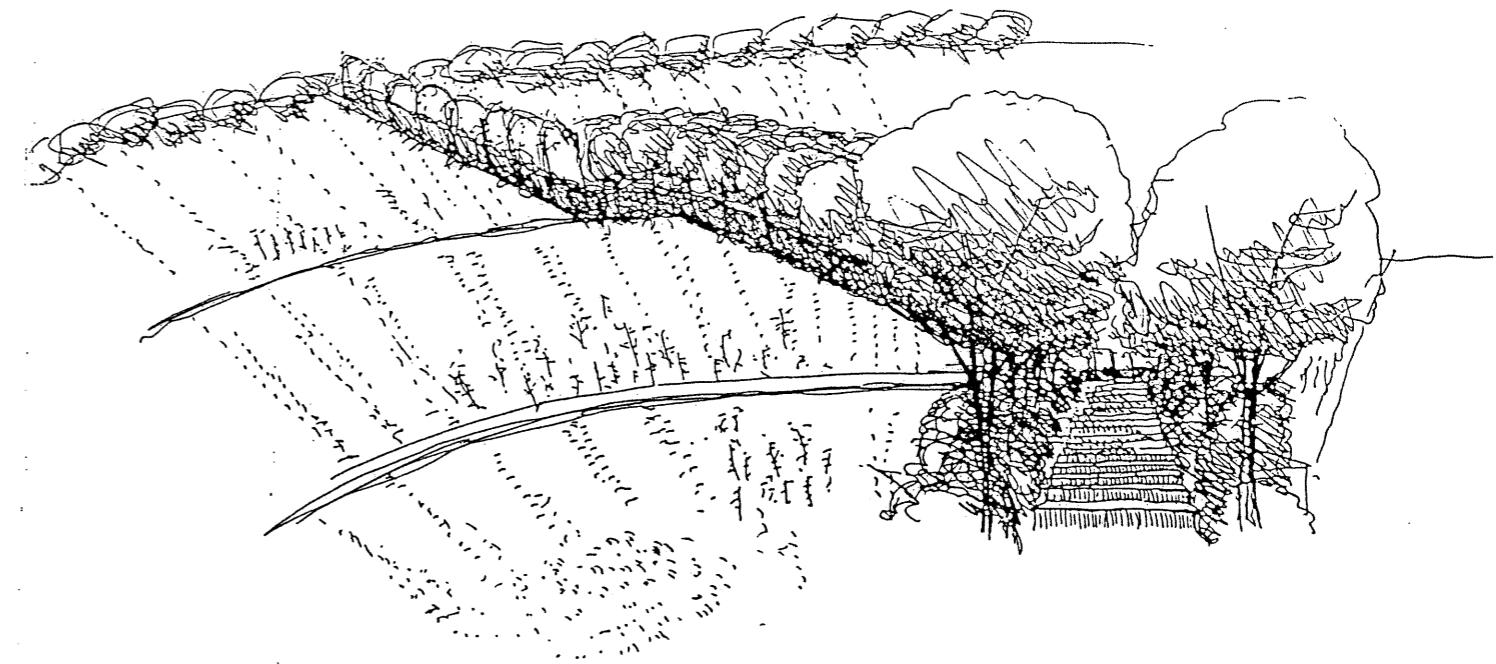
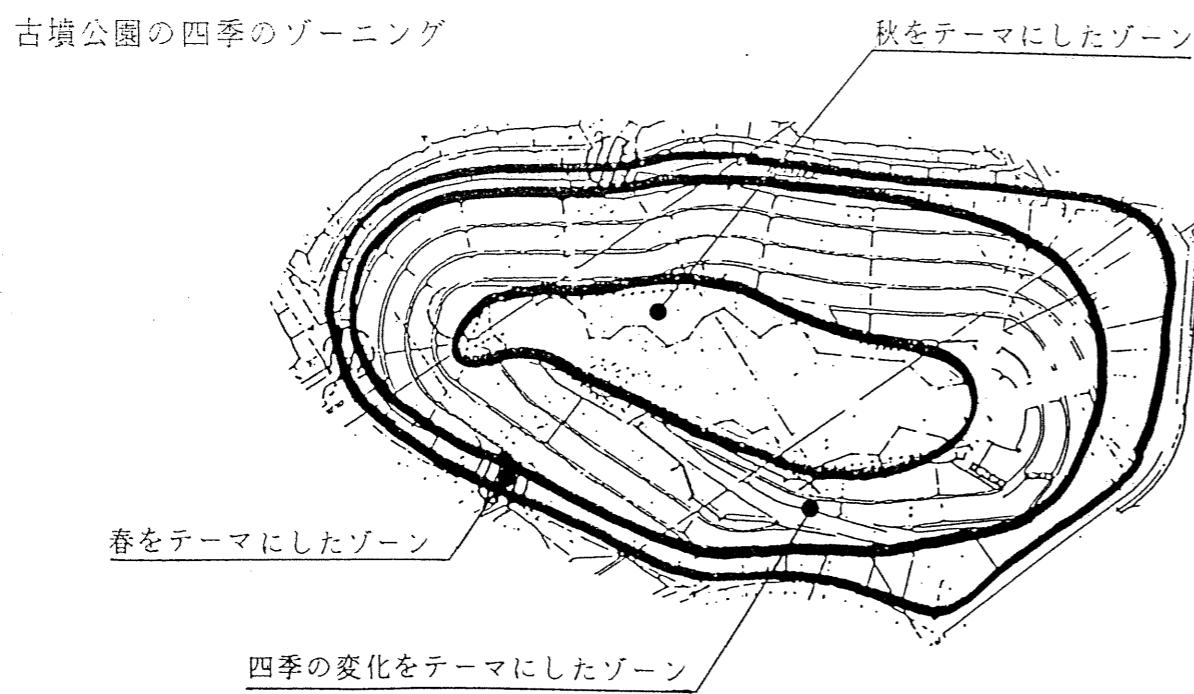


### 3 ゾーン別基本方針

ゾーン別整備方針をまとめると以下のようになる。

ゾーン区分	整備方針
古墳保全ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保全ゾーン内は人工的改変は行わず、現況の自然環境を保全する。</li> <li>・古代のイメージを壊さないよう、古墳の部分的修復、整備等をおこなう。</li> </ul>
エントランスゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エントランスゾーンは玄室(盆地部)への羨道と位置付け古墳入口部としてのシンボル化と盆地部へ降りる階段を時間軸(高低差)におきかえ、現代から古代へつながるタイムトンネル的アプローチの演出を行う。</li> <li>・古墳に関する情報提供の場としても整備する。</li> </ul>
サブエントランスゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サブエントランスゾーンは「もどり坂」として保全部からの帰路を整備する。この園路は管理車用通路ならびに身障者のためのアプローチの機能を兼ねたものとする。また中途の平坦部にポケットパークを設け、中景の休息地とする。</li> </ul>
法面緑化ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法面緑化ゾーンは植栽を中心要素として造成法面の風景化、鳥・昆虫の生息の場、四季の変化等の演出を行える空間とする。</li> <li>・時間軸及び「緑の河」という2つの要素を考慮する。</li> </ul>
外周緑化ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西京「桂坂」における「春の名所」づくりをおこなう。</li> </ul>

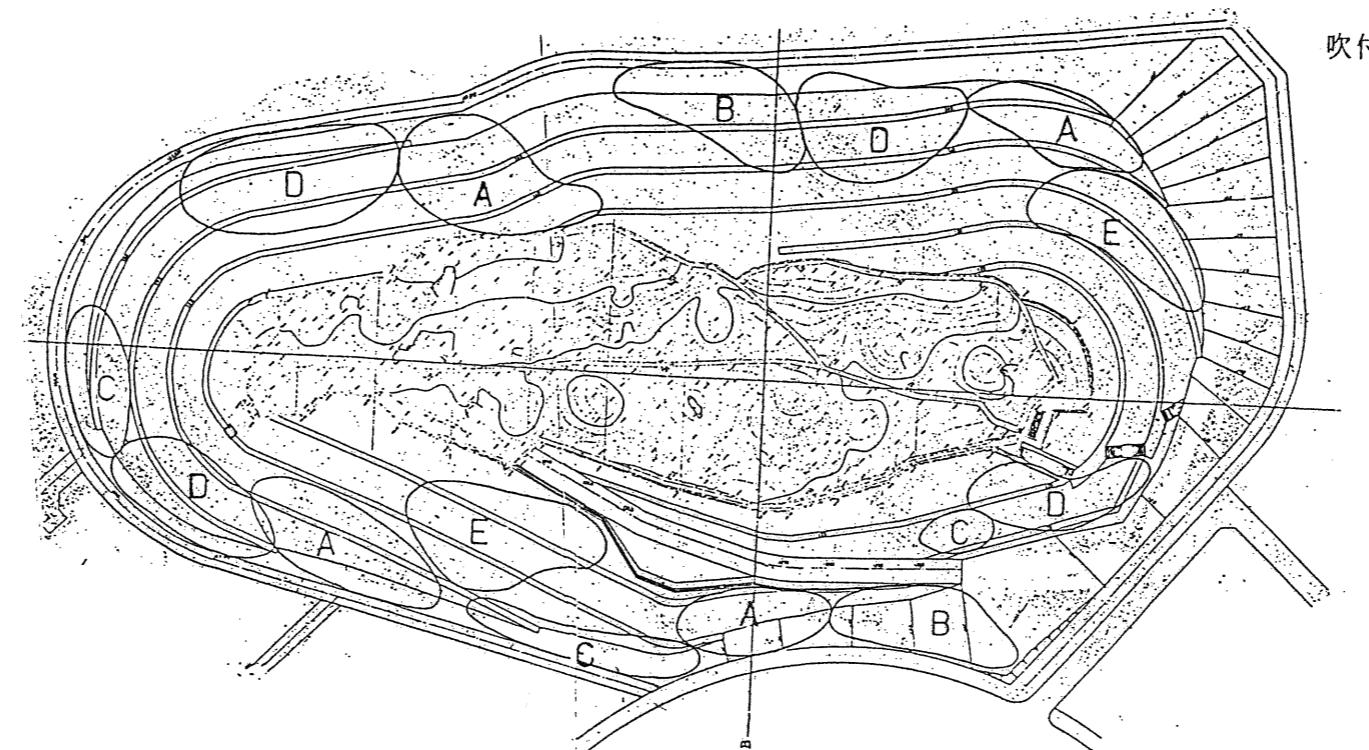
タイムトンネルのイメージ図



## 4 植栽計画

## 法面植栽計画図

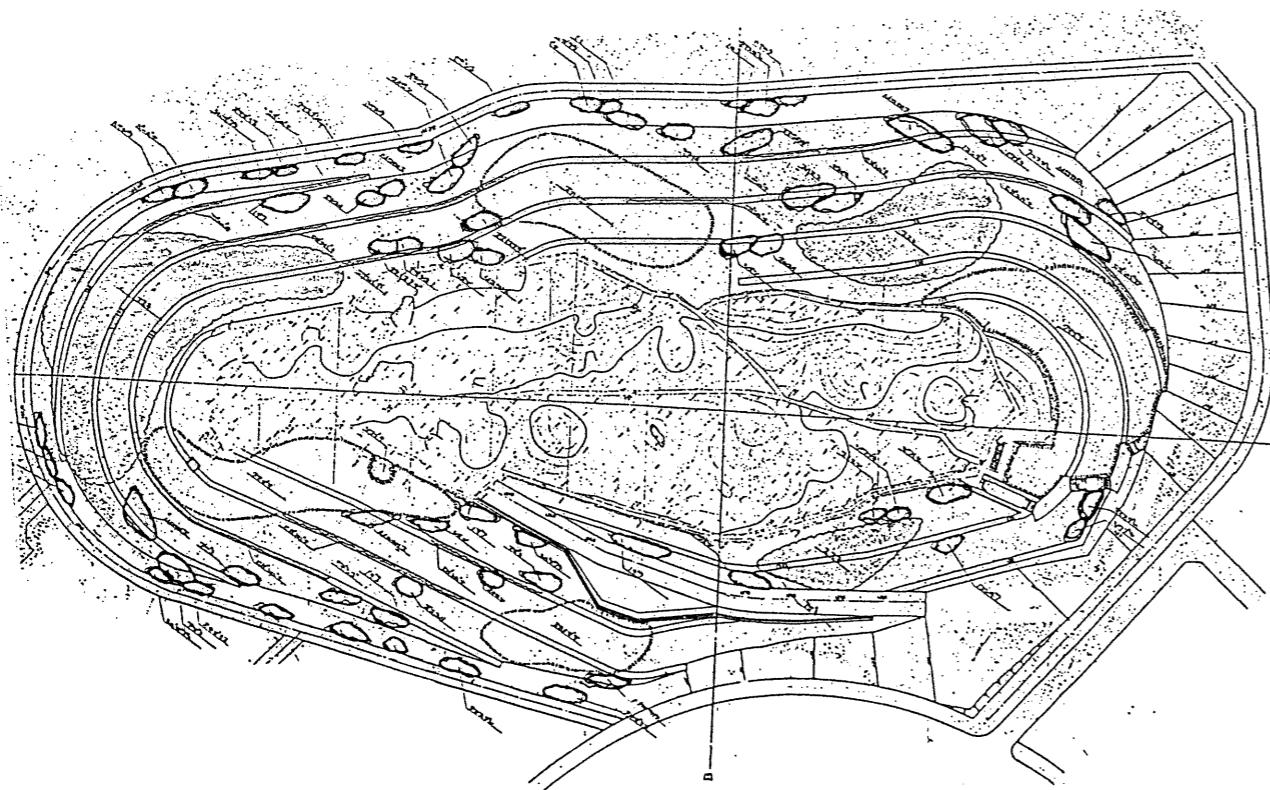
時間軸を考慮して、3段階(初期・吹付、中期・地被、草花 成熟期・樹木)の植栽計画を行う。



吹付植栽

初期の景観を構成する植栽  
草花の吹付により四季の変化を演出する。

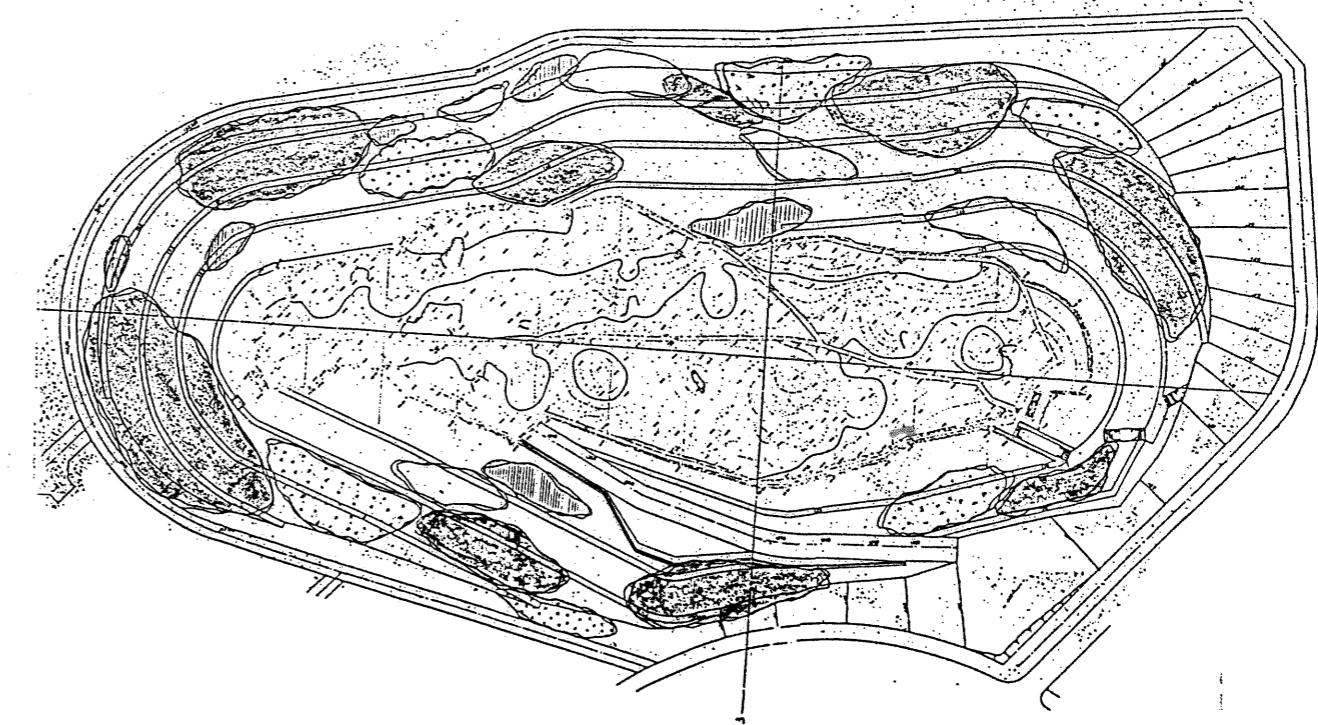
	春	夏	秋
A	ムラサキハナナ	オオキンケイギク	
B	フランスギク	宿根スイトピー	
C	レンゲ		ノコギリソウ
D		ムシリナデシコ	コスマス
E		オオマツヨイグサ	



草本・地被植栽

中期景観を構成する植栽  
ススキ、ササ類を中心とした緑化、草花を配色する。

	ススキ
	ササ類
	草花



樹木植栽

成熟期景観を構成する植栽  
ウツクシマツを中心に春のコバノミツバツツジ  
秋のハギにより四季を演出する。

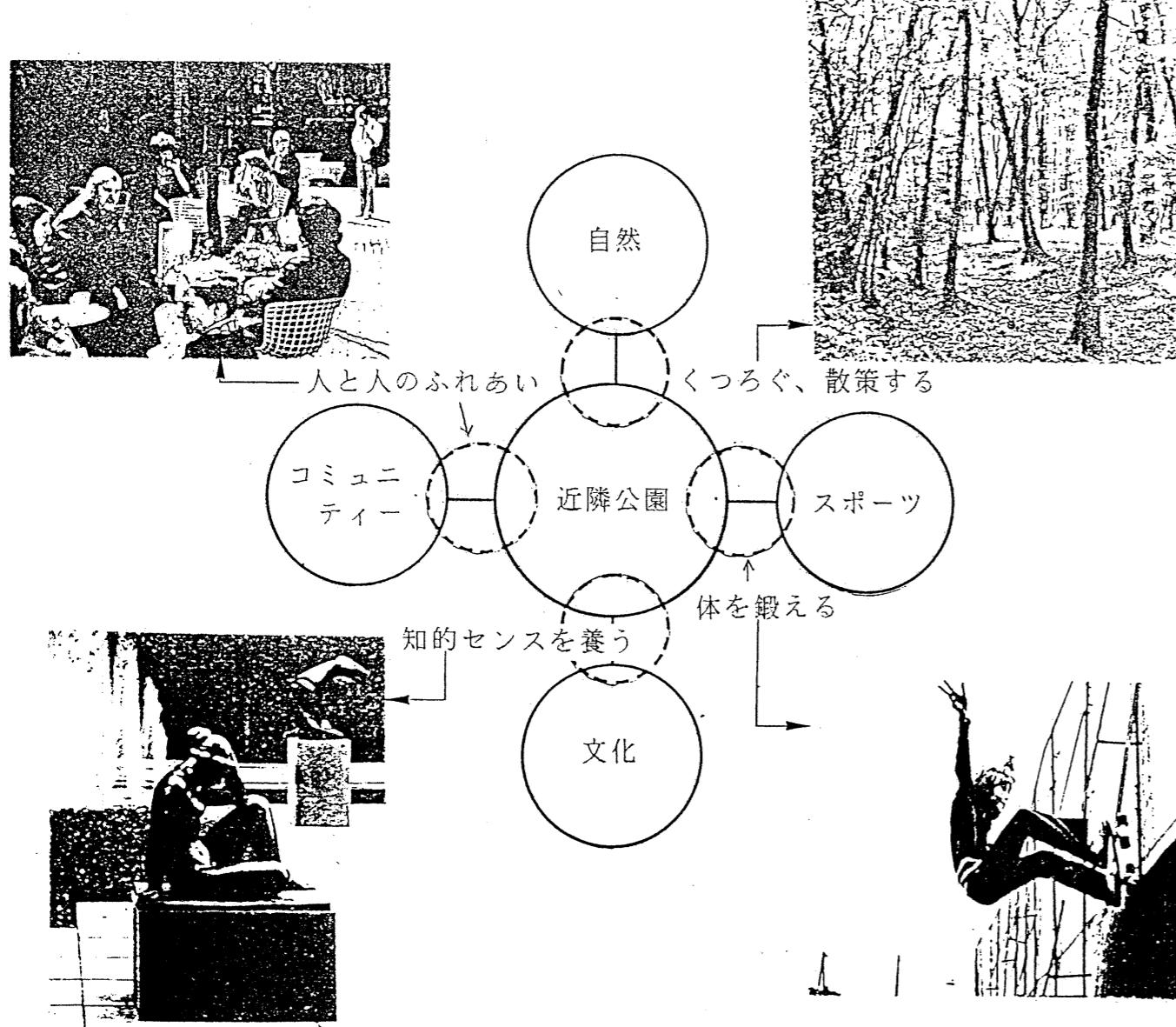
	ウツクシマツ
	コバノミツバツツジ
	ハギ
	ヤマハゼ

## &lt;近隣公園づくりのコンセプト&gt;

近隣公園は面積が約 2 haあり、「桂坂」では人が自由に利用できる最大のオープンスペースであり、又「緑の河」の一環として自然豊かな空間として設置する。

そのために、近隣公園はヒューマンなスケールの児童公園とは対照的に自然の大きさによる尺度=「ツリースケール」の導入により大きな広がりのある空間を創造してゆく。

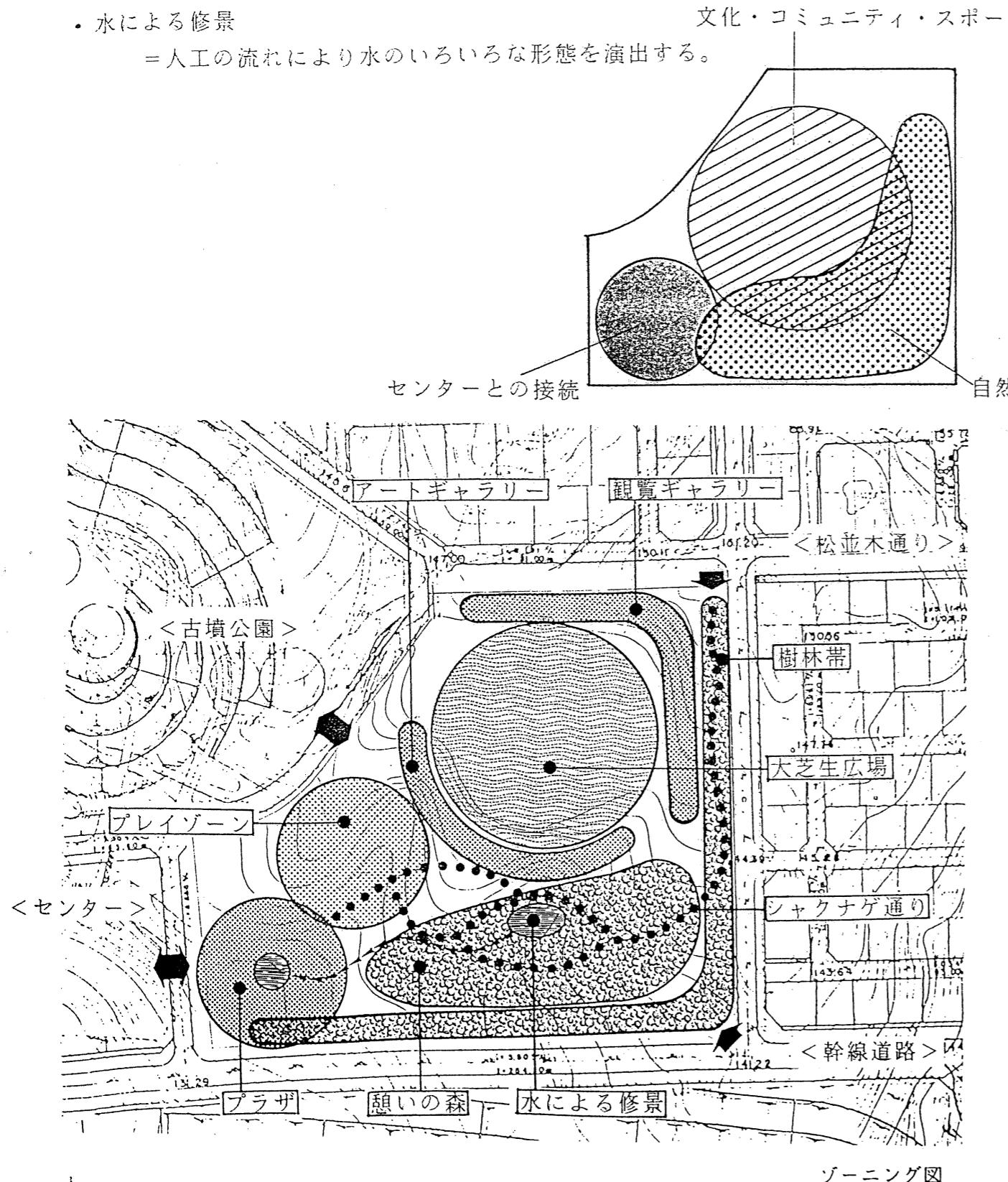
- 1 豊かな自然にあふれた公園=小鳥がさえずり、美しい緑に包まれた公園づくり
- 2 「桂坂」のコミュニティのある核=だれでもいつでも楽しめる公園づくり
- 3 文化性、国際性、現代性の展開
- 4 気軽にスポーツの楽しめる公園



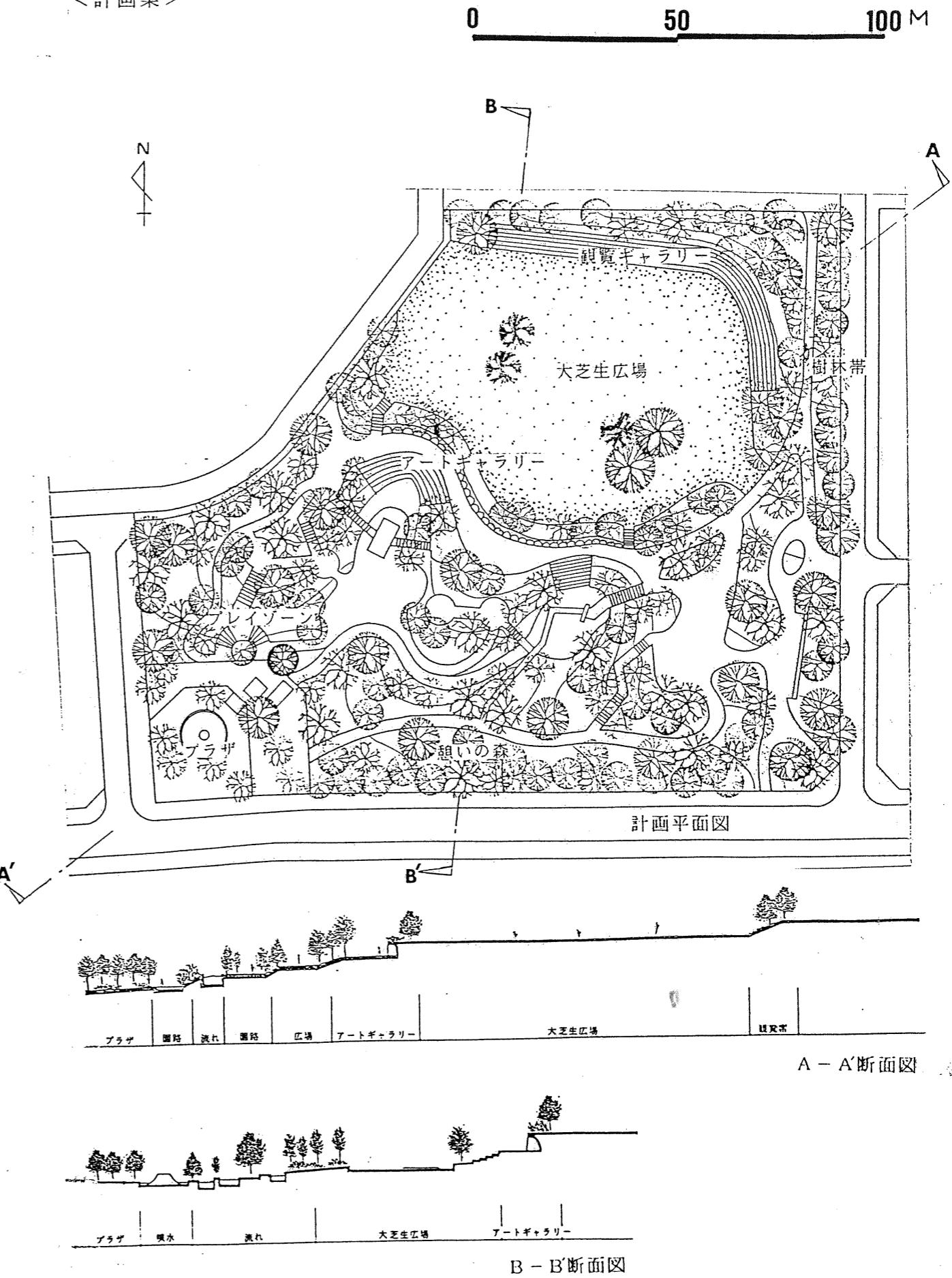
公園づくり のテーマ	計画の方針	具体的展開	ゾーン
豊かな自然	ツリースケールによる 公園づくり 生き物の生息環境づくり 緑豊かな公園 四季の変化の表現 光、水の演出	鳥の森づくり 巨木、巨石 花木、草花 水による修景 =池、滝、流れ	憩いの森 樹林帯 シャクナゲ通り エトランス ゾーン
コミュニティの核	住民参加のイベント 家族で休日を過ごす 子供がころげ回って遊ぶ (赤城研究所の指導) 自然科学を応用した遊具	屋外ステージ シャクナゲ園 植木市、ほうづき市 自然、光、風、音を利用 した遊具	シャクナゲ通り 憩いの森 プレイゾーン
文化性、国際性 現代性 の展開	海外の作品の展示 月曜画写の展覧会 イベント、コンサート 海外のシャクナゲの収集 京都芸大の参加	彫刻展、コンペ 「桂坂」サマーコンサート バザール、植木市 ヒマラヤのシャクナゲ キューガーデンの シャクナゲ	アートギャラリー 大芝生広場 エトランスゾーン シャクナゲ通り
気軽にスポーツ を楽しむ	家族で楽しむスポーツ	大運動会 ラジオ体操 ジョギング	大芝生広場 プレイゾーン

## &lt;ゾーン計画&gt;

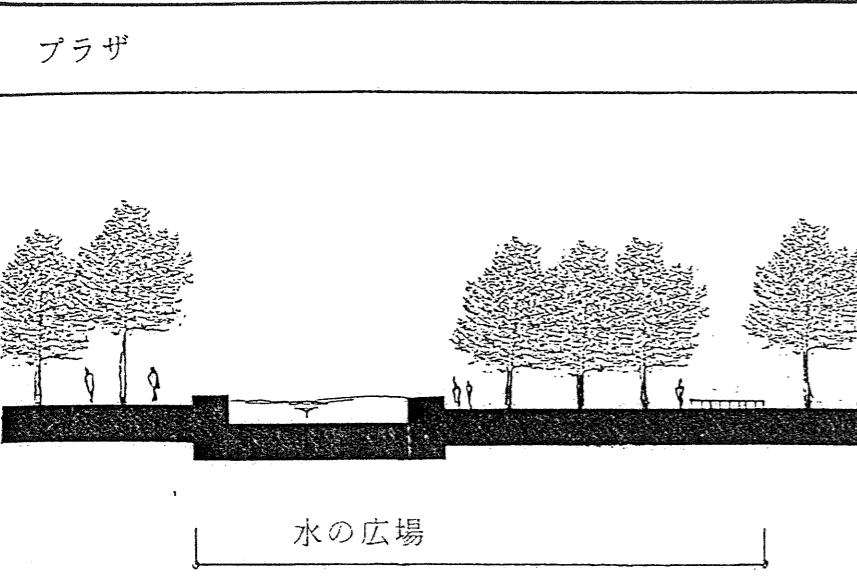
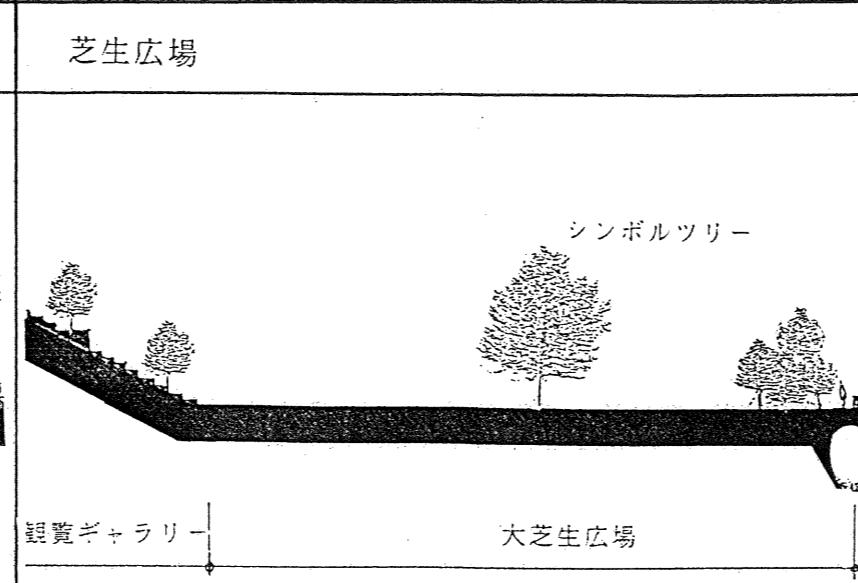
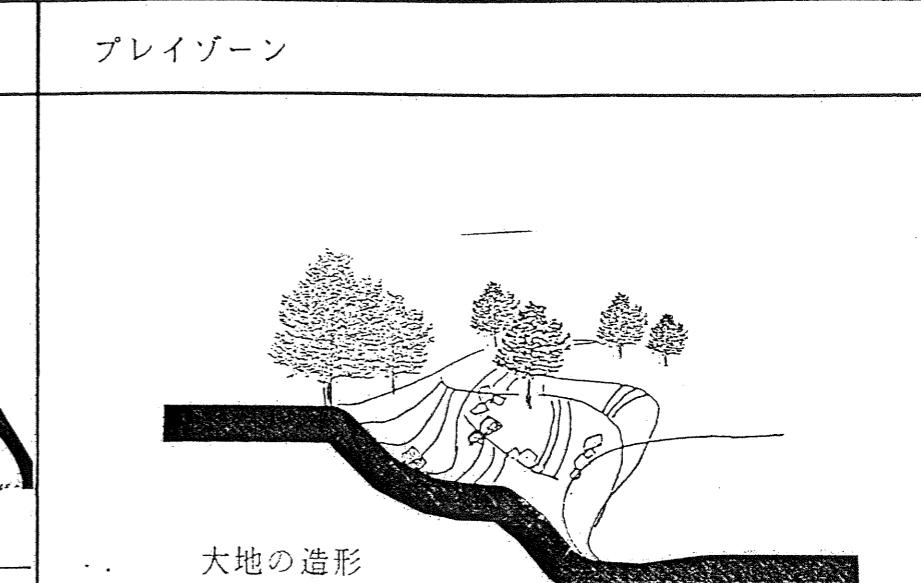
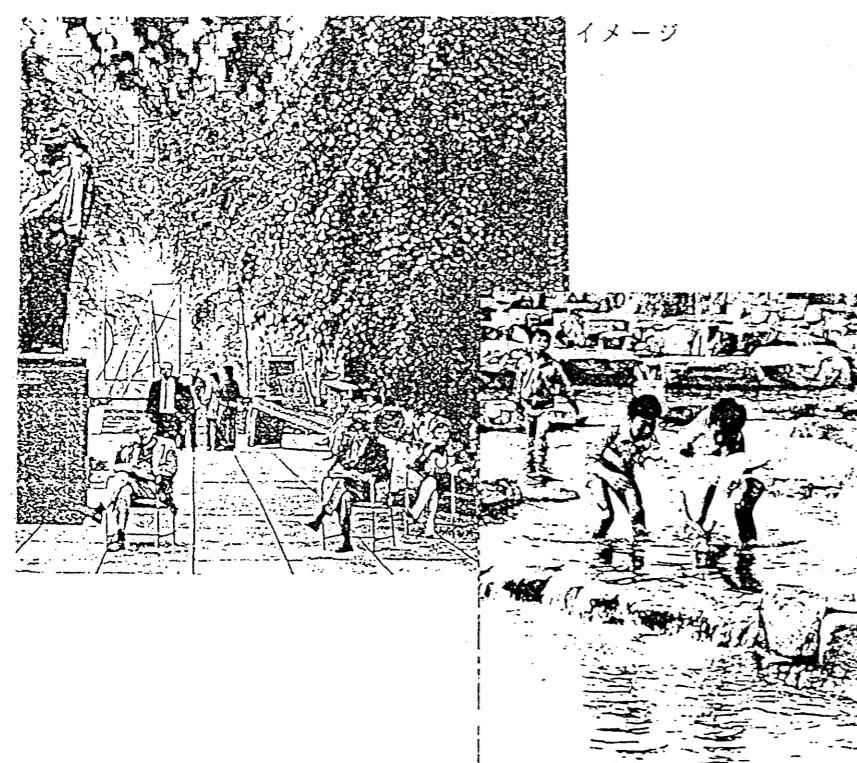
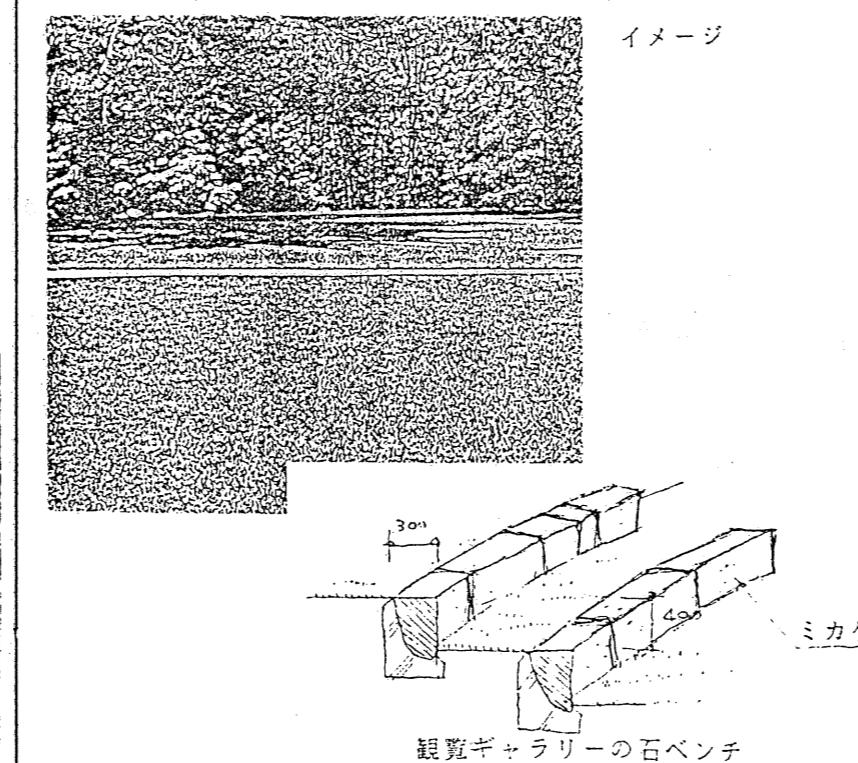
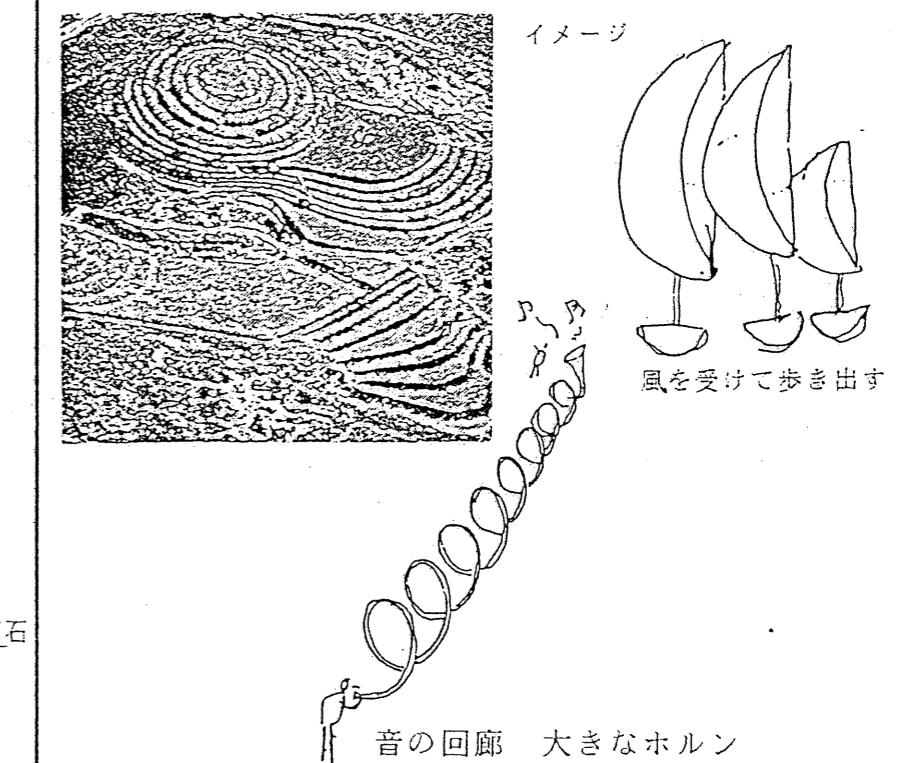
- ・近隣公園を特徴ある3つのゾーンに分ける
- ・3つのゾーンはお互いにつながりを持つように計画する。
- ・各ゾーンをシャクナゲ通りにより有機的に連結させる。
- ・水による修景  
=人工の流れにより水のいろいろな形態を演出する。

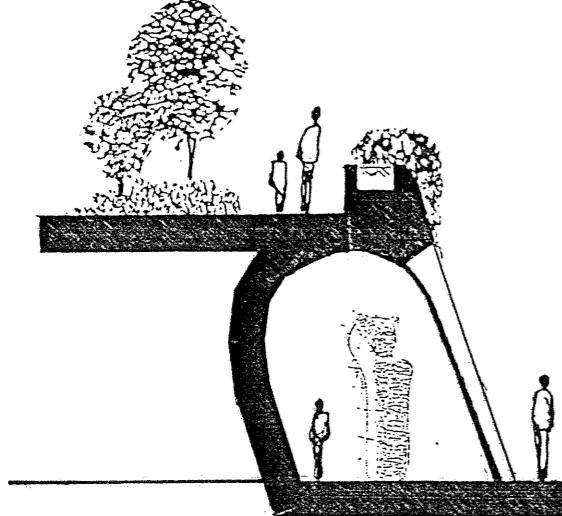
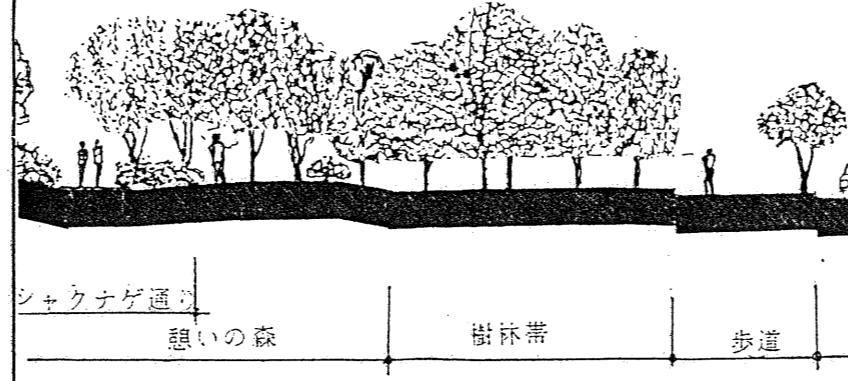
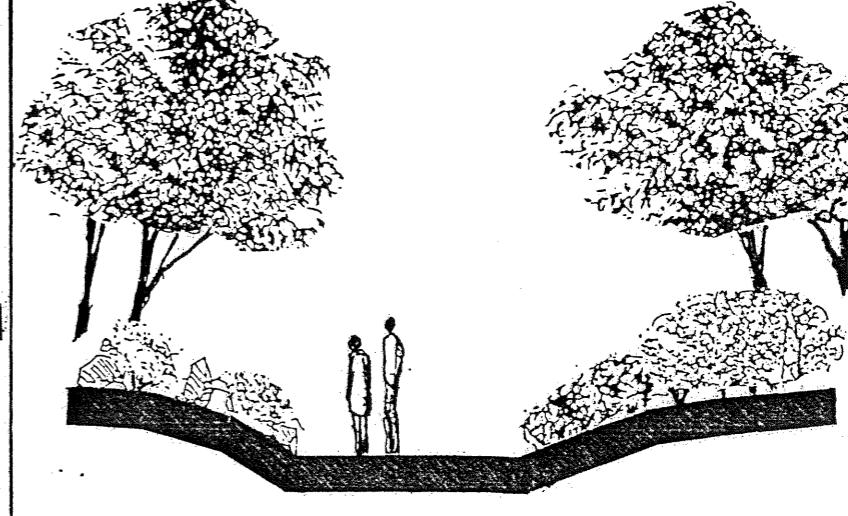
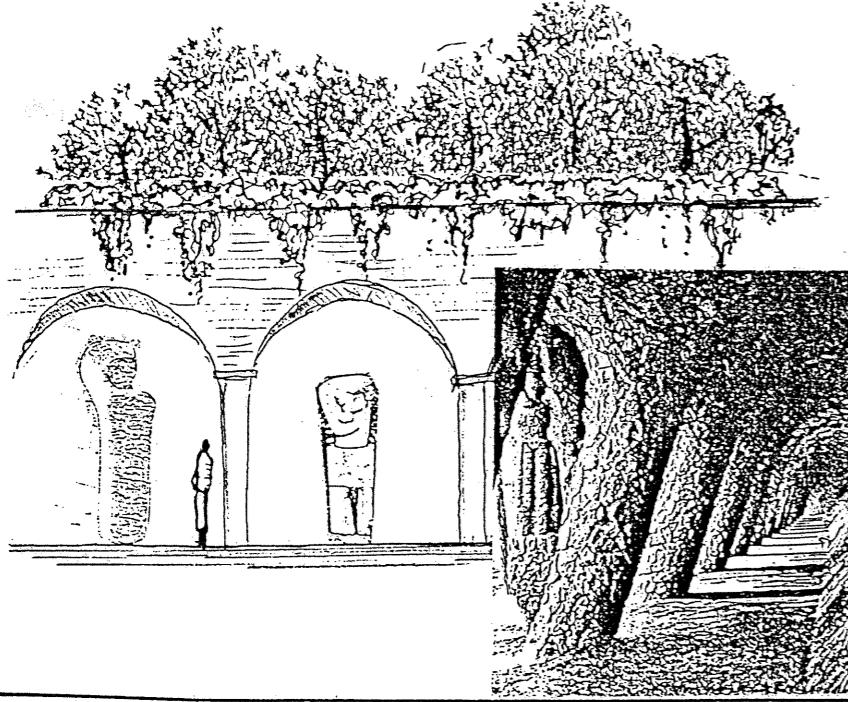
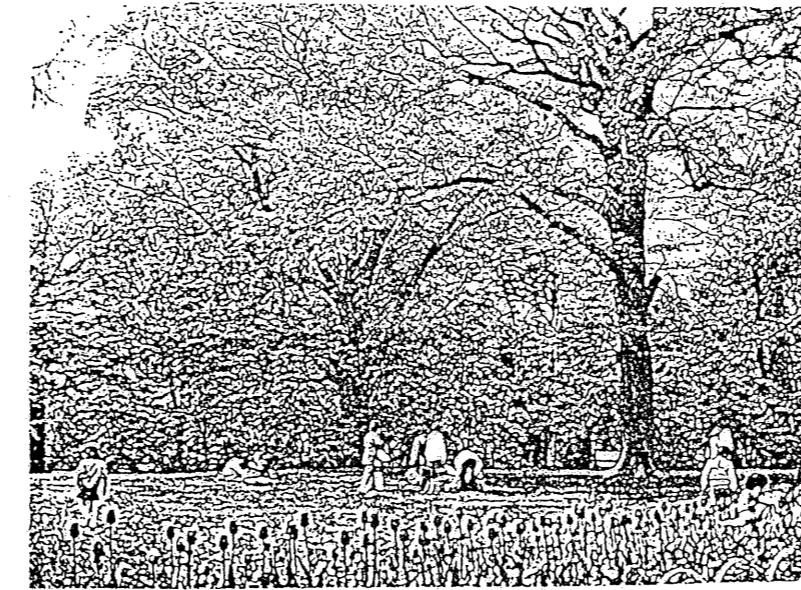
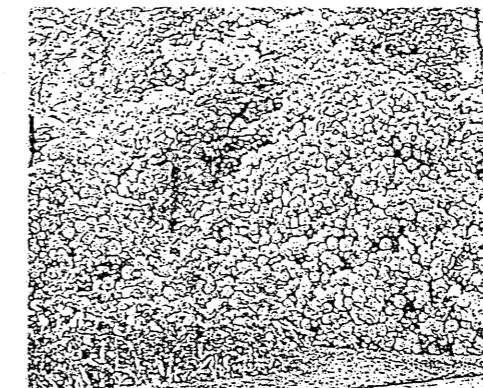


## &lt;計画案&gt;



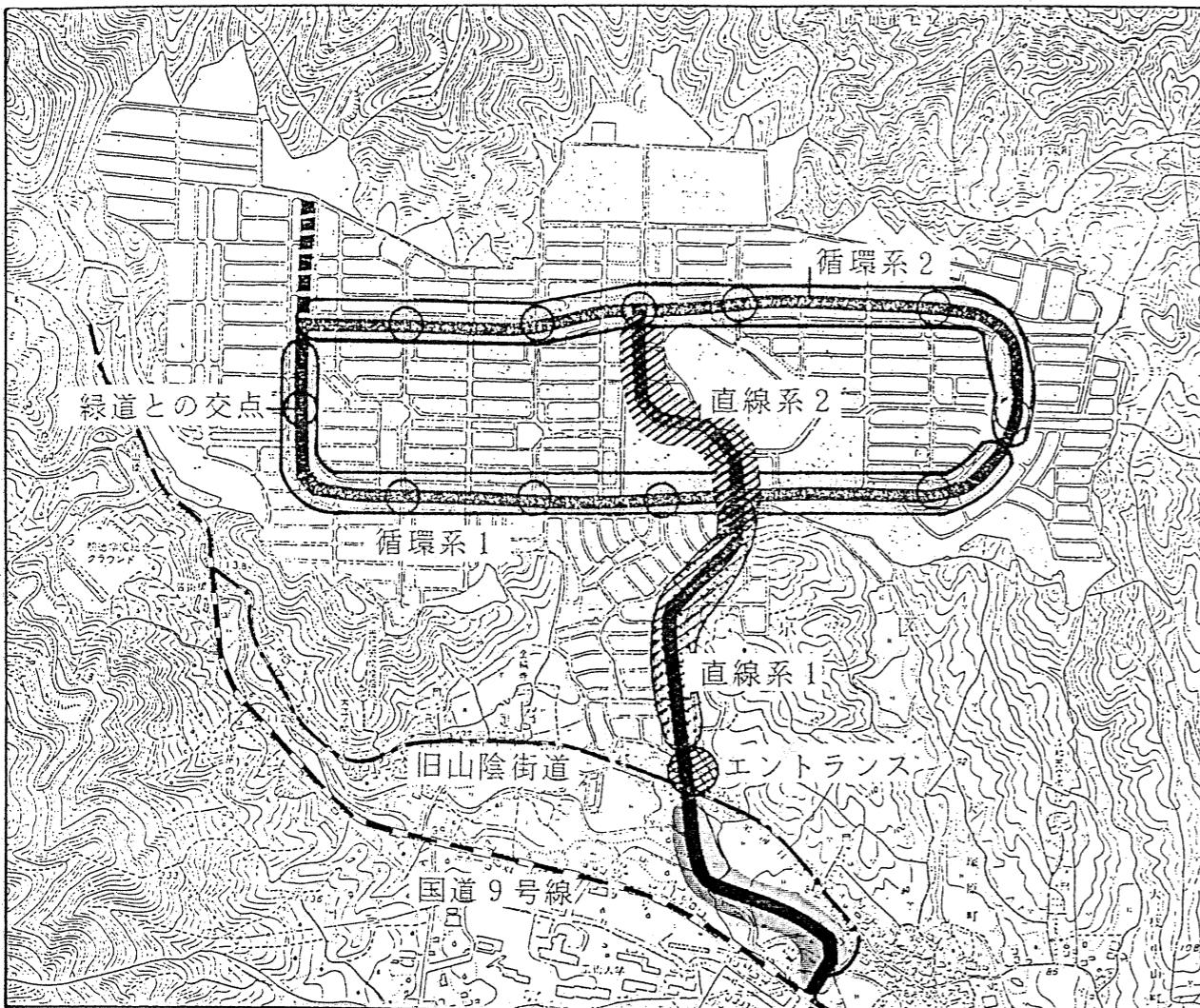
## &lt;ゾーン計画&gt;

プラザ	芝生広場	プレイゾーン
 <p>水の広場</p>	 <p>芝生広場 シンボルツリー 観覧ギャラリー 大芝生広場 アートギャラリー</p>	 <p>大地の造形</p>
 <p>イメージ</p>	 <p>イメージ 観覧ギャラリーの石ベンチ ミカゲ石</p>	 <p>イメージ 風を受けて歩き出す 音の回廊 大きなホルン</p>
<p>計画方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センターとの一体感</li> <li>アーバンティックな空間づくり</li> <li>花市、ほおづき市、バザール、小コンサート</li> </ul> <p>計画要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石だたみ</li> <li>・姿の美しい木 シナノキ、ユリノキ</li> <li>・噴水、池</li> </ul>	<p>計画方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの可能な大芝生広場</li> <li>・安全なひろばづくり</li> <li>・大運動会、野外コンサート、パフォーマンス</li> <li>・広場の中心のシンボルツリー</li> </ul> <p>計画要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野芝の大広場 <math>5,000\text{m}^2</math></li> <li>・シンボルツリー ケヤキ、ムクノキ、ユリノキ</li> <li>・観覧ギャラリーの石ベンチ</li> </ul>	<p>計画の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レベル差を利用した大地の造形</li> <li>・自然の要素(風、光、音)を利用した科学的遊具</li> <li>・質の高い遊具、自然素材を用いた遊具</li> </ul> <p>計画の要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊具—音の回廊、大きなホルン</li> </ul>

<p>アートギャラリー</p> 	<p>憩いの森・樹林帯</p> 	<p>シャクナゲ通り</p> 
		 
<p>計画の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地形の落差を利用した回廊</li> <li>アートギャラリーにふさわしい空間づくり</li> </ul>	<p>計画の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生き物の生息の場</li> <li>四季の演出</li> </ul> <p>計画の要素 クス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高木になる樹木—トチノキ、ケヤキ、ムク、アキニレ</li> <li>花木、紅葉する木—コブシ、ヤマボウシ、モミジ、ナナカマド</li> </ul> <p>・自然素材のストリートファニチュア</p>	<p>計画の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シャクナゲの咲きみだれる小径づくり</li> <li>各国のシャクナゲを集める</li> </ul> <p>ツツジ科の植物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ツツジ属、シャクナゲ属、ドウダンツツジ属、アセビ属 カルミア属、エリカ属</li> </ul>

## &lt;幹線道路の構成と緑化の考え方&gt;

幹線道路は、南北系と循環系に大別される。南北系は、当自然環境形成計画の柱となる「緑の河」の重要な構成要素となり、また旧山陰街道からのエントランス部及び、バッファーゾーン、循環系との交差部に位置するロータリーと共に、街の顔をつくる重要な緑でもある。循環系は、各住戸をつなぐ緑の回廊の骨格となる。



## &lt;街路樹の選定&gt;

- 各ゾーンにふさわしい街路樹
- 街を代表するような美しい街路樹
- 車道と接するので強健で生長の早い樹種

ゾーン	特徴	距離(m)	樹種
導入部	敷地外、新国道からの接続部分(141本)	600	カツラ
エントランス	「桂坂」のシンボルゾーン (84本)	100	カツラの林
直線系1	バッファーゾーンとの一体化	530	ケヤキ
直線系2	急こう配	480	ケヤキ
循環系1	南と北の2つの性格づけ 2種類の街路樹 (300本)	1800	モミジバフウ
循環系2	(284本)	1700	アキニレ
緑道との交点	常緑樹により街路樹に変化をつける (48本)	—	クス

## &lt;問題点&gt;

- ・工期が長期にわたる為に街路樹の生長に差が生じる。
- ・岩盤上に植栽する街路樹の土壤改良、排水方法の計画が必要



「桂坂」のシンボル

新緑、紅葉、樹形共に美しい

特徴ある樹形

美しい並木をつくる

円すい形の端正な樹形

切れ込んだモミジ形の葉、その紅葉 光沢のある小型の葉

自然な樹形

幹線道路での唯一の常緑樹

	エントランス	直線系1	導入部 直線系2 及び循環系									
平面図	<p>エントランス</p> <p>シンボルツリー カツラ</p>	<p>直線系1</p> <p>7M</p>	<p>導入部 直線系2 及び循環系</p> <p>緑道との交点 クス 緑道</p> <p>導入部 7m その他 5m</p>									
断面図	<p>カツラ林 カツラ二重植栽</p> <p>植栽帯 4M 歩道 8M 車道 4M 歩道 4M 植栽帯</p>	<p>ケヤキ</p> <p>バッファゾーン 宅地 4M 4M 4M 8M 4M 4M 宅地</p>	<p>植栽帯 4M 歩道 8M 車道 4M 歩道</p>									
計画の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エントランスを象徴する空間づくり</li> <li>・「桂坂」の名前にふさわしいカツラ林づくり</li> <li>・サビミカゲ石によるボーダー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線と宅地の緩衝帶</li> <li>・エントランスと宅地からの風景づくり</li> <li>・日本の伝統的手法 大刈込(修学院離宮の応用)</li> <li>・鳥、昆虫への配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各幹線を樹木で特徴づける</li> </ul>									
植栽計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高木 カツラ</li> <li>・シンボル カツラ <math>h=10m</math> 株立</li> <li>・灌木 周辺サザンカ生垣</li> <li>・地被 オカメザサ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カエデ、シャラ、ヤマボウシ、マンサク、ネムノキ ケヤキ、カツラ</li> <li>・カラタチ、ヒラドツツジ、カナメモチ、ヒイラギ サザンカ</li> <li>・ツバキ、イヌツゲ、ニシキギ、ドウダンツツジ</li> </ul>	<table> <tr> <td>・導入部</td> <td>高木 カツラ</td> <td>低木 ヒラドツツジ</td> </tr> <tr> <td>・直線系2</td> <td>ケヤキ</td> <td>ヒラド、ヒノデツツジ</td> </tr> <tr> <td>・循環系</td> <td>1モミジバフウ 2アキニレ</td> <td>ヒラド、ドウダンツツジ ヒラド、アセビ</td> </tr> </table>	・導入部	高木 カツラ	低木 ヒラドツツジ	・直線系2	ケヤキ	ヒラド、ヒノデツツジ	・循環系	1モミジバフウ 2アキニレ	ヒラド、ドウダンツツジ ヒラド、アセビ
・導入部	高木 カツラ	低木 ヒラドツツジ										
・直線系2	ケヤキ	ヒラド、ヒノデツツジ										
・循環系	1モミジバフウ 2アキニレ	ヒラド、ドウダンツツジ ヒラド、アセビ										

## &lt;緑道の構成&gt;

緑道を土地利用、自然の流れ、街づくりのテーマから5つに分類し、それぞれのテーマにあつた緑道を計画する。

- |            |                  |
|------------|------------------|
| ・大緑道       | = 街の骨格となる緑道      |
| ・ヘッジロー緑道   | = 自然の街への導入       |
| ・山辺の道      | = ツバキをテーマとした小径   |
| ・古墳公園周辺の緑道 | = 春の花見回廊(ソメイヨシノ) |
| ・細緑道       | = 露地の手法を生かす      |

## &lt;緑道の考え方&gt;

1. 人間と生き物の出会いの場
2. 道文化創出の場
3. 街に四季の移り変わりを写し出す

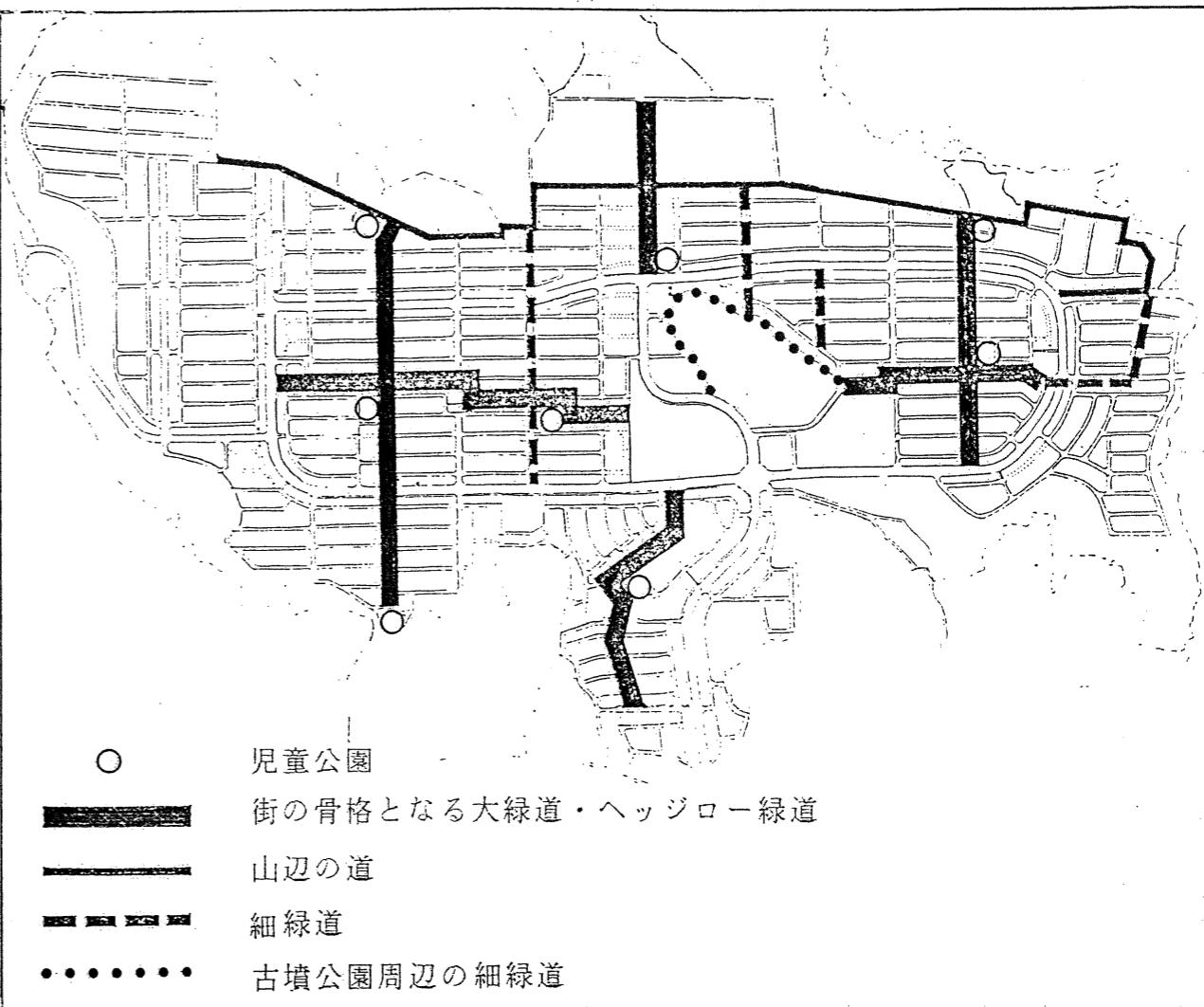
## &lt;課題&gt;

- ・幅員構成のとり方
- ・緑道、自歩道、の選定
- ・歩車共存の考え方

## &lt;計画の方針&gt;

1. 生き物の生息環境づくり
  - ・高木の植栽 = 鳥のためのランドマークツリー
  - ・実のなる木 = 冬に鳥を街に呼び寄せる
  - ・蜜源となる木 = 蝶を街に呼び寄せる
2. 道文化を演出する
  - ・ポケットパーク = コミュニティスペースづくり
  - ・環境装置 = 自然素材、自然をテーマにしたモニュメント、彫刻、ベンチ
  - ・トータルイメージづくり = 舗装、植栽、照明、施設の調和のとれたデザイン
  - ・児童公園との一体化
3. テーマ樹(花木)の設定
  - ・緑道はそれぞれのテーマ樹をもち、そのシーズンに、一斉に花が咲き、名所となる。
4. 四季の演出
  - ・テーマ樹以外に、緑道には四季それぞれの楽しさ(新緑、花、紅葉、果実)を演出するような植栽計画を行う。
  - ・地被植物草花の導入

## &lt;緑道の要素&gt;



## 緑道の要素



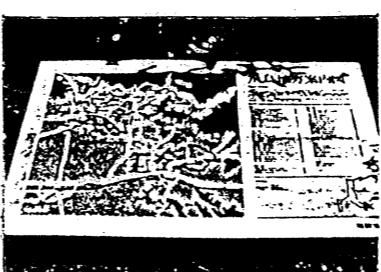
鳥



昆蟲



舗装



案内板

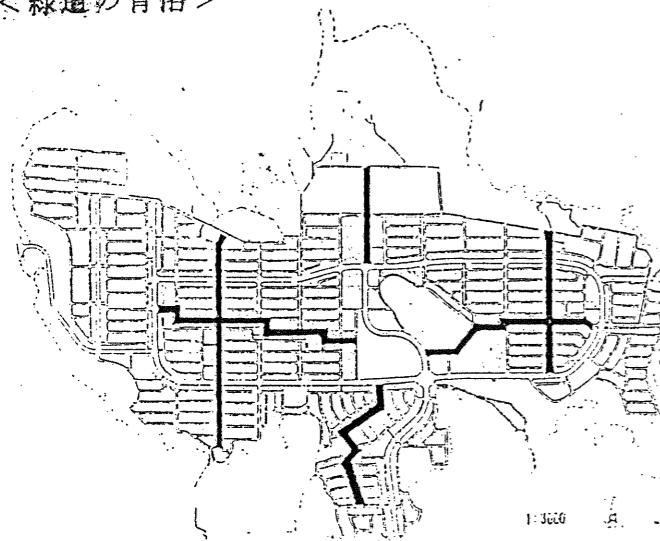


大木



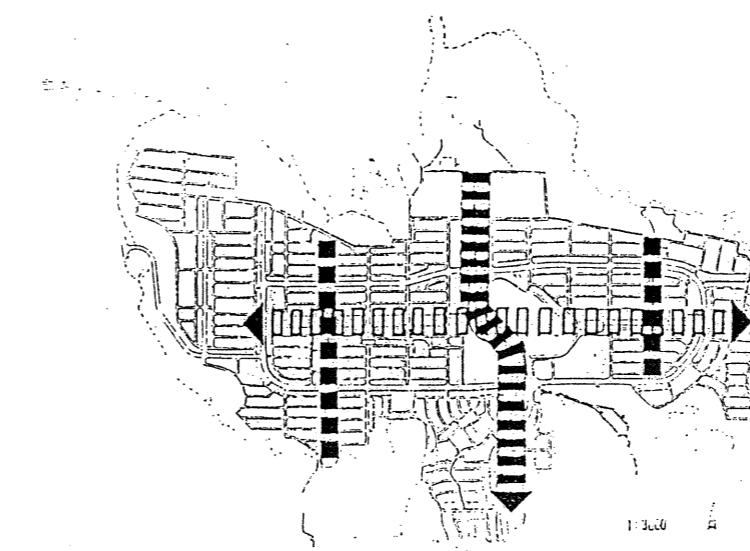
美しい花

&lt;緑道の骨格&gt;



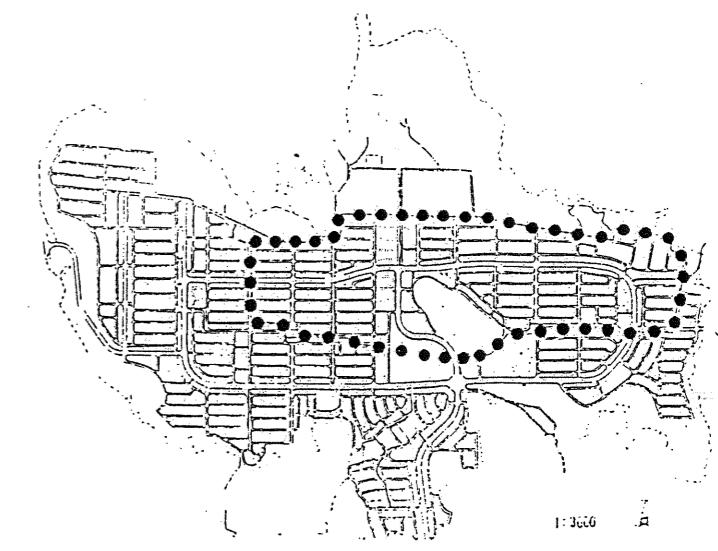
大緑道・ヘッジロー緑道  
街の骨格となる緑道  
自然、文化の流れる緑道

&lt;緑道の性格づけ&gt;

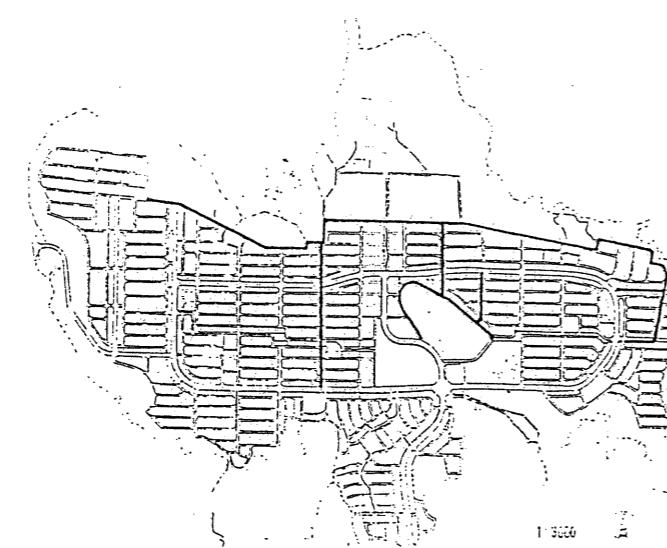


街を性格づける2つの軸

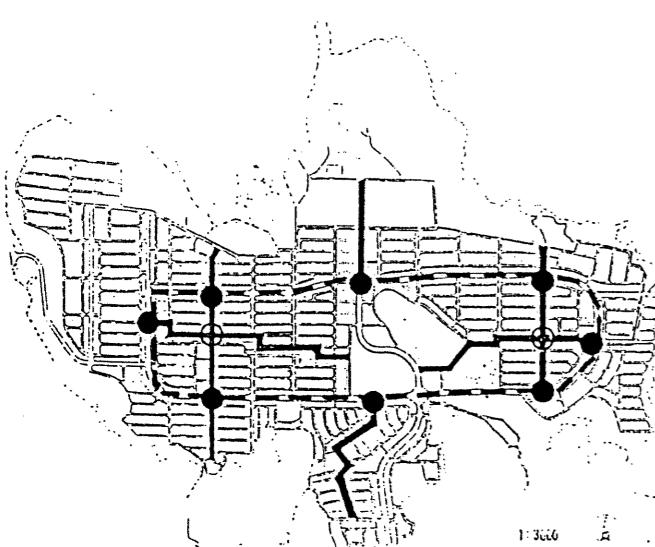
- 自然軸 自然の流れ(緑の河)
- 人工軸 生活、文化の流れ



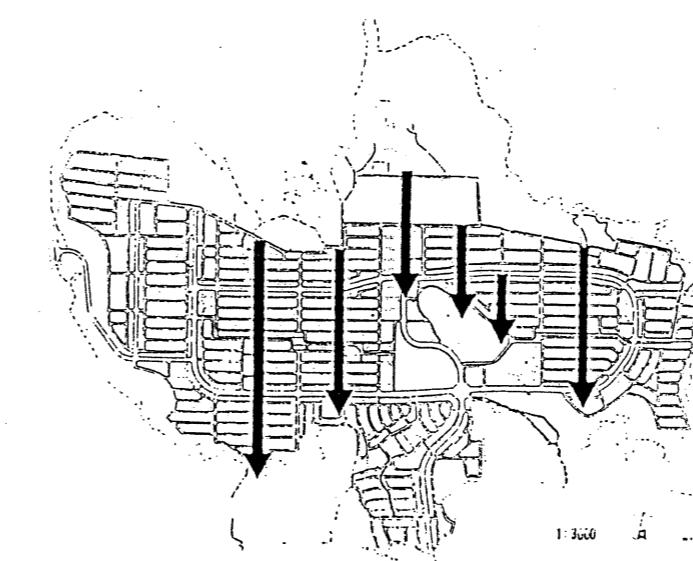
循環する緑道 回遊性



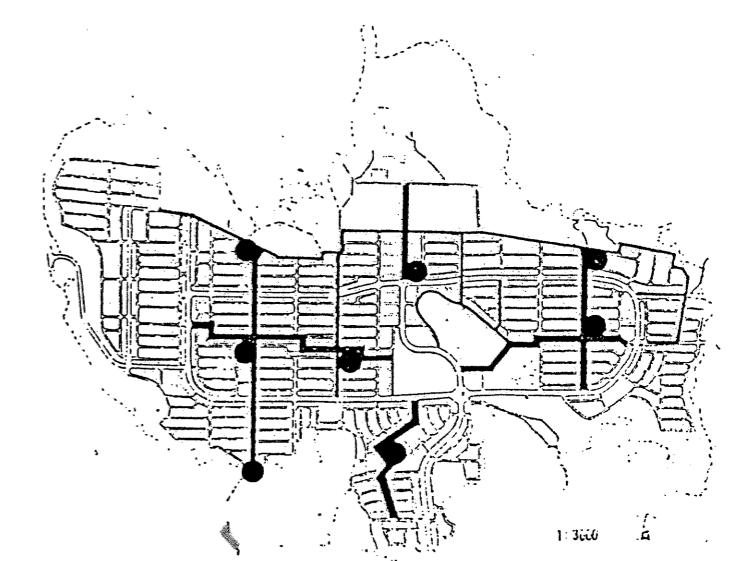
小緑道  
街各部を緑で結ぶ



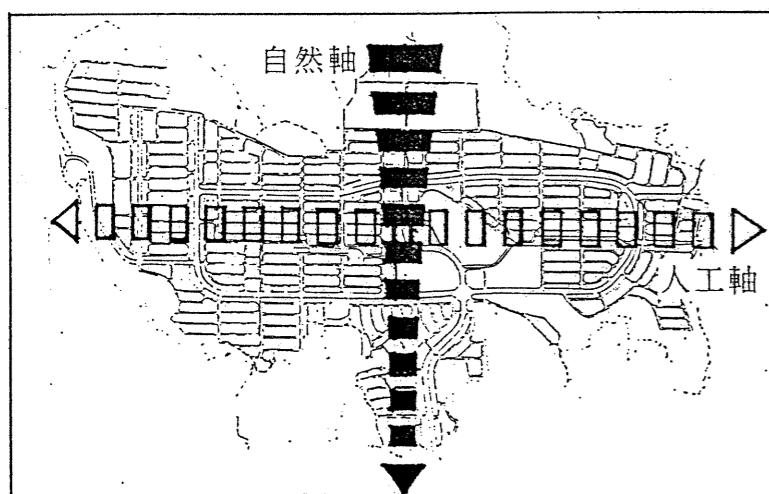
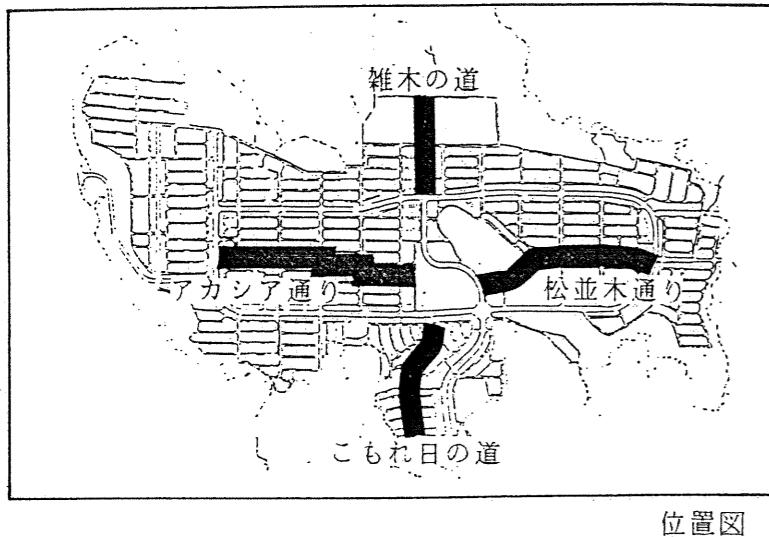
幹線と緑道の交点



自然の街への流れ



緑道と公園の一体化  
回遊庭園都市(花めぐり回遊庭園)



- ・街の骨格となる緑道でセンターを中心に十字構造を形成する 自然、文化の流れ
- ・街区のイメージを形成する重要な緑道

名称	テーマ 計画方針	幅員等	手法	植栽計画	
				テーマ樹木	植栽手法
アカシア通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェテラス、店舗の並ぶ華やかな緑道</li> <li>・アカシア、フリージアに代表される明るい西洋的な樹種で緑道をつくる</li> </ul>	・歩車共存道路 (6 + 6 = 12m)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石畳み</li> <li>・彫刻</li> <li>・噴水</li> <li>・デザイン化された照明</li> <li>・草花の導入</li> </ul>	アカシア属 (Robinia) ・アカシア、フリージア ・ハナアカシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草花</li> <li>・色彩美</li> </ul>
松並木通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松のイメージに代表されるような静かな落ち着きのある緑道をつくる</li> <li>・古墳、近隣公園との一体化</li> </ul>	・一部歩車共存道路 (6 + 6 = 12m)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然石敷</li> <li>・道しるべ</li> <li>・切石のベンチ</li> <li>・和風の現代的照明</li> </ul>	マツ属 (Pinus) アカマツ クロマツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本的な樹種</li> <li>モッコク</li> <li>ハギ</li> <li>センリョウ</li> <li>・形態に特徴のある樹種</li> <li>スギ、タケ</li> </ul>
雑木の道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の河の一貫として自然の流れをツリー・スケールの尺度で表現する</li> <li>・学校、野鳥公園へのアプローチ</li> <li>・河川の修景利用</li> </ul>	・12m(小・中学校) ・18m(CED)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巨石の石畳み</li> <li>・カツラの森</li> <li>・水辺の演出</li> <li>・自然石のモニュメント</li> <li>・目だたない照明</li> </ul>	カシワ属 (Quercus) クヌギ コナラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雑木</li> <li>ヤマボウシ</li> <li>アラカシ、エゴ</li> <li>・水辺に生息する樹木</li> <li>カツラ</li> <li>ラクウショウ</li> <li>・水生植物</li> <li>カキツバタ</li> </ul>
こもれ日の道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路勾配を生かす</li> <li>・河川の修景利用</li> <li>・光を通す落葉樹の林づくり</li> </ul>	・8m ・11m(河川3m含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切石護岸</li> <li>・インターロッキングの舗装</li> <li>・橋の修景</li> </ul>	カエデ属 (Acer) ハナノキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紅葉の美しい落葉樹</li> <li>モミジ、タカノツメ</li> <li>・花の咲く木</li> <li>ハナミズキ</li> </ul>



アカシア



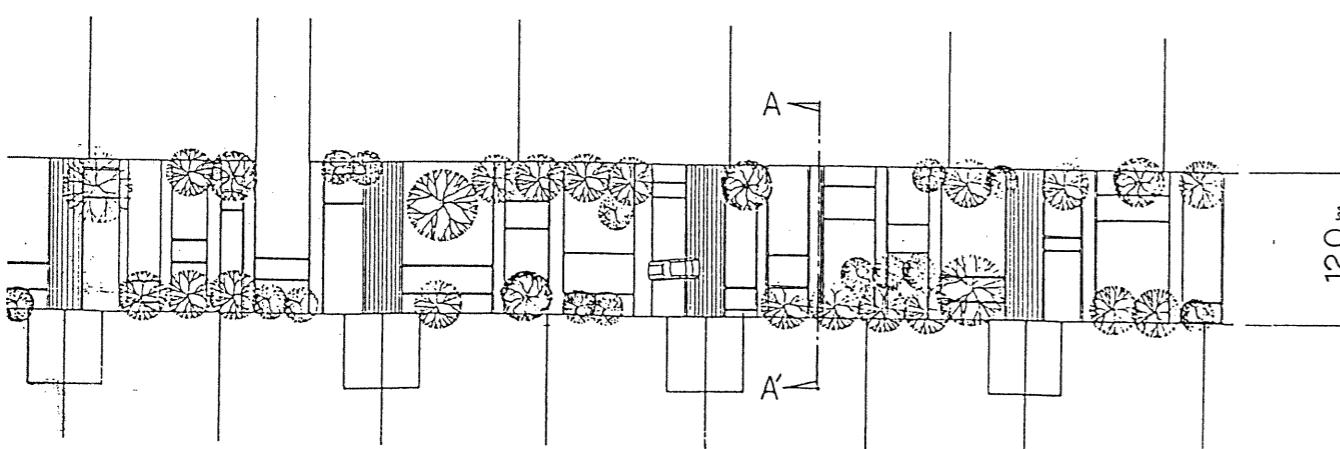
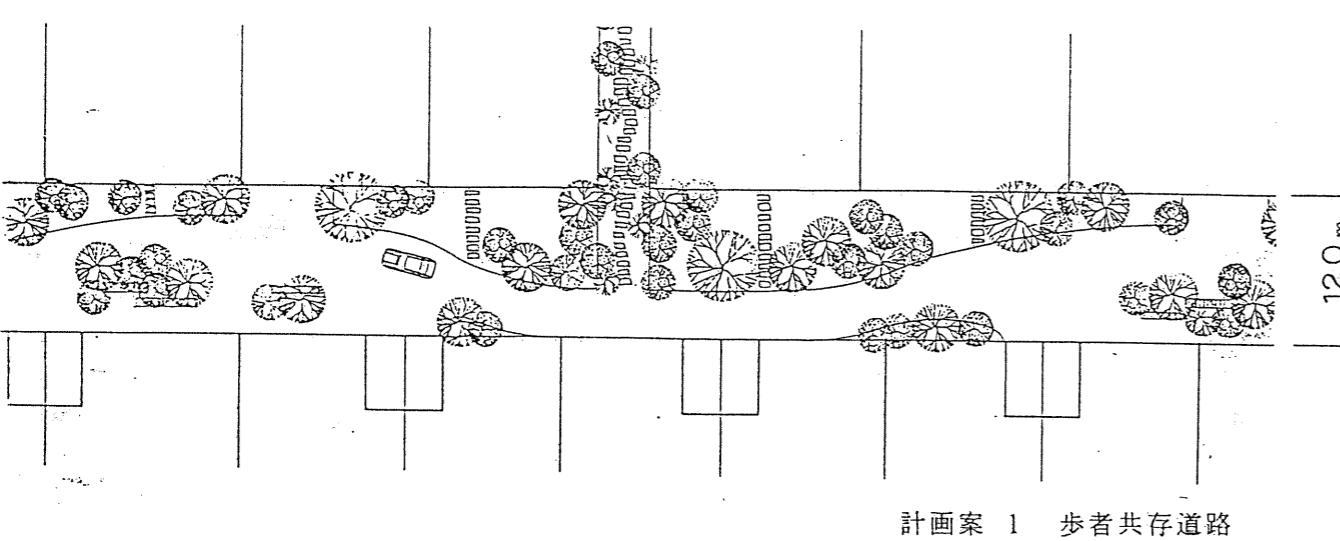
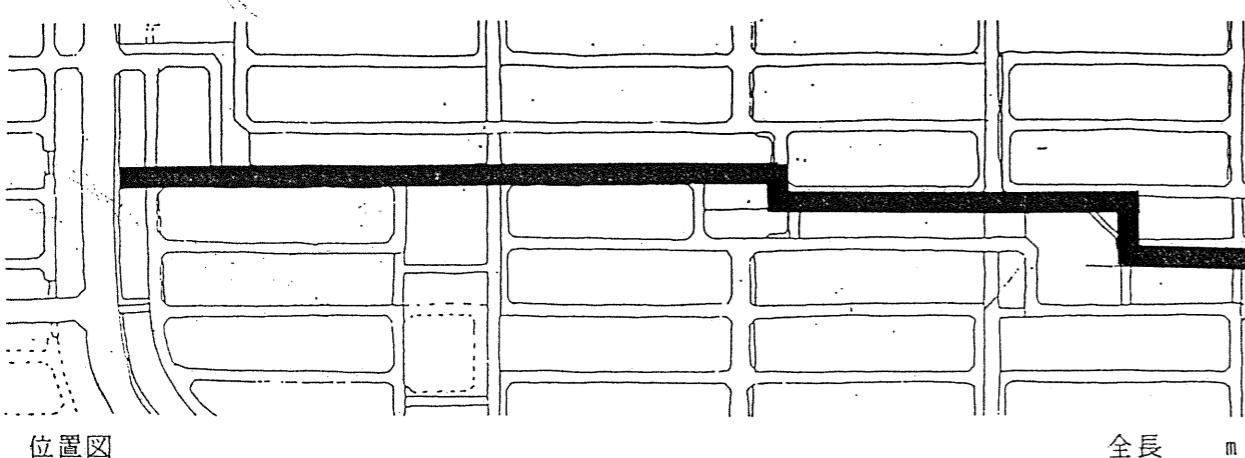
マツ



クヌギ

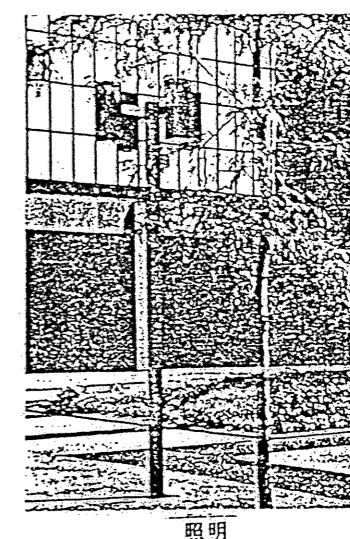
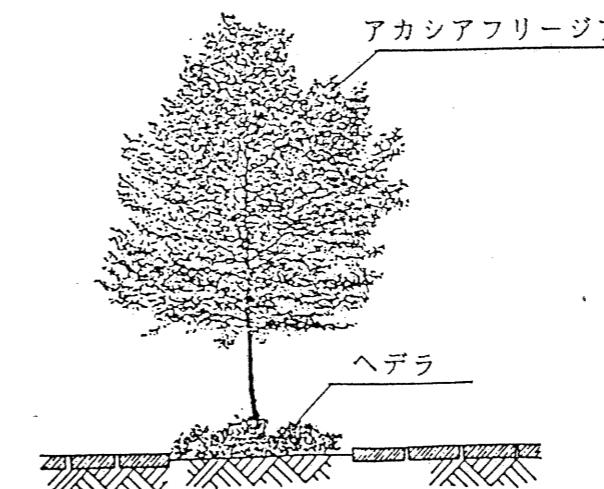
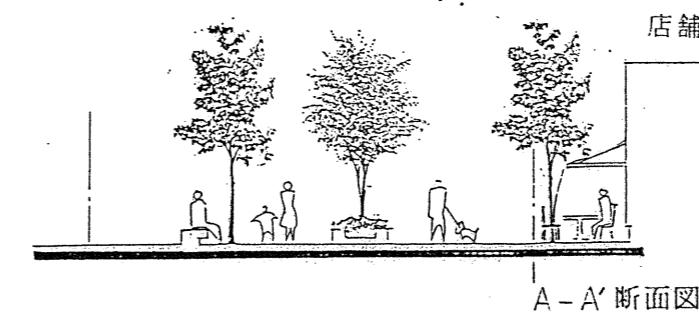
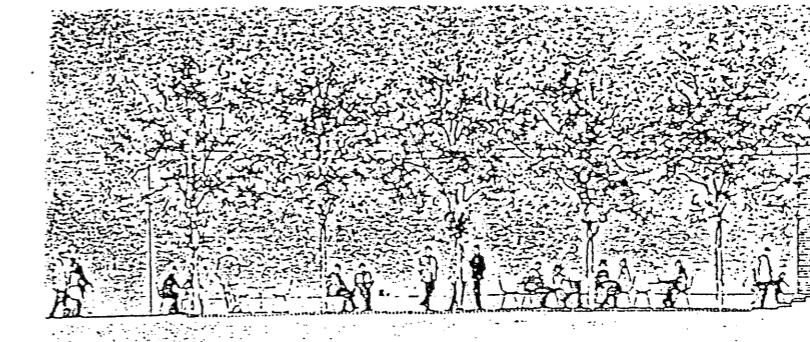


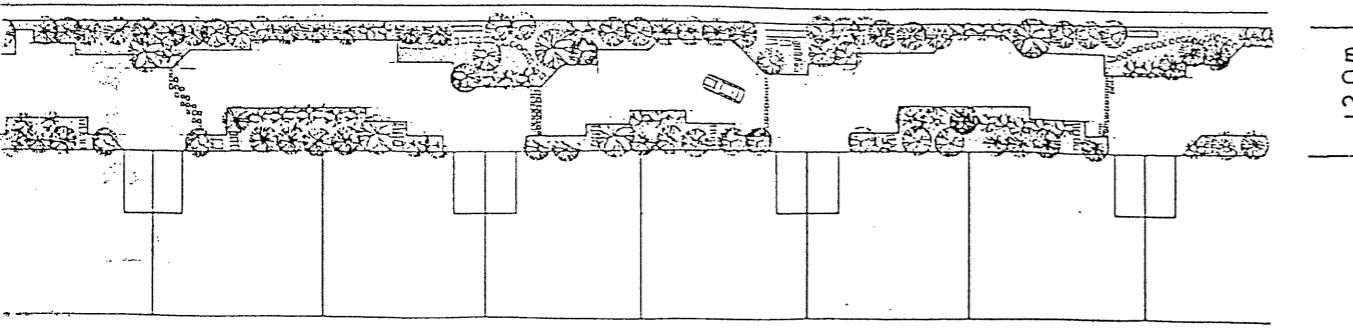
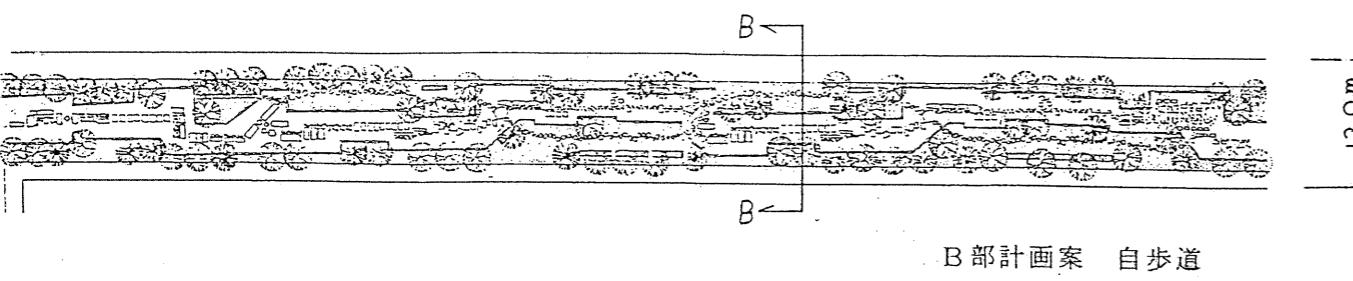
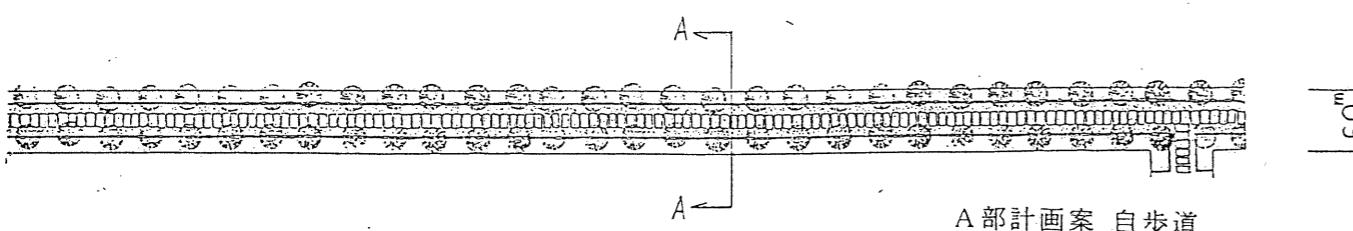
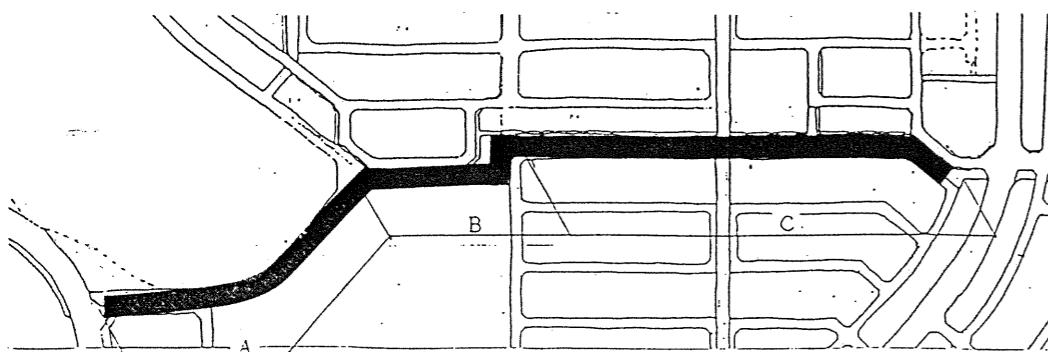
ハナノキ



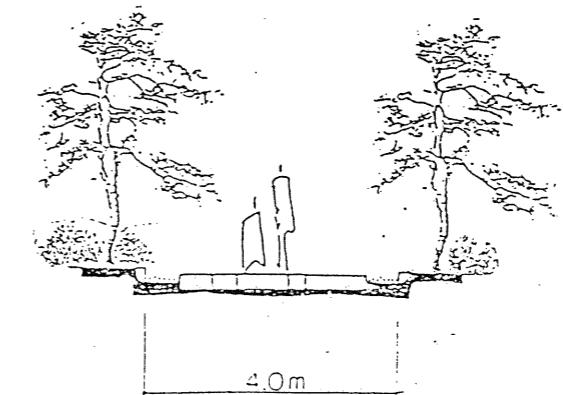
計画案 2 歩者共存道路

0 5 10 15M

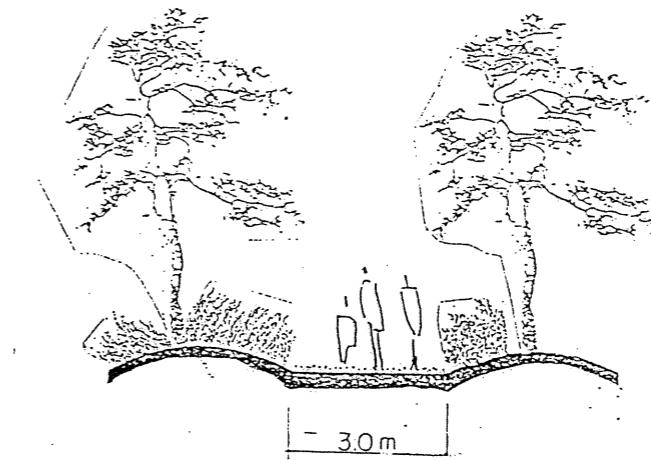




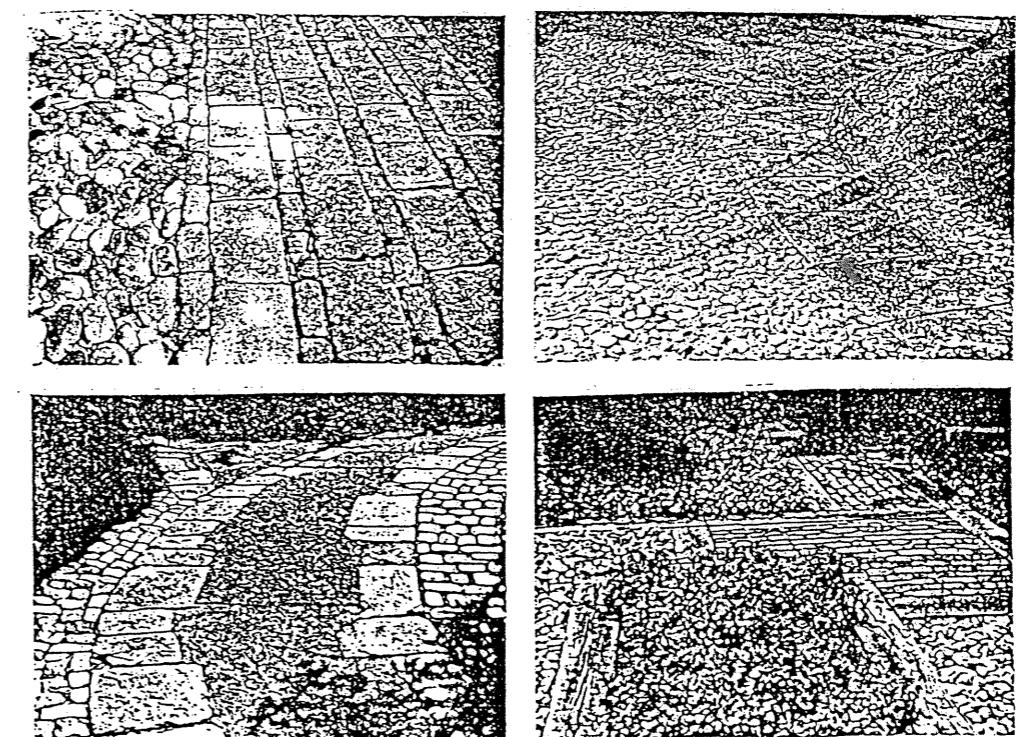
0 5 10 15M



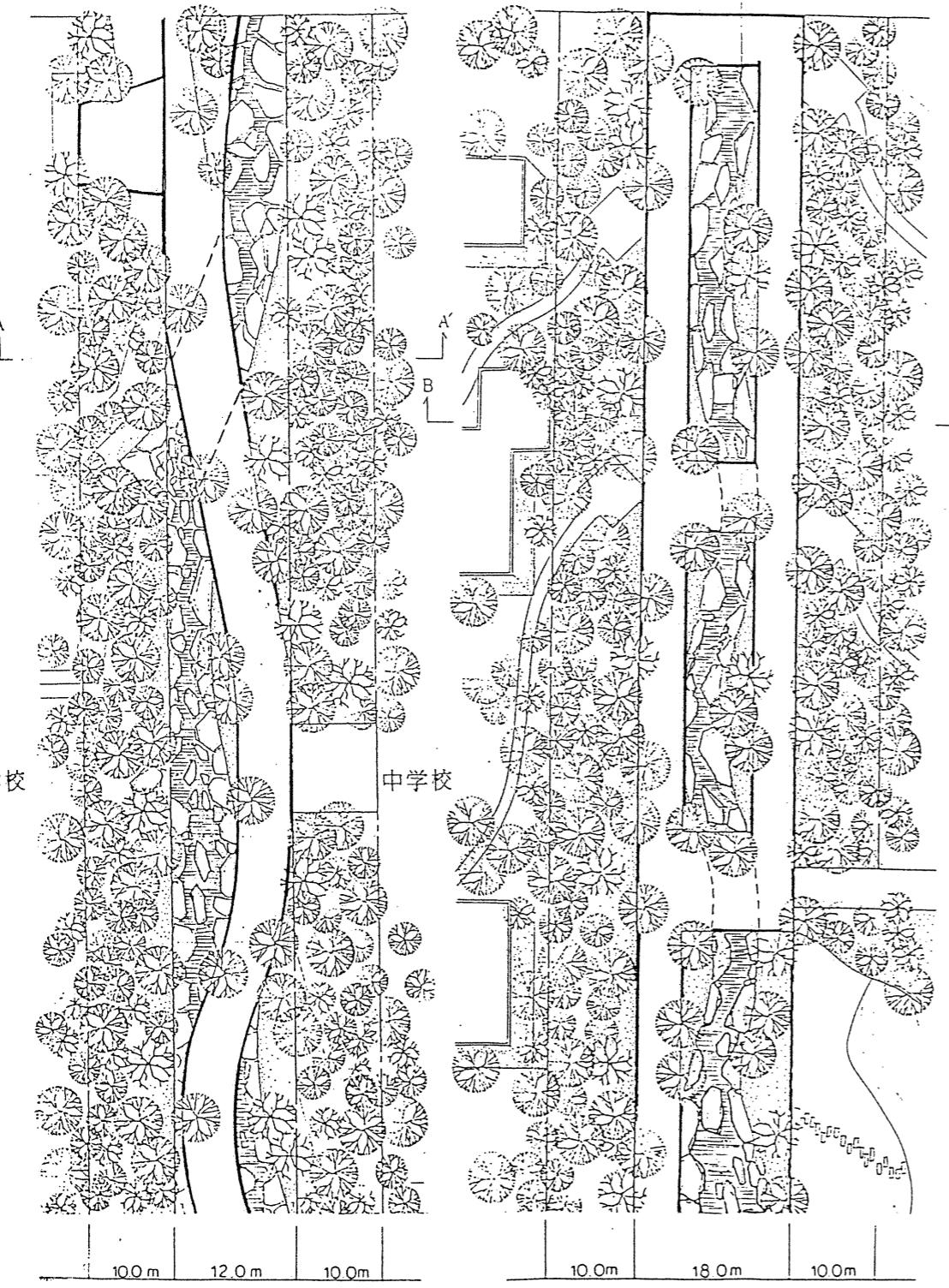
A-A断面図



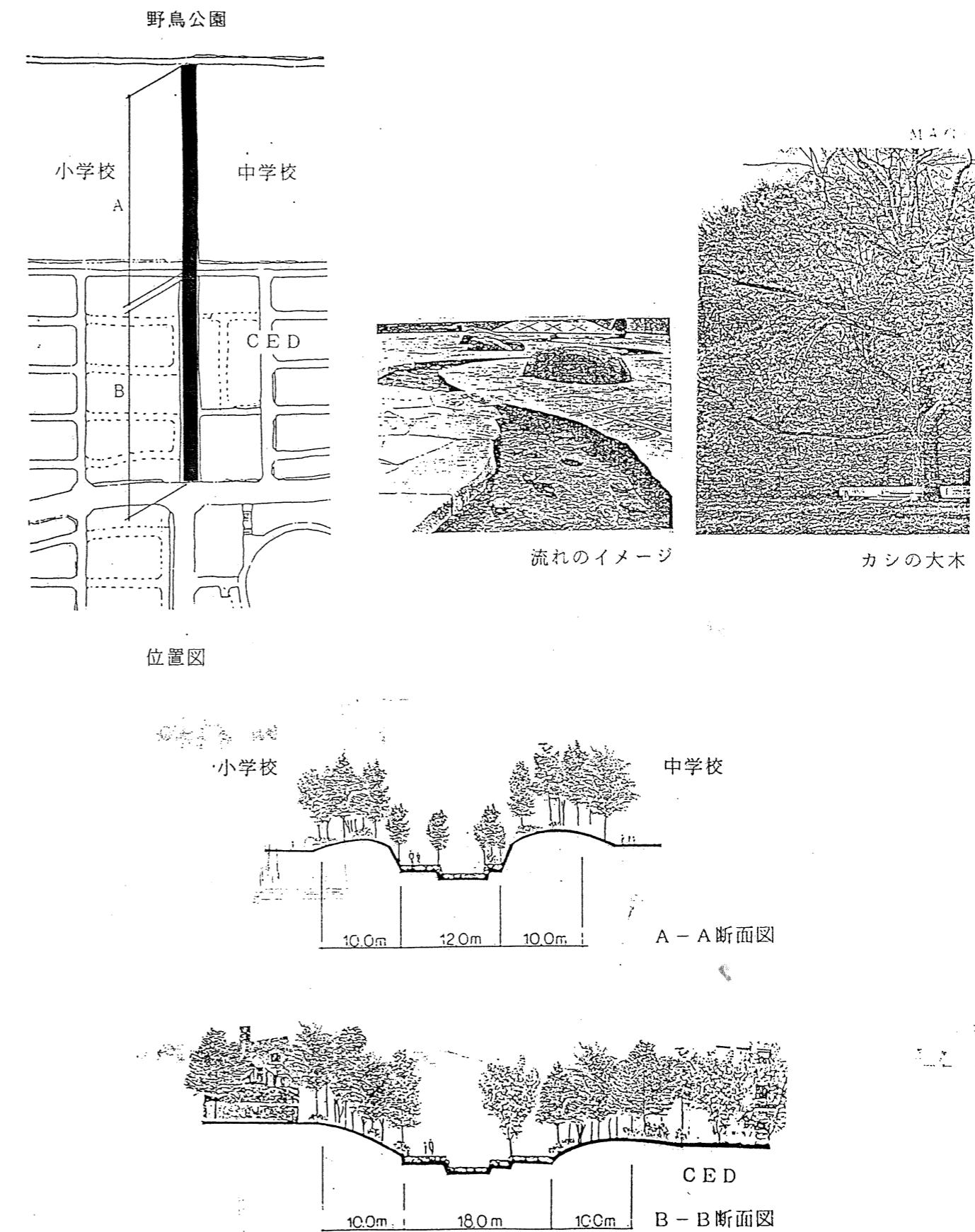
B-B断面図

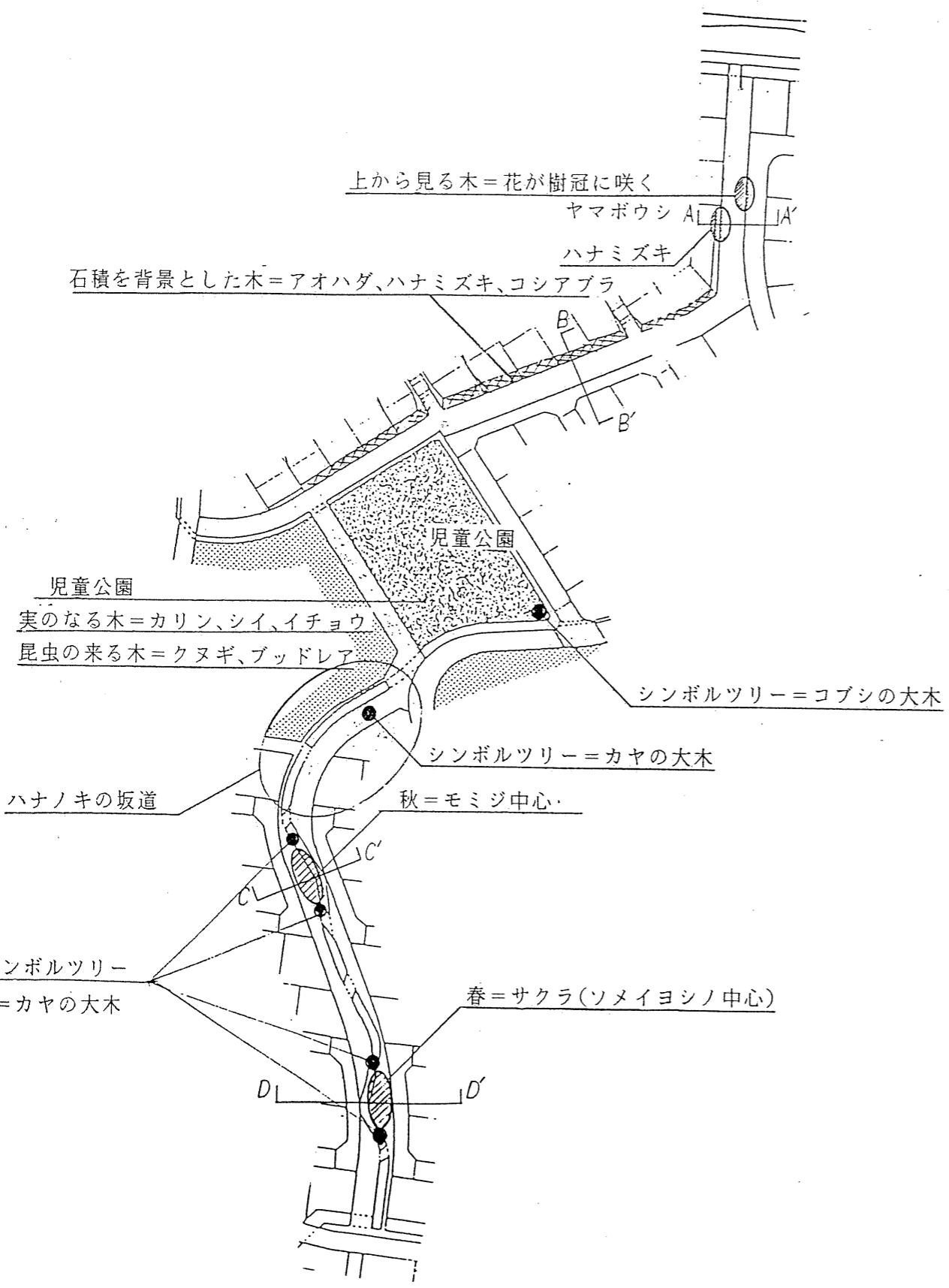


舗装のイメージ

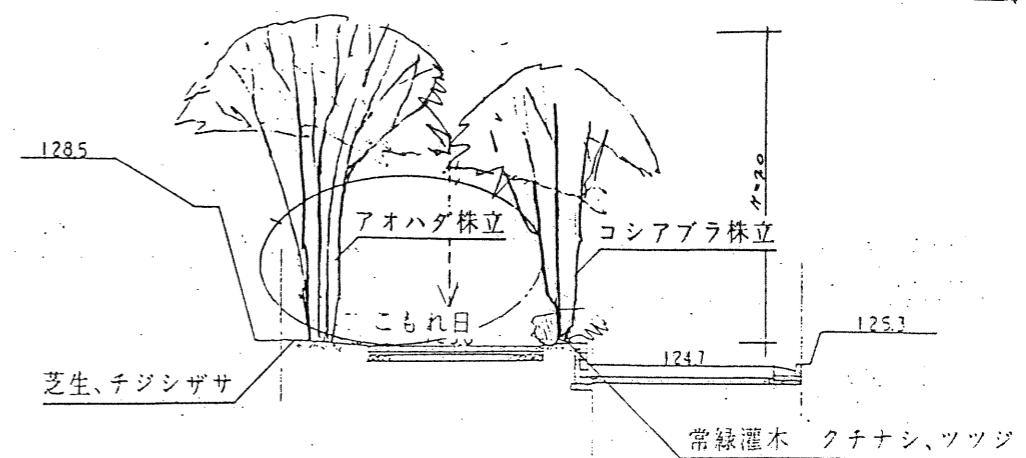


0 5 10 15M

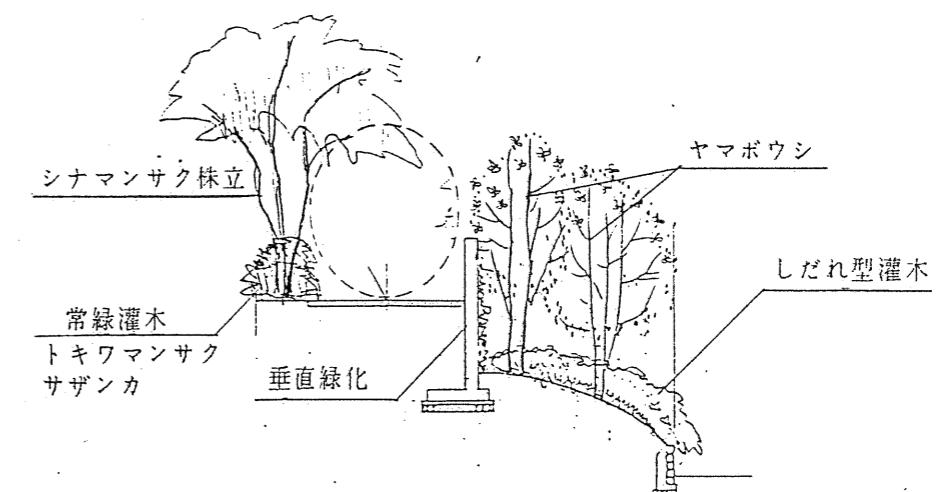




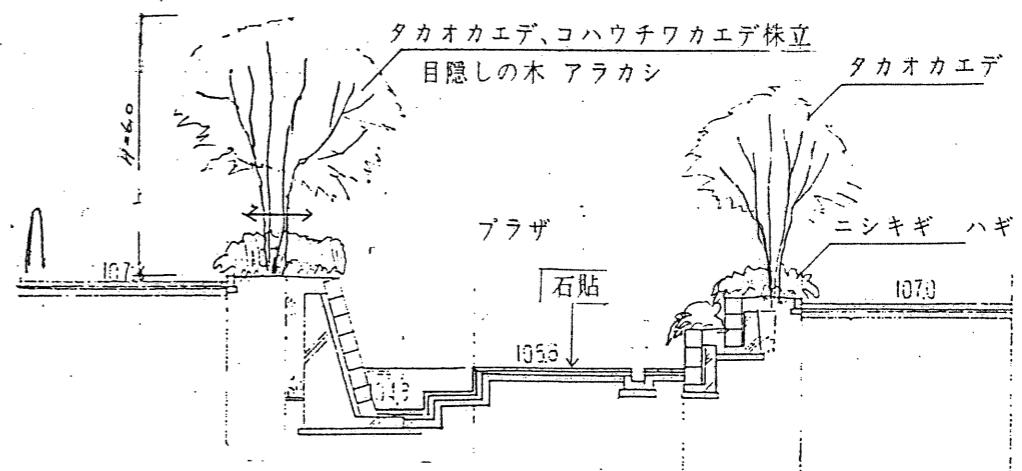
A - A'断面図



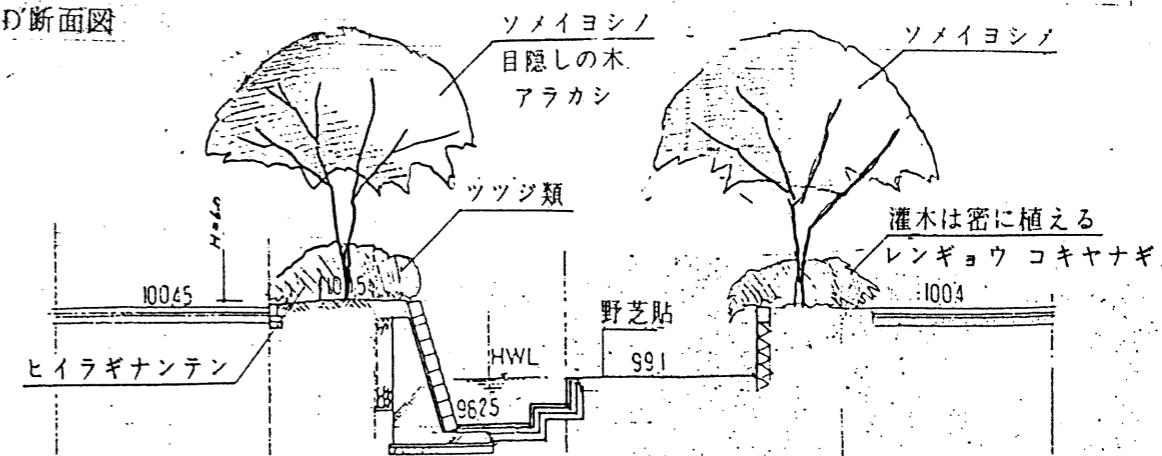
B - B'断面図

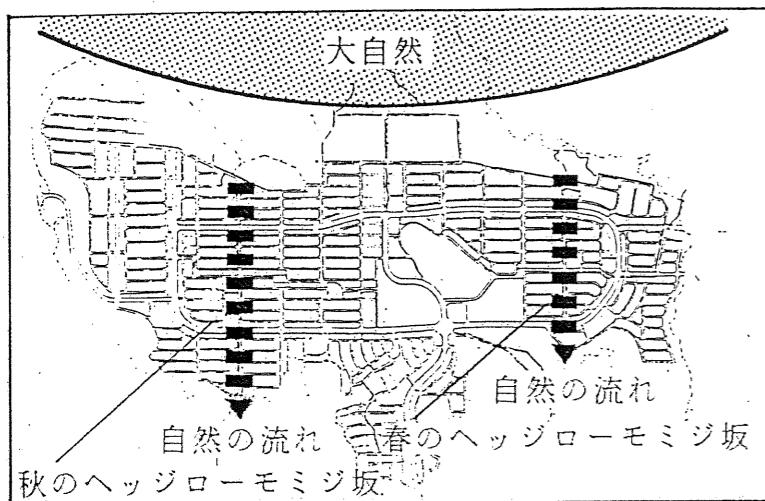


C - C'断面図



D - D'断面図





名称	テーマ	計画方針	手法	植栽計画	
				テーマ樹	植栽計画
モミジ坂	・大自然の導入 ・生き物と人間とのふれあいの場 ・秋の紅葉	・生き物の生息環境づくり ・大緑道との交点の演出	・鳥、昆虫を集める植栽 ・施設、道しるべ、噴水、ベンチ	(タカオモミジ、ウリカエデ等)	・高木の点在 ・鳥の食餌木 ・昆虫の密源 ・実のなる木、花の咲く木
サクラ坂	・大自然の導入 ・生き物と人間とのふれあいの場 ・春の花	・生き物の生息環境づくり ・大緑道との交点の演出	・鳥、昆虫を集める植栽 ・施設、道しるべ、噴水、ベンチ	(ヤマザクラ、シダレザクラ等)	・高木の点在 ・鳥の食餌木 ・昆虫の密源 ・春の花の咲く木、灌木

## &lt;ヘッジローのコンセプト&gt;

- ・カントリーへッジの精神を街づくりに生かす
- ・緑の流れ 裏山からの自然のにじみ出し
- ・生き物(鳥、昆虫)との共存の場
- 鳥、昆虫の食餌空間
- ・四季の変化の演出
- いろいろな花木、実のなる木
- ・歩くことの楽しさの創造
- たまり空間、ビスタの変化
- ・ダイナミックな空間づくり

## カントリーへッジとは

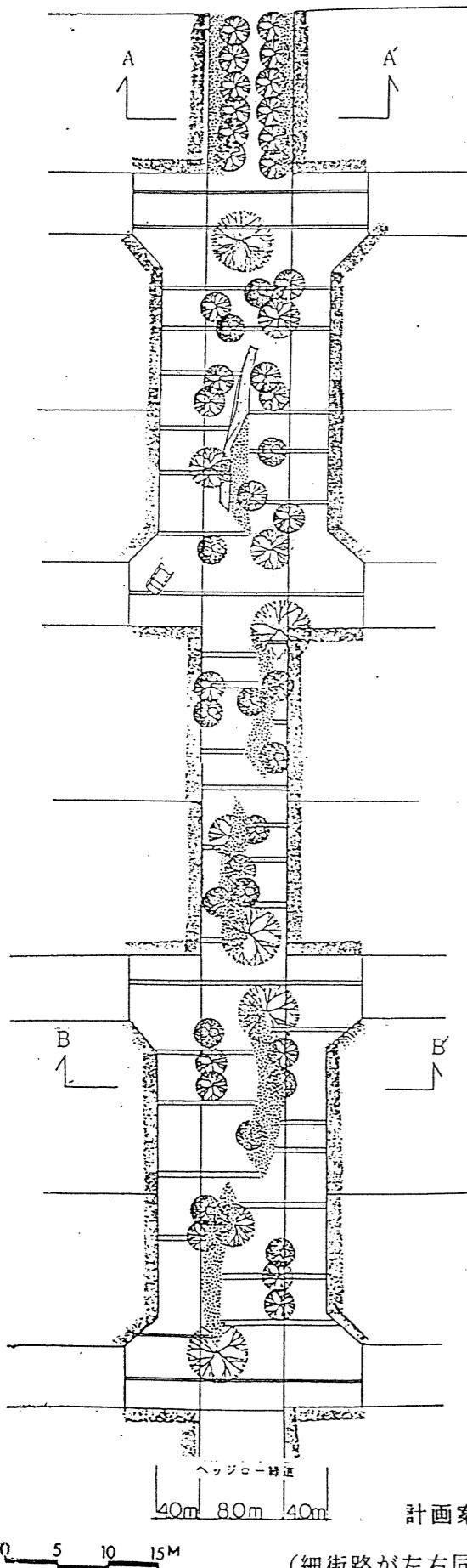
イギリスの田園の典型的な風景であり、ヘッジ(垣根)は食糧、薬草、燃料として人々の生活と深くかかわり、またその豊かな植物相は小動物、鳥、昆虫の生息の場として生態的にも重要な役割を果たし、四季の変化をも演出している。

## &lt;ヘッジローの手法&gt;

- ・裏山からの緑の流れを形成する
- 連続するW = 2 m以上の植栽帯
- ・鳥の生息場所
- 実のなる木の植栽
- ・昆虫の生息場所
- 蜜源となる木の植栽
- ・強剪定はせず、自然の樹形を生かす
- ・四季の演出:花、紅葉、実の組み合わせ

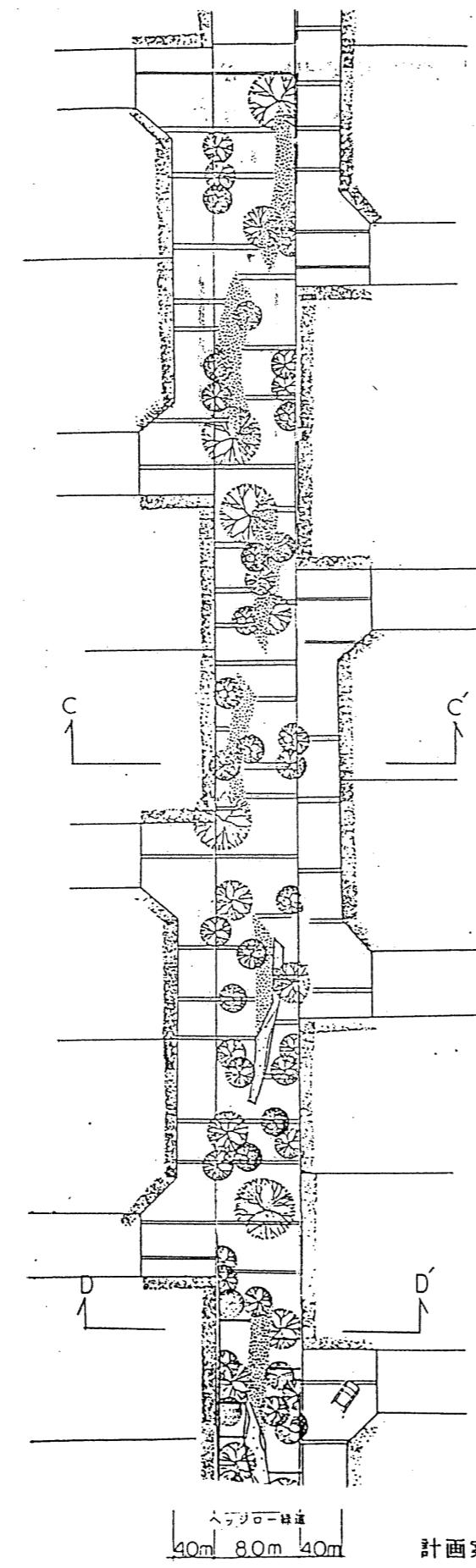


カントリーへッジ



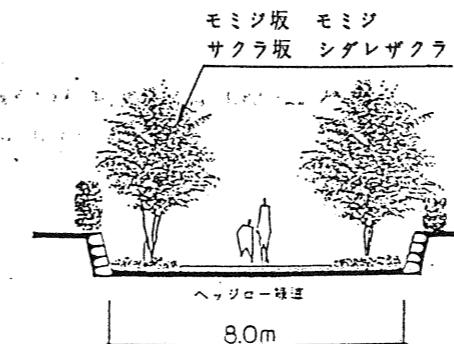
計画案

(細街路が左右同一の場所)

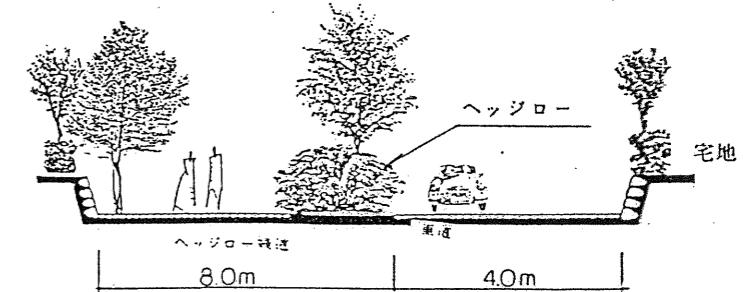


計画案 2

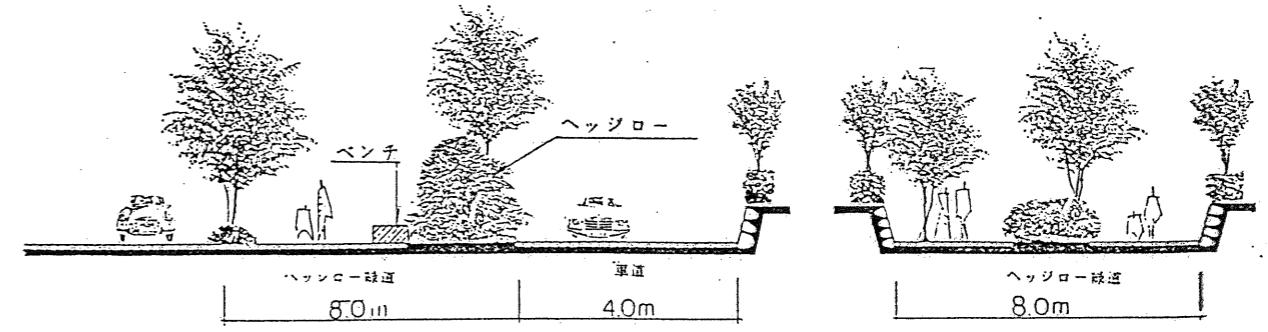
(細街路が左右異なる場所)



### A - A 断面図



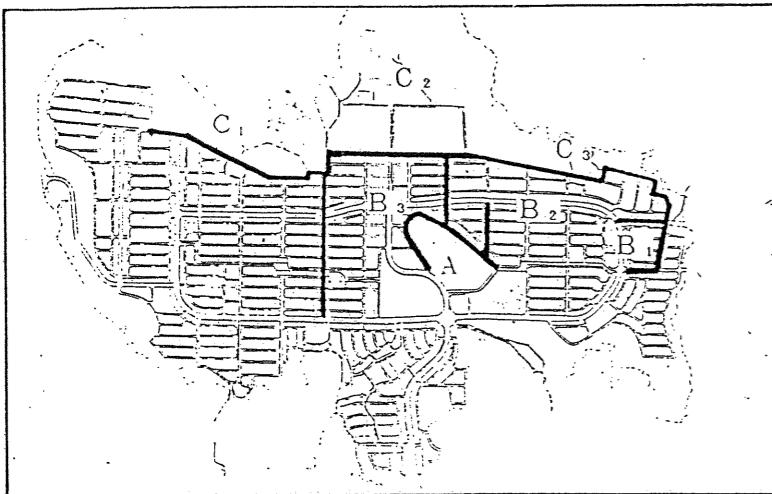
### C-C断面図



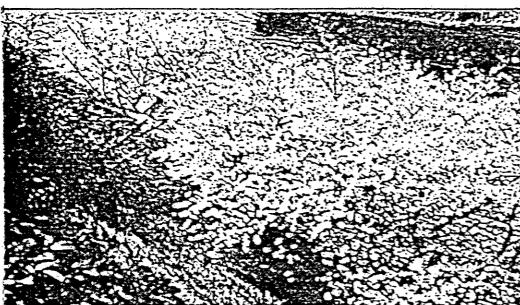
### B-B断面図

樹種リスト

	高木	中木	低木
実のなる木	ヤマモモ オニグルミ シイ カリン ナツミカン クロガネモチ イチョウ ナシ	ツノハシバシ ザクロ グミ アンズ ヒワ サンショウ ナツメ ナワシログミ ズミ ウメモドキ	キイチゴ ムラサキシキブ ユスラウメ ガマズミ ユトネアスター ヒラカンサ ヒョウタンボク ニワウメ
昆虫を呼ぶ木	クス エノキ	ネムノキ フヨウ	ブドレア ツツジ
花の咲く木	コアシ シナマンサク ハナミズキ サンシュ サルスベリ モクレン ダイサンボク エゴノキ	ライラック トウオガタマ バイカワツギ ザイフリボク カイドウ オオヤマレンゲ ハボウ トサミズキ モクセイ キンボウジュ	シャリンバイ ハギ シンショウヅ アジサイ ハナズオウ クチナシ テマリカバンボク ビョウゼナギ オオデマリ カルミア ドウダンツツジ タニウツギ アベリア キソケイ ヤマブキ コデマリ レンギョウ
紅葉する木	カエデ類 イチョウ ナナカマド ナンキンハゼ フウ ヤマボウシ	コマユミ ナンテン	ガマズミ コバノズイナ ドウダンツツジ ニシキギ メギ ヒイラギナンテン



位置図



古墳公園周辺—ソメイヨシノ



露地の手法をもちいた細緑道



ツバキ

- W = 4mの自歩道であり、街の緑によるネットワークする
- 車道と接する所は、歩車共存の可能性も考えられる
- 幅員が狭い為に、主に植栽を中心にイメージ形成を行う

	テーマ	計画方針	手法	植栽計画	
				テーマ樹	植栽手法
古墳公園周辺緑道 A	・ノスタルジー空間の演出	・春の花見	・サクラの大並木道	・ソメイヨシノ(春)	・サクラ並木 ピッチ3.5m ・ツツジの大刈込 ・春の花の咲く灌木
細緑道 B	B <sub>1</sub>	・狭い空間に(W = 4m)にふさわしいインテイメントな空間づくり	・露地の手法を街づくりに生かす	・ヤマボウシ(初夏) ・サルスベリ(夏) ・ムクゲ(夏)	・四季の草花 ・香りの木 ・鳥、昆虫の集まる木 ・実のなる木
	B <sub>2</sub>	・四季の花木をテーマ			
	B <sub>3</sub>				
山辺の道 C	C <sub>1</sub>	・擁壁、フェンスに接する狭空間 ・裏山の自然との一体感 ・山里の空間	・舞鶴農場のツバキを生かす ・鳥、昆虫の生息の場	・ツバキの林 ・自然な歩道(ソイラー、砂利舗装)	・ツバキ(早春) アジサイ(初夏) ・各種のツバキ ・高木 コブシ(谷) ハクウンボク ヤマボウシ
	C <sub>3</sub>	・学校の演出	・入学式の空間づくり	・桜並木	・ソメイヨシノ(春) ・春をテーマとした植栽・ツツジ類 レンギョウ ユキヤナギ
	C <sub>2</sub>				



ソメイヨシノ



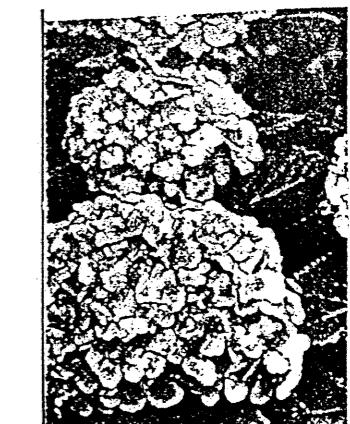
ヤマボウシ



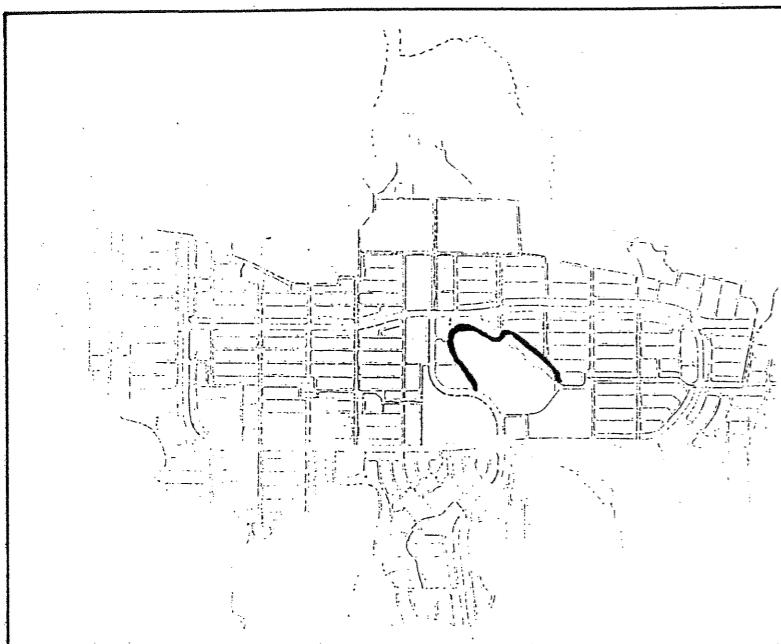
サルスベリ



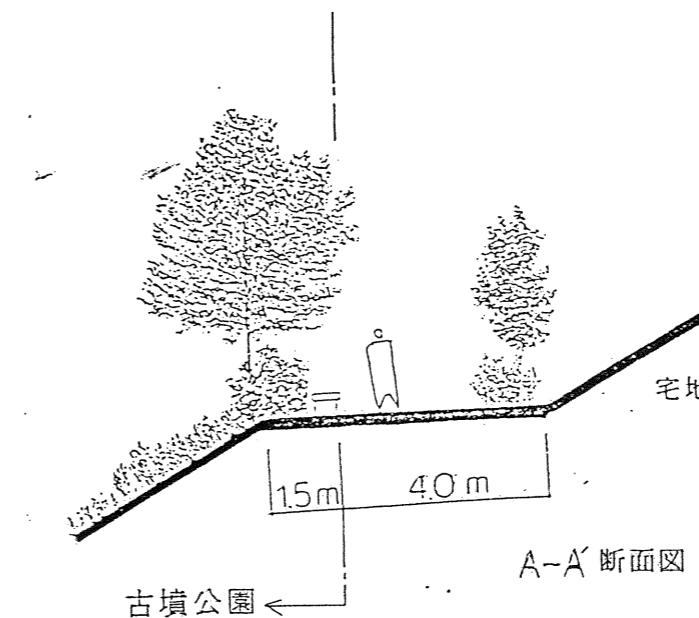
ムクゲ



アジサイ

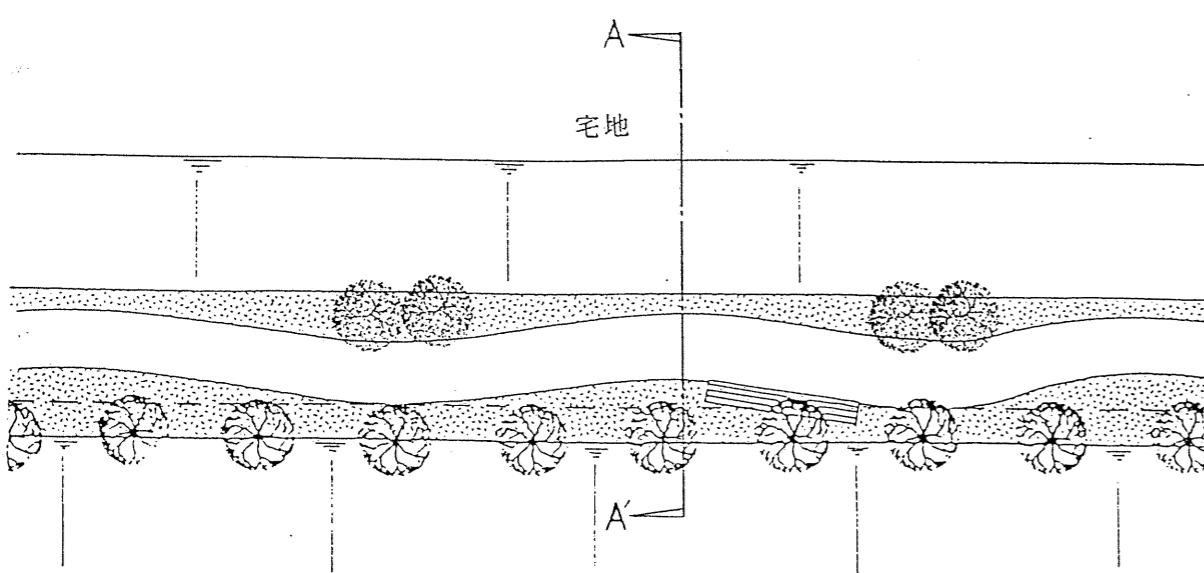


位置図



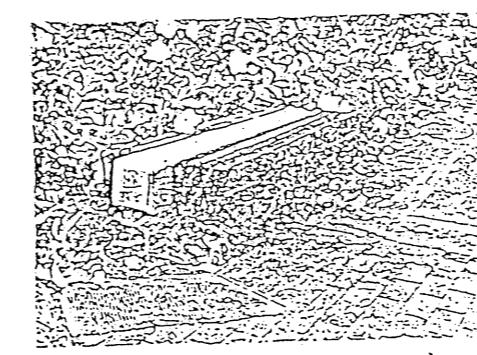
A-A' 断面図

古墳公園

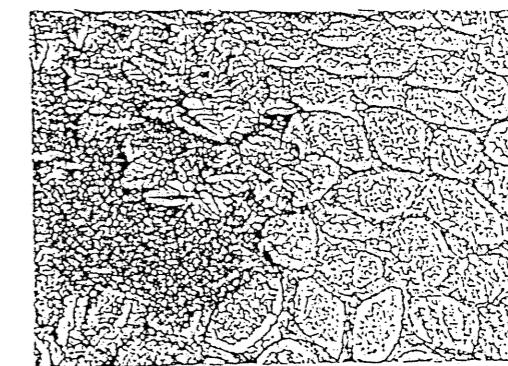


計画平面図

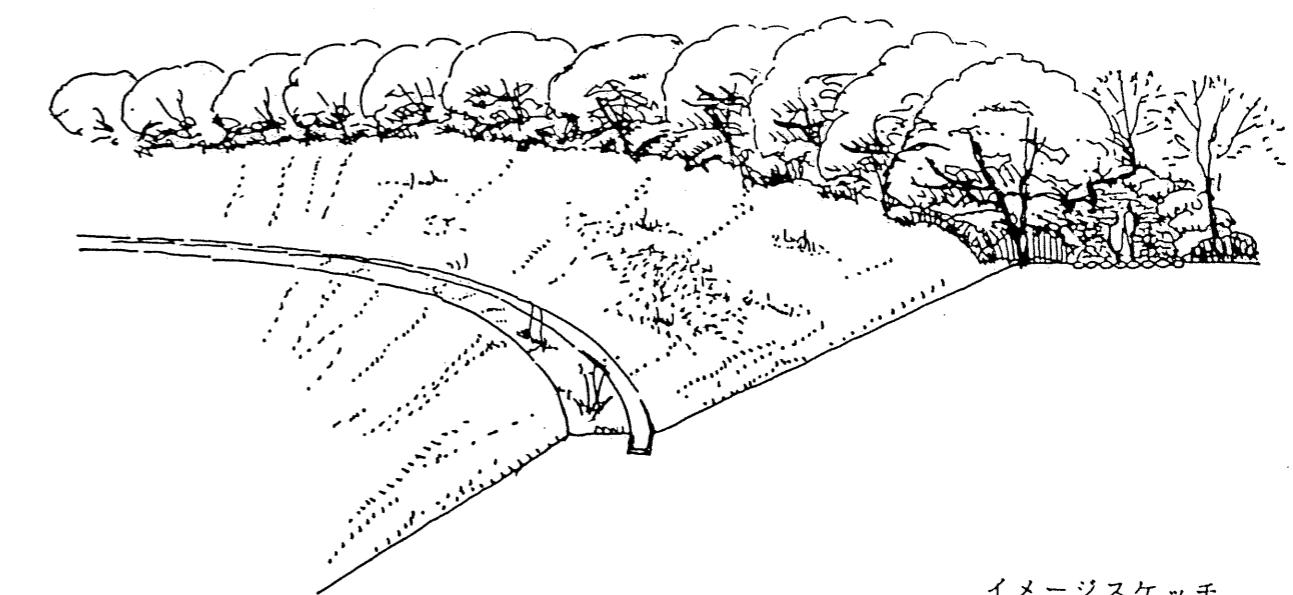
0 2 4 6M



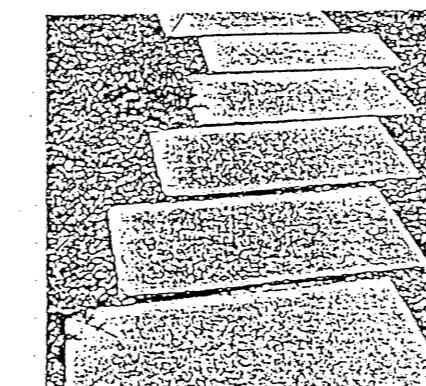
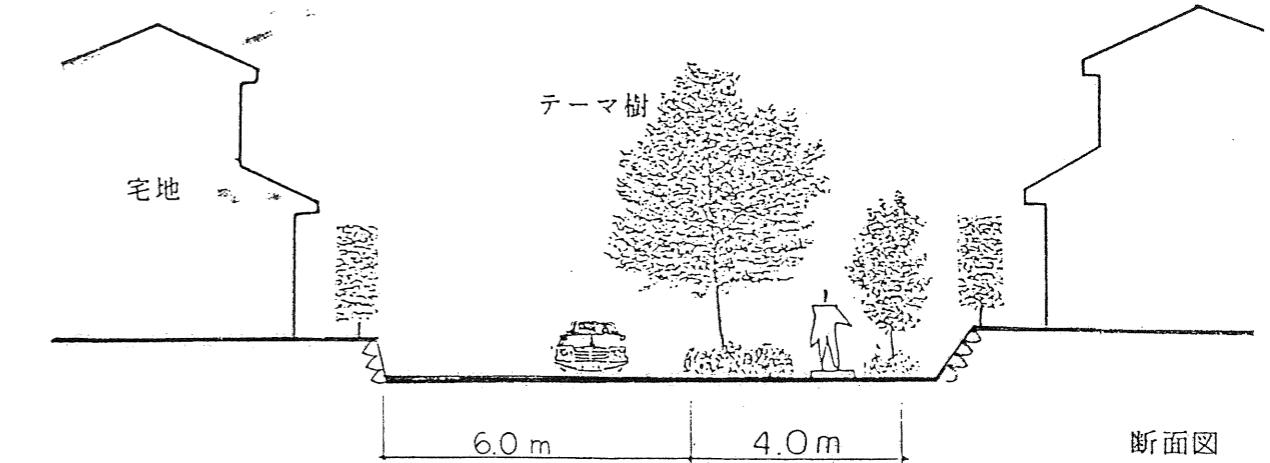
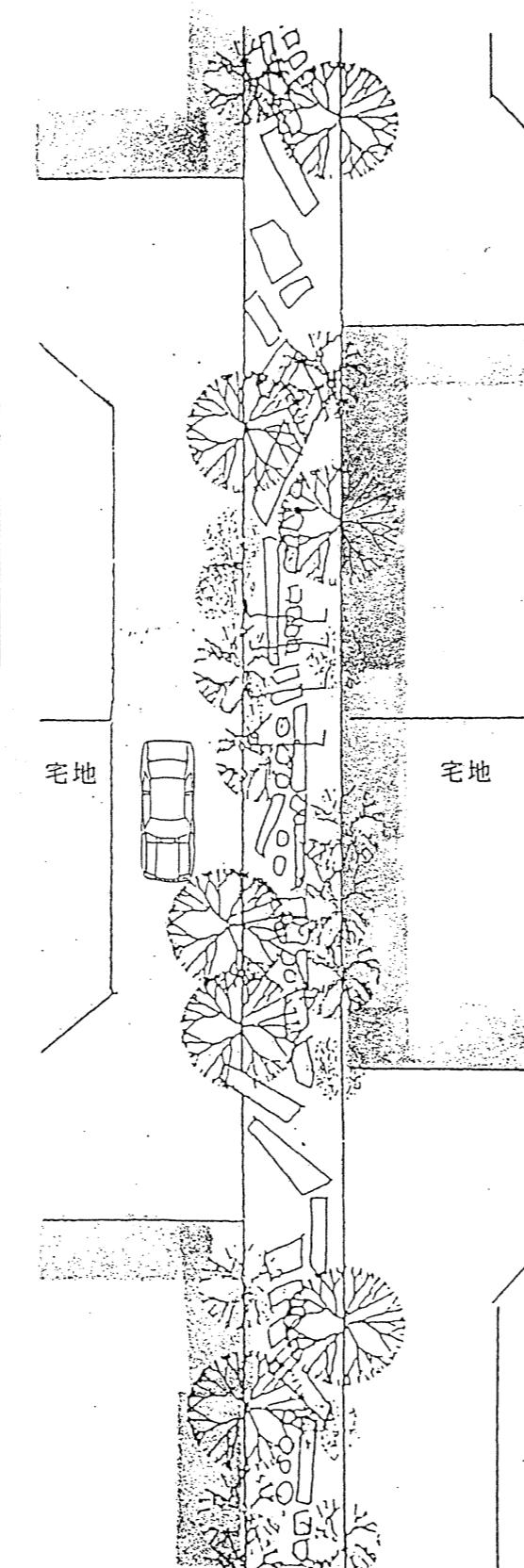
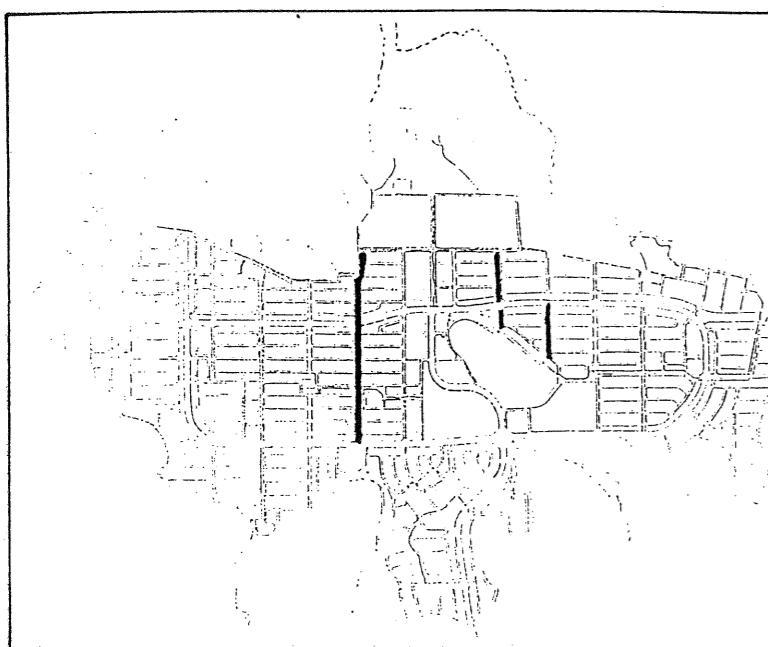
ベンチ

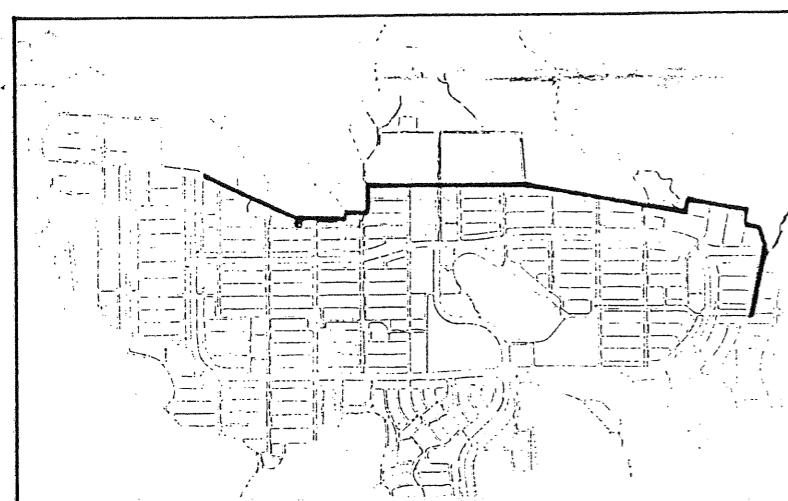


自然石舗装

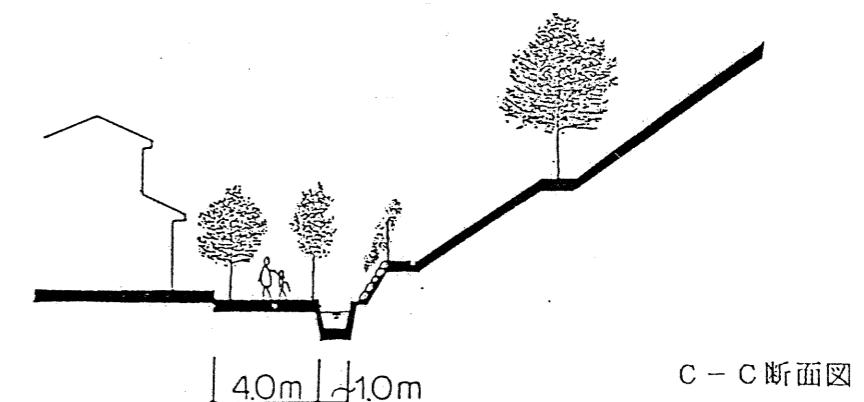
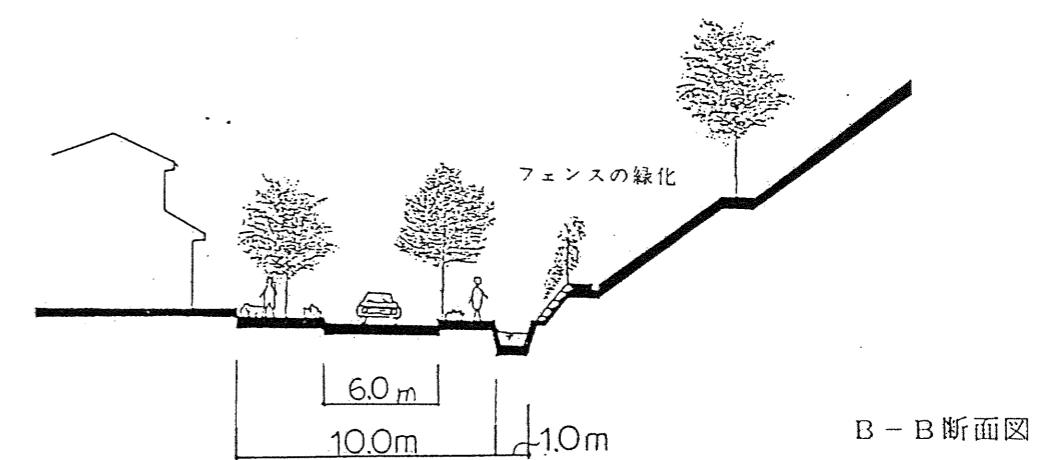
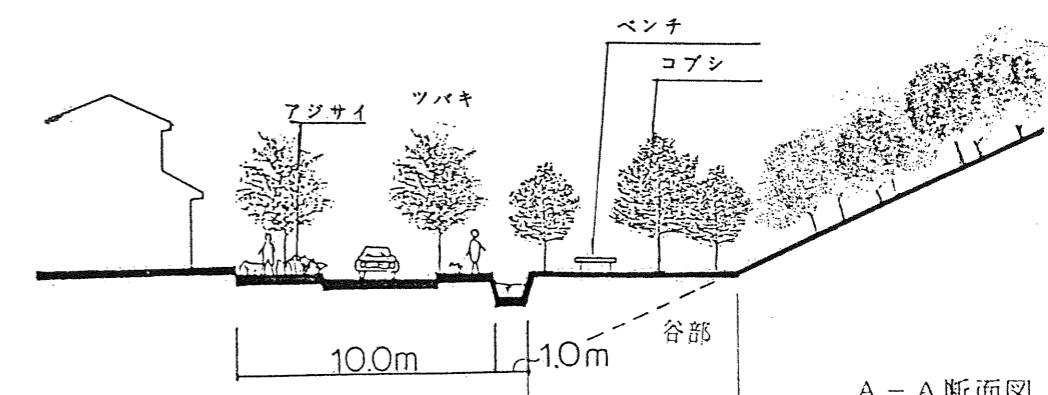
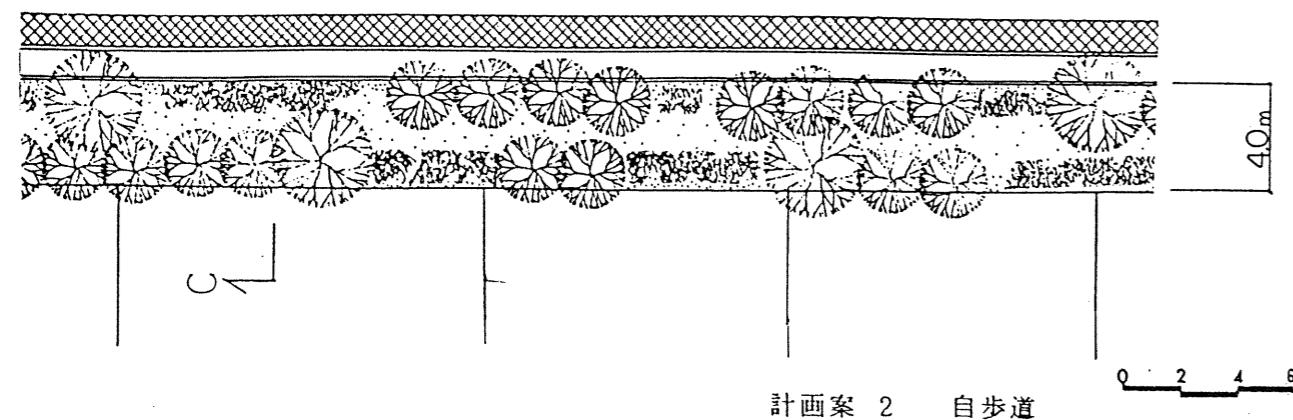
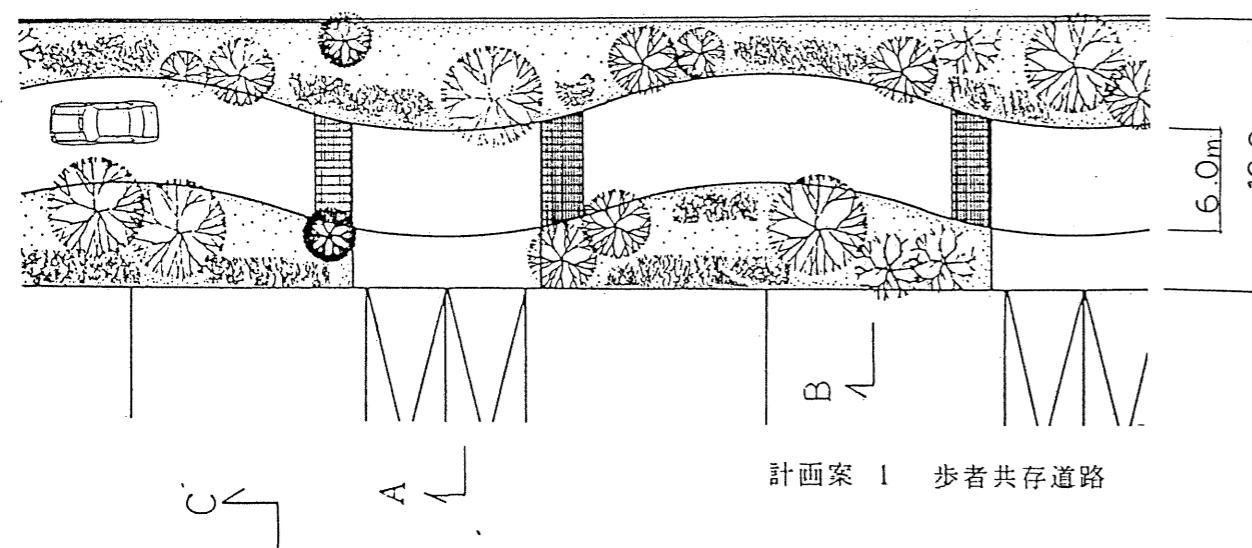
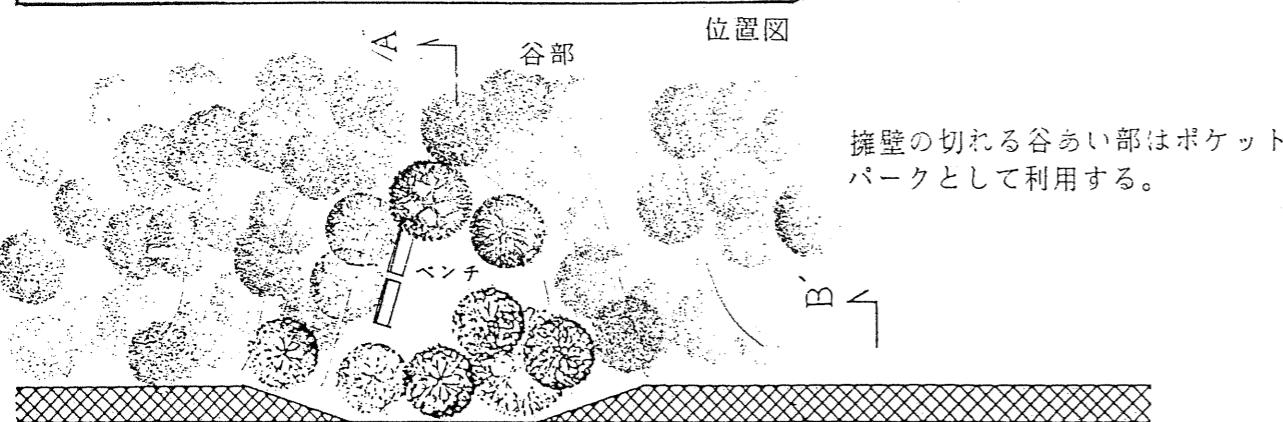


イメージスケッチ

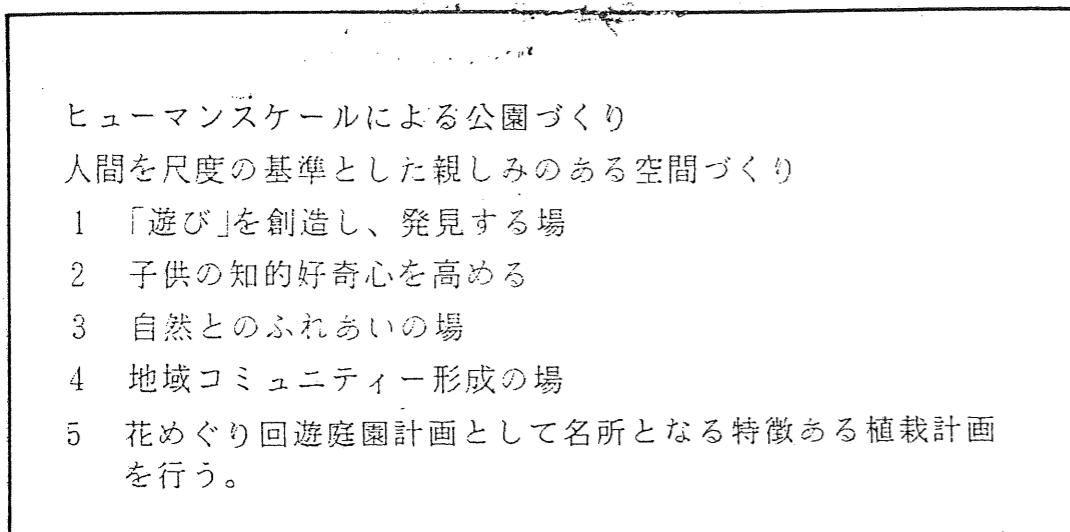




位置図

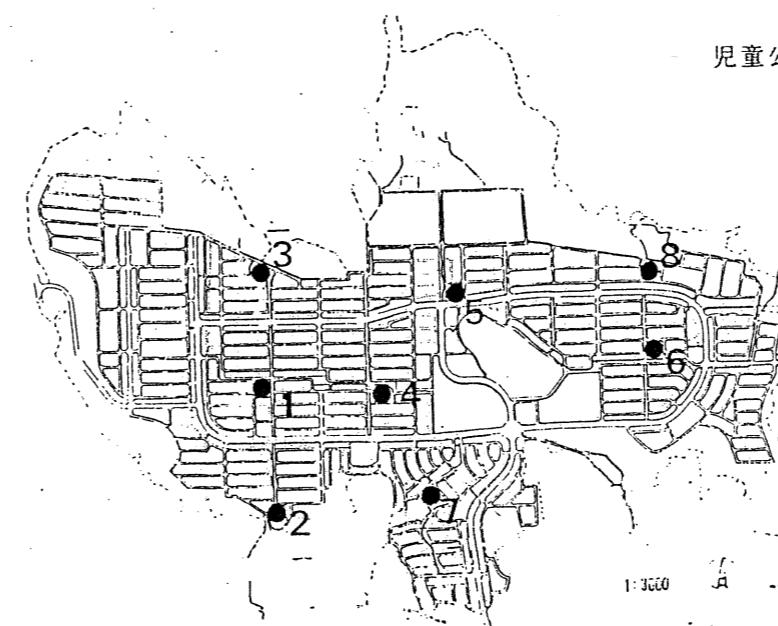


## &lt;児童公園のコンセプト&gt;



## &lt;計画の方針&gt;

- |                 |                             |
|-----------------|-----------------------------|
| 1 花をテーマにした公園づくり | —— 花めぐり、テーマ樹                |
| 2 イベント空間づくり     | —— 盆踊り、お花見                  |
| 3 回遊性           | —— 空間の変化で楽しむ                |
| 4 四季の演出         | —— 鳥、昆虫、草花、果実               |
| 5 質の高い遊具        | —— プレイスカルプチャー<br>(コンペにより募集) |
| 6 本物(素材)との出会いの場 | —— 石、木、風、光、音                |
| 7 住民参加による公園づくり  | —— 花壇コンクール                  |



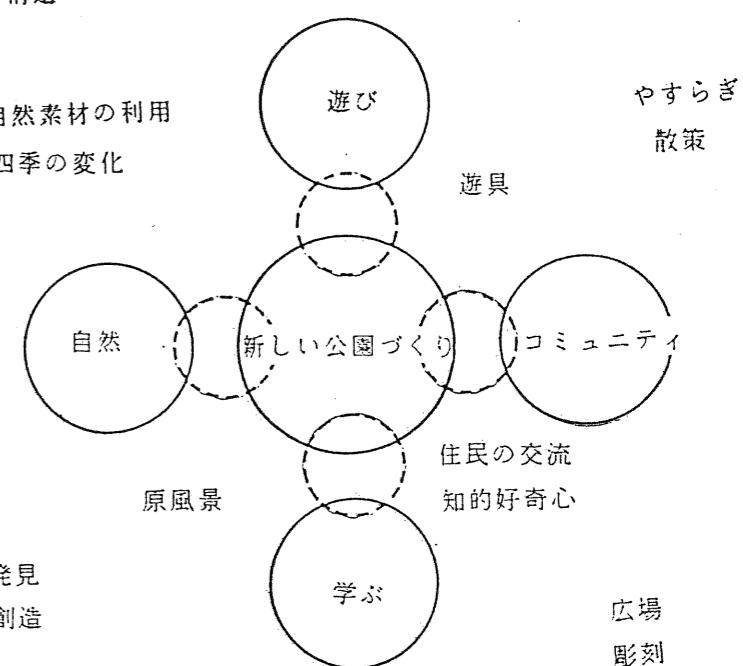
児童公園の構造

自然素材の利用

四季の変化

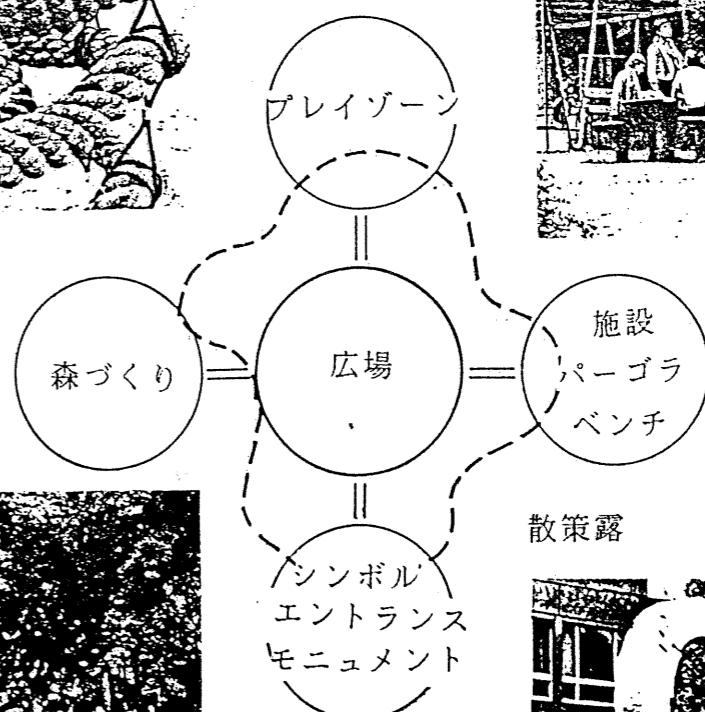
自然

原風景

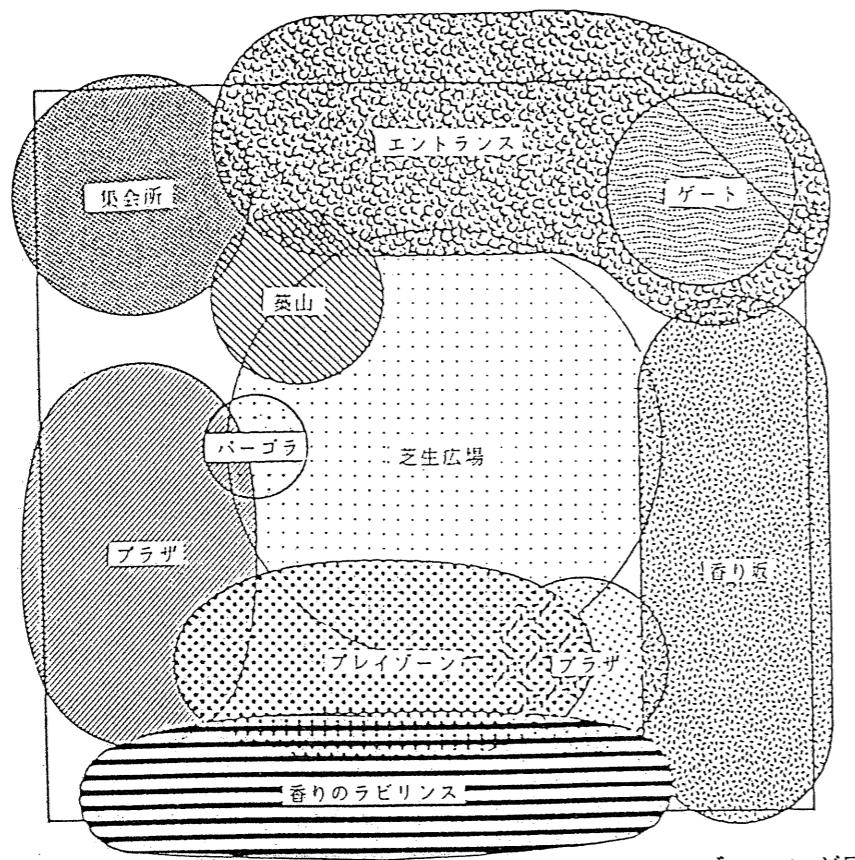
発見  
創造やすらぎ  
散策広場  
彫刻

- 1 香りの花公園 5 水辺の花公園  
2 天蓋の花公園 6 里の花公園  
3 山辺の花西公園 7 果実の公園  
4 華やかな花公園 8 山辺の花東公園

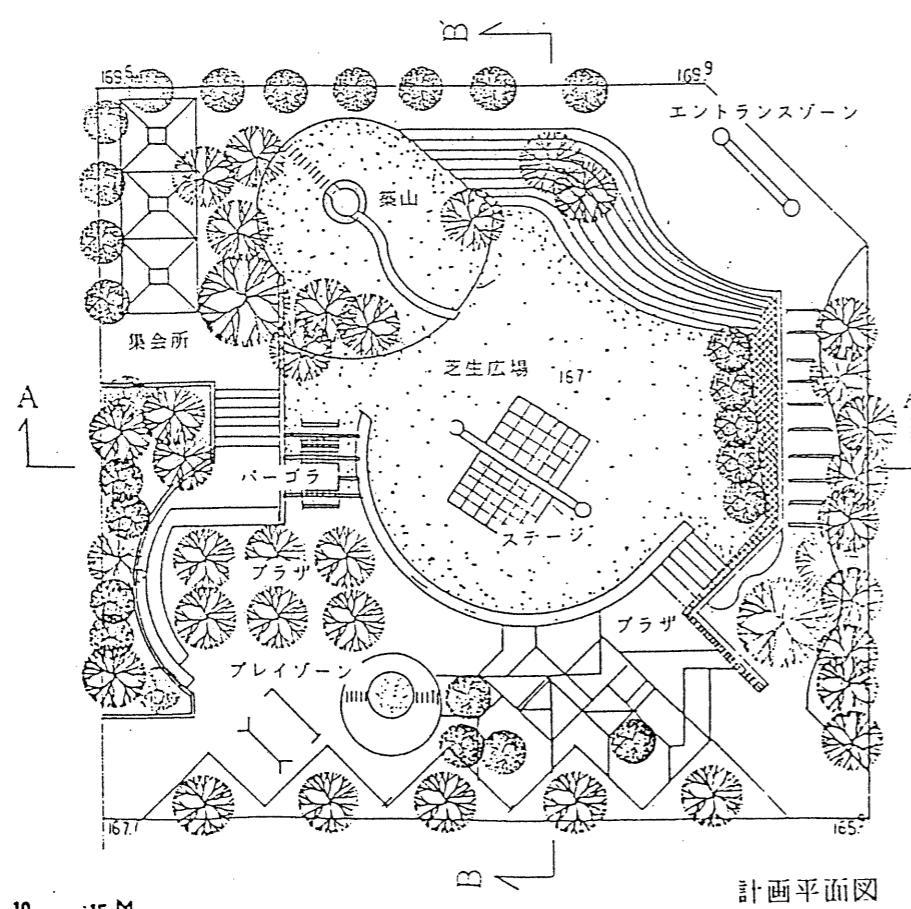
児童公園の回遊性



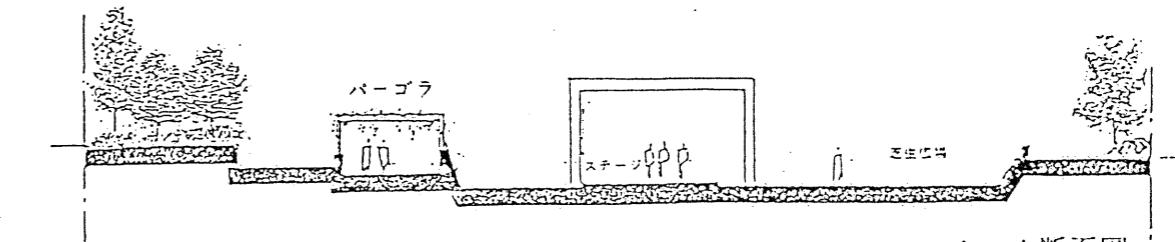
	香りの花公園 面積 m <sup>2</sup> 高低差 m	天蓋の花公園 面積 m <sup>2</sup> 高低差 m	山辺の花西公園 面積 m <sup>2</sup> 高低差 m	華やかな花公園 面積 m <sup>2</sup> 高低差 m	水辺の花公園 面積 m <sup>2</sup> 高低差 m	里の花公園 面積 m <sup>2</sup> 高低差 m	果実の公園 面積 m <sup>2</sup> 高低差 m	山辺の花東公園 面積 m <sup>2</sup> 高低差 m
条件	ヘッジロー緑道とアカシア通り(ファッショントリート)に接する。CED、児童公園との一体化	ヘッジロー緑道の南端、北法面に囲われている。	ヘッジロー緑道と山辺の道に接している。裏山からの自然の流れ。	モールの中心的な役割を果たす	収水が可能。裏山からの自然(緑の河)の流れ。	伝統的で落ち着いた街並の公園。和風の公園。	9mの落差のある地形を生かす。	裏山からの自然の流れ。
緑道との関係	秋のヘッジロー、アカシア通りとの一体化。	秋のヘッジローの南端	秋のヘッジローの北端山辺の道に接する。	アカシア通り(ファッショントリート)の中央に位置する。	雑木の道に接している。	春のヘッジロー、松の木通りに接する。	こもれ日の道に接する。	ヘッジロー緑道と山辺の道に接している。
名物	香りのするいろいろな種の木を集める。	遊具と一体化した大フジ棚。	風にゆらぐ大遊具。	クリスタルガーデン	カキツバタの水花園。(6月に紫花)	和風の公園。	大地の造形。	巨大な自然石。
計画の方針	“香りのラビンス”香りの木々の中を迷走する散策路。	公園を覆う天蓋をデザインする。	風をテーマにした公園。	輝きをテーマにした公園。	水をテーマにした公園。	日本古来の遊びの発見と造形化。	大地を造形した公園。	自然石をテーマにした公園。
子供の遊び	モダンアートと遊具の一体化したもので遊ぶ。	天蓋(パーゴラ)と一体となった立体遊具。	裏山からの風にゆらぐ遊具。	芝生広場。	水遊び。	日本の昔からの遊びを生かす。	大地の起伏を利用した自由な遊び。	自然の岩盤、巨大な自然石。
四季の花	(春) ジンチョウゲ (初夏)(夏) ウケザキ オオヤマレンゲ (秋) キンモクセイ (冬) ソシンローバイ	フジ ノウセンカズラ アケビ(実) ムベ	ハコネウツギ シャラ ムラサキシキブ アラカシ	モッコウバラ ハナミズキ アカンサス ヒペリカム フウ ホーリーコニファー	カツラの新緑 バイカツギ カキツバタ マユミ カキツバタ	ウメ フヨウ ハギ サザンカ	マグノリア カリン ザクロ ズミ ヤマモモ	ヤマブキ ナンジャモンジャ ナツハゼ ソヨゴ
花めぐり テーマ樹	ウケザキ オオヤマレンゲ	フジ	シャラ	ハナミズキ	カキツバタ	ハギ		ナンジャモンジャ (ヒトツバタゴ)



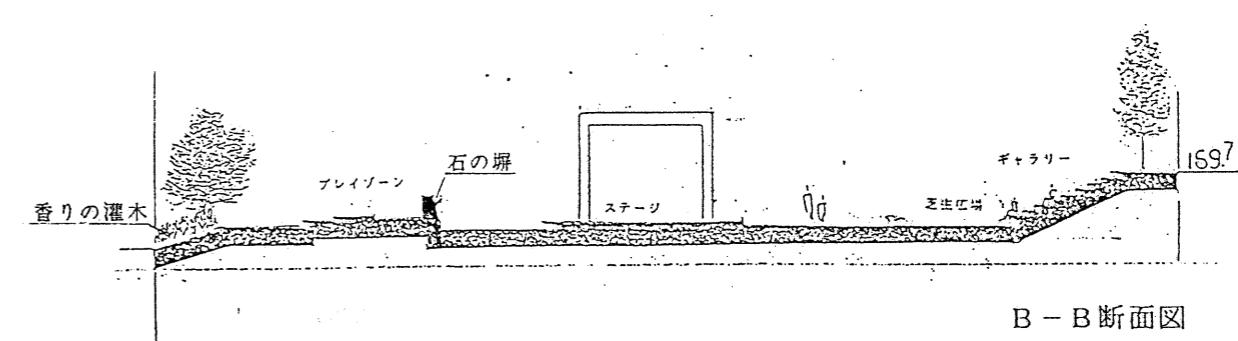
ゾーニング図



計画平面図



A-A断面図

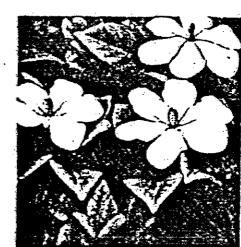


B-B断面図

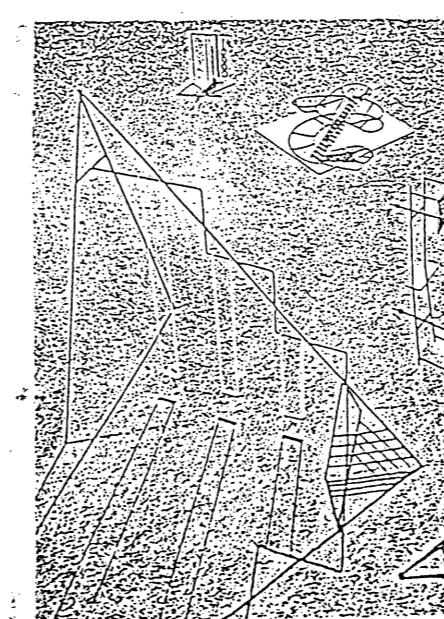
香りの花



ジンチョウゲ



クチナシ



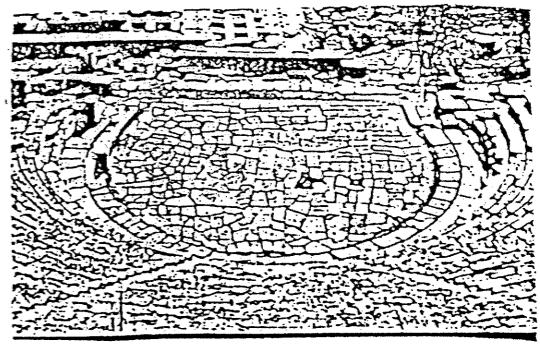
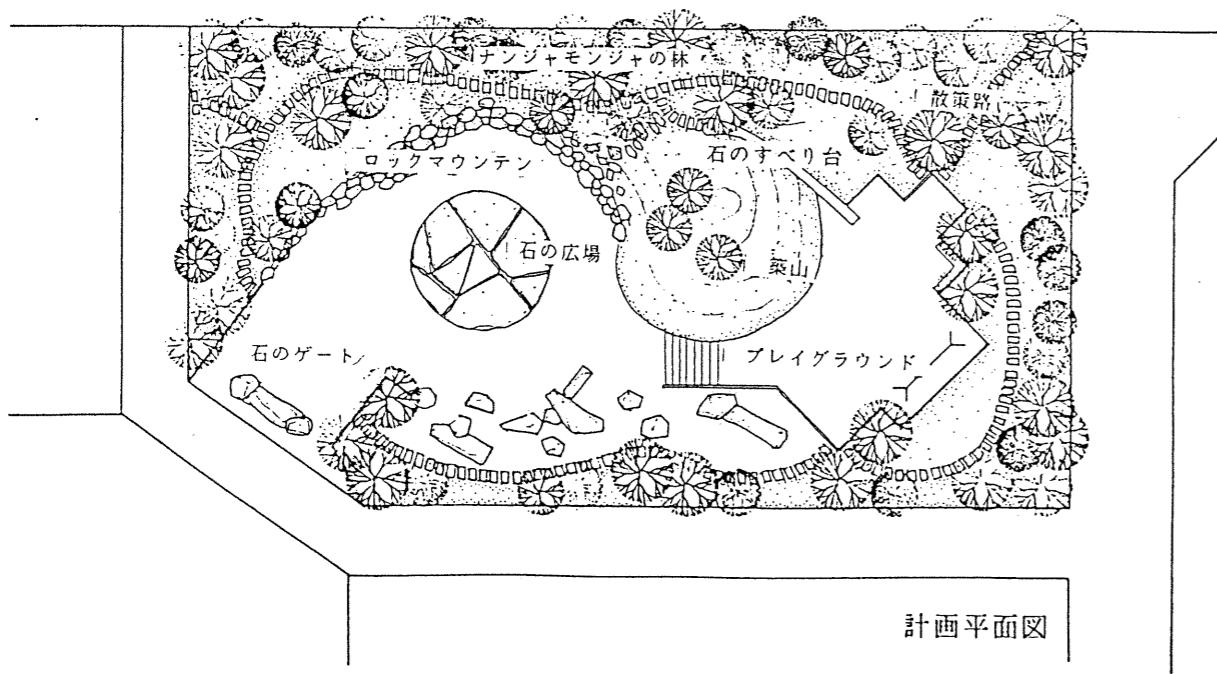
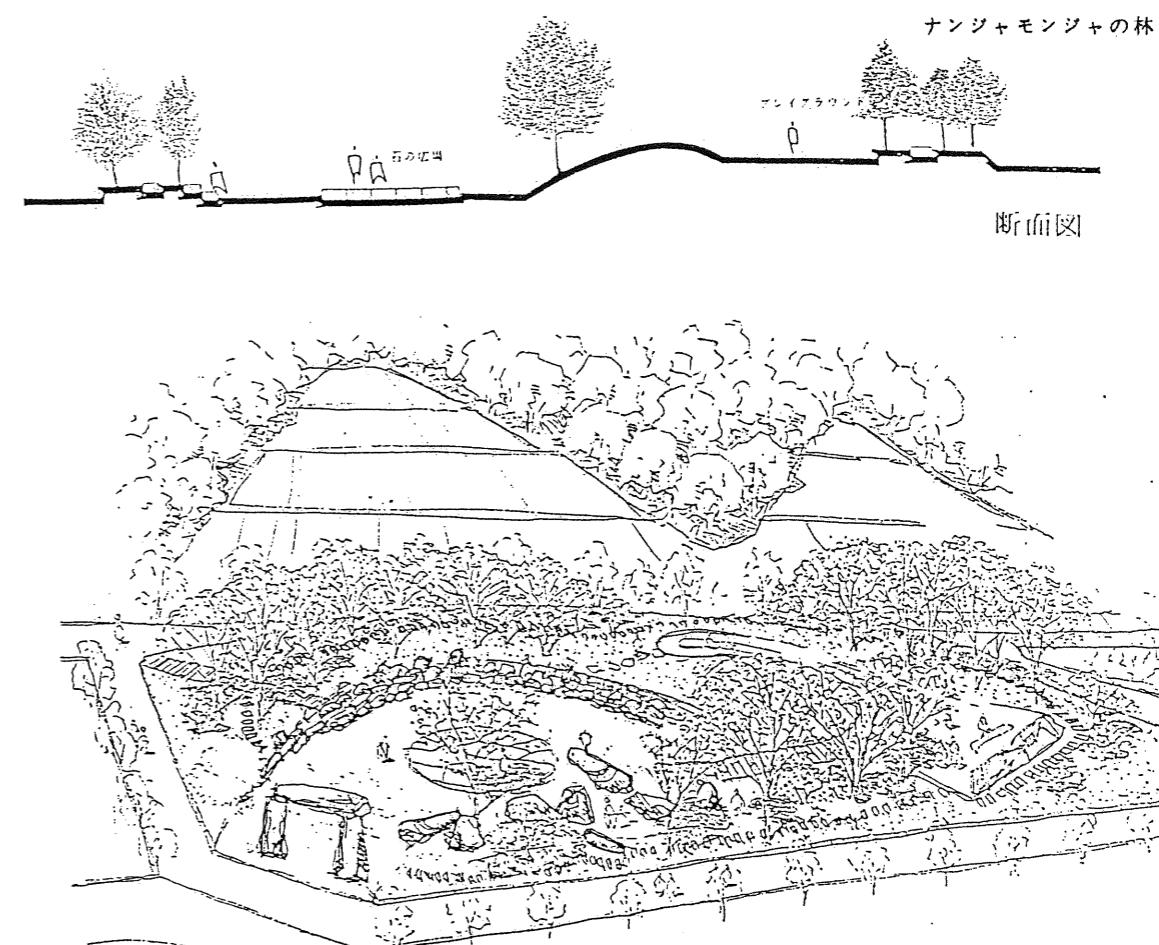
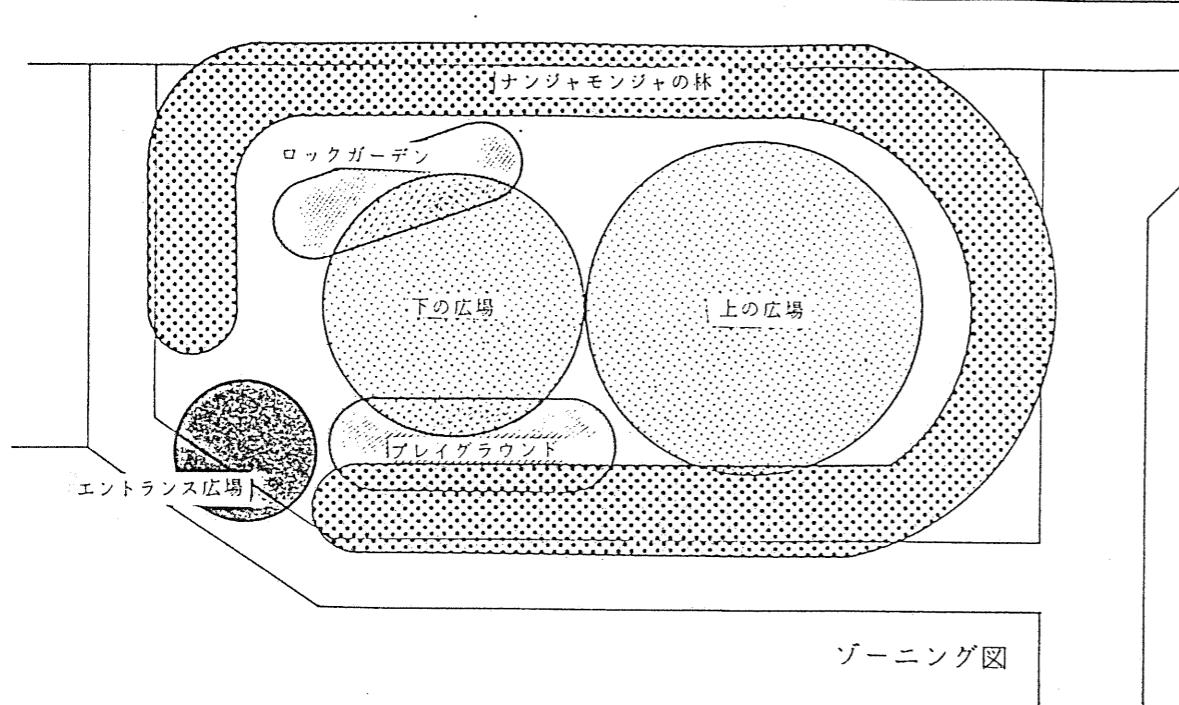
プレイスカルブチャー

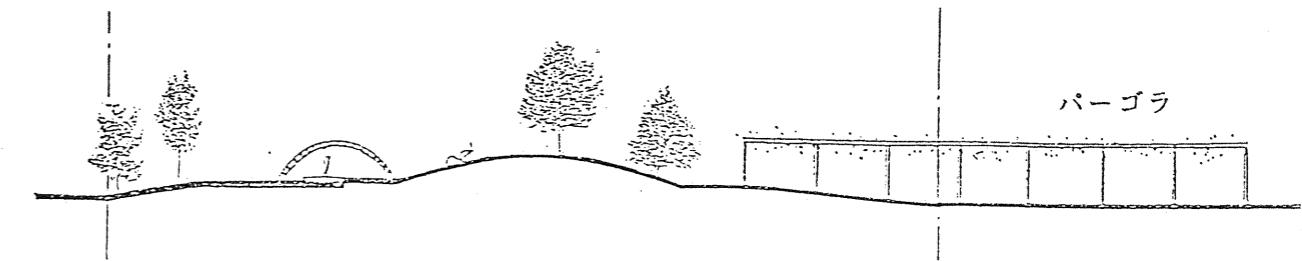
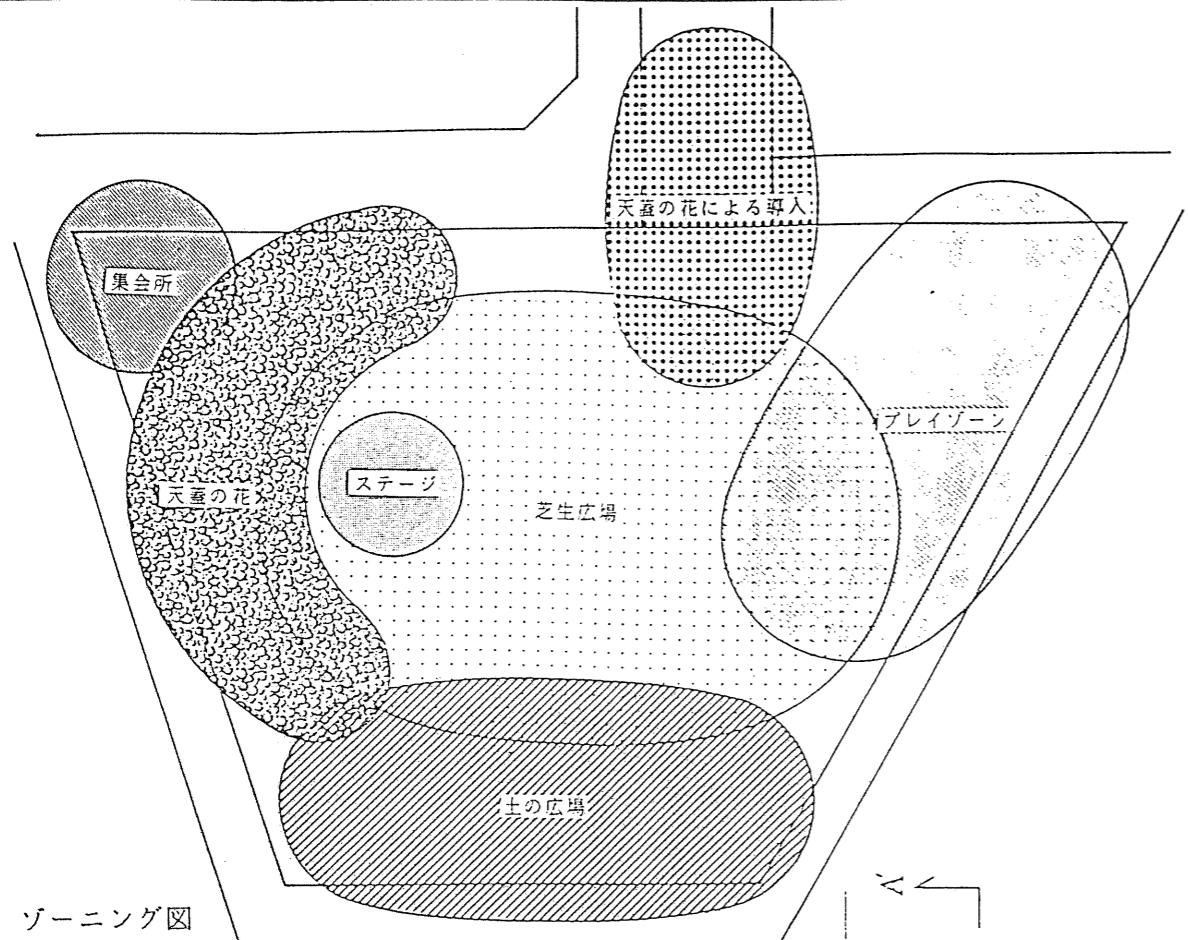


ウケザキオオヤマレンゲ

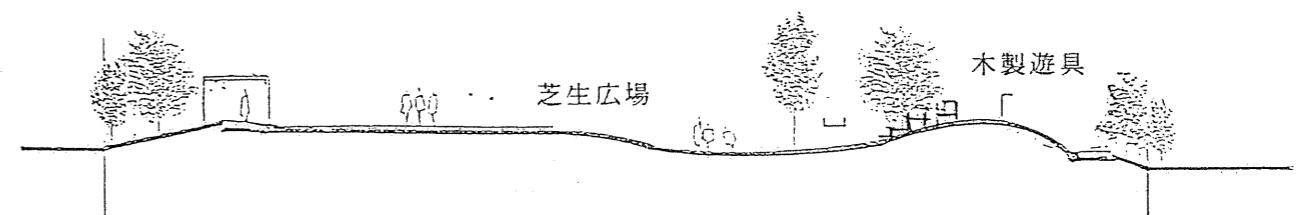


ソシンローバイ

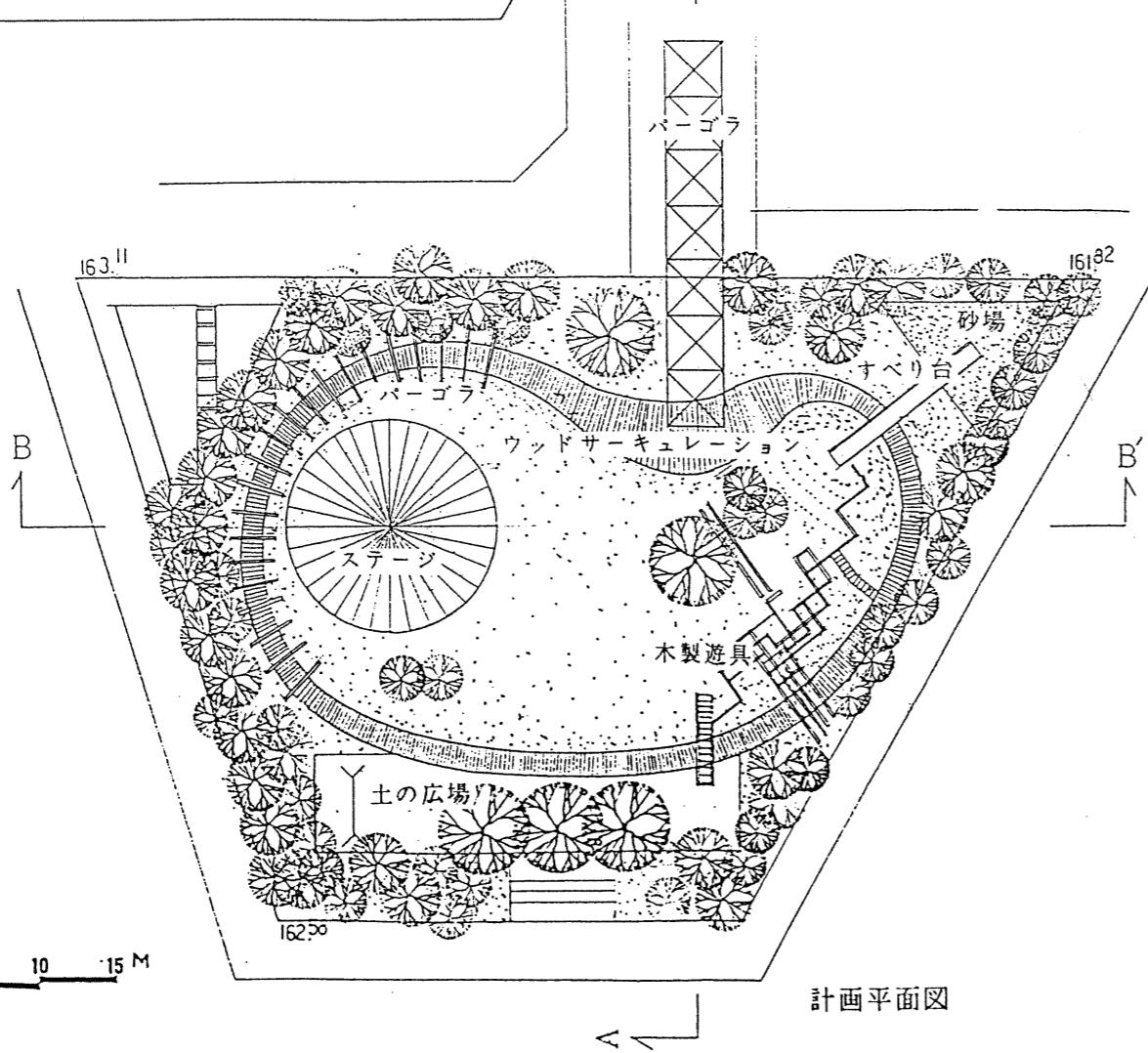




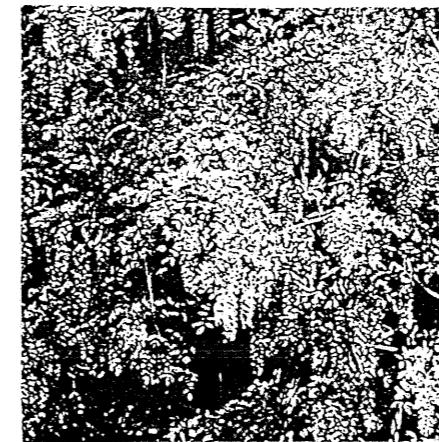
A-A断面図



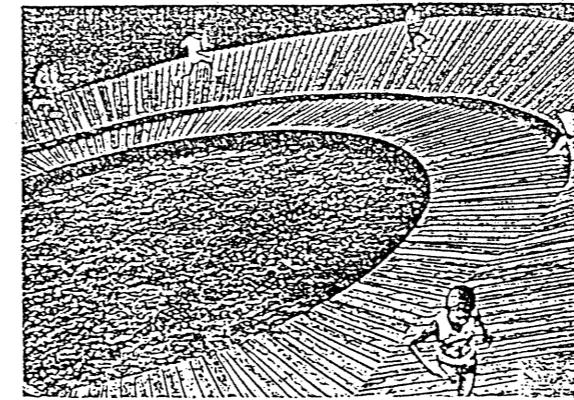
B-B断面図



計画平面図



フジの花

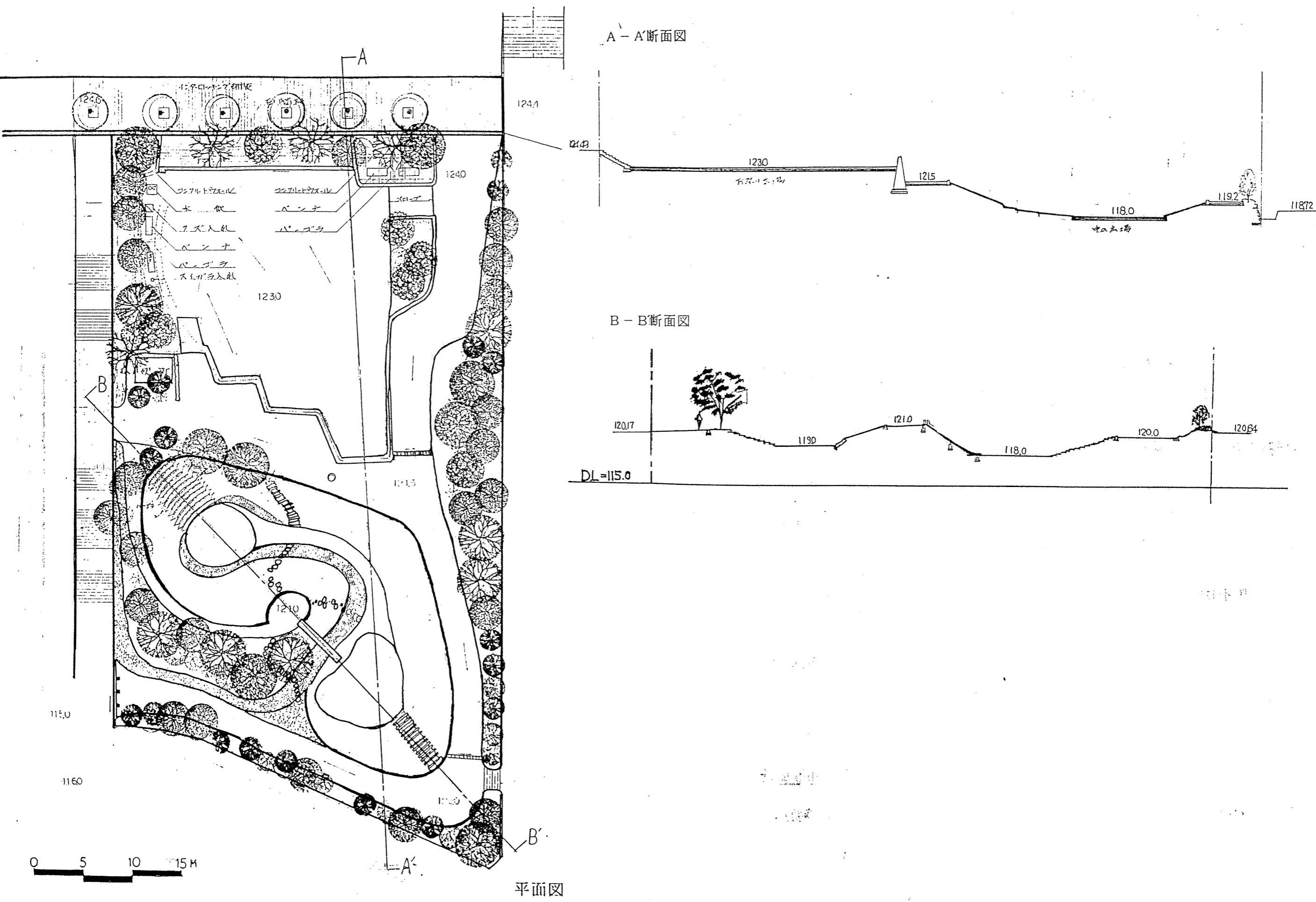


木の子



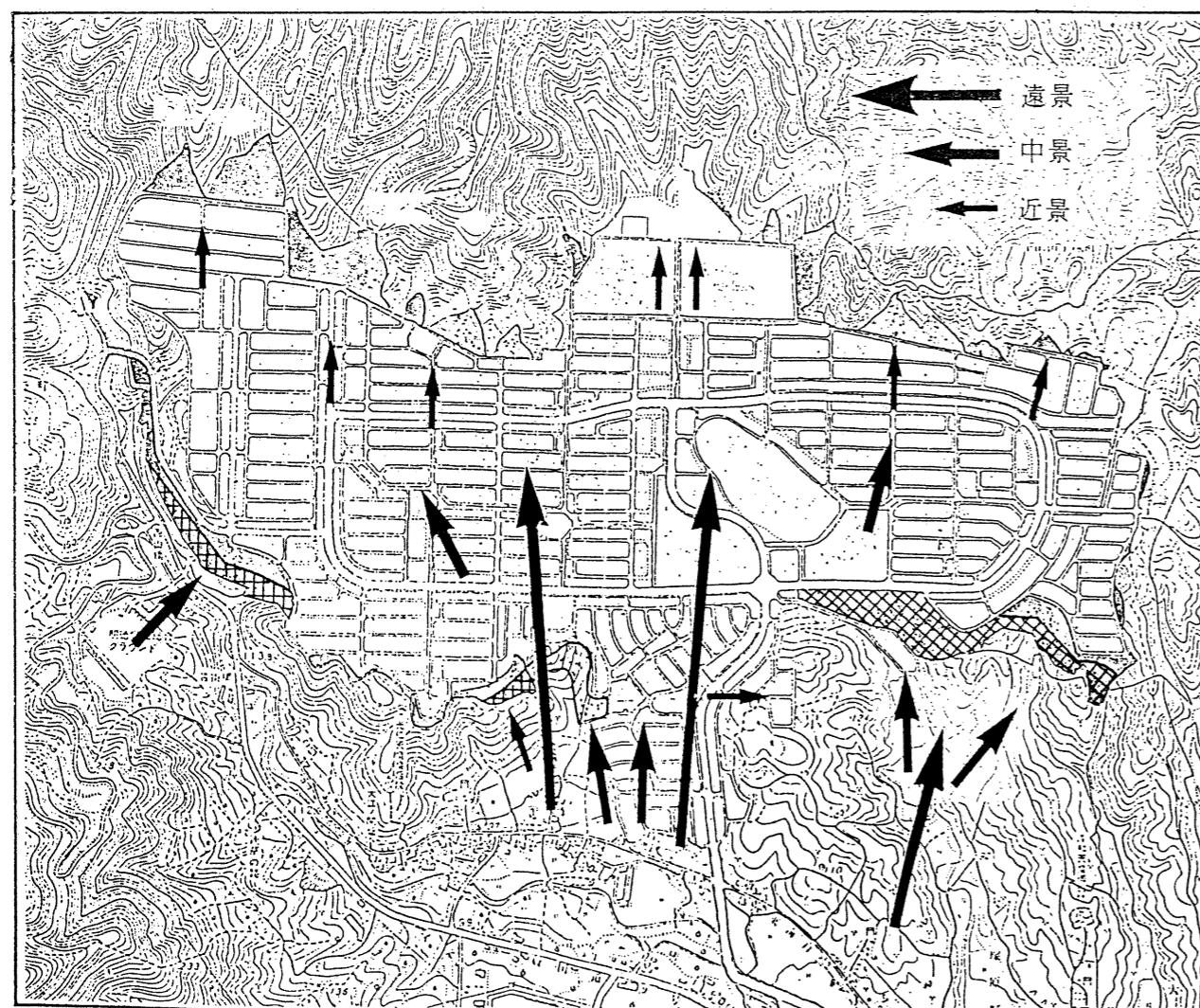
芝の原





## &lt;法面の考え方&gt;

- 1 裏山の自然の一部として、大自然に復元する。
  - ・野鳥公園に接する部分は鳥、昆虫の生息の場として積極的な環境づくり
  - ・自然の植生種による法面の復元
- 2 「桂坂」の景観を構成する重要なファクターである。
  - ・街の土地利用、地形の変化に即した法面の緑化手法の検討
  - ・景観(遠景、中景、近景)に対する配慮



景としての法面

## &lt;計画の方針&gt;

地質条件が悪く、十分な植栽条件が満たされないため、基本的には自然遷移に任せながらも補植を実験的に行い、樹種、植栽時期の検討を重ねて長期に渡って緑化していく。

## 1 景観計画

造成による巨大法面は敷地内、京都市内からも見渡せる遠景、中景、近景に対応した法面の景観を構成する

遠景＝敷地外、周辺地域からのVIEW 早急に緑化する

中景＝敷地内、周辺地域からのVIEW ゆったりと自然を再生する

近景＝周辺宅地からのVIEW フェンス、擁壁の緑化  
花木、灌木により宅地への圧迫感を和らげる

## 2 植栽計画

生態植生の復元 アカマツ、アラカシ、ソヨゴ、ツバキ、カナメモチ、ヤマザクラ、コナラ、クヌギ

乾燥に強い樹種:パイオニアツリーの植栽により初期植生を形成する  
ウバメガシ、アカマツ、リョウブ、ハンノキ

ローコスト化の検討:苗木、種子による緑化

部分的に高木植栽も実験的に行う

法面の緑化は生態的にも難しく、またメンテナンスも不可能であるため、実験を行い生長を観察しながら行ってゆく

3 鳥、昆虫の生息環境づくり計画  
手法

中高木をまとめて点在さす

鳥の隠れ場所となる灌木の群植

食餌木の植栽 cf. ヤブツバキの群植 メジロ、ヒヨドリ

草原づくり cf. ササ原 ウグイス

## 法面に生息する鳥

一年中、法面に生息する鳥

キジ、コジュケイ、メジロ、シジュウカラ

秋～冬に生息する鳥

ウグイス、モズ、ジョウビタキ、カシラダカ

## 昆虫の生息、繁殖の場

食草の植栽

カンキツ類

クロアゲハ、アゲハ

セリ科の植物

モンキアゲハ

ハギ

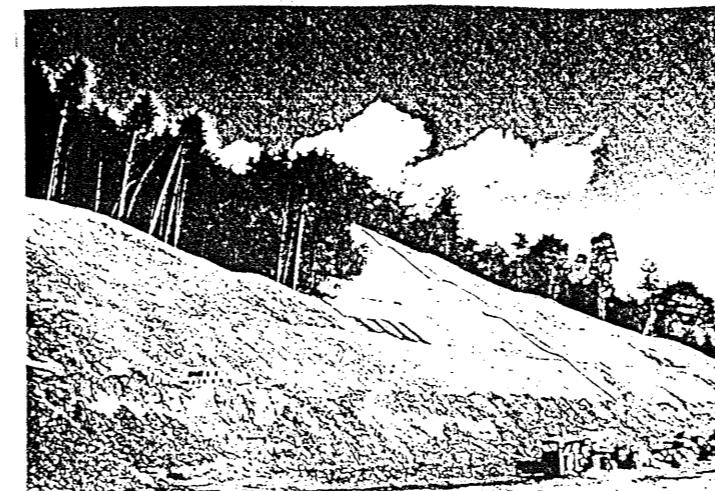
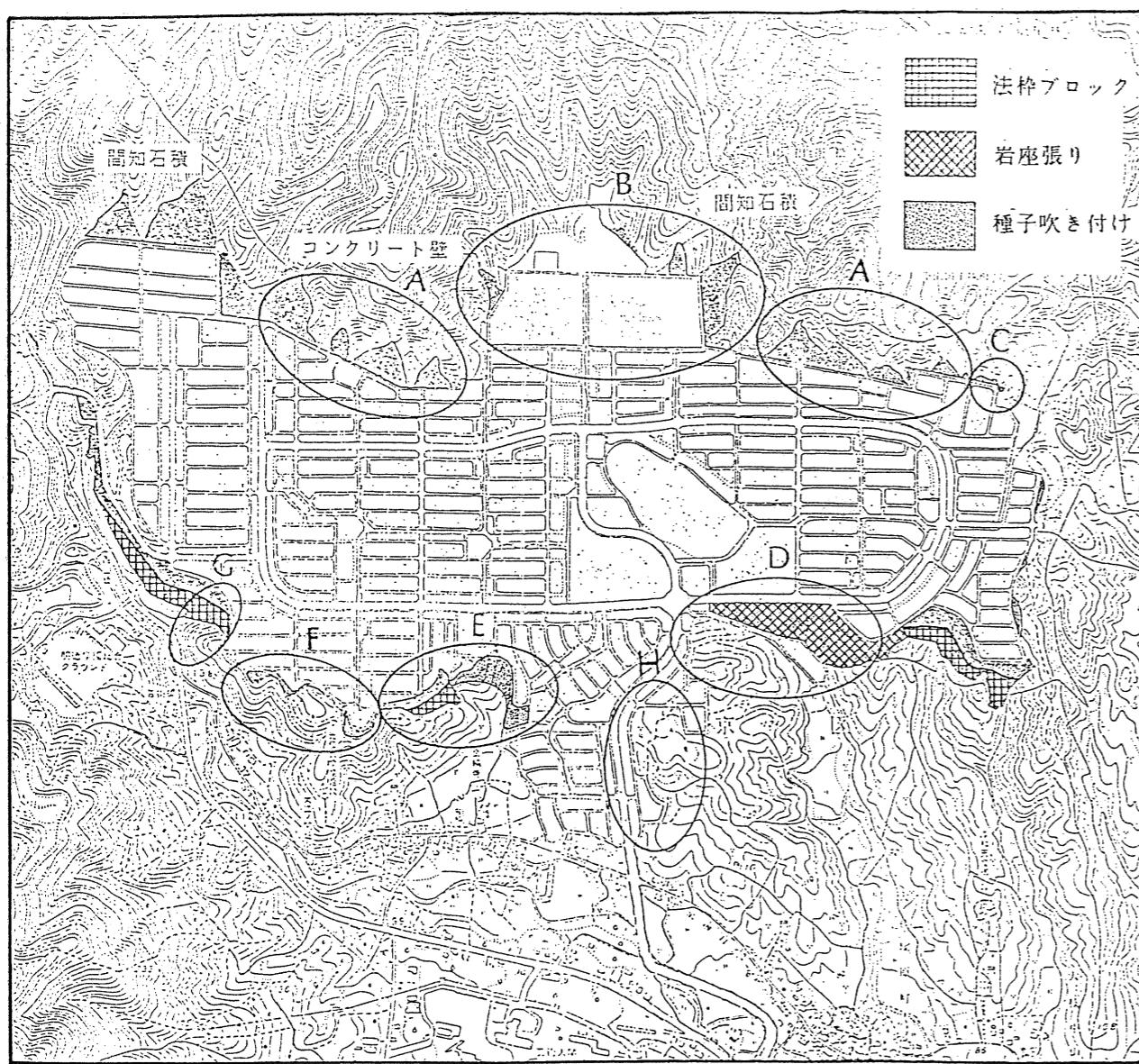
キチョウ

スミレ、キイチゴ

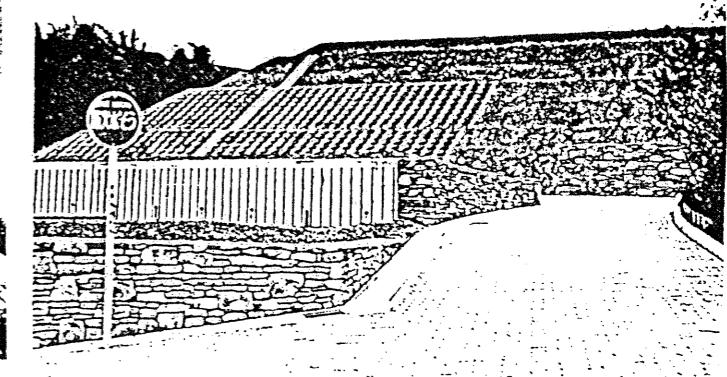
ヒョウモン類

ハンノキ

ミドリシジミ



切土法面



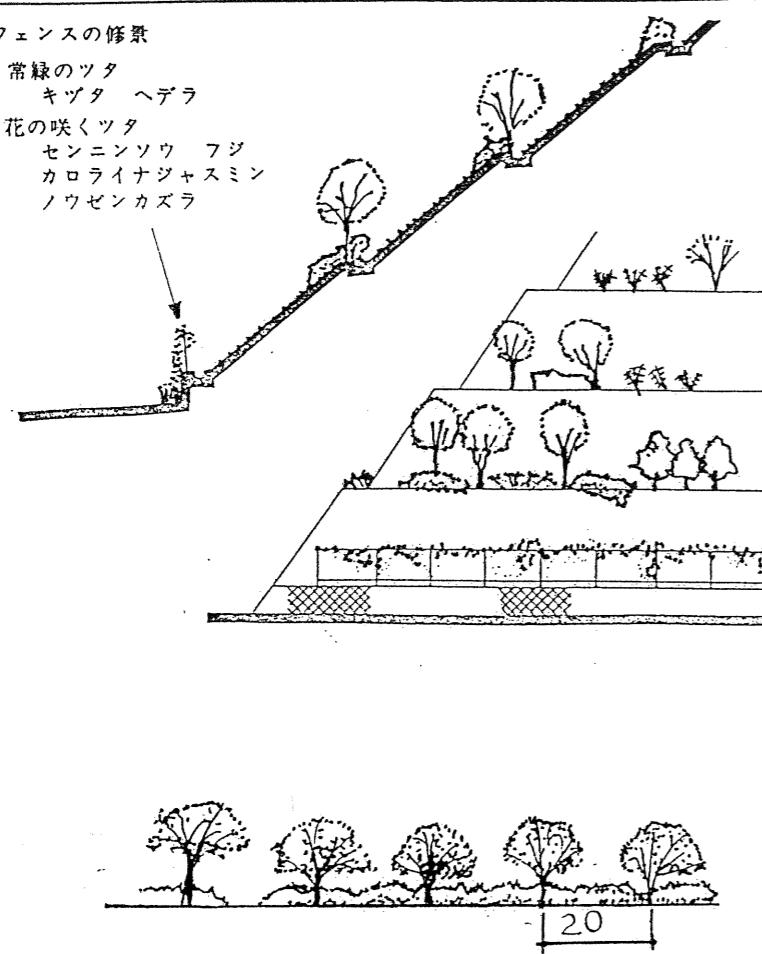
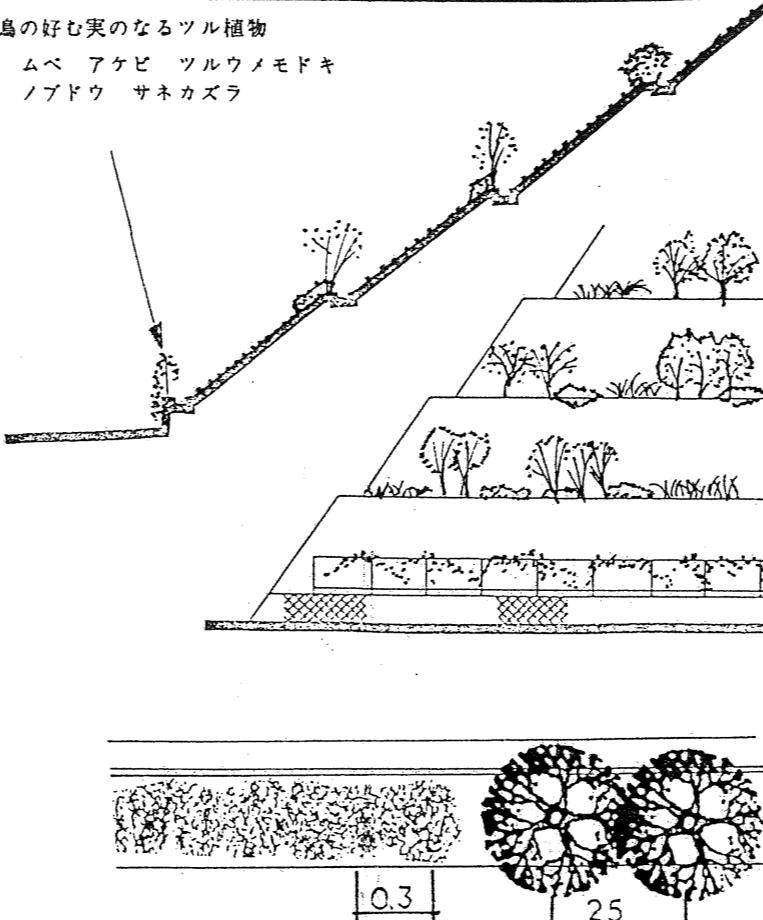
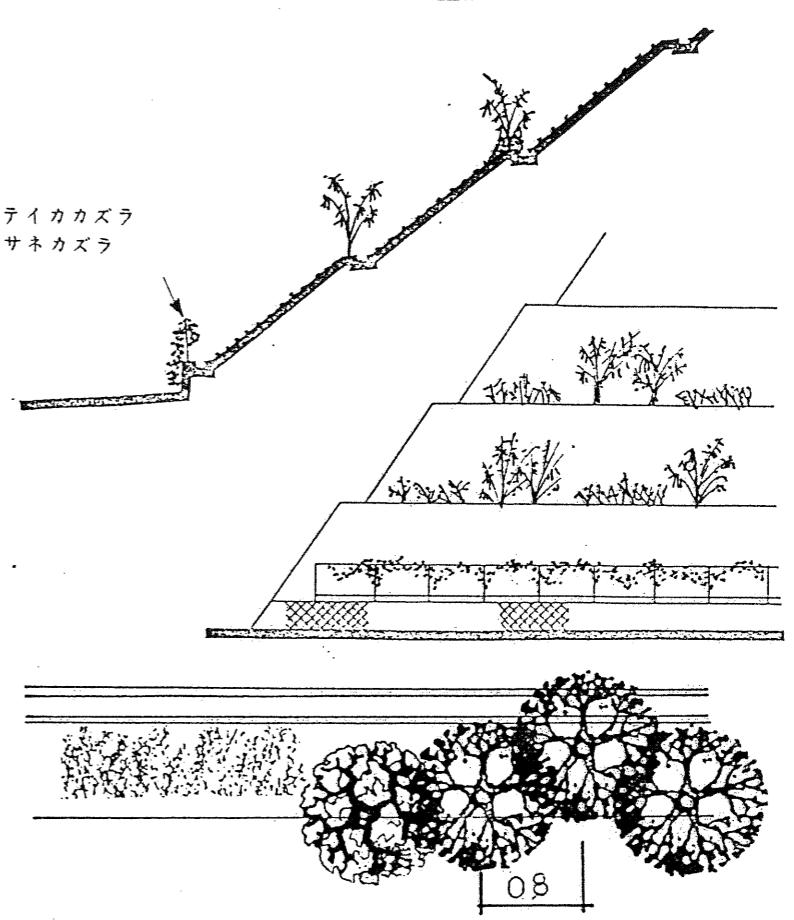
盛土法面



岩座張

## 現況種子吹付リスト

Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
ケンタッキー31F クリーピングレッド よもぎ メドハギ エニシダ	ホワイトクローバー ショートバミューダ ペレニアルライグラス ベントグラス	ショートバミューダ ペレニアルライグラス ベントグラス ホワイトクローバー

	A	B	C
	 <p>フェンスの修景 常緑のツタ キヅタ ヘデラ 花の咲くツタ センニンソウ アジ カロライナジャスミン ノウゼンカズラ</p> <p>20</p>	 <p>鳥の好む実のなるツル植物 ムベ アケビ ツルウメモドキ ノブドウ サネカズラ</p> <p>0.3</p>	 <p>ティカカズラ サネカズラ</p> <p>0.8</p>
計画の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大自然への早期復元</li> <li>・鳥、昆虫の生息の場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥の生息環境づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹林につながる森の復元</li> </ul>
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裏山、宅地に接する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野鳥公園との一体化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹林と宅地に接する</li> <li>・将来、宅地により竹林はなくなる可能性あり</li> </ul>
地形・地質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南斜面、一部硬岩露出あり</li> <li>・切土</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南(西、東)斜面</li> <li>・切土</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西斜面</li> <li>・切土</li> </ul>
景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠景 - 京都市内</li> <li>・中景 - 敷地内</li> <li>・近景 - 宅地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中景 - 敷地内</li> <li>・近景 - 野鳥公園、学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近景 - 宅地</li> </ul>
生き物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥 --○</li> <li>・昆虫 -○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥 --○</li> <li>・昆虫 -○</li> </ul>	
植栽手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然植生種の苗木、種子</li> <li>・灌木の群植</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高木の点在(鳥の生息)</li> <li>・昆虫の食草</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・灌木の群植(鳥の生息)</li> <li>・自然植生種の苗木、種子</li> <li>・フェンス植栽</li> <li>・実のなる植物</li> </ul>
	<p>アカマツ、ヤマザクラ、コナラ、アラカシ、ツバキの群植 エノキ、ヒイラギ、ツゲ、アカメガシワ、イイギリ、ススキ、 カンキツ類、ハギ、ウマノスズクサ</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹、ササ植栽による竹林との一体化</li> </ul> <p>モウソウチク、コマグザサ、オカメザサ 同左、ムラサキシキブ、ガマズミ、 ナツハゼ、ムベ、アケビ、サネカズラ</p>

	D	E	F
計画の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩座張りのため植栽は行わない</li> <li>・実験的にスイカズラ、ヘデラ等のつる植物による緑化を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅地からの眺め(近景)を重視した法面の植栽</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アプローチ道路、宅地からの景観づくり</li> </ul>
土地利用			
地形・地質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南斜面、 岩座張り</li> <li>・盛土</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南斜面 - 一部法枠ブロック</li> <li>・盛土</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北斜面</li> <li>・切土</li> </ul>
景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中景 - 国道洛西N.T</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中景 - 敷地内</li> <li>・近景 - アプローチ道路、宅地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中景 - 敷地内</li> <li>・近景 - 宅地</li> </ul>
生き物			
植栽手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩座張り部の植栽(強健な樹種)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盛土部、小段 高木、花木&lt;春・秋&gt;を演出する植栽</li> <li>・草花の種子吹付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「春の訪れ」を植栽で演出する</li> </ul>
植栽樹種	スイカズラ(要実験)、ヘデラ、ツタ	<p>春 - サクラ、エニシダ            秋 - カエデ、ハギ            草花 - シャスターデージ、オオキンケイギク            コスモス、ノコンギク</p>	<p>花木 - ハナモモ、サンシュ            灌木 - レンギョウ、ユキヤナギ            草花 - オオキンケイギク、シャスターデージ</p>

	G	H	H
計画の方針	・防災上の問題点で高木になる植栽は行わない	・アプローチ道路、宅地からの景観づくり	・アプローチ道路、宅地からの景観づくり
土地利用	国道に接する		
地形・地質	・南西斜面 ・盛土	・西斜面 ・切土	・西斜面 ・切土
景観	・中景－国道	・中景－敷地内 ・近景－宅地	・中景－敷地内 ・近景－宅地
生き物			
植栽手法	・吹付主体ツル植物による植栽を考慮する	・「春の訪れ」を植栽で演出する	・京都の伝統的植林技術を生かす
植栽樹種	種子吹付	花木－ハナモモ、サンシュ 灌木－レンギョウ、ユキヤナギ 草花－オオキンケイギク、シャスターデージ	・北山スギの苗木植栽

## &lt;公益的施設の環境形成の考え方&gt;

公益的施設と呼ばれるものは、センター、小・中学校、幼稚園、集会所などである。現存の段階において、まだ規模、利用計画、施設計画等の何も具体的な計画がなされていない。公共施設の環境形成は、予算の面からも施設の面からも、施設計画の2の次になってしまふのが現実である。しかし、環境形成を最優先させることが、自然豊かな街づくりをめざす「桂坂」では新しい街づくりの指針として重要である。

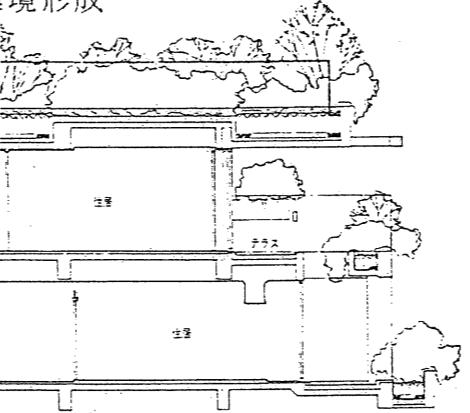
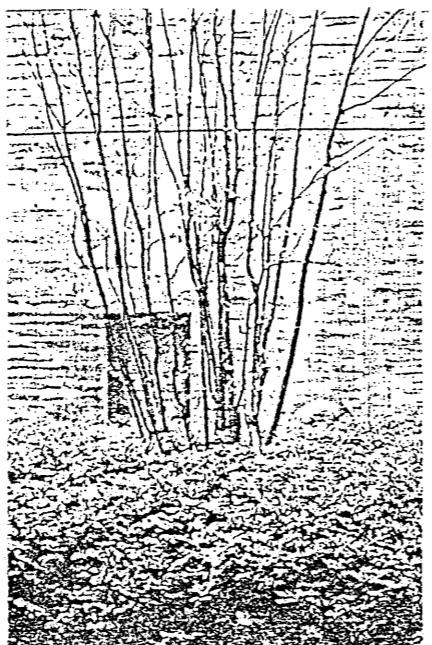
## &lt;提案&gt;

ここではいくつかの緑化手法を提案することにより、公共施設計画に、特に環境形成からの意向としての意図を反映させてもらう。

## &lt;手法&gt;

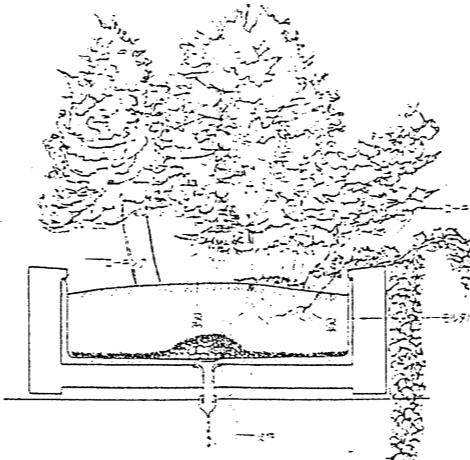
## 1 早期植栽

施設計画に先立って樹林をつくる。  
植物の生長量と森の自然な姿になることを期待する。



## 2 引き算の植栽計画

樹林の中に建築を計画してゆく。  
樹林が建築のプランを規定する。



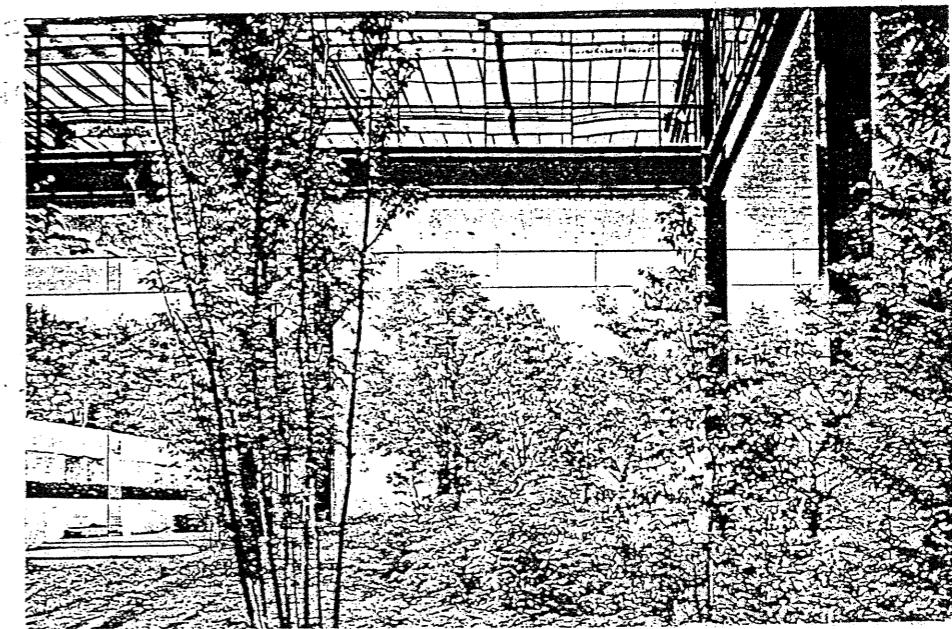
## 3 巨木の植栽

建築をおおい、建築と対等する樹林の植栽。  
ケヤキ、エノキ、クス

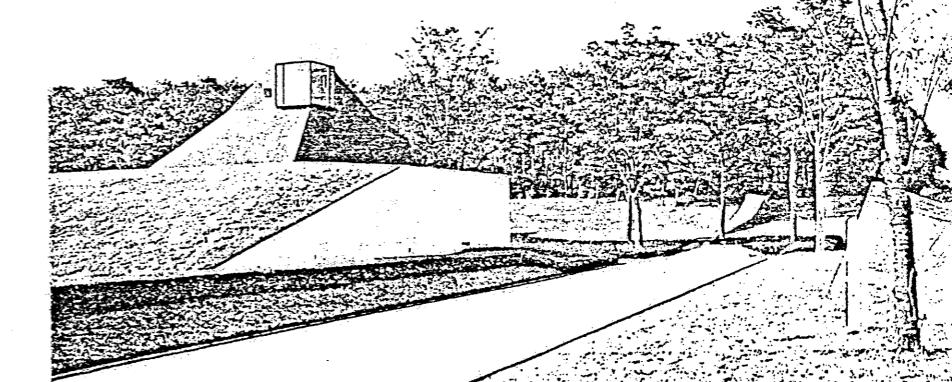


味気無い壁面を緑化荷より  
表情を豊かにする

立体植栽—ルーフガーデンの提案



建築内の緑化



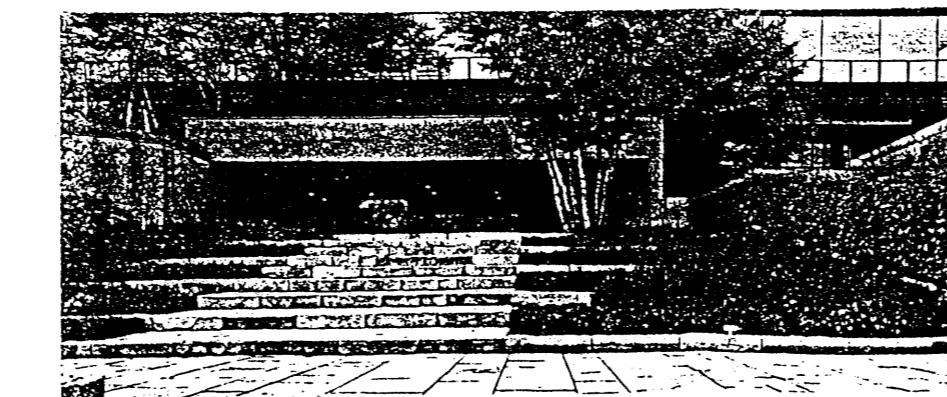
地形-環境と一体化した建築



垂直緑化

## 4 建築内への植物の導入

外部だけでなく、建築内部にも植栽  
スペースをとる。



緑豊かな建築のファサード

## 5 草花による街の装飾

ツル植物により、垂直面も緑化する。

## &lt;コンセプト&gt;

「自然」と「街」の融合した「桂坂」の核の建設

## &lt;計画の方針&gt;

- ・緑道とセンターを有機的につなぐ

人の流れ、自然の流れ、文化の流れ、時間の流れ　　昼と夜、冬と夏の変化

- ・3つの緑道の特徴を表現した3つのプラザ

華やかさーアカシア通り

落ち着きー松並木通り

変化　ーこもれ日の道

- ・建築と自然の融合する空間づくり

人の交流

文化の交流

アトリウム



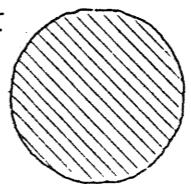
アトリウム

キンメイモウソウ竹を現代空間の中に生かす

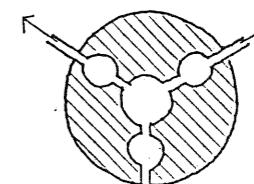
竹の再発見

## &lt;コンセプト&gt;

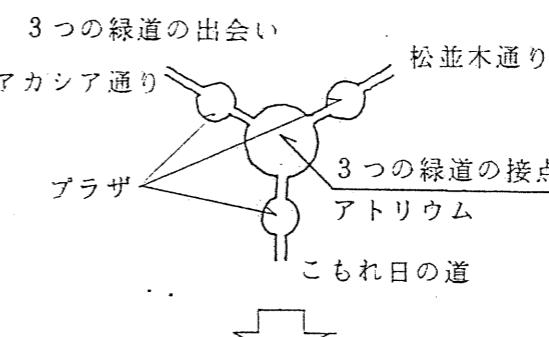
街の核として  
のセンター



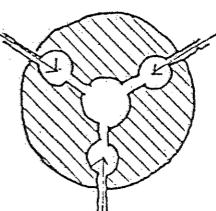
## 呼吸する街づくり



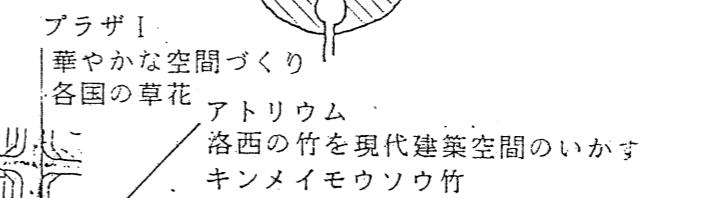
文化の流れ



「自然」と「街」の融合し  
た「桂坂」の核建設へ



自然の流れ



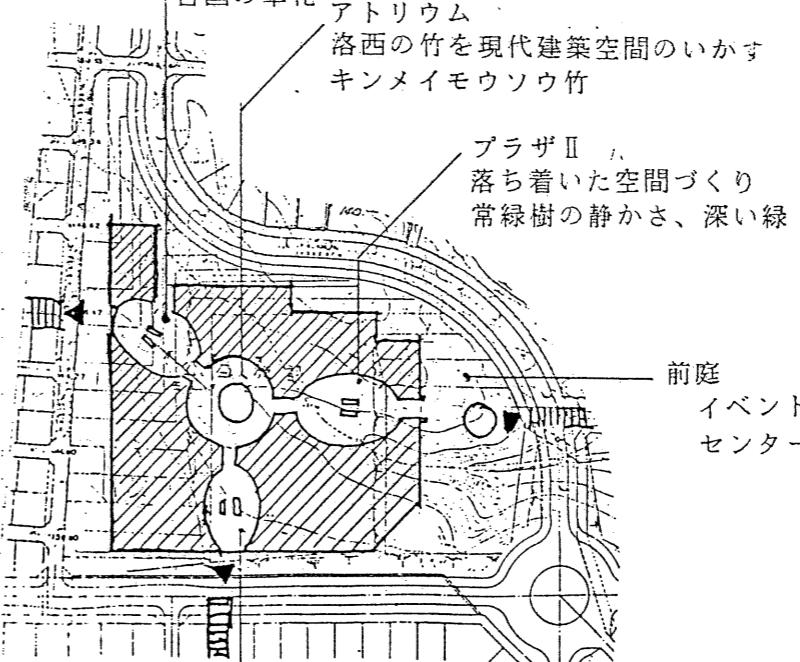
プラザⅠ

華やかな空間づくり

各国の草花

アトリウム

洛西の竹を現代建築空間のいかす  
キンメイモウソウ竹



プラザⅡ

落ち着いた空間づくり  
常緑樹の静かさ、深い緑

前庭

イベント空間  
センターの顔

プラザⅢ

高低差を利用した変化に富む空間づくり

花の咲く落葉樹

紅葉する木

## &lt;方針&gt;

## ・緑の河の形成

野鳥公園、緑道に接する部分の緑地帯化

森の熟成、野鳥公園のアプローチとして早期植栽

野鳥公園側緑地帯 - 緩衝帯、鳥の生息地

緑道、緑地帯 - 学校内の環境づくり

## ・学校林の形成

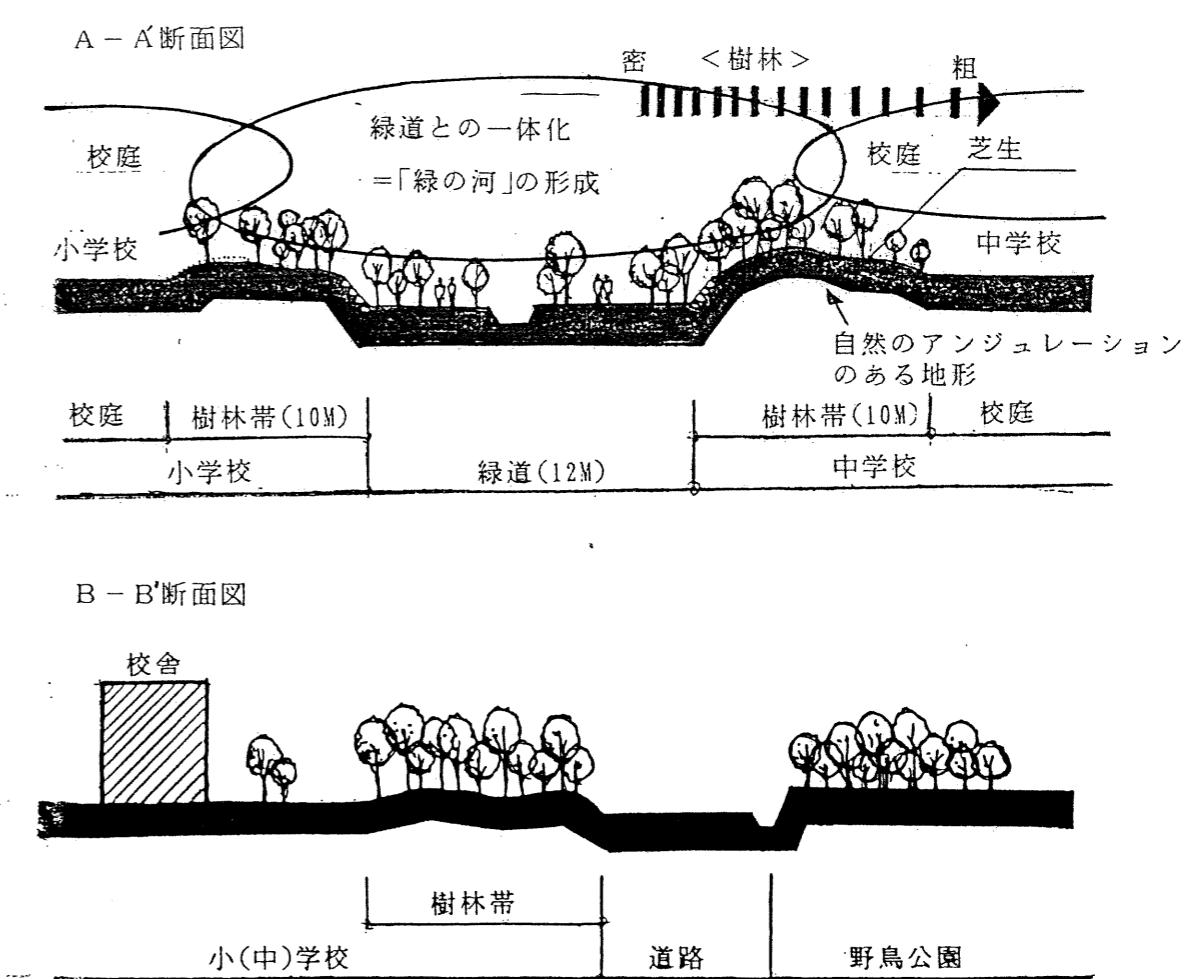
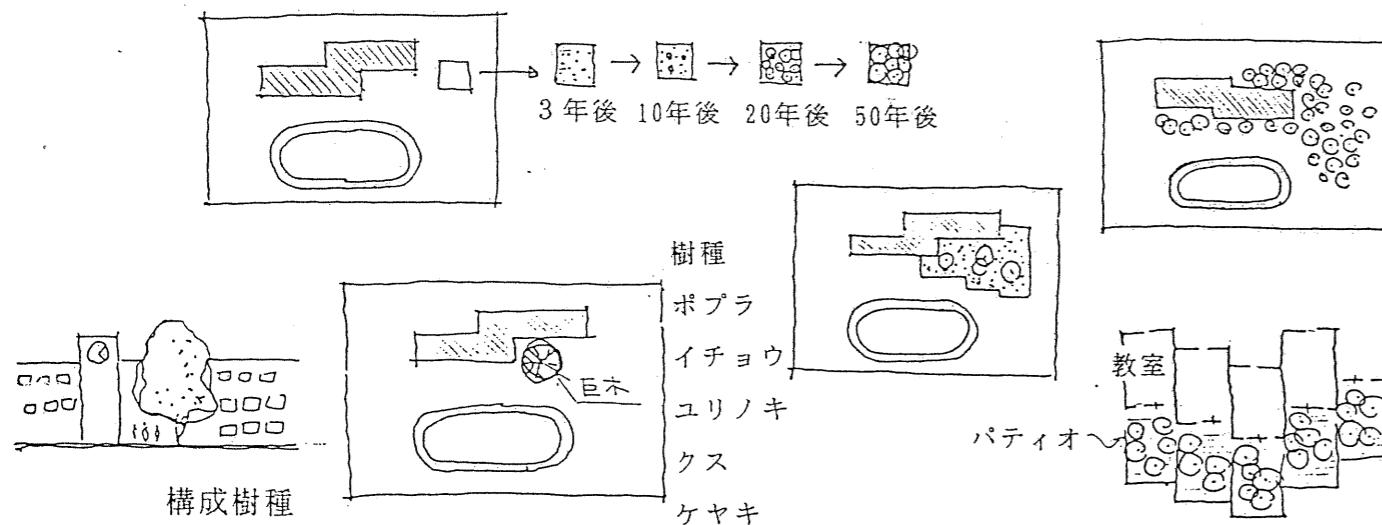
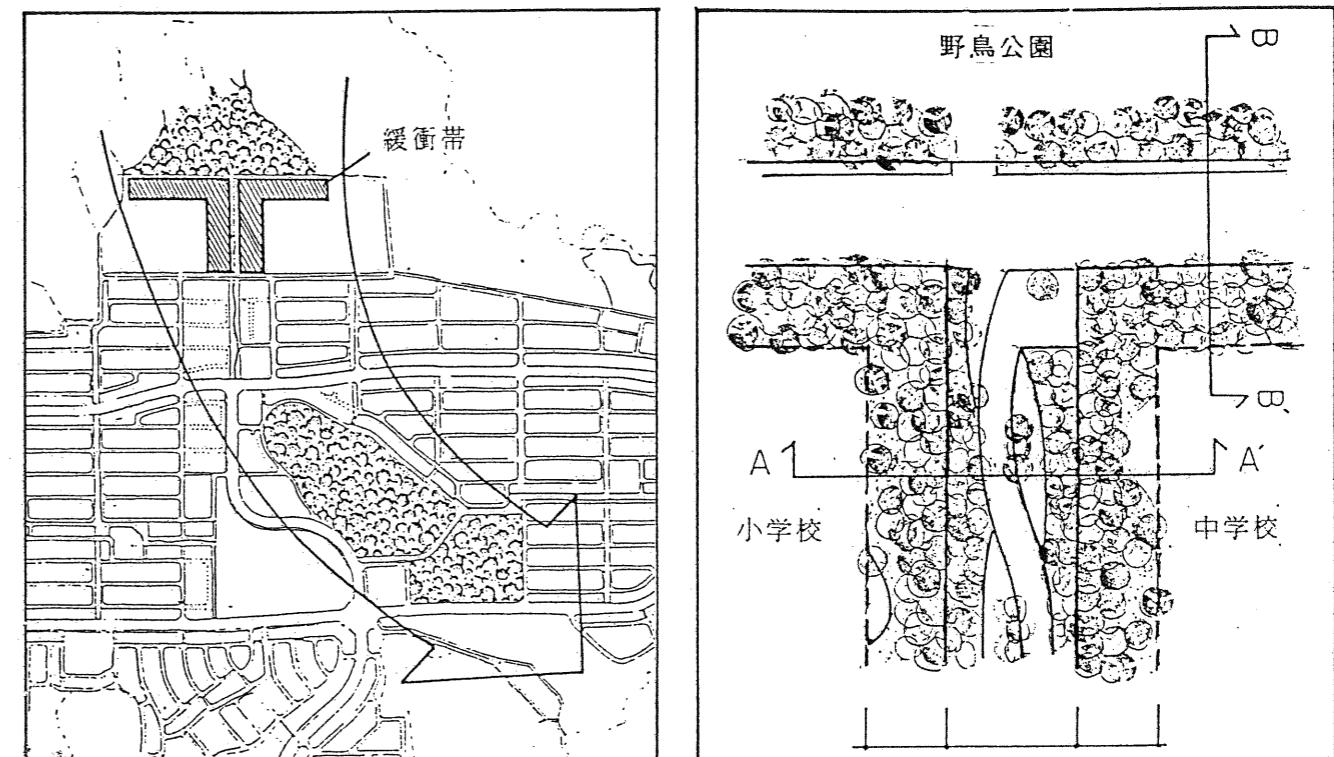
教育環境づくり

屋外の教室づくり

学生生活をエンジョイする空間づくり

「思いでの場」づくり

森の生長を観察する



## CEDとは

Community and Environment Deveroping System の略称であり西部都市開発が独自に開発を目指している、環境と一体化した街づくり計画である。

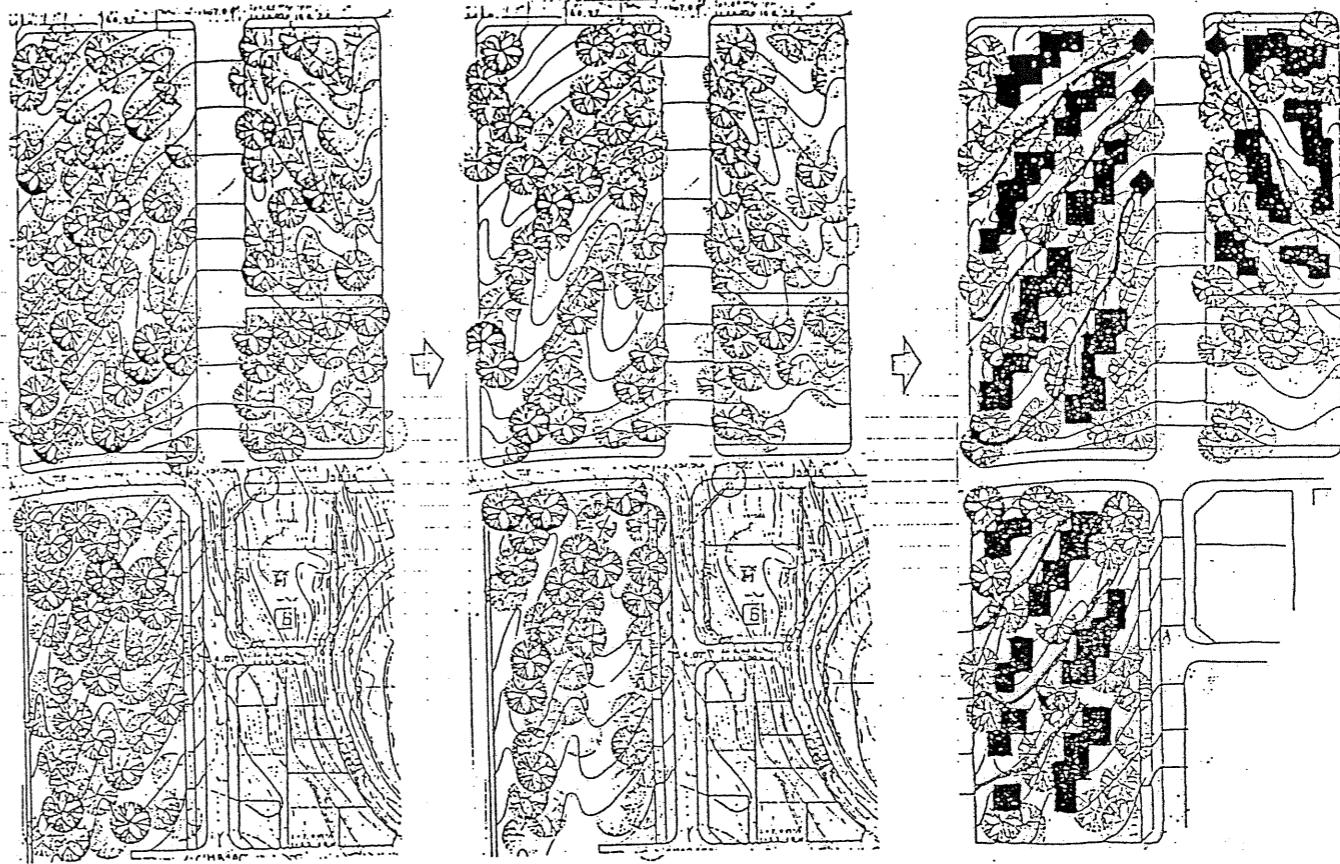
ここでは緑の河の一部として形成されるCEDを「緑の河の具体化として街づくりは森から始める手法」として提案する。

<引き算の手法による植栽計画>  
“はじめに森ありき”

一般に造成された敷地の街づくりは、建築計画が先になされ、そして、その周辺の環境を少量の樹木によって、ある程度整備されるのが従来の街づくりに対しての環境づくりの手法だった。

桂坂では「はじめに森ありき」という言葉に代表されるように、森づくりを行うとするものである。

そのことで緑と一体となった、自然環境豊かな街づくりが初めて可能になる。



## &lt;効果&gt;

- ・緑の河の具体化=街づくりへの提案

## 中自然の形成

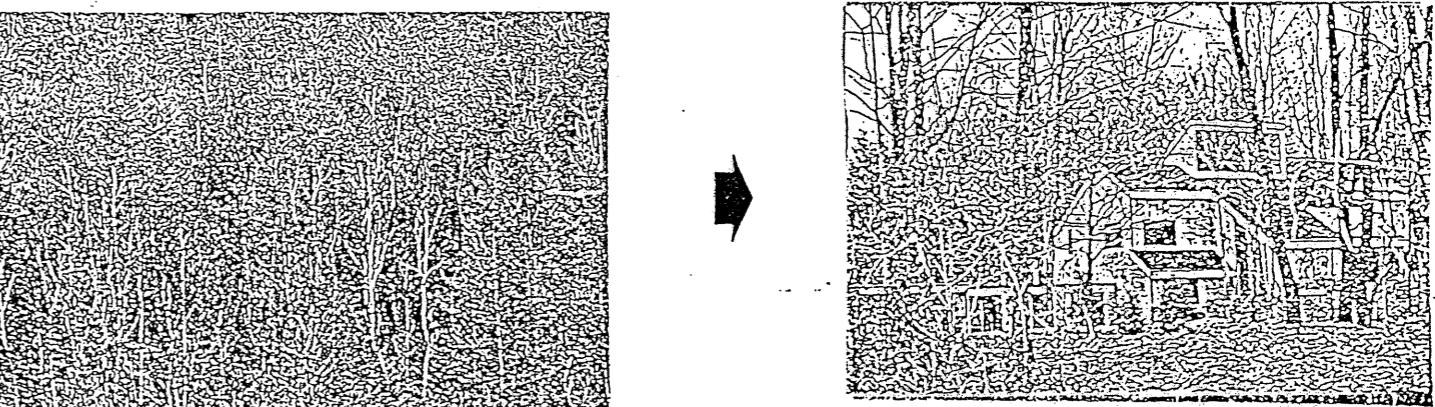
- ・早期に植栽することにより大きな木を育てることが可能（土壤設計を十分に行う必要がある。）
- ・自然の風景の中に溶け込む住まいづくりが可能
- ・早期にバードサンクチュアリーへの通路の環境形成が可能

## &lt;手法&gt;

- ・土壤改良(森をつくるには十分な土壤改良が必要である)
- ・大、中、小 様々な大きさの木を植える
- ・種子による植栽 = 条件が整えば森を急生長させることも可能  
アラカシ、クヌギ、コナラ、ユリノキ
- ・圃場としての利用 = 実験的に成木、苗木、種子の生育状態を観察する

## &lt;樹種&gt;

- ・シイ、クス、アラカシ、シラカシ
- ・ケヤキ、エノキ、ユリノキ、イチョウ、フウ、カツラ
- ・タカノツメ、コシアブラ、コナラ、リョウブ、エゴノキ、ヤマボウシ、マンサク、シカラ
- ・コバノミツバツツジ、アセビ、ツツジ類、ガマズミ、オオデマリ、ヤマブキ

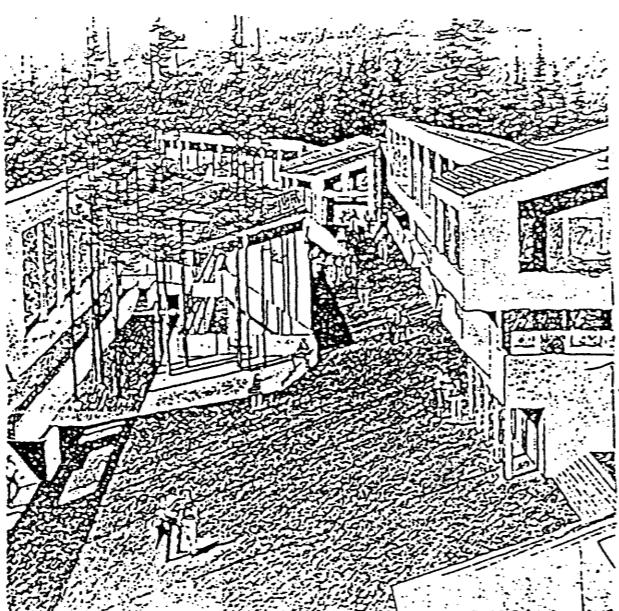
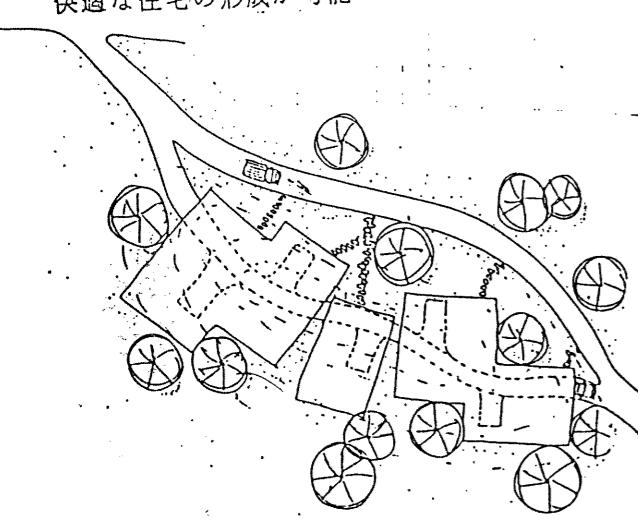


はじめに森ありき

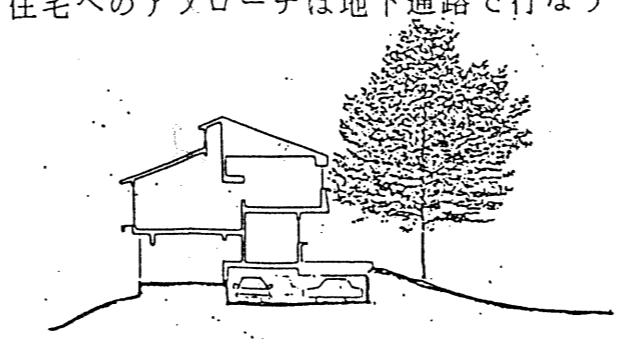
自然と調和した建築

車道、駐車場を地下に設置することにより安全で、

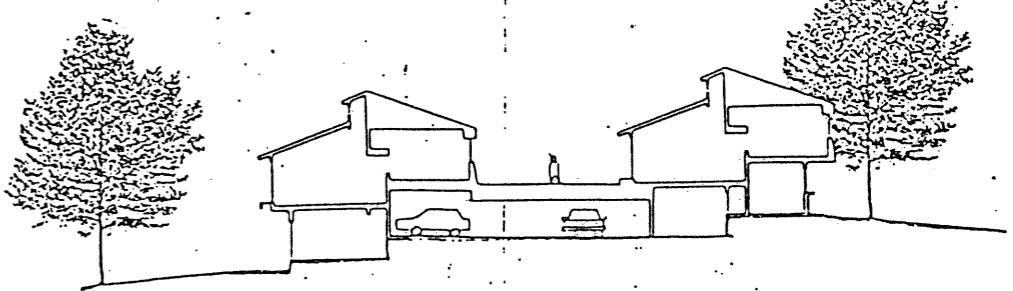
快適な住宅の形成が可能



住宅へのアプローチは地下通路で行なう

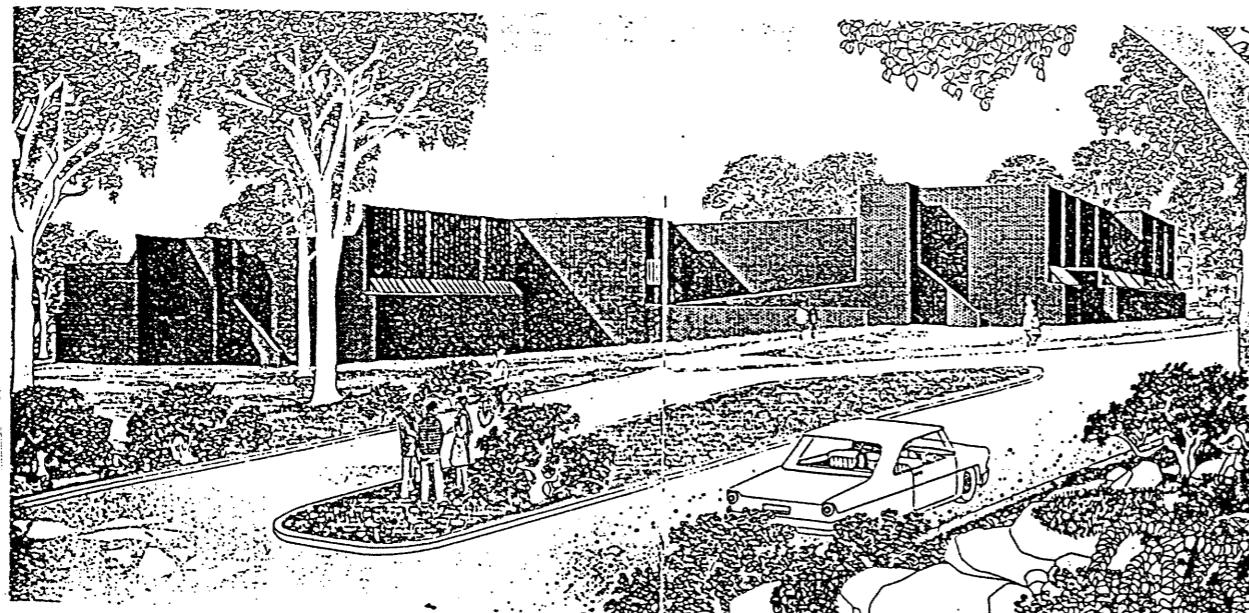
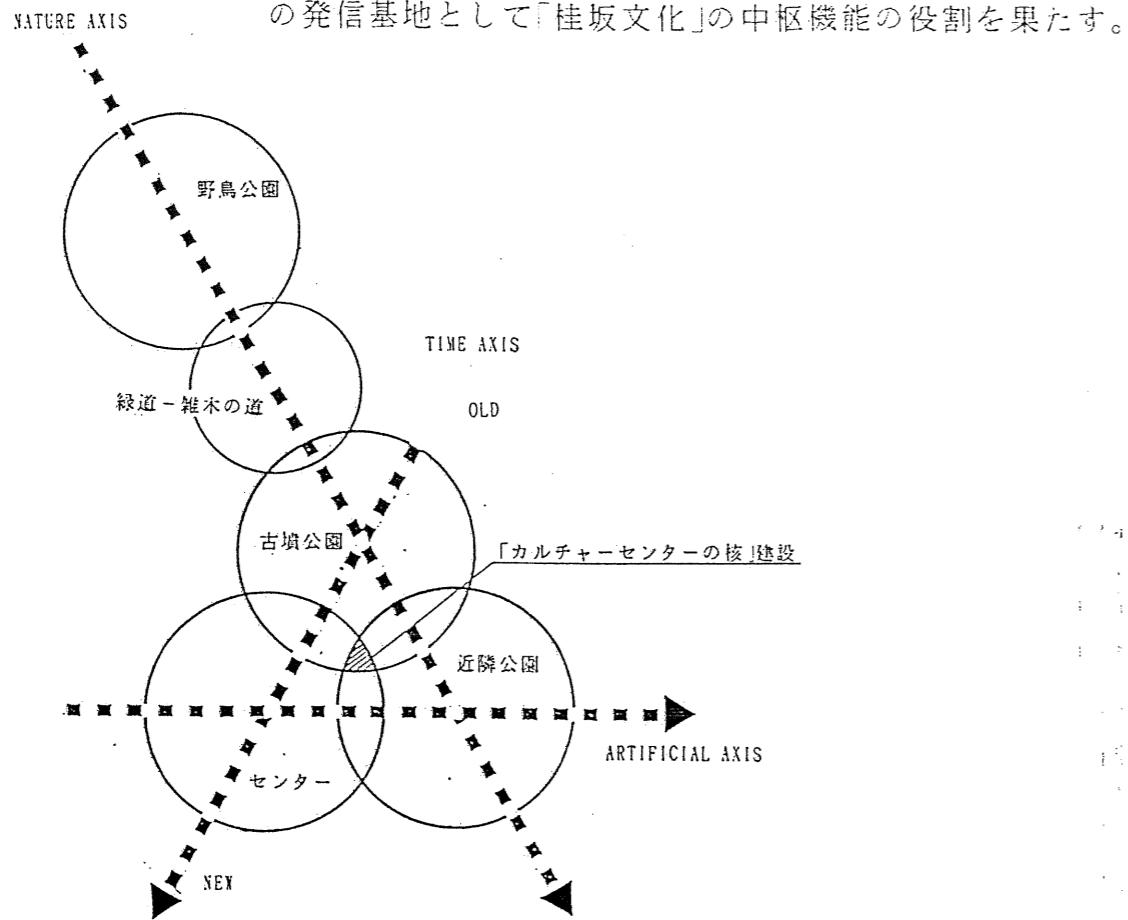


敷地内の車道はすべて地下通路となる

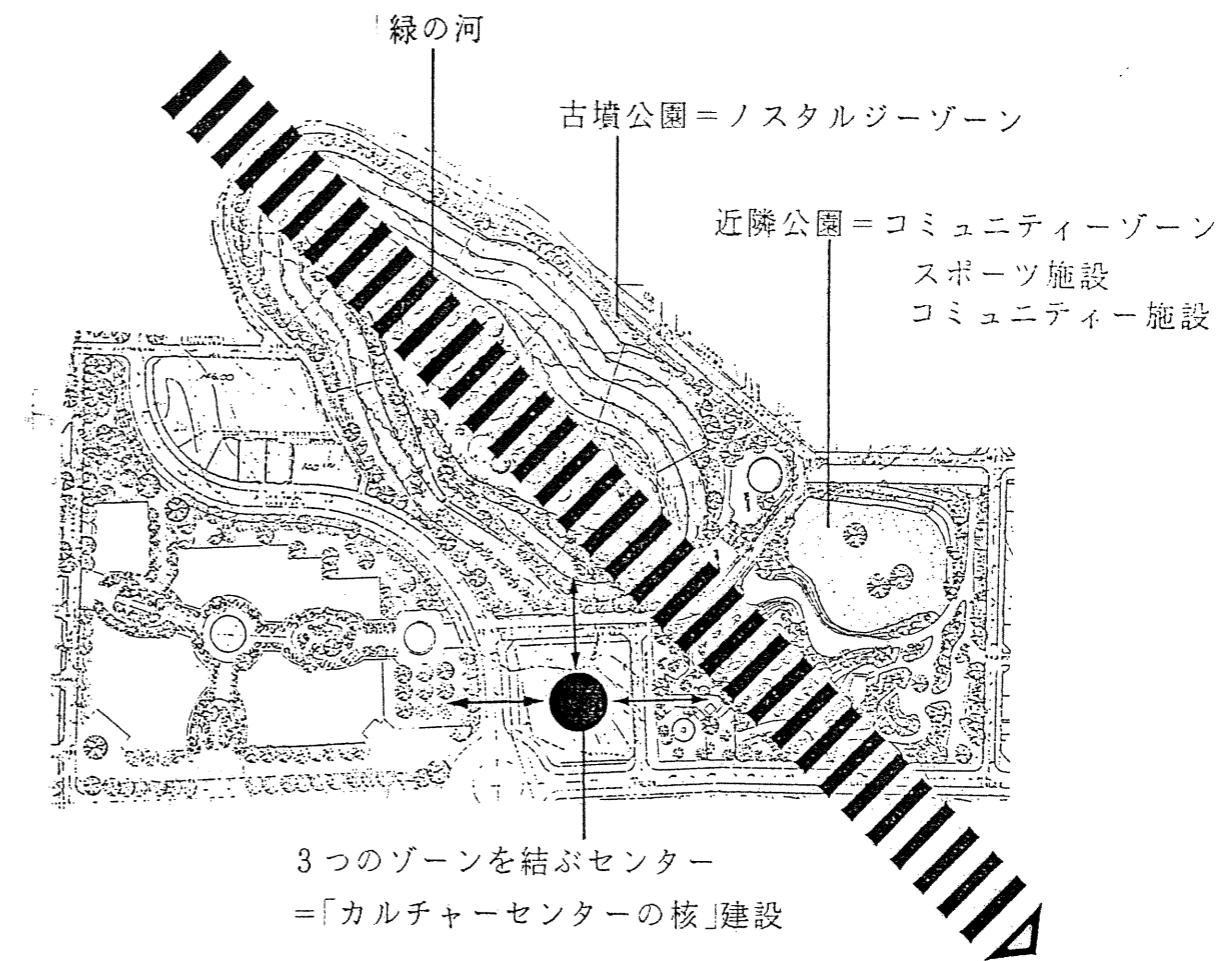


## 緑の川の情報発信基地＝カルチャーセンター

桂坂の人々が自然と親しみ、自然を学ぶための施設であり、また、古墳公園を中心とした桂坂にゆかりの深い、歴史資料の展示場でもある。いわば、自然、文化の情報の発信基地として「桂坂文化」の中核機能の役割を果たす。



環境と調和した建築計画



## &lt;カルチャーセンター計画&gt;

## 1-1 ネイチャーコレクション

- 鳥、昆虫、植物の情報の収集、発信
- 園芸、植物、花木、草花等の収集、発信

## 1-2 歴史・文化の資料展示

- 古墳関係 その他
- 秦氏資料

## 2 コミュニティー・レジャー情報の発信の基地

- カルチャー教室
- カフェテラス
- 近隣公園でのスポーツ、レジャー情報
- 近隣公園での大運動会

## &lt;コンセプト&gt;

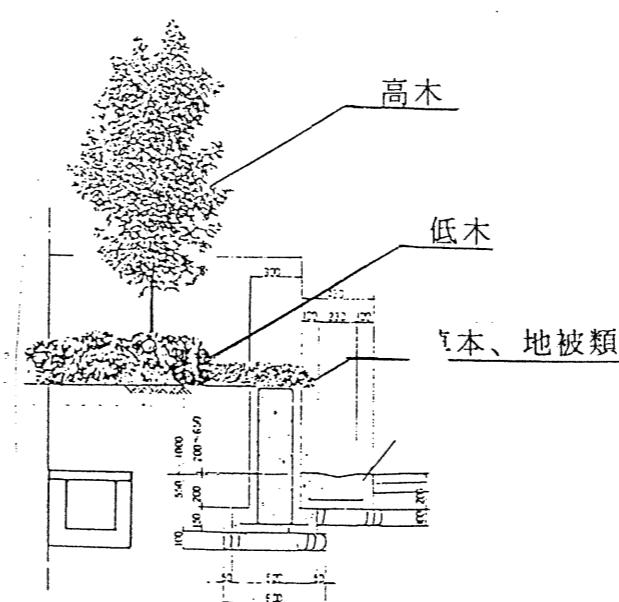
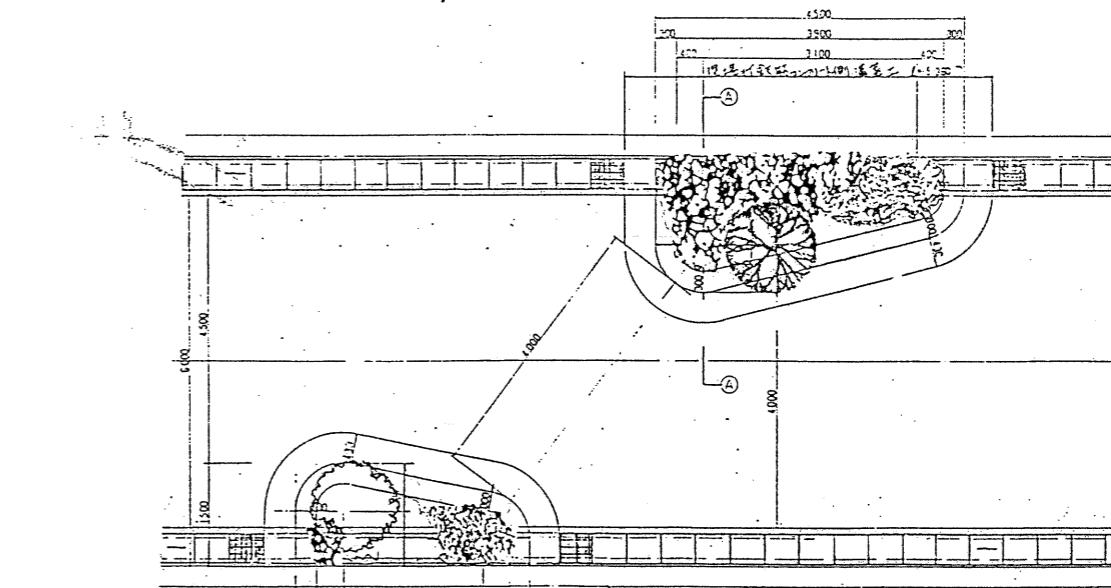
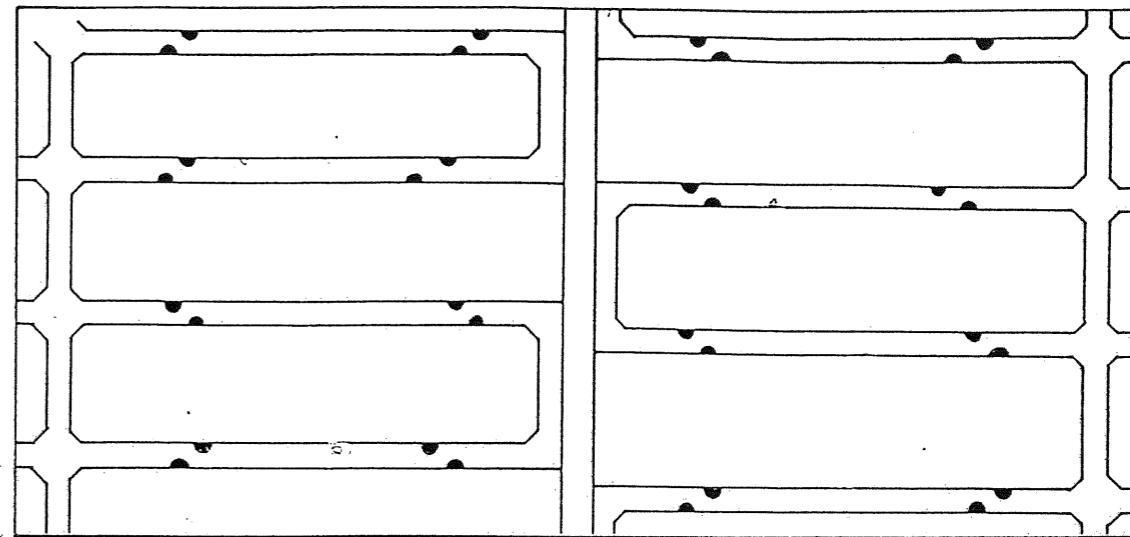
- 1 安全性の確保
- 2 道文化創出の場
  - ・新しいコミュニケーション
  - ・遊び場
- 3 植栽による街のイメージの演出
  - ・緑被率の向上
  - ・庭空間のにじみだし
  - ・高、低木、地被類等によるきめ細かい演出
  - ・草本類の導入

## &lt;計画の方針&gt;

高木、低木、地被の組み合わせにより街区のイメージにあった植栽計画を行ってゆく。

## 1工区での例

	高木	低木	草本類 地被
伝統的で落ち着いた街並	モッコク、アラカシ ツバキ、クロマツ、ウメ	アオキ、ツゲ、アセビ カンチク、サザンカ カンツバキ	コケ
伝統的で明るい街並	シャラ、ヤマボウシ モミジ、ウメモドキ	オオムラサキ、ヤマブキ シロヤマブキ、ニシキギ	ギボウシ、ムベ
現代的で落ち着いた街並	シラカシ、ヒメユズリハ マテバシイ、エンジュ	ヒイラギナンテン、 ドウダンツツジ、オオデ 西洋シャクナゲ	ラミューム、ヘデラ マリ
現代的で明るい街並	ハナミズキ、アカシア シマトネリコ、アオハダ タカノツメ、キングサリ	カルミア、ライラック、 アジサイ、モッコウバラ イヨミズキ、	バーベナ、ヘメロカリス アカンサス

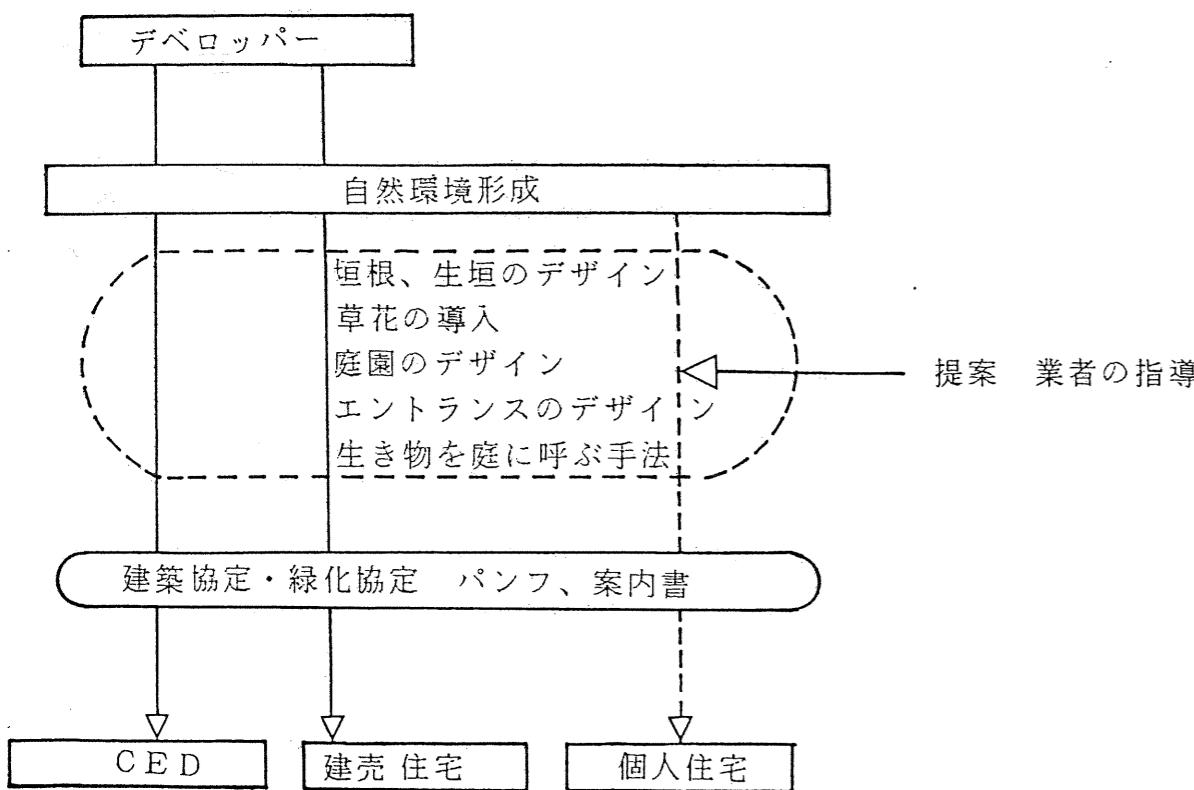


## 宅地内植栽

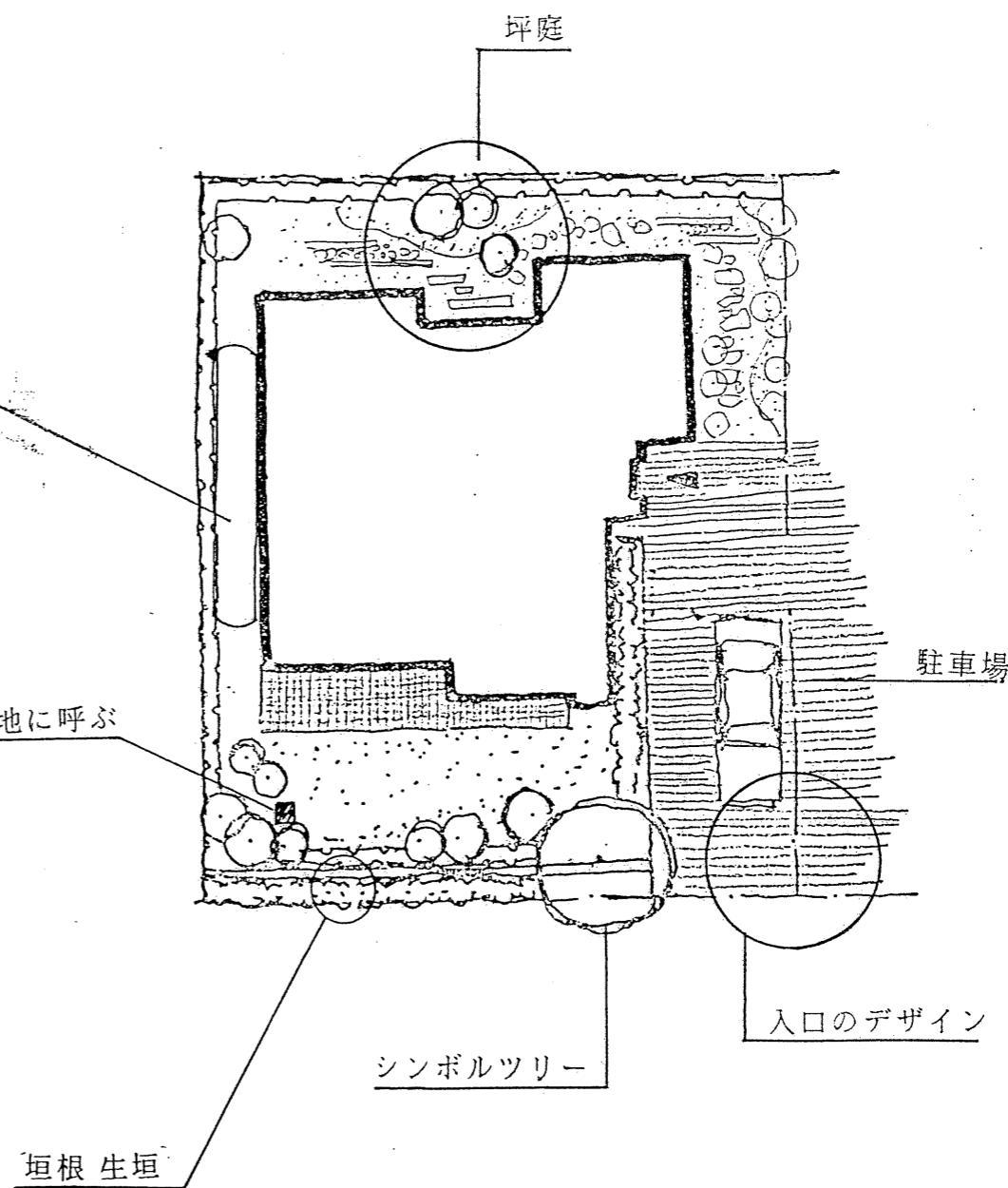
宅地内植栽は個人庭園のそれであるとの性格上、もとより強制はできないが、街の景観形成上極めて重要な構成要素である。

細街区の性格に合わせて、所有者がそれぞれに工夫をこらして適切な植栽をし、街の景観形成に参加するという行動がなければ、まわりの中自然が立派に形成されたとしても、全体としては調和を欠くものに終わりかねない。

そこで、住民側としては緑化協定の締結やその根源となる参加意識の高揚が大切であろうし、デベロッパー側としては設計例や素材の提供に万全の体制を取る必要がある。

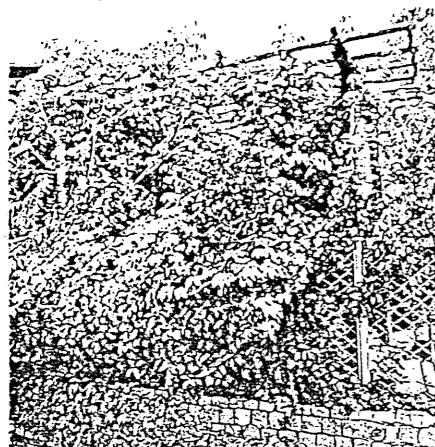


個人住宅の環境形成のエレメント

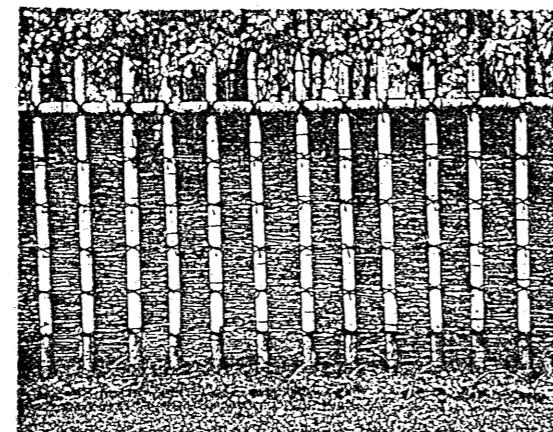


### 1 垣根・生垣のデザイン

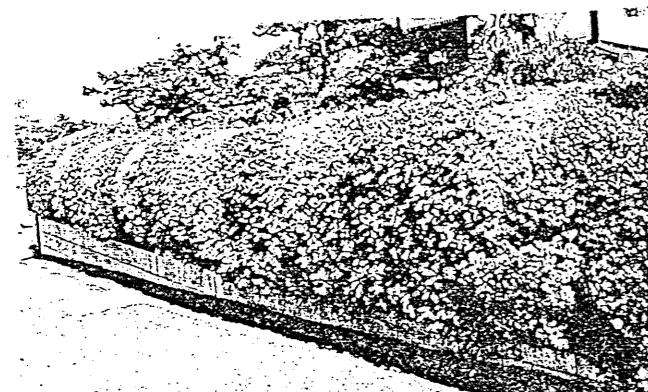
- ・垣根はブロック塀などではなく、生垣を主にすることにより連続した美しい街並を構成することができる。
- ・樹種の選択によって、四季の変化(緑道、紅葉、花)があり、鳥、昆虫のやつくる生垣をつくることができる。



垂直緑化ームベ



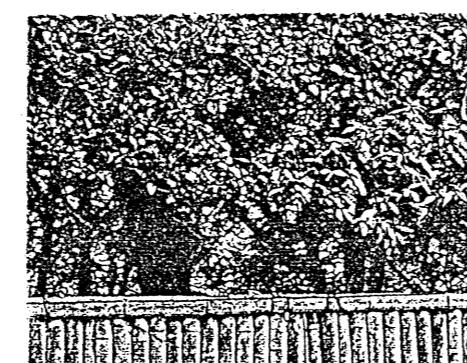
竹垣 - 桂垣



吹き寄せ(混植)による生垣



タギョウショウの生垣



アガパンサス



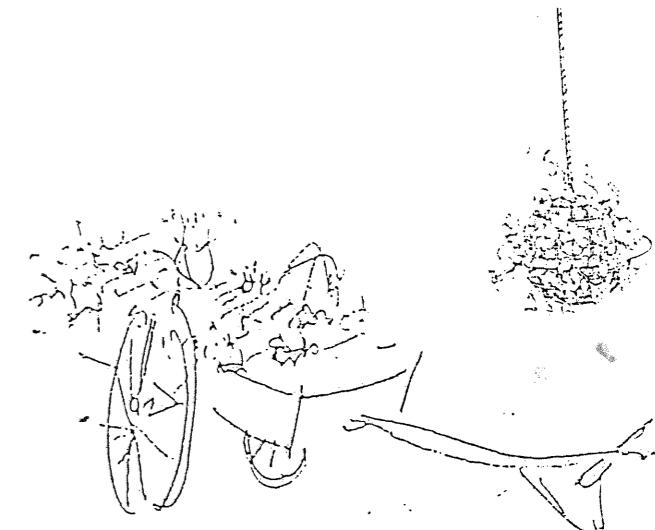
ジャーマンアイリス



アカンサス



花のある前庭



花車



庭園向きの丈夫な草花



ツツジ

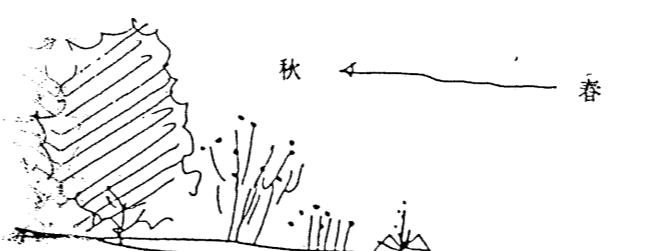


スイセン

春	夏	秋	冬
シバザクラ(白桃)	アスチルベ(赤桃)	キキョウ(紫)	クリスマスローズ(白)
パンジー(紫)	アカンサス(白)	シューカイドウ(桃)	ツワブキ(黄)
ハナニラ(白)	アガパンサス(紫)	オキザリス(桃)	スイセン(白)
マーガレット(白)	バーベナ(白紫)	マリーゴールド(黄)	
ムラサキシキブ(紫)	マツバギク(桃)	コスモス(黄)	
ジャーマンアイリス(白桃)	ヘメロカリス(黄)		

### 草花の立体構成

#### 常緑のバック



秋 → 春

オウバイ キソケイ クレマチス

ツキヌキニンドウ ノウゼンカズラ

カラライナジャスミン テイカカズラ

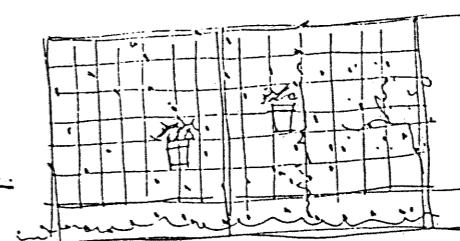
トレリス

イタビカズラ ムベ

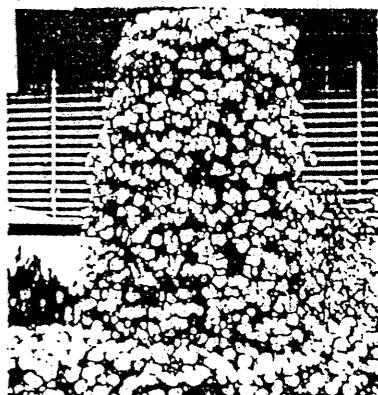
ヘリアンサス オイランソウ ギボウシ アリッカム

10月 7,8,9月 7月 5月 秋

(黄) (赤,桃,白) (紫,白) (紫,白)



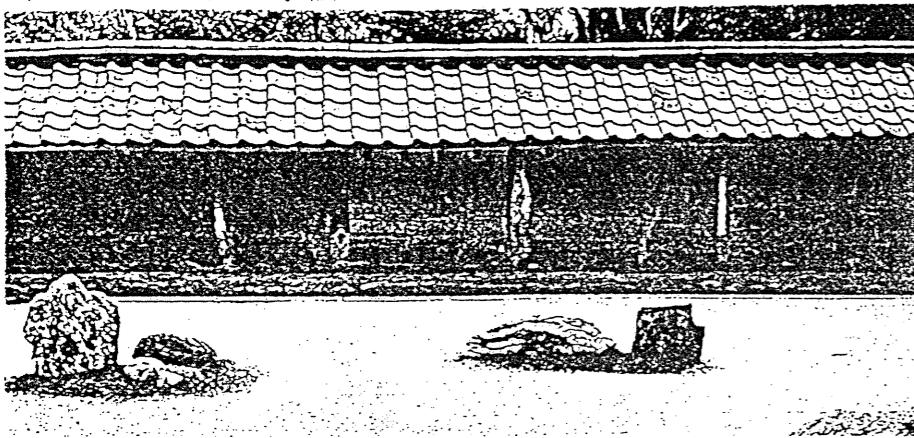
花鉢



緑	洋風	花	紅葉	鳥	昆虫
日本の	洋風	花	紅葉	鳥	昆虫
キャラ モッコク アラカシ イヌツゲ マキ サカキ スギ カンチク	ヒラギナンテン コノテガシワ シラカシ 西洋イボタ サンザシ セイヨウツゲ メギ ゲッケイジュ	オウバイ(3月 黄) ジンチョウゲ(4月 白) アジサイ(6月 黄) クチナシ(7月 白) ムクゲ(8月 白) キンモクセイ(9月 黄) サザンカ(11月 白桃) ヒイラギ(12月 白)	ドウダンツツジ モミジ、 ニシキギ	ヒラカンサ ツバキ ホーリー サンゴジュ ナンテン カナメモチ コトネアスター モチノキ	アベリア オオムラサキ ブドレア カラタチ アラカシ

## 3 庭園のデザイン

## 1) 伝統的な庭園手法



石庭 わずかな空間を少量の石と砂で  
庭園化する



枯山水



坪庭

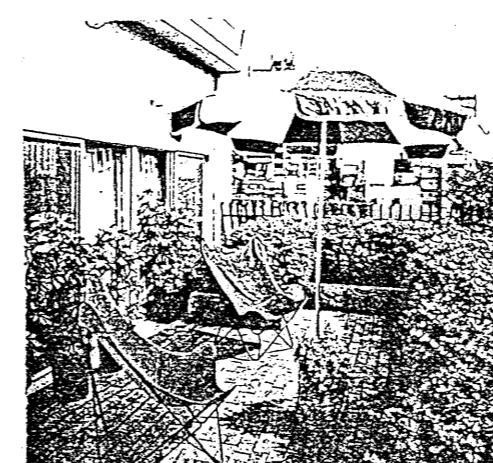


露地

## 2) 現代的な庭園手法



新しい枯山水



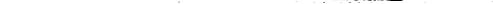
コケ



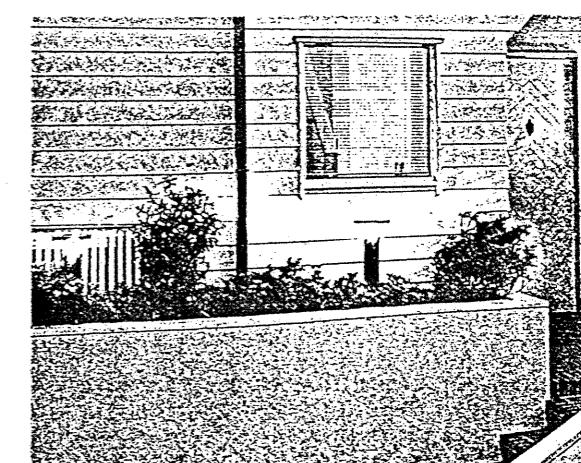
光にあふれたテラス



タケ



モダンな竹のデザイン

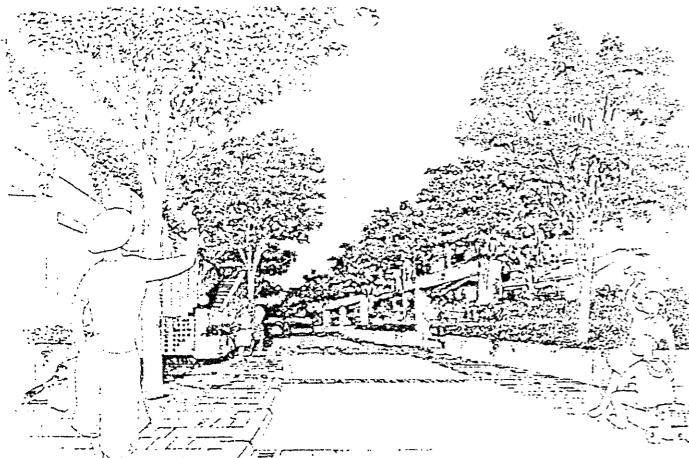


モダンな玄関の演出

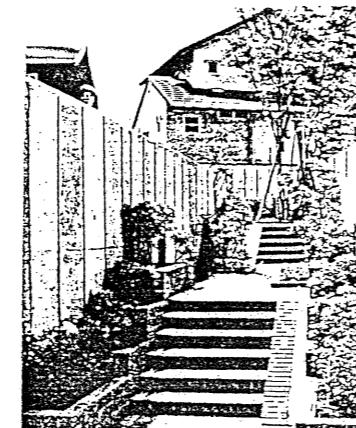
木山

#### 4 エントランスのデザイン

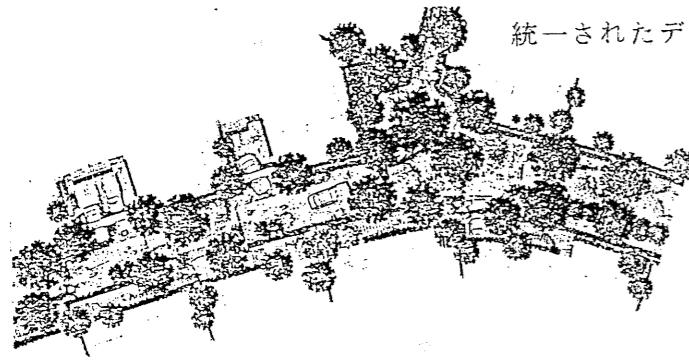
エントランスのデザインは街並を形成する上で重要な役割を果たす。



統一されたデザイン

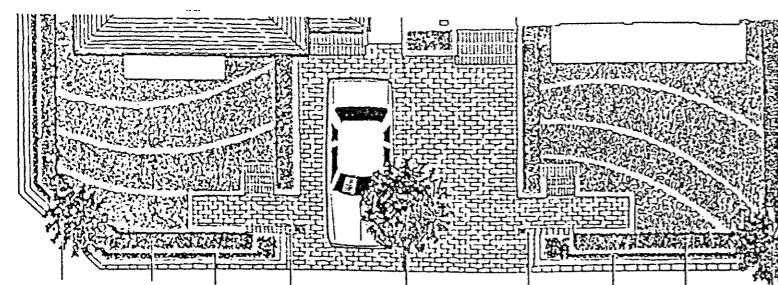


玄関の引き込み



駐車場のスペースを有効に利用する。

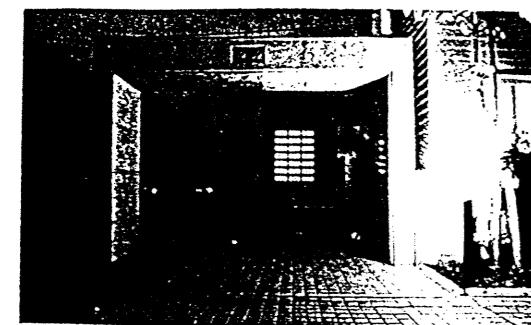
- ・玄関前のオープンスペースとして、隣家と共同した空間



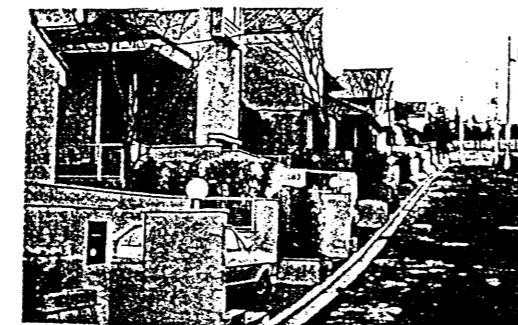
駐車場のパティオ化

隣家と共有することにより

駐車場の幅広い使い方が可能



ゲートにより正面性を持たせた駐車場



駐車場も街並の大きな景観要素である

#### 5 生き物を庭に呼ぶ手法

1) 鳥=食餌木の植栽、バードバス、餌台の設置によって住宅の庭に小鳥を呼ぶことができる。小鳥が主に庭にやってくるのは、山に餌のない冬期であり、そのころに積極的に餌付けすることにより、多くの種類の鳥を呼ぶことが可能である。

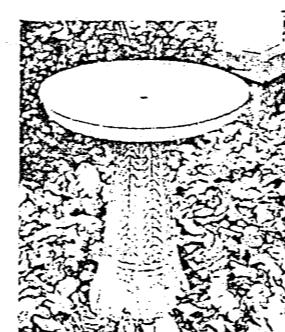
小鳥を庭に呼ぶための装置



えさ台



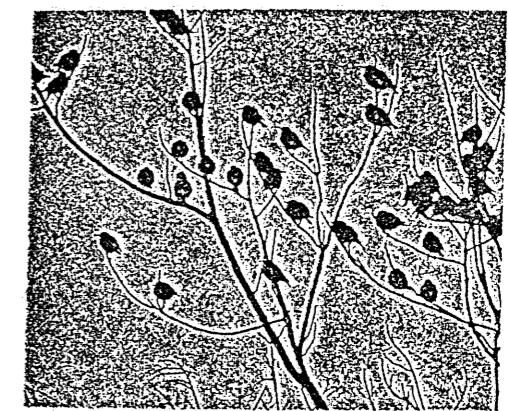
巣箱



バードバス



実のなる木の植栽



高い梢に小鳥は集まる

2) 昆虫=庭に来てほしい昆虫は、主に蝶類であろう。

興味のある人は食草の植栽により、幼虫の時期から飼育可能である。

蝶類を集める庭木



ツツジ



ネムノキ



ブッドレア

## 生き物

一度破壊した生態系を、新しい街に、再生させることは非常に困難である。

「桂坂」では、中自然という新たな自然の尺度を用いて、街にふさわしい自然生態系の回復を試みるのであるが、そのためには生態系の基盤となる植物層の十分な生育と、それにもまして街に住む人々が生き物への関心を高め、生き物と共に存するという意識を持つことが重要である。

カルチャーセンターの核での自然環境に対する啓蒙、街のあちこちに配置される生き物への思い遣り(巣箱・バードバス)等、細かな配慮が、街づくりには必要である。

## 植栽への変遷

建築や工作物が、工事終了時において完成をみるのにたいして、自然環境は工事終了時点でも未熟な状態にある。植栽の生育基盤である土壌が、十分その生育に適しており、かつ適切な生育管理がなされて初めて、計画の意図した植生のイメージが完成する。そのためのタイムスパンの取りかたも、育成管理も各ゾーンにより異なる。

- ① 野鳥公園 裏山からの連続であり、定期的な管理を行う。3年1回の割で改良を行い、野鳥の生育環境を維持する。
- ② 古墳公園 法面は初期の草花から、順次大木類へ移行し、最終的にはウツクシマツ、ササ類、ススキ、ミツバツツジ等による構成をもって完成をみる。基本的な管理は、特記仕様に従うこととする。
- ③ 近隣公園 各公園のセンター的な核として、定期的な管理を行う。公共緑地の管理全般を年間計画によって、行なうこととし、その運営を統一する。
- ④ 幹線道路 街路樹を中心に定期的な管理を行なう。主体は近隣公園と同じく市役所の管理となる。
- ⑤ 緑道 自然樹形を重んじた基本的な管理を行なう。大緑道は街並の骨格となる緑で、街区との調和のとれた管理が必要である。  
ヘッジロー緑道の低木は、刈込により意図する姿を永続させ、高木は自然形になるよう基本的な管理を行なう。  
小緑道には花木が多いので、その特徴を活かせる効果的な管理が必要である。
- ⑥ 児童公園 定期的な基本管理を施す。特に草花は、各公園の特徴を演出する

ための管理が必要である。

- ⑦ 周辺法面 初期段階では、さまざまな緑化手法を試み、検討結果に基づいて、順次本施工へ移す。将来は、裏山の自然と一体化する。
- ⑧ 個人住宅・CED 年間を通じ、常に適切な維持管理を行なう。緑化協定による環境保全を図る。

## 京都市への移管

公園及び道路の施設は、公益的施設として、完成期を以て、京都市に移管される。

公 園 課	都市公園(近隣公園、児童公園、緑道 8m以上)
道路管理課	幹線道路及び自歩道、フォルト
河 川 課	河川
	その他水道課など

都市公園は、地方公共団体の行政財産(自治法238条)であり、公物管理権にもとづく管理になる。建設期間中は、街づくりの一環としての管理を行ない、管理方針の調整を以て引き継ぎとなる。

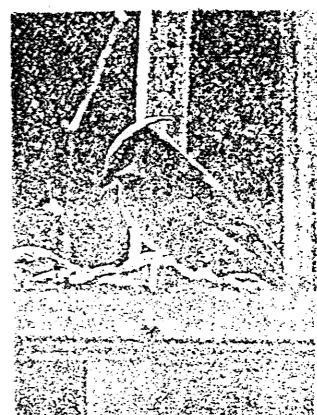
管理は、市の直接管理が主体となるが、委託管理の方法もあり、また児童公園などは、自主管理組織の育成も大切なことである。

## 參考資料

## 1 街へ飛来してほしい鳥

ウグイス、ヤマガラ、カワラヒワ、ホトトギス、メジロ、ツグミ、シロハラ、シジュウカラ  
アオジ、キレンジャク、ホオジロ、キジバト、ジョウビタキ、ヒレンジャク、エナガ、ルリビタキ

食餌木



## 2 高木による緑の帯を計画すること

“街に喬木のつながりが必要である”

- 例えば (1)バードサンクチュアリー 古墳公園 近隣公園 調整池  
(2)並木やコーナーの一隅に喬木を植栽する。エノキやケヤキなど樹冠  
の大きな木の植栽

## 3 暖かい繁みのあるブッシュの計画

斜面地などをを利用して、クズ、ハギ、ススキなどを繁らす。

- (1)古墳公園の法面をデザインしてブッシュとする。  
コンクリート枠の法面緑化を考える。

## 4 街に餌台、バードバス等を設置する。

食餌木と共に、鳥のための施設を計画する。これは、夏鳥が少ないので特に必要である。

- (1)餌台、バードバス、巣箱、などを公園・街の中に設置する。  
(2)施設によって鳥の種類を増加させることを考える。

## 5 効果的な植栽方法の検討

食餌木を一種に限って群植する方法が効果的である。

- (1)ツバキの群植でメジロ／シイノキの群植でオシドリ

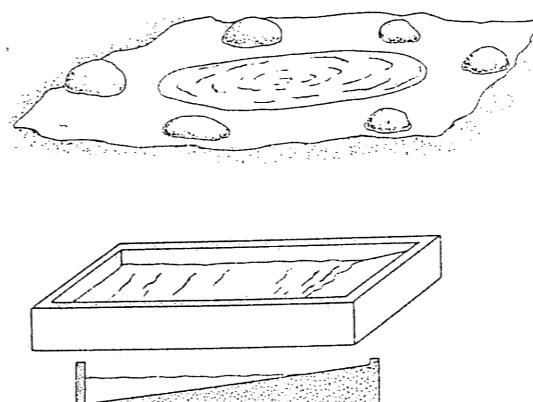
水あび



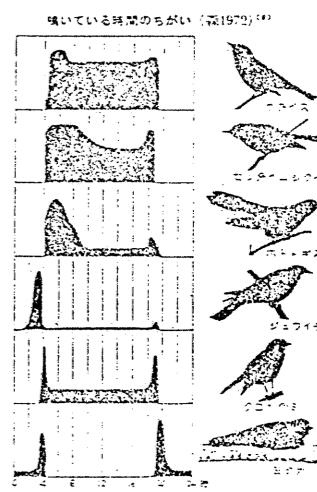
砂あび



水あび場



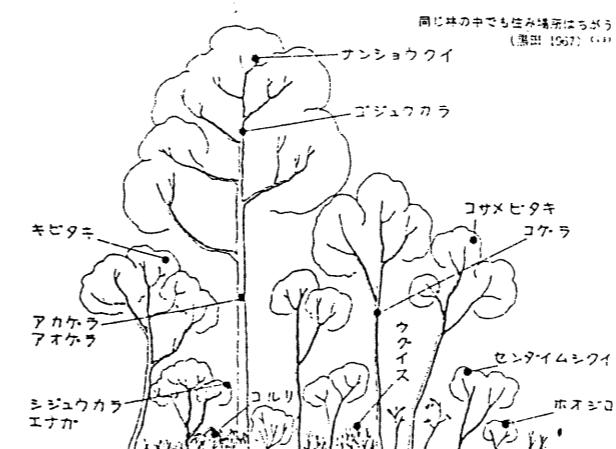
鳥のさえずり



## 鳥の食餌木による植栽計画

項目		植栽樹種名	植栽場所	備考
大 自 然	常緑 高木	ツバキ、ソヨゴ、シイ(オシドリ)、クルミ(リス)	バードサンク チュアリー 法面	ツバキの群植 (メジロ)
	低木	シャシャンボ、ヒサカキ、イヌツゲ		
	落葉 高木	ヤマザクラ、センダン、ケンボナシ、マメガキ、 オオシマザクラ		
	低木	ナツハゼ、ガマズミ、ムラサキシキブ、ヌルデ、ニワトコ ノイバラ、ノブドウ、ヘクソカズラ、サルトリイバラ、 スイカズラ、ツタ、ツルウメモドキ	フェンス、法面、 バードサンクチ ュアリー	?生地の造成
	つる性	ススキ、ヨシ、その他イネ科植物		
	草木			
中 自 然	常緑 高木	ツバキ、ソヨゴ、トウネズミモチ、クスノキ、タブ、 クロガネモチ、シラカシ、ヤブニッケイ、シイ、クルミ	学校、公園、幹 線、古墳公園	
	低木	ピラカンサ、ネズミモチ、ナワシログミ、ヒイラギ、 イヌツゲ、ヒサカキ、マサキ		
	落葉 高木	イイギリ、エノキ、ムクノキ、ヤマグワ		
	低木	ナツハゼ、イボタ、マユミ、サワフサギ、ニシシギ、 サンザシ		
	つる性	アケビ、ムゲ		
小 自 然	常緑 高木	モッコク、ツバキ、モチノキ、ヤマモモ、ユズリハ	宅地内植栽 フォルト	
	低木	アオキ、イヌツゲ、ナンテン、マサキ、ヤツデ、 クチナシ、サカキ、サザンカ、ヒサカキ		
	落葉 高木	カキ		
	低木 つる性	ウメモドキ、マンリョウ、ウメ、サンショウ		

## 鳥の垂直分布



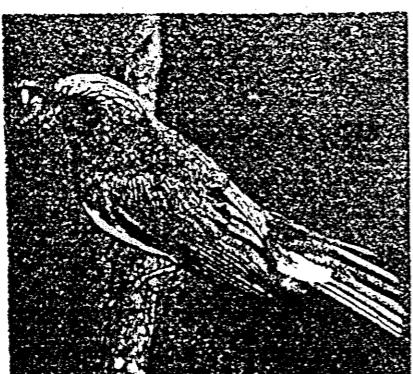
同じ木の中でも住み場所はちがう (黒田 1967) (1)		
	おもな鳥類名	目的など
上 空	ワシタカ須(トビ・ヒヒ)・ヒバメ ・アツバメ	主に渡りのとき通過する ものが多い。
高木層	ハシブトガラス・ハシボソガラス・トビ・ムクド リ	休息場所・ねぐらとして 利用することが多い。
亞高木層	カケス・ヒヨドリ・キジバト・カラス類・ツグミ 類・オナガ・シジュウカラ・オシドリなど	同上のほか、いくらかえ さをとることもあるが、 多くは休息のためのもの。
低木層	シジュウカラ・ホオジロ・オオジ・カケ ス・ヒヨドリ・キツツキ類・モズ類・シメ・スズ メ・ヒタキ類・オシドリ・ウグイス類・ツグミ類 など。	同上。
草木層	ホオジロ・オオジ・ウグイス類・ヒタキ類・ ツグミ類・スズメ・キジバト・ヒヨド リ・カシラカなど	エサをとる場合が多く、 休息(小型の鳥)のことは 少ない。
地上	シメ・オオジ・ホオジロ・ツグミ類・キ ジバト・オナガ・オシドリ・セキレイ類・コガモ ・カラス類など	エサをとる場合に地上に 降りる。
水上	オシドリ・コガモ・カルガモ・マガモ・サギ類・ カワセミなど	休息、エサをとる(とく にサギ類)カワセミは水 面の小魚をねらう。

	犬自然 裏山	← 野鳥公園	生息地 丘陵地	→ 小自然 宅地
留鳥	イカル コジュケイ ヤマドリ コゲラ フクロウ キジ カケス	コサギ ゴイサギ カルガモ キセキレイ	ホオジロ ヤマガラ ウグイス エナガ シジュウカラ	ハシボソガラス ハシブトガラス ムクドリ モズ カワラヒワ トビ メジロ キジバト ヒヨドリ
夏鳥	サンコウチョウ ヤブサメ センダイムシクイ オオルリ ツツドリ キビタキ アカショウビン	ヨシゴイ ミヅゴイ ササゴイ	ヨタカ アオバズク ホトトギス サンショウクイ コサメビタキ	ツバメ アオバズク サンショウクイ コサメビタキ
冬鳥	オオコノハズク ルリビタキ ミヤマホオジロ マヒワ トラツグミ	マガモ コガモ クイナ オシドリ	カシラダカ ヒガラ シメ ウソ シロハラ アオジ ビンズイ アトリ	ツグミ ハクセキレイ ヒレンジャク キレンジャク ジョウビタキ

美しい鳥



レンジャク



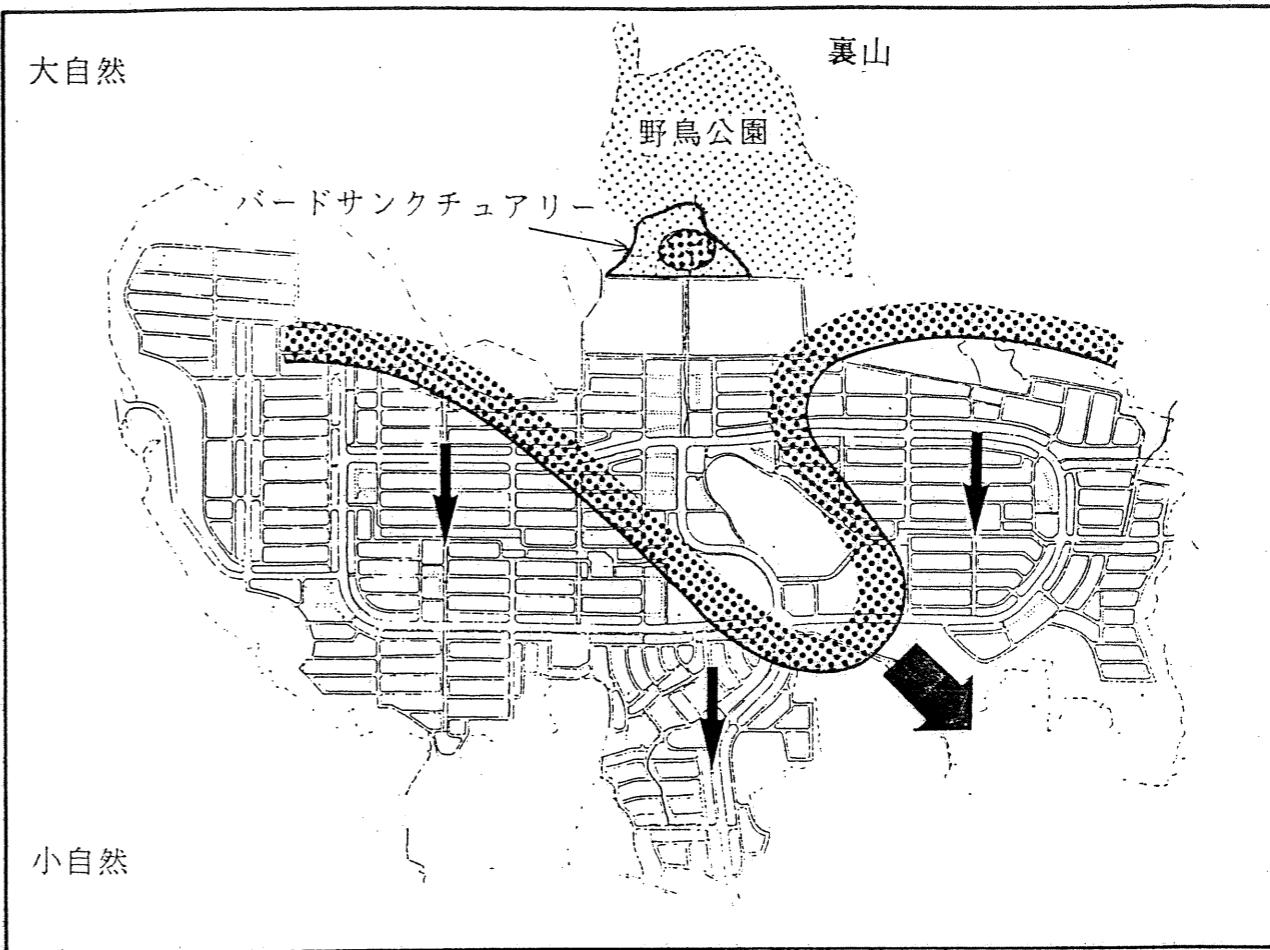
オオルリ



サンコウチョウ



キビタキ

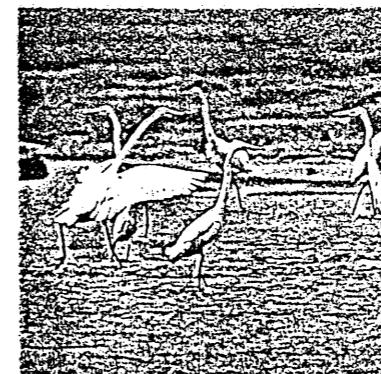


鳥の街への導入経路

美しい鳥



ウグイス



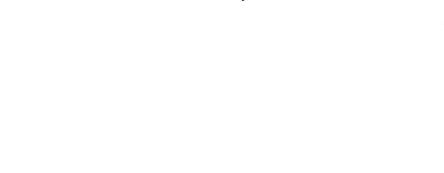
コサギ



メジロ



ヨシゴイ



オシドリ

水辺の鳥

## 1. 概 要

計画地における調査(昭和59・8)によれば、地域内に約60種のチョウが確認されている。このうちモンキアゲハ、ツマグロヒョウモンなどは東日本では見られない種類であるし、ルリタテハ、ツマキチョウ、コムラサキなどとともに京都の市街地には生活できないチョウである。

## ○ 最も目立つ大形・美麗のチョウ

モンキアゲハ、クロアゲハ、カラスアゲハ、(幼虫の食草はカラタチ、サンショウ)オスジアゲハ、(幼虫の食草はクス類)ジャコウアゲハ(幼虫の食草はウマノスズクサ類)すべてアゲハチョウ科に属し、宅地内でも食草があれば発生する。親のチョウは4月~9月の間、庭のツツジ、クサギ、ネムノキなどの花木に集まり、ヤブカラシのような雑草の花にも集まる。

## ○ かなり大きく光沢があって目立つチョウ

アカタテハ(幼虫の食草はイラクサ類)ルリタテハ(サルトリイバラ)キタテハ(カナムグラ)ヒオドシチョウ(エノキ)など。庭園の花にも集まり、またクヌギなどの樹液にも集まる。すべてタテハチョウ科。

## ○ 可憐な親しみのあるチョウ

モンシロチョウ(十字花)キチョウ(ハギ)モンキチョウ(ツメクサ)などは庭や街路に普通に見られるが、昔から俳句などに詠まれている。春先のみに飛ぶツマキチョウ(ハタザオ類)は山地に発生するが街の庭先にも飛来し、特に可憐である。

## ○ 小型で美しいチョウ

ムラサキシジミ(カシ類)ウラギンシジミ(クズ、フジ)は山地に発生するが9月~11月頃、市街地に下りてきて、庭の葉先によくとまるきれいなチョウである。

## 2. 計 画

## 3. 具 体 案

1. モンキアゲハ、クロアゲハ、アゲハチョウなどの幼虫の生活場所としてカラタチの生垣の植生。成虫を宅地に誘うため、庭にツツジ、ユリ、公園にクサギ、モチ、ネムノキなどの植栽。法面にヤブガラシを植やす。
2. コムラサキ、ルリタテハ、ヒオドシチョウなどの成虫を集めため、公園、道路にクヌギ(樹液の出る)を植栽。チョウは1kmぐらいから集まってくる。
3. オオムラサキ、ヒオドシチョウ、ゴマダラチョウ、テングチョウなどの幼虫の食樹であるエノキをまとめて植栽する。(冬は幼虫は落葉の下に潜るので、公

園に植栽地を確保する。成虫は樹液に集まる。)

4. チョウは湿地、湿気の多い砂地によく集まるから、バード／サンクチュアリー周辺等にそのような場所をつくる。
  5. 幼虫の食草に関係なく、庭園の花には大型のアゲハ類の他、ツマグロヒョウモン、ミドリヒョウモン、ヒメアカタテハ、などが集まるから、庭園づくりの際、ユリ、アザミ、グリアなどを植えるようとする。
  6. カナムグラ、ツメクサ、カタバミなどの雑草を食草とするチョウの幼虫も多いから、法面等の雑草を重視する。スマレ類、イチゴ類の野性種も美しいヒョウモンチョウ類の幼虫の食草である。
  7. 幼虫はなるべく裏山、法面、生垣などで発生させ、成虫は街路や庭に集まるような全体の植栽計画を樹てる。
4. 昆虫の象徴としてチョウをテーマにするがそれ以外の人気のある昆虫も計画に組み込む。
1. 森林に近接して水銀灯を設置することにより、夜のカブトムシ・クワガタムシを観察できる。
  2. クヌギの大木の樹液には、チョウだけでなく、他の昆虫も集まる。
  3. 一般公園、古墳公園、松並木通り、法面などの草地にはキリギリス、ウマオイ、クツワムシなどが発生するが、発生しない場合は人為的に放して、秋の虫の特徴をつくる。秋の虫は自然繁殖するし、俳句や古典とも関係が深い。

## 1 花に香りのある木

樹種	季節	花期	生活形	花色
ロウバイ	早春	1~3	落葉	黄
ウメ	"	2~3	高常	白・紅
ハクサンボク	春	3~4	中低	白
ジンチョウゲ	"	"	高	紫紅・白
ハクモクレン	"	"	落葉	白
コブシ	"	"	"	"
タムシバ	"	"	"	"
シデコブシ	"	"	"	微紅白
オガタマノキ	"	4~5	常落葉	黃白
サトザクラ	"	"	高	紅
イイギリ	"	"	"	淡紫
モクレン	"	"	"	紫
ライラック	"	"	"	淡紫
モッコウバラ	"	"	常落葉	白・黃
センダン	"	4~6	高	淡紫
ナニワイバラ	"	"	落葉	白・淡紅
カラタチ	晩春	5	落葉	白
ダイダイ	"	"	常落葉	白
カラタネオガタマ	"	"	高	黃白
ティカカズラ	"	"	中	白・黃
ユリノキ	"	"	落葉	綠黃
タイサンボク	"	5~6	常落葉	乳白色
クロバナローバイ	"	"	常落葉	茶褐色
ユズ	"	"	"	白
モッコク	"	"	"	黃
キソケイ	"	"	"	"
ホウノキ	"	"	"	白
オレンジ	"	"	"	白
バイカウツギ	"	"	"	白
テリハノイバラ	"	"	"	白
スイカズラ	"	"	半落葉	白・黃
ウケザキ	"	"	"	"
オオヤマレンゲ	"	"	落葉	白
オリーブ	"	5~7	常落葉	黃白
バラ	"	"	中	紅
プリベット	"	"	低	白
オオヤマレンゲ	"	"	"	淡紅
コウシンバラ	"	5~10	常落葉	白
コクチナシ	夏	6~7	"	白
スイカズラ	"	"	"	低
ハンドイ	"	"	落葉	"
クチナシ	"	6~8	常	"

カラライナ	"	(常)	つる	"
ジャスミン	"	落葉	低	紅白
ハマナシ	"	半常	半常	紅・白
アベリア	"	6~11	低	白
キヨウチクトウ	"	7~9	常	白
ソケイ	"	"	"	橙黃
キンモクセイ	秋	9~10	"	うす茶
チャ	"	"	"	白
ギンモクセイ	"	"	"	"
ヒイラギモクセイ	"	"	"	"
サザンカ	"	10~11	"	ピンク
シキザキモクセイ	"	"	"	紅ほか
バラ	"	"	"	白
ヒイラギ	"	10~12	"	"

## 2 食用となる樹種

樹種	実のなる時期	生活形
キイチゴ	6~7	落葉
ブラックベリー	"	"
マールベリー	"	"
ブルーベリー	"	"
ヤマモモ	"	常落葉
グミ類	7	"
ザイブリボク	"	"
ユスマラウメ	"	"
ウメ	7~8	"
ナツメ	"	"
アンズ	"	"
スモモ	"	"
フェイジョア	"	"
ビワ	"	"
サンショウ	10	"
ヤマブドウ	"	つる
クルミ	9~10	落葉
クリ	10	"
シイ	"	常落葉
カリ	10~11	"
シナノガキ	"	"
ヤマガキ	"	"
ムベ	"	つる

## 3 鳥の食餌木

針葉樹	中	イチイ
常緑樹	中・高木	モチ ネズミモチ トウネズミモチ ソヨゴ ヤマモモ クロガネモチ イヌツゲ モッコク シロダモ ヤブニッケイ
	低	マサキ ヒカサキ アオキ ヤツデ ナンテン トキワサンザシ タチバナモドキ
落葉樹	中・高木	エノキ ムクノキ ミズキ イイギリ オニグルミ ヤマザクラ ウワミズザクラ キハダ ハゼ ナナカマド アカメガシワ ハナミズキ コブシ ヌルデ カキ クサギ カラスザンショウ テウチグルミ
	低	ニワウメ ユスラウメ ニシキギ ズミ マユミ ガマズミ グミ サンショウ ムラサキシキブ ニワトコ ウメモドキ ウシコロシ
	つる	ツルウメモドキ

## 4 耐瘠樹

針葉樹	アカマツ ネズミサシ
常緑樹	ヤマモモ ウバガメシ
落葉樹	エニシダ ニセアカシア フサザクラ ヒメヤシャブシ ダケカンバ シラカンバ クヌギ ピンオーク アキニレ ハルニレ トウカエデ
地被 (草本)	レッドトップ ジョウギシバ ウィーピングラブグラス ノシバ コウライシバ

## 5 耐乾樹

針葉樹	アカマツ イブキ イヌマキ ラカンマキ ネズミサシ カラマツ
常緑樹	マサキ キミガヨラン アツバキミガヨラン ブラッソキ イヌツゲ トベラ ソテツ リュウゼツラン インドゴムノキ イトラン ユーカリ
落葉樹	ウンゼンツツジ アメリカシモツケ ポケ ハナズオウ ムレスズメ キブシ ニセアカシア ヒメヤシャブシ ナツグミ アキグミ ネコヤナギ スズカケノキ ナンキンハゼ
草本	イチハツ シバザクラ オウンゼンツツジ オニウシノケグサ レッドトップ ヒロハウシノケグサ ノシラン オオバジャノヒゲ ギョウギシバ ウィーピングラブグラス チュウイングフェスク キクュグラス リボングラス ノシバ コウライシバ

## 6 耐湿樹

針葉樹	イヌマキ ラカンマキ アカエゾマツ スイショウ ヌマヒノキ ラクウショウ
常緑樹	マサキ クチナシ コクチナシ イヌツゲ モチ フッキソウ トベラ
落葉樹	コブシ シデコブシ ハナズオウ アメリカシモツケ シモツケ ムレスズメ キブシ ポケ レンゲツツジ フジ
草本 (地被)	ハナショウブ イチハツ オニウシノケグサ ヒロハウシノケグサ キクュグラス

## 7 好湿樹

針葉樹	スギ ラクウショウ アカシデ
常緑樹	サンゴジュ インドゴムノキ ユーカリ
落葉樹	ミズキ ギヨリュウ アジサイ レンゲツツジ フサザクラ イチジク ゴマギ カツラ ハルニレ トチノキ シダレヤナギ ネコヤナギ コリヤナギ アマチャヤ トリネコ ハナイカダ サワシバ サワグルミ ハンノキ オニグルミ
草本 (地被)	シャガ ヒメシャガ カキツバタ シャクヤク レッドトップ オオバジャノビゲ リュウノヒゲ アカツメグサ シロツメグサ アオイゴケ

## 8 防湿樹

常緑樹	ユーカリ
落葉樹	ヤナギ ハンノキ カツラ ミズキ スズカケノキ キリ アオギリ ハリギリ ポプラ ブナ アカメガシワ コブシ バショウ